三月一日發行

女學世界

明治三十三年十二月廿五日（第三種郵便物認可）
明治四十三年二月廿三日印刷納本（毎月一回廿三日印刷納本）

第拾卷
第四號



博文館

美顔水

美顔料として世界に名高き美顔水

品質精良にして色を白くしきめをこまかにつやを出す効力は天下類なし

又おしろいのとき水として化粧に用ゆれば巧妙なる作用にておしろい濃く淡く心の儘にのび常に用ゆれば花の顔ばせ雪の肌となる眞に美顔料として重寶なる發明品なり

定價＝拾五錢、廿五錢、特別製五拾錢なり

○本品御購求の節は化粧用美顔水と御指名を乞ふ

▲東京市内は勿論日本全國各地到る所の有名なる化粧品小間物店にて販賣す

淑女令嬢方は常に美顔水を愛用す



四月一日より

現代大家 半切書展覽會（當店新美術部に於て）

第十九回新柄陳列會

懸賞裾模樣圖案陳列

寄せ切れ見切り反物大賣出し

懸賞少年選書及繪畫陳列

第二回兒童博覽會（新奇なる餘興有之申候）

内外玩具參考品分類陳列

懸賞寫眞優等印畫陳列（當店寫眞部に於て）

日本橋駿河町

越

三越呉服店

女學世界第



拾巻第四號目次

一品一効

!!純無鉛!!

御料たつた白粉

●一品多能の望なきを主張する吾製造各種の化粧料は常に

▲博士大家無害證明▼



▲新式中の新式白粉▼

●如斯美人を試金石とし着實に善良の効果を收めつゝあり

御料洗粉

▲一合の牛乳で洗ふより▼



▲一さじの御料あらひ粉▼

歐羅巴宮殿式

御料フード

▲水なしで化粧のできる▼



▲西洋風新式おしろい下▼

化粧界新美觀



椿製香油
八　代
本舗
井筒屋香油店



諸大家称讃櫻井堀口両醫學士推奬藤川藥學士鑑製
月経帯の大王
特許 安全帯
子宮病の原因は月經時の挿入防經にあり。外部より吸收裝置の品は幾多の月經帯中唯本品あるのみ
主帯の吸收力は脱脂綿の數倍
並製附屬帯
特製附屬帯
安全主帯
ゴム
運動烈しき方よ此の方かれバ鬼よ金棒
年長けた方には此方が便利です
東京本郷區湯島切通坂下電車停留所前
本舗 安全堂
●定價安全主帶特甲一打金六拾錢▼半打金參拾五錢▼特乙一打金四拾錢▼半打金貳拾貳錢●附屬帶特中壹圓貳拾錢▼特乙八拾錢▼並金四拾錢の
●地方は二打と帶二筋迄金拾貳錢以上は一打と一筋を増す毎に貳錢の郵税を要し候
●市内は御一報次第直に總て無送料にて御届け可申候

女(いの二)


ネッスル
コンデンス・ミルク
育兒に
必要なる
最良滋養品
ミルク・フード

春の庭



田中製版所製

婦人の涙

（其原因は男子の罪なり）

近來癪に苦み常に不姙を嘆つ病婦の到る處に見るが其最も多き病狀は下腹痛み鼻汁の如き白帶下あり腰筋張り顏色蒼白にて從前の病歷を聞に始め必ず「せうかち」に罹たりと云ふ其病名が子宮病血の道などに云程でも皆痳毒の爲なれば現に永引て治らぬが第一の證據である曩に痳病の病原發見後婦人病の大部分は痳性疾患が其原因と成る事が學者の研究に依て證明されて其治療上に一大革新を與へたれば最初「せうかち」の時に十分の手當最も肝要なり凡そ痳病梅毒を根治するには必ず唯一丸に限る唯一丸は現世唯一の驅毒藥を以て最も親切に調劑したれば實に面白き程効力ありて拭ふが如く根治すべし故に多毒質の人は是非服用の必要がある

根治完能唯一丸藥價三日分四十錢●七日分八十錢●十四日分一圓五十錢●三十日分三圓（內地遞送無料）

●本病患者の爲に其病理養生及治療法親切に詳述せる冊子無代施本送料三錢要す

發行所 東京市本郷區湯島天神表門中坂上 藥劑師 中西莊吉 （振替貯金東京口座千五百番）

Crème Simon

美！美!! 美容たらんとせば

开は實に目下世界到る處の貴婦人令嬢間に尤も盛んに賞用せられつゝある佛國シモン會社製 **シモン、クレーム** を常に愛用せらるゝにあり

衛生美顏 **シモンクレーム**

皮膚を白くし柔かにし又羽二重の如く滑かならしむ且つ手足のあれ唇のワレ、霜ヤケ、ヒヤ等に對しても亦無双の良劑なり

粉白粉（黄色、白、肉、とき色）及クレーム石鹼も共に御使用ありたし



日本代理店 横濱市山下町七十番 エー、ハイム商會

三越始め各地化粧品店及和洋小間物店にあり

（ろの一）

（女、ろの二）

結婚する方々へ

誰の身の上にも秘密の波瀾は有る者です其れを知らずに縁組して幸福の得られる筈は有りません、結婚せんとする人は取極の前に是非とも入念舍へ頼み先方の内情をお調べなさい

入念舍の取調べは綿密と精確とに於て世間類似の同業者に冠絶して居ます規則書は郵券二錢を添へて御申込あらば直に送ります

人事百般の秘密
用務を代辨して
信切を極むる

東京京橋區弓町　朝報社内

入念舍

振替口座二〇二一〇〇

見よ●月經な女子●病める婦人

●本劑は專門博士が學理と實驗より發見せられたる物
△勿驚……藥力最精實…効能確保…有効無害…



博士賞賛良藥
改良月經
女月丸

其主藥は最新唯一の通經藥にて帝國大學病院及各病院にて專用する最良藥なり二三月の月經閉止月經滯り月經不順は一二劑にて必す流下し四五ヶ月又は血塊にても特製或は別製分服用せば安心に忽ち流經す女子十七八歳になり月經なき人は二劑又毎月月經困難は三日分にて通經す
藥價一劑六十錢二劑一圓十錢特製二圓廿錢別製分三圓卅錢送料各四錢

●肥滿病新藥

（米國新輸入）

諸嬢姉の福音



子供の折美愛と賞せられし人も年頃になりてよりぶと〳〵肉太りたる爲め上圖の如く醜婦となる人少なしとせず本劑は獨乙ペンツオルト氏の發見藥にて脂肪多き人●ぶと〳〵ふとり●血太り●肉太り●酒太り●水太り●顏赤●にきび●ふき出物多き等輕症一二劑如何程の惡性も四劑分連服せば色は窈窕たる艶白となり誓て美顏美人となる事を保證す乞肥滿性の人は試みよ

藥價　一劑一圓五十錢　二劑二圓九十錢　三劑四圓卅錢　四劑五圓半　送料十錢

發賣元　東京々橋中橋和泉町　振替第壹〇六七七七番

小宮愛生堂


純白
浮き
スワン石鹸
純良なる家庭用浮石鹸
▲定價（二個纏 壹本）廿二錢
製造所 英國ポルトサンライト市 レバー兄弟商會
日本輸入元 小林
特約大販賣
東京馬喰町四丁目
山岸三之助


千代田香油
千代田香油は廿世紀式の新香料を配合して調製したるものなれば夙に淑女令嬢に愛用せられ高評嘖嘖たり
價 特製金七十錢 大瓶金三十五錢 中瓶金二十五錢 小瓶金十七錢
東京馬喰町
山岸三之助
電話浪花三七九三

女（ろの四）

薔薇花



（泰西珍草畫譜）

女(はの一)

東洋唯一の家庭雜誌

婦人畫報

三月一日發行 三月卷 一冊廿五錢 郵税二錢 六冊税共壹圓五拾錢 十二冊税共二圓八拾八錢

讀物

◎女學校の選擇（松村普通學務局長）
◎模範的婦人（文學博士井上友一）
◎女子教育の二方針（手島精一）
◎婦人と結婚（大澤博士）
◎子供と人形（倉橋學士）
◎家庭と雛（三宅花圃）
◎無邪氣無遠慮（嚴谷小波）
◎東京の眞中で田舍生活（嘉悅孝子）
◎德富蘆花氏の家庭
◎印度婦人
◎平和女神
◎女子判任官の働ぶり
◎子供の名（久留島武彥）
◎瓦斯を使ふ心得（西村學士）
◎お化粧（長谷川時雨）
◎和歌入門
◎素人に出來る桃の節句料理
◉懸賞小兒發育順序發表

梅の清楚櫻の艷麗二つ乍ら備へしは本誌也

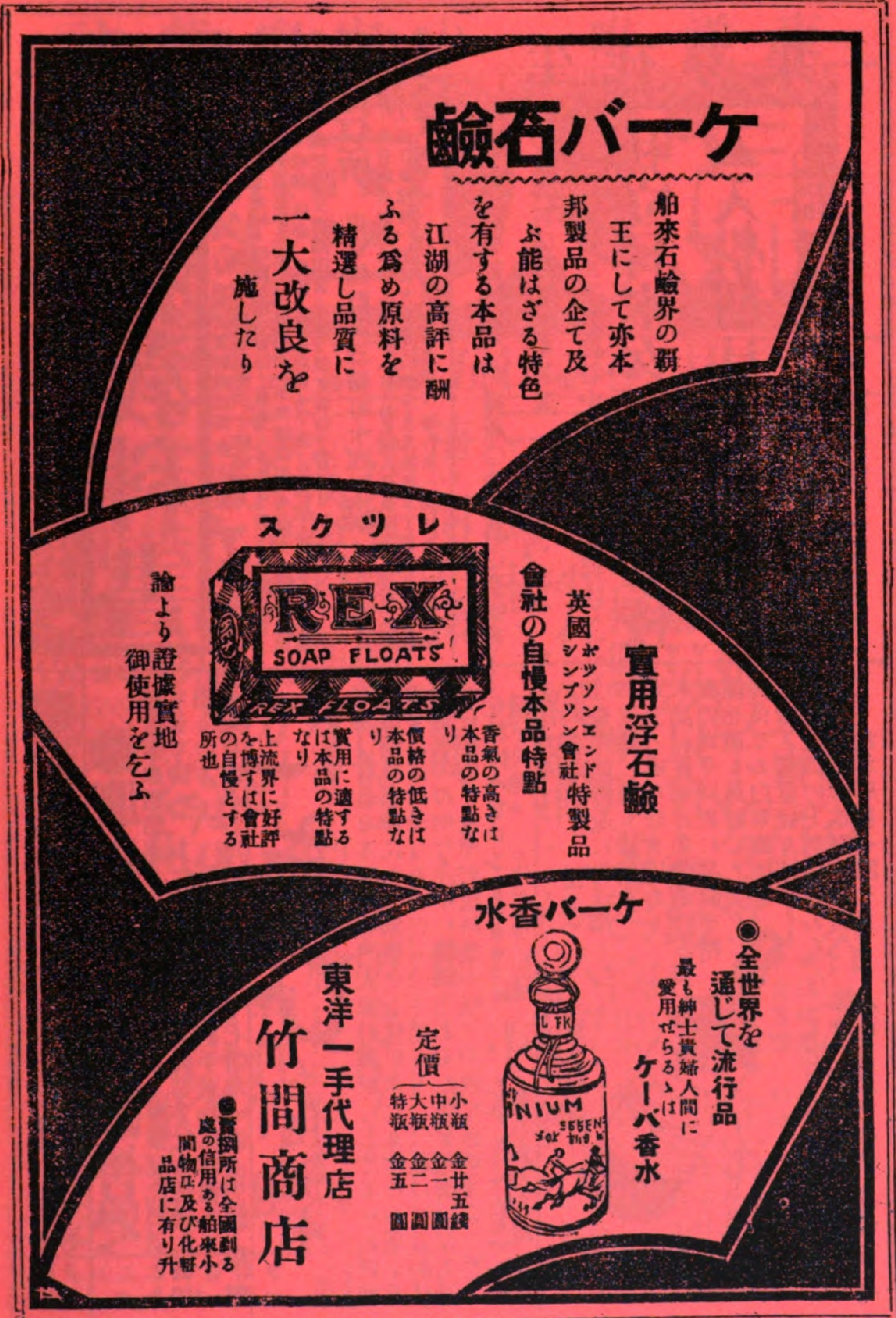
畫報

▼雛の市（井川洗厓氏筆 二頁大美人畫）▼紀元節の日比谷公園一時間
▼宮城へ出給ふ東宮殿下▼幼稚園生徒の雛祭り…▼實業團の招待と鐵雄君
▼有栖川宮妃殿下▼令孃の立書▼令孃鑑
▼名家の雛▼汲泉會の御馳走▼新郎新婦
▼女學生の掃除と味噌製造▼陶器は斯の如くして出來る
▼女子判任官の働きぶり▼將校神田二婦人會▼德川公爵家庭
▼女學校の才媛と成績物▼一ヶ月畫報▼盛裝の女學生

東京飯田町四の四 東京社 電話番町三三二九 振替口座一一八一八

女(はの二)

女(はの三)


ケーバー石鹼
舶來石鹼界の覇王にして亦本邦製品の企て及ぶ能はざる特色を有する本品は江湖の高評に酬ふる爲め原料を精選し品質に
一大改良を
施したり
レツクス
REX
SOAP FLOATS
REX FLOATS
實用浮石鹼
英國ボツソンエンドシンプソン會社特製品
會社の自慢本品特點
香氣の高きは本品の特點なり
價格の低きは本品の特點なり
實用に適するは本品の特點なり
上流界に好評を博すは會社の自慢とする所也
論より證據實地御使用を乞ふ
ケーバー香水
◉全世界を通じて流行品
最も紳士貴婦人間に愛用せらるゝは
ケーバ香水
定價
小瓶 金廿五錢
中瓶 金一圓
大瓶 金二圓
特瓶 金五圓
東洋一手代理店
竹間商店
◉賣捌所は全國到る處の信用ある舶來小間物店及び化粧品店に有り升

（はの四）

春の日



太田三郎筆

特製水晶おしろい

新に賣出しました、『特製水晶おしろい』は、皮膚の弱き人又あれ性の人にも少しも志みることがありません



定價 三十五錢
二十五錢

平生之を使用すれば皮膚がキレーになり天然の美白色を呈します

女(にの一)

女（にのこ）

女(にの三)

樂器

月賦販賣
賃貸應需
規程進呈

郵券貳錢御送
付目錄進呈

文部省
檢定濟

○中等唱歌 東京音樂學校御編纂（參版）
定價金四拾五錢 郵稅六錢

○新編唱歌教授法 小山作之助先生閲 新清次郎先生著（再版）
定價金四拾五錢 郵稅六錢

○山葉オルガン。ピアノ
○鈴木ヴァイオリン
○鈴木マンドリン
○ハーモニカ。銀笛。手風琴
○樂隊用吹奏樂器各種
○五線紙。樂譜帖各種
○和洋音樂書各種

最新
刊書

○著名進行曲 前田久八先生編
定價金五拾錢 郵稅六錢
（洋裝頗美本）

東京京橋區竹川町十三番地
合資會社 共益商社樂器店

電話新橋五二九番
四八八〇番振替口
座東京一五八〇番

樂器

調律
修繕
應需

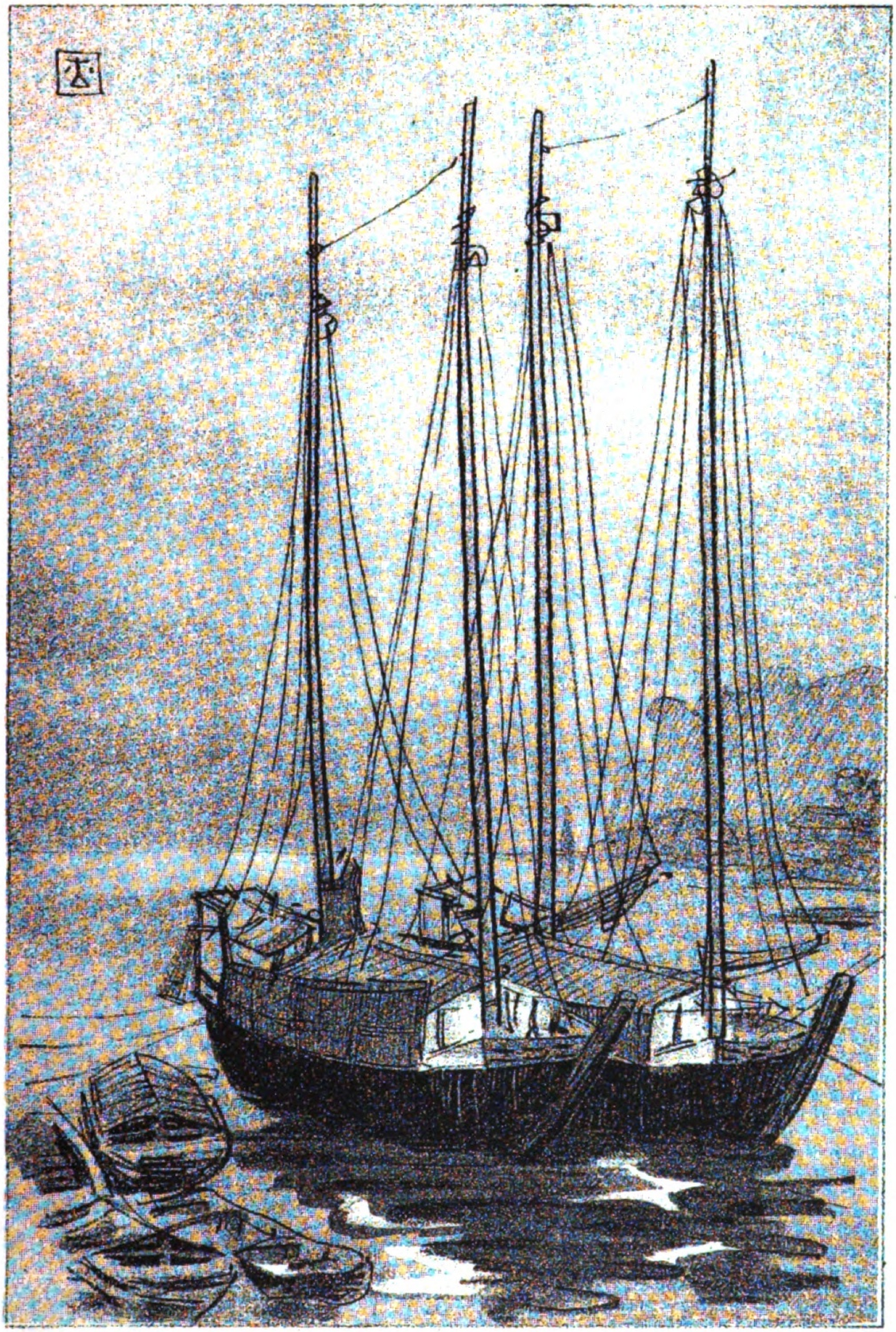
女（にの四）

雛祭



跡見花蹊筆

假泊



松林千里筆

音樂生徒募集廣告

（規則書入用者はハガキにて申込あれ）

來四月一日より新學期を開始し左の各科に入學を許可す志望者は來三月三十一日限願書を差出すべし

一普通科五十名、本科及各專修科若干名

創立　明治三十六年九月にして、私設音樂學校の嚆矢なり

學科目　倫理、唱歌、ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、箏曲、樂理、和聲學、教授法、國語、英語

講師　東京音樂學校教官、卒業生及東京高等師範學校卒業生其他數名

東京市神田區錦町三丁目十一番地

私立 **女子音樂學校**

電話……本局三七三九番



は歐米各國にて造化の妙工を奪ふの奇効ありとの賞贊好評を博したる秘密藥を當館主が醫科大學醫院在職中深奥なる學理と老練なる技術とを以て專門的に多年苦心研究の後其有効成分を檢明し之に最近の發見に係る生毛に關する新說を參考し最新藥を配合したる世界無比の學理的最新藥なれば其効能の非凡確實なる事世間に有觸れたる技術と學理に暗き山師的に無責任の廣告を爲して販賣する曖昧品の比に非らず左れば普通に醫師の處方する美容丁幾、レゾルチン、サリシール酸昇汞等の在來の生毛劑や粗惡の賣藥にて効なきとて落膽せず、是非本劑を試みよ頭髮、はへぎは、まゆげ、ひげ其他の薄きを濃くしあるべき所に毛なきを生じ禿頭病其他の病氣にて脱毛するを防止し拔毛の再生を早めナケド、デキモノ、ハツポー、キリキズ跡の禿に生毛せしむる事請合藥價送料共一劑八十錢二劑一圓三十錢郵券代用二割増の事

●●●●●取次所ナキ地方ハ直接本舖へ注文アレ●●●●●

三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主
醫科大學卒業藥劑士

本舖　從七位勳六等　**中島龜之丞鑑製**

●●大取次左ノ通リ●●大取次附近ノ各藥店ニアリ●●

東京市
本郷六丁目赤門前　瓜生藥局
麹町區紀尾井町三　齋藤藥局
日本橋區檜物町十八　龜田藥局
京橋區八官町八　野田藥局
神田淡路町二の四　森田藥局
芝田町四の一ノ二　加藤藥局
芝愛宕下町一ノ二　岩本支店
赤坂田町四の一　竹内藥局
同青山北町五　四井藥局
本所吉岡町廿五　小島藥局
四ツ谷大傳馬町二　永野藥局
神田旅籠町一ノ一　瓜生支店
堺市大寺南門東入　一色藥局
京都市上京區寺町通り石藥師角
京都市下京區五條通り富小路行當り

大阪市平野町二　丹平商會
丸龜市本町　櫻井藥局
名古屋京町三丁目　飯田藤七
同　同　荒川長太郎
高松市片原町　新明藥局
神戶元町一丁目　西村關更局
廣島市橋本町　萬代藥堂
神奈川青木七軒町　水崎藥店
仙臺市新傳馬町　櫻井藥局
岡山市橋本町　加藤藥店
弘前市下土手町角　菊地藥店
大津市菱屋町　磯崎藥局
稲知　藥局
安江拜　反物店

女（ほの二）

心の花

第十三巻 第三號 三月一日發行

定價 一冊郵税共三十三錢 半年前金七十五錢 一年一圓四十錢

東京青山南區一ノ四八 竹柏會出版部 （振替貯金番號 東京四三〇〇番）

東京皮膚病院發明 山崎製

毛生液（モウセイエキ）



禿、脱毛、薄毛、生際惡き人試みよ……

本劑は第一毛をはやし、ぬけ毛を止め、髪の毛はへぎは眉毛髪等の薄きをこく生じ皮膚病でき物ヤケド跡はげ其他あるべき所に毛なきに用て毛はへる事請合

○藥價三十錢、五十錢●特製一圓、二圓●送料六錢

本舗 東京市日本橋區馬喰町二丁目 山崎愛國堂

引風一切 太陽散 速治新藥

藥價（桐箱四十包入金五十錢。十五包ノ廿錢。十包入十錢 送料各二錢、各地有名藥店に有り若最寄藥店に無き時は直接注文を乞ふ即送す）

人常に此の、風邪早治しの最新良藥なる（太陽散）を家庭に備へ置き、殊に旅行の折は必ず携へ機に臨み服用し以て後難を遁れ給へよ

東京日本橋本町三丁目 藥種問屋 博愛堂


大學白粉
小さき雪洞に灯の入れば、桃の影
金屏にうつりて、緋毛氈に飾れる
内裏雛の顔、いよ〱白く、美しこの粧を
凝し給はむとせば、いま貴婦人間に好評
の附着良く、伸好く、お召物の襟を
汚さず、そして芳香高雅なる
大学白粉を召し給へ

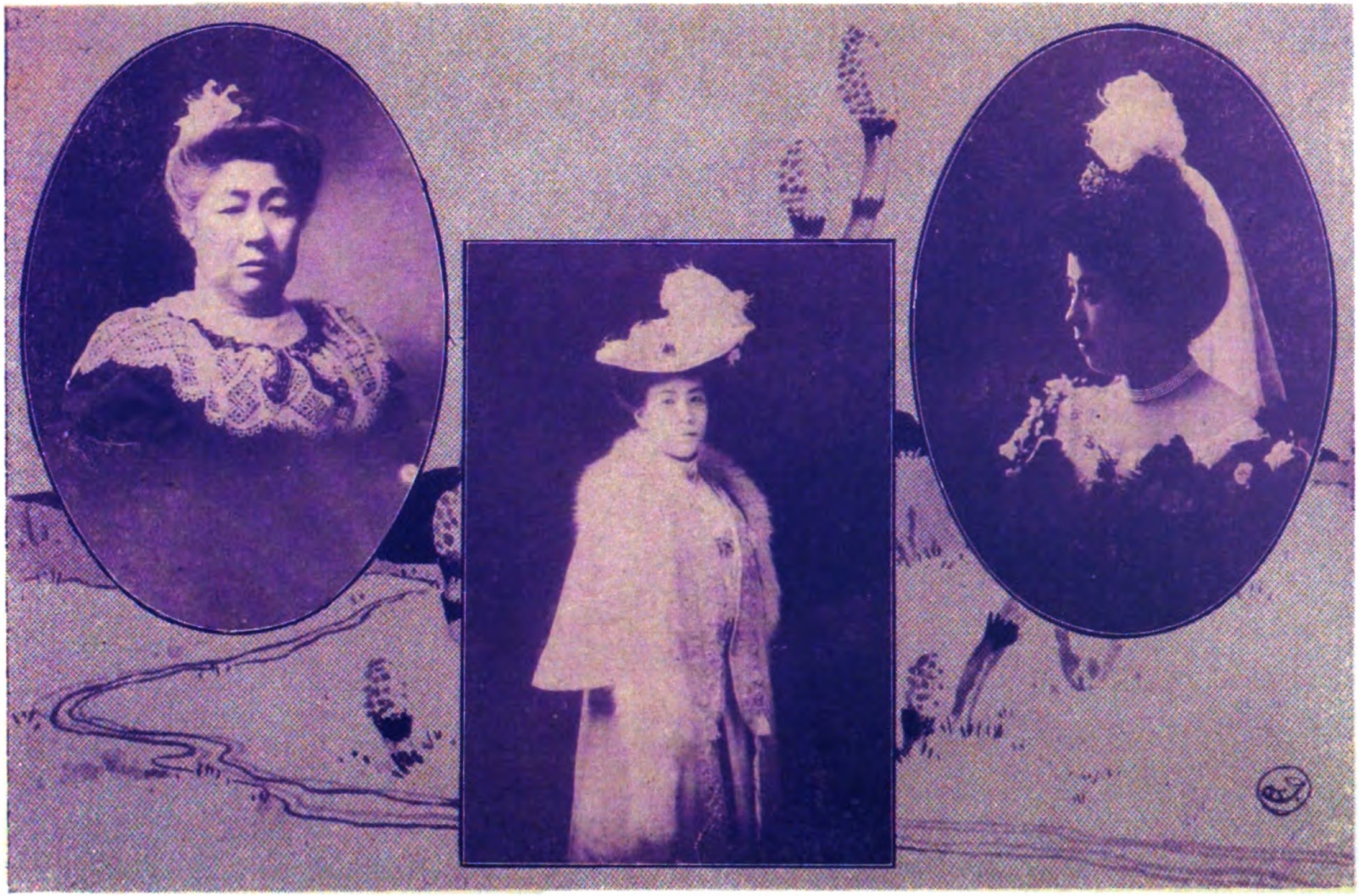
名家の令嬢



上圖　井上侯爵令孃千代子

下圖　山本伯爵令孃なみ子（海軍大將）

名流婦人



右 戸田伯爵夫人
中 萩原守一氏夫人（外務省通商局長）
左 廣岡浅子刀自

女（への二）

催眠心理治療

施術午後一時より

特色

一……効能極めて確實なり
二……無害安全なる最新療法なり
三……如何なる難症も短時間に全治す
四……施術後心身極めて爽快なり

● 脚氣 如何なる重症のものも従來かつて全治せざる例なし

● リウマチス 數十年來の難症旬日ないですして全治したる例多し

● 神經諸病 神經衰弱 ヒステリー 不眠症

● 産の苦痛 乳なき人、つわり

● 頭痛 幾十年連續せる頭痛も一二回の施術にて全治すべし

● 不良少年感化。學生成績不良

● 惡癖、どもり、遺尿(ねしやうべん)其他

遠地の人にかぎり **家庭催眠療法**を敎ふ

希望者は往復はがきにて申し込まるべし、此療法は本會が最新發表の安全確實なるものにして何等の費用も要せず如何なる家庭にも應用せらるべき絶好の精神療法なり、實に多數の經驗と千古不滅の眞理とを有するものなり

東京新宿北東町百〇二番地
東京催眠心理學會
會長 津川家立

● 佛國土産の最新白色新劑



色黒き、にきび、そばかす等にて困悶の士女よ本院獨得の文明的新秘法により速に圓滿なる幸福を得られよ如何に其効能の神秘なる論より證據郵券二錢送れ美容のしるべ呈して敎ゆ

東京大森停車場上山王
愛隣藥院

● 本法は **女髪結師安部歌子女史**

二大奇方劑
ちぢれ毛くせ毛
毛はへうけあい

多年の實驗を經たる證明秘法劑にして是迄の使用者を悉く滿足せしめたる奇劑なり往復端書紹介詳報す

● 東京市麴町區三番町六十七
濟世園



東京神田裏猿樂町

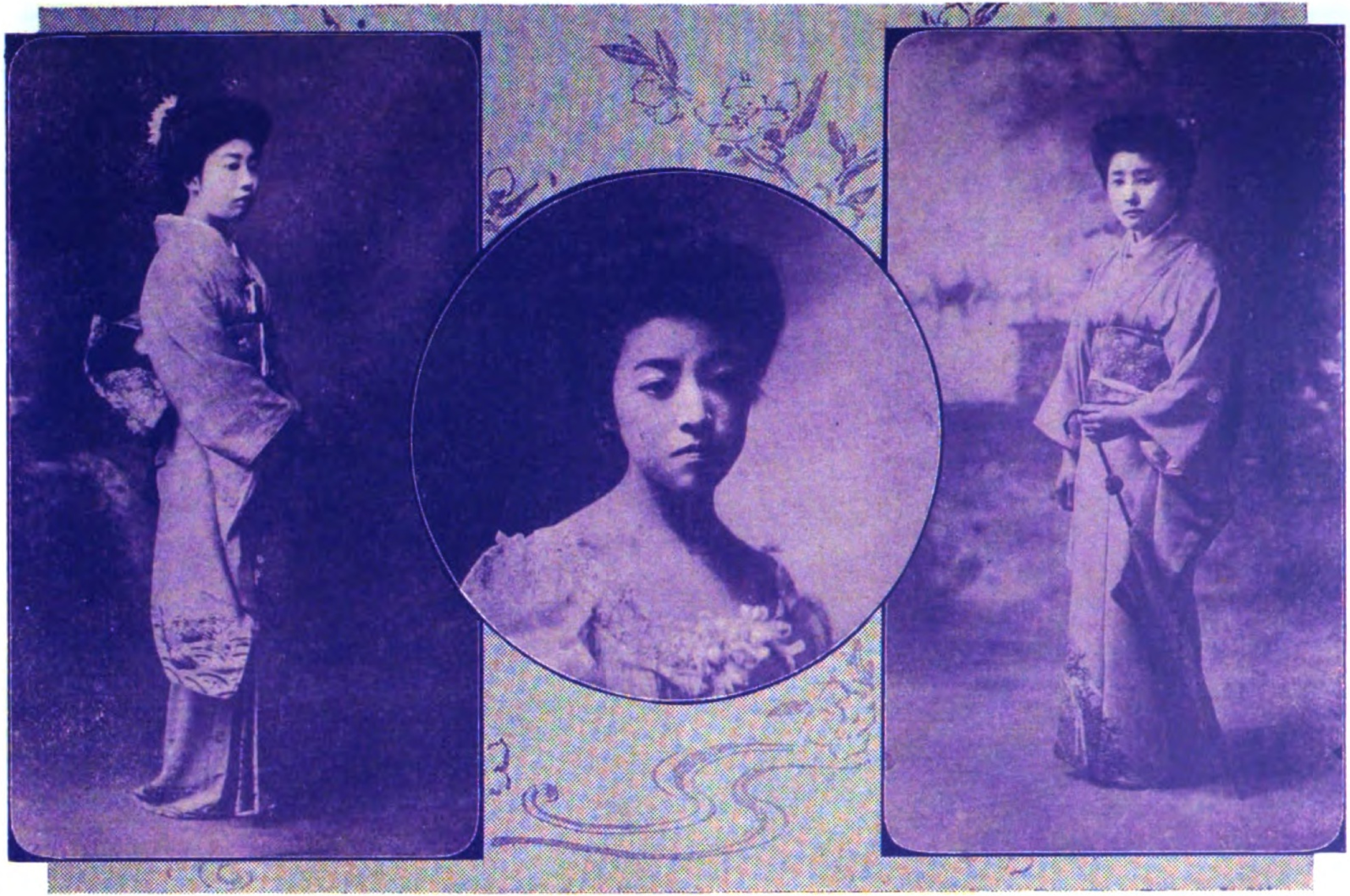
東洋音樂學校

生徒募集

本科、特別科、及本校及東京音樂學校入學豫備科
ピアノ、オルガン、バイオリン、唱歌
其他樂器及理論
入學志願者は直接本校へ照會あれ

女（への四）

夫人と令嬢



右圖　半田清子（紳商半田庸太郎氏令嬢）
中圖　津輕伯爵夫人照子（小笠原長幹伯令妹）
左圖　荒川清子（西班牙公使荒川己治氏令嬢）

名家の令孃



左圖、若槻繁子（大藏次官若槻禮次郎氏令孃）
中圖、伊地知梅子（陸軍中將男爵伊地知幸介氏令孃）
右圖　長與美代子（醫學博士長與稱吉氏令孃）

女子大學講義

(その二)

新學期開始

入會金免除

本講義は女子大學通信教育會編輯で同大學家政科に準じて坐ながらで婦人家庭實用の學科を親切に講述したる物でありま す此女子教育は現今の急務であり如何なる通學不便の女子でも學ぶ必要有夫には本講義は實に諸孃の要求を滿たしたものであります

講義科目と講師

實踐倫理	日本女子大學校長	成瀨仁藏
教育學	同科外講師	石田新太郎
心理學	同 教授	福來友吉
應用兒童研究	同 上	高島平三郎
家庭物理	同 上	後藤牧太
生物學	同 上	渡瀨庄三郎

衞生學(三宅講師)經濟學(中隈講師)法制大要(奧田講師)應用社會學(浮田講師)

文學研究	日本女子大學教授	鹽井正男
農藝	同 上	佐々木祐太郎
和歌作法	同 上	三宅龍子
家庭	日本女子大學校	櫻楓會家事研究部
料理	同	櫻楓會料理研究部
裁縫	同	櫻楓會裁縫研究部

日本童話傳說(芳賀講師)英文學の面影(松浦講師)

本月限リ入會金免除

見本は申込次第送呈

發行兼申込所 **精美堂**

東京小石川區久堅町百八番地

電話番町九三二

振替口座二八三八


クラブ洗粉
寒き風！冷き水！
是れ美しき顔と麗なる皮膚の破壊者なり然れども其害を満足に防ぐべく玆にクラブ洗粉の一品あり
美を擁護せらるゝ紳士淑女諸君！クラブ洗粉の常用は此際最も肝要なり

夫人と令孃

上圖　江木法學博士夫人榮子（號欣々女史）



下圖　首藤諒氏令孃ふみ子



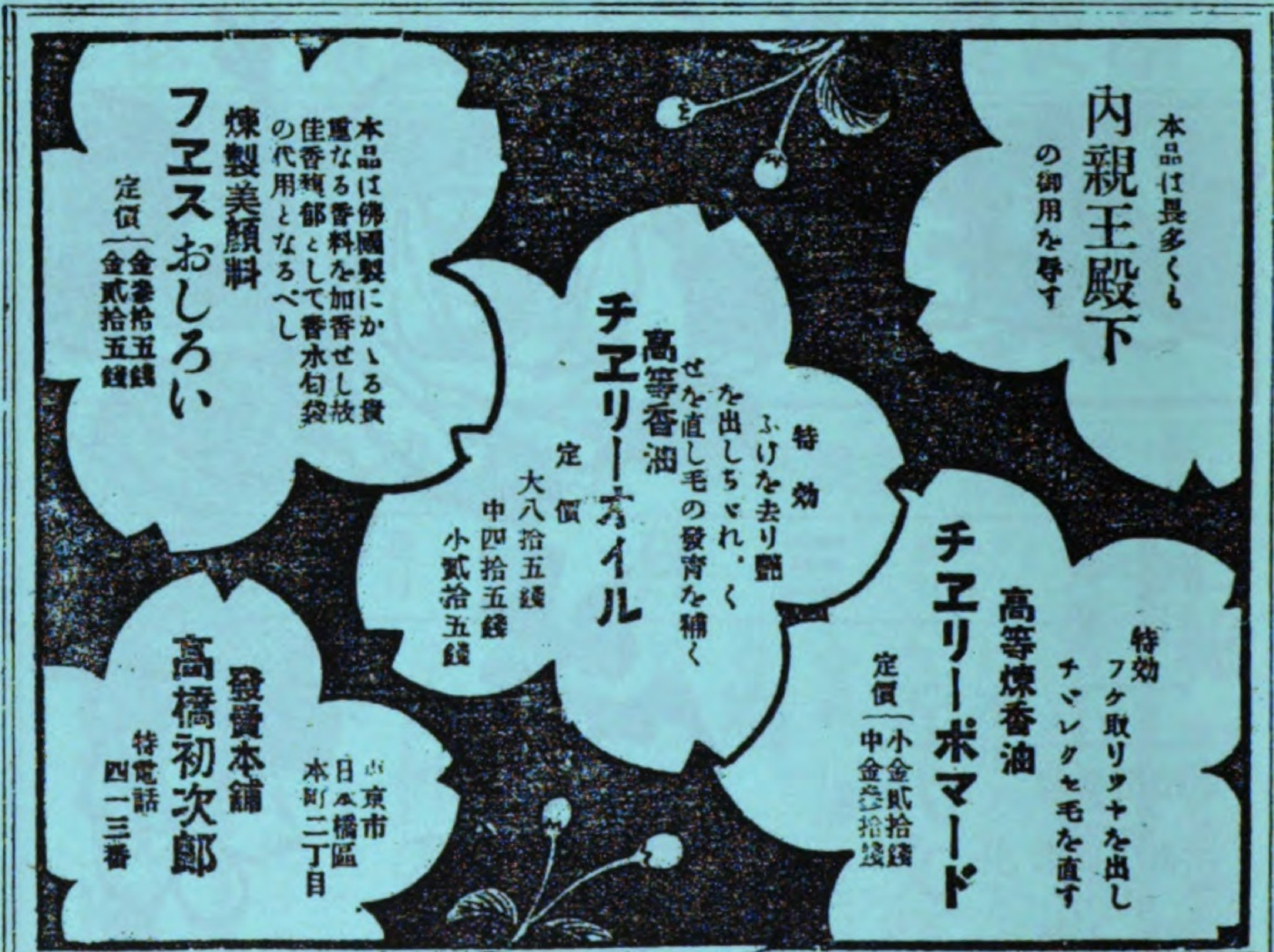
令孃かゞみ







右圖　福島富子（株式業福島浪三氏令孃）
中圖　坂本園子（夕張炭礦會社長坂本則義氏令孃）
左圖　堀越綾子（紳商堀越覺次郎氏令孃）


本品は畏多くも
内親王殿下
の御用を辱す
特効
フケ取リツヤを出し
チヾレクセ毛を直す
高等煉香油
チヱリーポマード
定價（小金貮拾錢
中金參拾錢
特効
ふけを去り艶
を出しちゞれ・く
せを直し毛の發育を補く
高等香油
チヱリーオイル
定價
大八拾五錢
中四拾五錢
小貮拾五錢
本品は佛國製にかゝる貴
重なる香料を加香せし故
佳香襟部として香水匂袋
の代用となるべし
煉製美顔料
フヱスおしろい
定價（金參拾五錢
金貮拾五錢
東京市
日本橋區
本町二丁目
發賣本舗
高橋初次郎
特電話
四一三番


於內外博覽會名譽大賞及金銀牌受領
元和二年創業
ヒゲタ印醬油
HIGETA SHOYU
THE CELEBRATED JAPANESE SAUCE
TRADE MARK
Patronized by the Imperial Household. Awarded First Class and Gold Medals and Grand Prize at the various International Exhibitions held at home and abroad
The Oldest Establishment of its kind in Japan. Founded in 1616 by the ancestors of the present proprietor
G. TANAKA
Choshi, Chiba-ken, JAPAN
宮內省御用達
千葉縣
田中玄蕃釀造
銚子港
ヒゲタ印醬油

安(ちの二)

女（ちの三）

共立女子職業學校櫻友會內 女子手藝普及會編

◎壹ヶ年修了

女子手藝講義録

會員募集

毎月一回

五號發行

入會規定及內容見本速に請求せよ無代進呈す

家庭講義錄中の白眉●科目豐富●教授法親切●説明圖夥多

講義録…初號より取り揃へ有之候

家庭書

伊藤文子 小川錠子 高田久子 共著

▲裁縫おさいく物 和裝全一冊 正價金九拾錢 郵稅八錢

山田きよ子 種村なか子 共著

▲袋物細工之枝折 和裝全一冊 正價金一圓拾錢 郵稅八錢

金子支江子 三好幸子 石川壽美子 共著

▲家庭造花術全書 和裝全三冊 正價金一圓六十五錢 郵稅十二錢

醫學博士 大澤謙二著

▲通俗結婚新説 洋裝全一冊 正價金二圓廿錢 郵稅十二錢

醫學博士 大澤謙二著

▲生理學上より見たる婦人の本分 洋裝全一冊 正價金五十五錢 郵稅六錢

東京日本橋角

大倉書店

電話本局四一四番 振替口座東京二三八番

女(ちの四)

令嬢かゞみ







右圖　田内久子（東宮武官　田内三吉氏令嬢）
中圖　堀越歳子（渡米實業家　堀越善十郎氏令嬢）
左圖　湯地はつ子（貴族院議員　湯地定基氏令嬢）

女(ちの四)

令嬢かゞみ

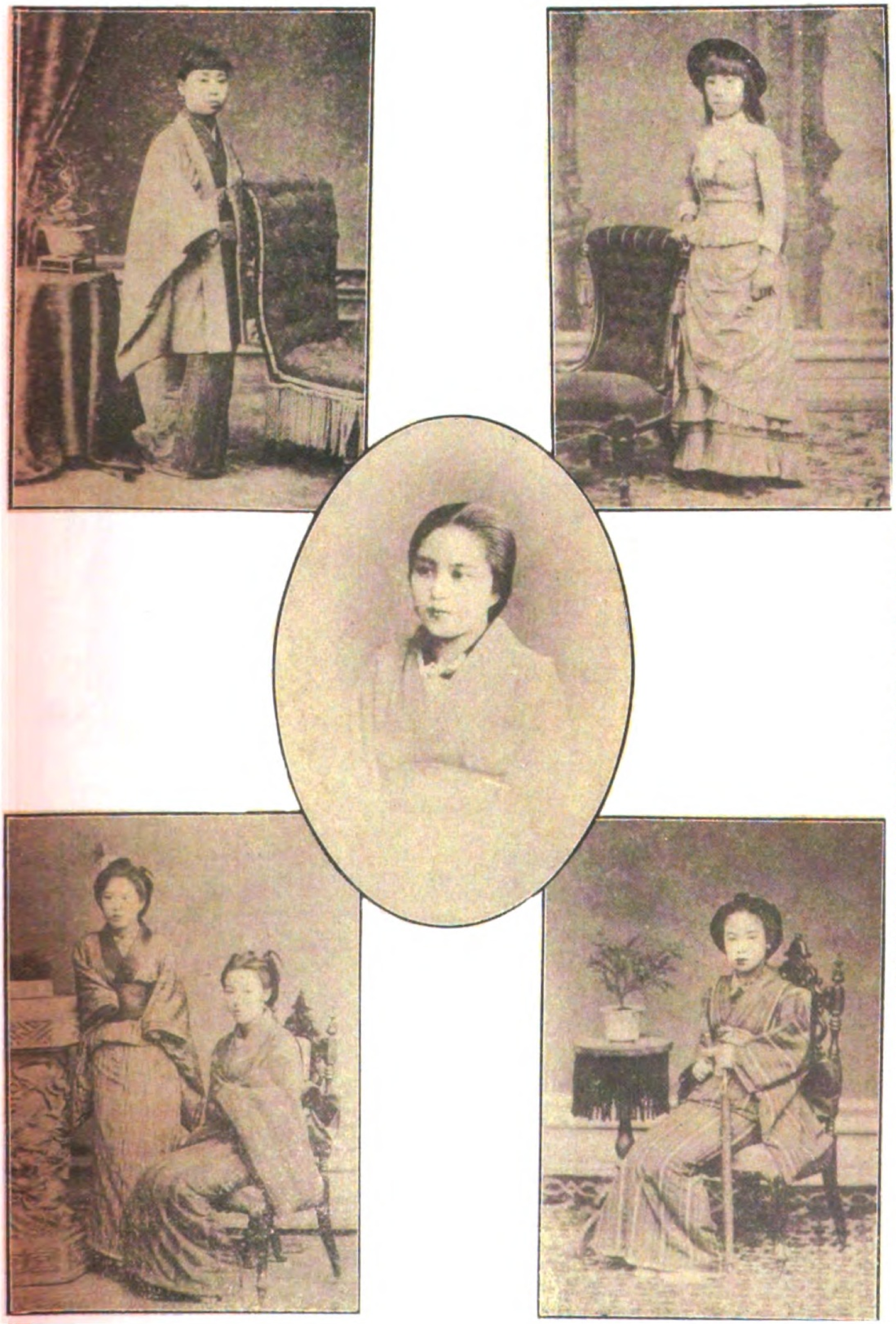


右圖　田内久子（東宮武官　田内三吉氏令孃）

中圖　堀越歳子（渡米實業家　堀越善十郎氏令孃）

左圖　湯地はつ子（貴族院議員　湯地定基氏令孃）

二十年前の女學生



今をさること二十三年前即ち明治二十年頃京都に於ける有名なる同志社女學校生徒の風俗（記事參照）



宮内省御用達
内外國金銀
名譽賞牌受領
米國アラスカ、ユーコン
太平洋博覧會に於て
名譽大賞牌受領
最上醤油之元祖
開業貳百六拾六年
上
千葉縣銚子町
釀造元 濱口合名會社
電話銚子二十一番

女(りの一)

わきが

患者にて療養賣藥あらゆる手を盡しても全治せざるの士女は獨逸醫學界の泰斗ノート博士の最近發見わきが根治劑『フレード』を用ひて速に其苦痛を脫せられよ○藥價は輕症用六拾錢重症用壹圓廿錢慢性頑固用三圓送費十錢郵券代用二割增代金引換小包一切謝斷

◉發賣元　東京市本鄉區東片町十五　市京製藥部

男女ちぢれくせ毛

赤毛は何程の難毛も直に根本的矯正黑化良き艶の出る最新發見奇液を郵券封入申込者に教授す

◉東京市麻布區材木町　岩阪澄子

いかにせば自由に和歌を詠じ得べきや』

清新穩雅なる歌風を研究せむと望まるゝ人々の爲に本會は最も懇切なる通信教授者也

▼會則御希望の方は本誌廣告に據る旨を附記し郵券二錢送付せらるれば直に送呈すべし

新潮歌壇

大阪東區内平野町二丁目四十七番地

▼博文館圖書陳列所……館内にあり

◎◎產婦人科 小兒科

宅診　午前
往診　午後

病室並ニ產室ノ設備アリ隨時入院ノ需ニ應ズ

院長　女醫　鷲山彌生

東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

電話番町(二二五七)

らい病

此のらい病藥は數種の有名なる癩病治療藥を化學的の方法にて分析し其主成分に更に最近の發見に係る治癩新藥を加へ且つ當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる新藥なれば一度使用して其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之を根治せしむる事は難事なれども其病勢の甚しからざる中に本劑を四ヶ月間服用するか或は病勢甚しく進みたる人にても繼續服用すれば病原菌を脫力死滅せしめ漸次輕快に赴き一生醜貌を免れ得る事は確實なり本劑は安價に不幸なる病者を救護せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陷れんとする營利主義の賣藥に非ず

サノサール　一ヶ月分　貳圓
複方サノサール　一ヶ月分　參圓

●醫師は癩病者を診察せば屆出る規則なれど藥劑師には其規則無ければ決して他へ知れることなし安心服用あれ

三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主
醫科大學卒業藥劑士　從七位勳六等　中島龜之丞鑑製

本舖

女(りの二)

◉子を持つ親 病人ある家人は是非必要特許品

ね 小便袋



定價●乳兒用九拾五錢●中人用壹圓貳拾錢●大人用壹圓九拾五錢 特別製品各拾五錢上り
送費八錢 引換注文廿五錢

衛生最良徳川輕便れ小便袋は洗濯の世話なく手數を省き小便は袋の外へ泄れず蒲團を汚す事なく常に清潔なれば**小兒病人**老人の最も必要にして、おきたち、すわり等に毫も差支なきは本品の特長なり（男女の區別あれば御注文の節御注意を乞ふ）

ルーデーサック 十二個五十錢 三十個一圓八十錢 五十個一圓半 送料八錢

子宮サック 特製一七十錢 二個一圓廿錢 三個一圓六十錢 送料八錢

●發賣元祖 大阪市東區京橋二丁目 中川商店

醫科大學藥學專攻 藥學得業士金澤毅著

肺病患者の福音

著者肺病全快の經驗と最近の學說に基き親切叮嚀に根治の法を詳述せし物也●郵券二錢封入申込者に無代施本

●東京市下谷區上根岸町 衛生書院

ちゞれ毛 くせ毛 赤毛 白毛

何程難毛も速に全治し赤毛を黑化し白毛を防ぎフケを去る實驗の奇液あり卓効を保證す郵券二錢送れ說明書呈◉東京神田仲猿樂町十 北澤定子

營業目錄

袋物、造花、刺繡
摘ミ細工、果實、瓶細工
編物、器具幷に材料

婦人技藝材料

東京市本郷區弓町二丁目 倉持商店
電話下谷三五一三、振替貯金口座壹七壹壹

此切取を添へ御申越しの方へは美術技藝の栞並に定價表無代進呈す
（○女學世界三月號）

女(りの三)



女學世界

三月號

第拾卷

第四號

如何にして幸福なるべき乎

鳩山春子

如何にして幸福なるべきか、是れ總ての人の考ふる所なるべし。

一、幸福の生涯は純潔なる生涯ならざるべからす。外に表はるゝ行爲のみならず、内なる思想をも純潔ならしめざるべからず。罪惡に抵抗し、慾情を節制し、醜汚なる事に思ひを留むる事なく、善事に向つて勇往邁進すべし。斯の如くして初めて吾等は過去に向つて愉快なる回想を得、將來に向つて愉快なる希望を得、苦慮なく憂悶なく良心の苛責なきを得べし。

二、幸福の生涯は又有用なる生涯ならざるべからす。人は働かんが爲に生れたるものなり。吾も亦有用なりとの自覺を得るに非ざれば、人は幸福なるを得ず。天下の無用の長物と罵らるゝは尚忍ぶべし。自ら無用の人間なりと自認せざるべからざるに至りては、不幸之れより甚しきはなし。眞の幸福は實に有用なる働きの中にあり。星を戴き鍬を肩にして歸路に就く農家の夫妻は、畫家が好んで「幸福」「平和」の畫題となす所なり。此賜に與かり此恩賞を得んとせば吾等は働かざるべからず。有用の人とならざるべからす。女子は男子と同一の勞働を爲し得べきにあらざるも、而かも其職務を行ひ其本分を盡すべきは言ふ迄もなし。

三、幸福たらんとせば獨を樂しみ得ざるべからず。獨りを樂しみ得んが爲みには、心を豐富ならしめざるべからす。これ書に親しみ古人を友とすべしと多くの人の云ふ所以なり。

アイザックバーローは、「書籍は忠實なる親友、安全なる相談相手、愉快なる同伴人、實行ある慰安者なり如何なる天氣にも、如何なる地位にありても、人は勉強に依り、讀書に依り、沈思に依りて無邪氣に自己を樂しましめ、又自己を饗應し得べし」と云へり。

ジエレミーコリヤ曰く、「書籍は若き人には指導となり、老いたる人には、娯樂となり、世の執拗偏頗を忘る事を得せしめ、寂寥の際に吾等を保翼し、憂苦を去り激情を和らげ、失望を眠らしむ、吾等若し現代の人物に厭きたらんには、其説に就て短慮ならず、高慢ならず、策略なき行ける人に赴くべし」と。

此の如き字句を蒐集すれば、以て數卷の書を埋むるを得べし。唯一言添ふべきあり曰く良書を選ぶべしと

四、幸福たらんとせば心を寛くして過を容さゞるべからず。總ての人に就て然り。友人に就て然り。殊に家庭の人に就て然らざるべからず。世に完全なる人はあらず。自らも亦然り。過なきを人に責むるは誤れるに非ずや。過は容るすべし、而して愛を以て同情を以て慰め導かざるべからず。子女の教育に就て規律を守り訓戒を加ふる固より可なり。されど過あるが爲めに人を憎むべからず。自ら怒るべからず。自らも亦不完全なる人に非ずや。アレキザンダーポープは云へり。「過あるは人の事なり、過を容るすは神の事なり」と。人として誰か過なからんや。之を容るす時吾等は誠の道に叶ふなり。

五、終に曰く幸福たらんとせば又天命を知らざるべからずと。樂少なく苦多き境遇もあるべし。夙に起き遲く寢ね親の爲め夫の爲め働かざるべからざる時、輕裘肥馬の同窓の人同郷の人を羨望するは世の人の陷り易き過なり。左れど思へ、人として何れに價値ありや。働き得るは人として喜にあらずや。苦しみ得るは人として誇りに非ずや。或は嫁して學窓上の理想を實行し得ず良人の行爲に憤慨し年少氣鋭敢て破鏡の悲嘆を自ら招く者あるも、年進み思想老熟しては寂寥の念に堪へ難く、少時の輕擧を悔ゆる者比々皆然りと云ふ。恐れて謹まざるべけんや。想ふに境遇の如何を問はず、地位の高下を論せず、善く天命を知り、自らを知り、力を盡して家の爲め人の爲め働く時、そこに心の平和あり、心の幸福あるべきなり。



御發明な姫君とお立派な奥方

梅香女塾長　木村貞子

△玉のやうな山内侯爵夫人

私が何時もおうはさ申上げますのは、山内侯爵夫人禎子の方でございます。元々伏見宮様のお姫宮でゐられますから、お氣高く在しますのは勿論ですが、第一そのお身體つきからして玉のやうに美しくてゐらせられるのでございます。お年齢はお二十歳を僅にお越し遊ばした位でせうか、お脊はすらりと高く、お顔立は極めて柔和で、お身體全體がきつちりと締つておいで遊ばすので、ほんに玉を薄絹で包んだやうなお方だと何時も申してゐるのでございます。それで御品性が又玉のやうで、其の御利發な事と申したら、ちよいと稀れな御方でございます。

私が華族女學校に居ります時に、其頃校長をして居られた西村茂樹さんが、或時私を呼びまして、誰れか伏見宮様へ家庭教師に上る適當な婦人がないだらうかと申されますから、私は阪井乙名さんが宜しいでせうと言つて、高等師範出の私の友達を推薦しましたので阪井さんは禎子女王殿下のお五歳の時から山内家へ御降嫁遊ばす二年程前迄お側に附いて居りまして、よく御平生を存じて居ります。斯様な次第で、平常おうはさを承つて居りますが、華族女學校へおいで遊ばした時の御様子をお見受け申しても、學科は片寄らずに何でもお能き遊ばすし、お手蹟もよろしいし、琴もおできになり、それで誰れにでもお腰を低くして親切にお交際遊ばして決しておたかぶりの御様子はなく、まこ

とに感心なお方と存じて居ります。

△お情けこもる御玉章

侯爵の景豊樣が大使館附武官になられて、一昨年巴里へ御夫婦づれでおいで遊ばす時などは、禎子夫人は私の姪の梅子が幼い頃に二三度御機嫌伺に上つたのを御記憶遊ばして、お出發の前に阪井さんにお言傳があつて、之を先生の姪御さんにやつて呉れと仰つて梅子にお簪と、リボンと、外に尙ほお一品結構なものを下さいました。こちらではもう忘れて居る程ですのに、御先樣ではちやんと覺えておいで遊ばして、この樣にお氣づけをして下さるのでございます。そしてこれは私方ばかりでなく外の方でも、一寸御機嫌伺に上つた事のある人には、一々其のやうになすつたさうでございますが、實に行屆いたお方ではございませんか。此の樣に遊ばす事が親切ですから、誠に御人望のおあり遊ばす方で、巴里へお立ち遊ばす時などは、一同で心からお喜び申上げた次第でございました。

此の正月なども、彼地から私へ宛てゝ美しい繪葉書で年賀狀を下さいましたが、私からはお上げもしないのに斯樣に御丁寧に遊ばすので、誠に恐れ多い事に存じました。お附き申して居た阪井さんや其他の人々へは便每に必ずお文を下さるさうですが、何でもない事のやうでそれが一寸できない事でございませう。此の四月には御歸朝遊ばすさうで、もうとつくに巴里をお出發遊ばしたさうですが、定めし立派なお方におなり遊ばしてお歸り遊ばす事でございませう。

△自然に人が頭を下げる

極めて沈着いた質素なお方で、華族女學校においで遊ばした頃などは、御登校の際には何時も阪井さんが附いて參られ、お歸りの時刻にはお表向の人が一人お迎へに來ましたし、それに今は其樣ではないやうですが、以前は正門からお出入遊ばすのは宮樣方丈でしたし、そして宮樣方のお附人と他の生徒の附人とは控室が別になつて居りました。そしてお呼び申す場合には

「宮様」と申しますから、知らない者はあの方が宮様でおいで遊ばすかと始めて知る位でお召物などは銘仙位で他の生徒と些ともお變りはありませんし、學校に居らつしやる間は他の生徒と一緒にお稽古をなされて敎師に向つては先生々々と仰有つておいで遊ばしたから、少しも分りませんでしたが、それでも御様子に自づと品位が備つてどこか鷹揚で居らつしやるから、自然に人は頭を下げておいで遊ばす事は又格別で、まだお七歳位の時に或



ました。まづ婦人として此のやうに徳を備へた方は珍らしいと存じます。業が出來れば高ぶり、身分がよければ人を見下るといふのが普通でせうが此の方に限つてはそれがありません。

△大層樂

いゝえ大層結構でございます

お氣質が優しく

る雪の降つた朝、お庭園掛の老人が、掃除をして居りますと、女王殿下は「さぞあの老爺は寒からう、可愛さうだ」と仰有つて、お止めになつたと聞いて居りますが、御幼少の折からもう普通の方ではございません。又山内家へ御輿入遊ばした當座、侯爵が「かういふところへいらして嘸おいやでございませう」と言はれました時、殿下は「いえ、どういたしまして、大層結構でございます」と仰有つて、宮樣といふ事は全くお忘れになつたやうにして侯爵におつかへ遊ばすといふ事ですが、まことに日本婦人の典型とも申すべきではございませんか。

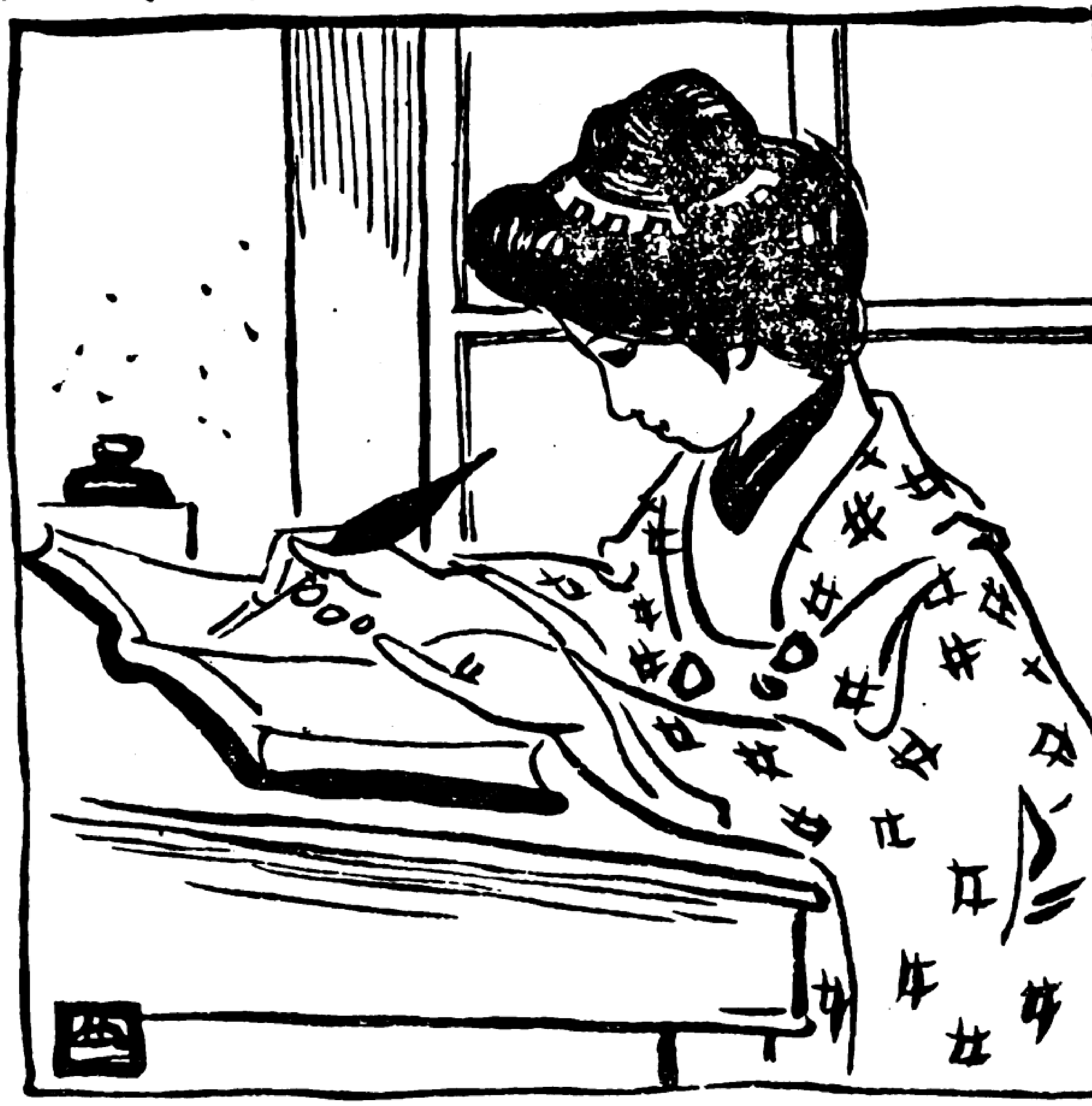
△北白川宮武子女王殿下

近く保科子爵家へ御降嫁遊ばすといふ、北白川宮武子女王殿下も、亦よく御出來遊ばしたお方でございます。お家にゐらせられる御當主の成久王殿下は、先に周宮內親王殿下と御成婚のお方で、このお方のお兄樣でございますが、陸軍大學御出身でまことに御資質よく居らせられますし、其のお次のお兄樣の輝久王殿下は當時海軍に御勤務遊ばしますが學校に御在學中などは、宮樣方は普通は別室へお進め申す事になつてゐるにも、拘はらず「それはいけない、一般生徒と同樣に扱つて呉れ」と申されて、皆と同じ待遇をお受け遊ばされ、それで御成績は何時も優等でゐらせられたといふお出來のよいお方ですから、女王殿下も其のお系統をお引き遊ばしたのでございませう、誠に御器用であらせられ、華族女學校に御在學中には空前のお出來だと皆が申上げたお方でございます。中學部を御卒業遊ばされてから、專修科ももうお濟み遊ばしたのですから御修養は十分おありですし、そして隨分活潑なお方で體操の時でも運動會の時でも、皆の生徒と御一緒にずんずん遊ばしますし、それで御謙遜で、ほんとに氣持のよいお方でございます。

△女中の身代りにお立ち遊ばす話

此のお方についても美はしいお話がございます。ま

だ極くお幼さい時分の事ですが、何うしたものか、お召物に針が一本刺さつて居たさうでございます一體宮様方では、女中達はお仕事を始める時には先づ針が幾本あるかを調べ、終ふ時にも亦幾本あるかを調べて、若し一本でも足りなければ、お召物をすつかり解いて捜させる程に嚴重にしてあるのですが、それが何うした間違か、兎も角附着いて居たものですから、老女がそれを聞きつけて事が大變面倒になりかゝつたさうです。さうしますと武子殿下は女中をお庇護ひ遊ばされて、「それは私が



おいたをして附けたのだから叱つてはいけない」と、申されたので、女中はあやういところを無事に事濟になつたさうでございます。それが御幼少の折の事ですから、尚ほ〳〵感心でございます。之れはほんの一例で、其他何でも女中に粗忽があつた時には屹度御自分で負つてお仕舞ひ遊ばすさうで女中が茶碗などを破はして叱られさうだと矢張御自分が破はしたのだと仰有るさうでございます。世間ではよく自分でした事でも人にかづけるのが有勝ちだのに、ほんに優しいお心掛のお方だと申して

お附の人々が皆感泣してゐるのでございます。

△三殿下お歩行で御通學

そして又平素は至つて御質素でゐらせられて、學校へお出ましの節などは、有馬伯へ御降嫁遊ばしたお姉樣の貞子女王と、此の武子女王と、それにお妹樣の擴子女王との此のお三方が、たゞ一人のお供をつれて、紀尾井町から毎日お歩行でお通ひ遊ばしたのでございます。お召物などでも其の通りで、他の身分の卑い者の方が却つて奢つた風でございました。

△一條公爵夫人の逸話

上つ方の御婦人方は、お氣に召したものをお召しになつて、それで何でも御自由に遊ばして、眞にお氣樂な事だらうと思召すかも知れませぬが、決してさうではありません。成程私の存じて居りますところでも隨分面白い話がないでもございません。今の細川侯爵の令妹で、一條公爵の奧方でゐらせられる悦子樣は、游泳も達者なお方で、……細川家はどういふ由來ですか水で命をしまつては家は斷絶するとまで言はれてゐる家柄ですから、昔から家例として水練を奬勵遊ばすので、家中は殿樣を始め女中方に至る迄皆游泳が能きまして、女中達の中にも隅田川を往復する程の腕のあるものが幾らもあります。そして游泳に就て細川流といふ一派が出來て居りまして、只今學習院の水練師範をしてゐる小堀といふ人なども其の流儀でございます。私も一時此の人に就て習ひました。……さういふお家にお生れ遊ばした姫樣ですから、游泳もおできになつて、誠に活潑なお方でございます。此の方がまだお幼ひさくて濱町の別莊に居られた時のお話ですが、夜になると、よく盲人が、「按摩上下二百文」と言つて通るのをお聞きになつて、後で其のお眞似をなさつたのです。それがどうかと申しますと、杖ついてお歩きになりながら、「上下二百兩!」と言つて、文を兩と間違へて居られるのです。お附きの女中達は、「まあとんでもない按摩さんが出來ました」と言つて笑つて居ります

と、悦子様は『何が可笑しい、二百五十兩で、さあ揉んでやらう』と仰有るから、『いえ、どうか御免遊ばせ二百五十兩は一生御奉公しても蓄りませんから』と申上げました。すると悦子様は不思議さうなお顔を遊ばして、『オヤさうかへ、そんな事はない筈だが……』と言はれたとかで、一座お腹をかゝえて笑つたと申します。

△姫様教育と算數

それから華族女學校へ御入學遊ばしてからでも、……たしか明治二十年



頃でございましたらうか、『一圓と十錢とどちらが多うございますか』とお訊き申すと、やゝお考へ遊ばした上で、『十錢が多い』と言はれますから、何故かとお尋ねしますと、『一と十だから無論十が多いわけだ』とお答へ遊ばしたやうな珍談がございます。紀州様のお姫様なども確か其のお仲間でした。今は無論そんな事はありませんが……。そして可笑しい事には、學校で恁ういふ算數をお敎へ申す事をお附きの女中達が聞きまして、『お姫様は學校でお勘定をお覺

え遊ばしました！、まあ情けない御代になりました」と言つて涙をこぼして泣いたさうですが、今日とは隨分かはつて居たものでございます。まあかういふ事もありましたが、それは二十年も昔の話で、時勢がかはつた當節では却々左様ではありません。ことに徳川御本家のお姫様方などには隨分御苦勢を遊ばした方が御座います。

△慶喜公のお姫様

男爵松平齊光様の（本年は十二）御母堂でゐらせられる浪子の方と申すは、徳川慶喜公の四番目のお姫様で、まだお歳は二十七八のお若い方でございますが、此の方などは、隨分お氣の毒でございます。おつれあひは舊桑名藩主松平確堂様の三男齊様と申しましたが其の方のところへ十五の暮れにお嫁きになつて、其の明くる年には、もうお永別れ遊ばしたのでございます。其お永別れ遊ばした事情が亦甚だ悲劇で、齊光様の御姙娠中に殿様が突然行方知れずにおなり遊ばしたのでございます。殿様は當時帝國大學に御在學中で、植物學を研究遊ばして居らしたのでございますが、或日大學へ外國から書物が來たから、それを取りに行くからと言はれて、お表向からお金を十圓取り寄せ、それを懐中に遊ばして俥で出て行かれまして、大學へお立寄りになり、それから上野へ行らしつて東照宮へお詣りの上、社務所へお這入り遊ばして、車夫を一時に迎へに來いと言つてお返へしになりましたのです。それで車夫は一時より少し早くお午頃にお迎へに行つて見ますと、社務所ではもうとつくにお歸り遊ばしたと申すのでございます。イヤそんな事はあるまい、ハテ、それはをかしい、それではお邸だらう、と車夫は訝りながら急いで歸つて見ましたけれども、まだお歸りになつては居らない、まア何處へ行らしたのだらうと言つて、徳川家を始め心當りを捜したけれども、どうも見當りませぬ。さあそれからお邸中騒ぎ出しましてあると有ゆる處へ人を出して索ねて廻りましたけれども、何處にもおいで遊ばさず、それきりとんとお姿が見え

なくなつたのでございます。其の後御親戚方からも隨分御氣を揉まれて外國へも人をお出しになつたし。又御家來の方が三年間も日本國中を巡り歩いて、野山の奥まで草を分けて搜し廻つたけれど、どうしても分らないのです。實に不思議なこともあつたものでございます。

△病院の不注意からとんだ災難

で奥方のお悲み何とも申上やうもないわけでしたが其年の九月に御安産で若樣がお生れ遊ばしたのでございます。其の時はもうお殿樣はおいで遊ばさぬので、屆けする事も出來なかつたやうな次第實に痛ましいお話でした。それからお氣の毒な事には二年程經ちますと、奥樣は病氣にお罹り遊ばしたので、駿河臺の△△病院へおいで遊ばしますと、どうした譯か藥を間違へて洗つたとかで、往きにはお歩きでしたのがお歸りにはお痛みになつて、どうしても歩く事ができなくなり、其爲めに其後二ヶ年ばかりは治療に隨分お苦しみになりました。根岸が御本邸ですが其の頃富士前町の別邸の方に居らしたので、



そこまで俥でやう／＼お歸りになり、お玄關をお上りになると、もう夢中におなり遊ばしたので、人工呼吸を致すやら、お邸中は大騷ぎを致し、一時はむづかしいと泣言はれました。それから大學病院へお這入り遊ばされ、慶喜公の御秘藏のお姫樣の事ですから、十分厚いお手當を遊ばしたので、やう／＼御本復になりましたが、それからといふものは、ずつとお弱くお成り遊ばしたやうでございます。

△お姫樣の爲に泣く

かういふ災難にお逢ひ遊ばしても、まことに思想の固いお方で、凛として、おくぢけ遊ばさない、どこまでも若樣をお育て遊ばしてお家の繁榮をおはかり遊ばすところは、流石に前將家のお姫樣とお見上げ申すのでございます。そしてお邸には無論古くからの女中達も居りませうし、又昔風の御家來も少くはないでせうが、かよわき女性のおん身で非常な厄難にお罹り遊ばしながら、些とも精神をお亂しなく、そういふ中に居て御自分の地位を守つて人々を追ひ使つて行かれるといふは、實に感心なお方でございます。それにかういふ御境遇におなり遊ばしてからは、まだお若くて居らつしやるのに、少しも華美らしい召物を遊さず質素に／＼とおつくり遊ばすといふ樣な、私共が聞いても實に涙のこぼれる樣な事があります。

△入神の武藝

斯樣な次第で、お樂しみと申しては些ともおあり遊ばさらぬから、此一兩年前に一時武藝をお始めになりました。武藝は柔術で、山邊正春さんに就かれましたがそれが亦餘程お質のよい方で、お業は殆んど神に入つて居られるさうでございます。どうもお家柄の遺傳だらうと言つて、先生も驚いて居りました。お幼ひさい時分には、さうおえらい方ではなかつた樣ですが、境遇が人を作つたのでございませう、此頃は極く柔らかい中に凛とした處がお有り遊ばして、御人物のお變り遊ばしたのには全く感服いたします。それで極く同情

心の御厚い方で、わけても師弟の間柄などはなかく御丁寧なものでございます。學校は中學三年迄しか行かれませんでしたが、歌もお詠みになり、書もお上手です。まあ不幸中の御不幸なお方だと何時も御同情申上げるのでございます。

△一番お仕合せなお姫様

同じ慶喜公のお姫様で浪子様のお妹に當らせられる國子樣は、子爵大河內輝耕樣の奥方で居らせられますが、此の方は浪子樣とちがつて先づお幸福な方でゐらつしやいます。子爵は法學士で今は大藏省の書記官ですが、在學中などは、級中で一二を爭ふた程のお方ですから、官途にお在り遊ばしても、無論お羽振のお利きになる方でございませうし、それにお家が御裕福ですから、何の道御心配のお有り遊ばさぬ方でございます。そして國子樣は大河內家に對しては御主入筋



からお輿入り遊ばしたわけですから、子爵家ではお大事にも遊ばしませうし、それで居て最も平民的なお事しで、繪畫とか、音曲とか其他お稽古遊ばしたいものは何でも御隨意におできになりますし、お氣樂な事を申したら、慶喜公のお姫様方のお中では、まづ一番でございませう。

△先生はほんとに羨ましい

それにこの方は非常な勉强家です。何でも及ばぬところは勉强でおつゝけ遊ばす方ですから、御物事が總てお手固うございます。それで若御夫婦きりで、お若様もまだお在り遊ばさらぬから、繪畫なども實に驚くばかりお上手ですし、英語も、歌も中々御上達の方、誠にお羨ましいお暮しでございます。それでもまだお幼さい時分に私時々上つて何かお話申上げて居ります中に、どこそこへ行つて見たらこんなものがありましたとか、あすこへ行つたらかうでしたとか申上げるのをお聞き遊ばして、「先生はお氣樂で宜うございますね私ほんとに羨ましい」と仰有るから、「オヤさうですか、立派なお召物をお召し遊ばす貴女様の御身分、召使を澤山お使ひ遊ばして、御自由に遊ばす御身分こそ、私共は羨ましうございます。半日でもよいから、貴女様のお身分になつて見たいものですね」と申上げますと、「いゝえ、詰りませんよ、たゞちつと斯うして坐つて居るきりなの」と仰有つて、大層私共の身の自由になるのを御羨み遊ばしたのでございます。さうでせう何しろ德川様の御本家などは、最もお手固い方で、垣一重外へお出ましになるにも、一々表向の許しを得て錠を外づして出なければならないのですから……。まあ樂みは却つて下々にあるのでございませう。

△利發でお美しき筆子姫

四年前にお亡くなり遊ばした蜂須賀侯爵世嗣夫人の筆子の方は、浪子様や國子様のお姉様で、四人のお子様を遺してお逝れ遊ばしたのですが、この方も又隨分御苦勞を遊ばしたお方でございます。德川様のお姫様

方は皆なお美しくて居らつしやいますが、筆子様は其中でもお美しい方で、殆ど絶世の美人と申してよいお方でした。そしてお氣質も極めてお優しい方で、私は一度も御敎授申上げた事はありませんけれども、お姉妹達にお敎へ申したところから、何時も先生々々と仰有られて、大變丁寧になすつて下さつたのでございます。おつれあひのお方は、長く西洋に行つてゐらした方で

　私が女塾を始めましたのは、此のお方のお勧めでございますが、奥方も塾が出來れば一度見に行つて、子供達も入れる事にしやう、と申して居られながらおかくれ遊ばしたので、誠に殘念に思ひます。

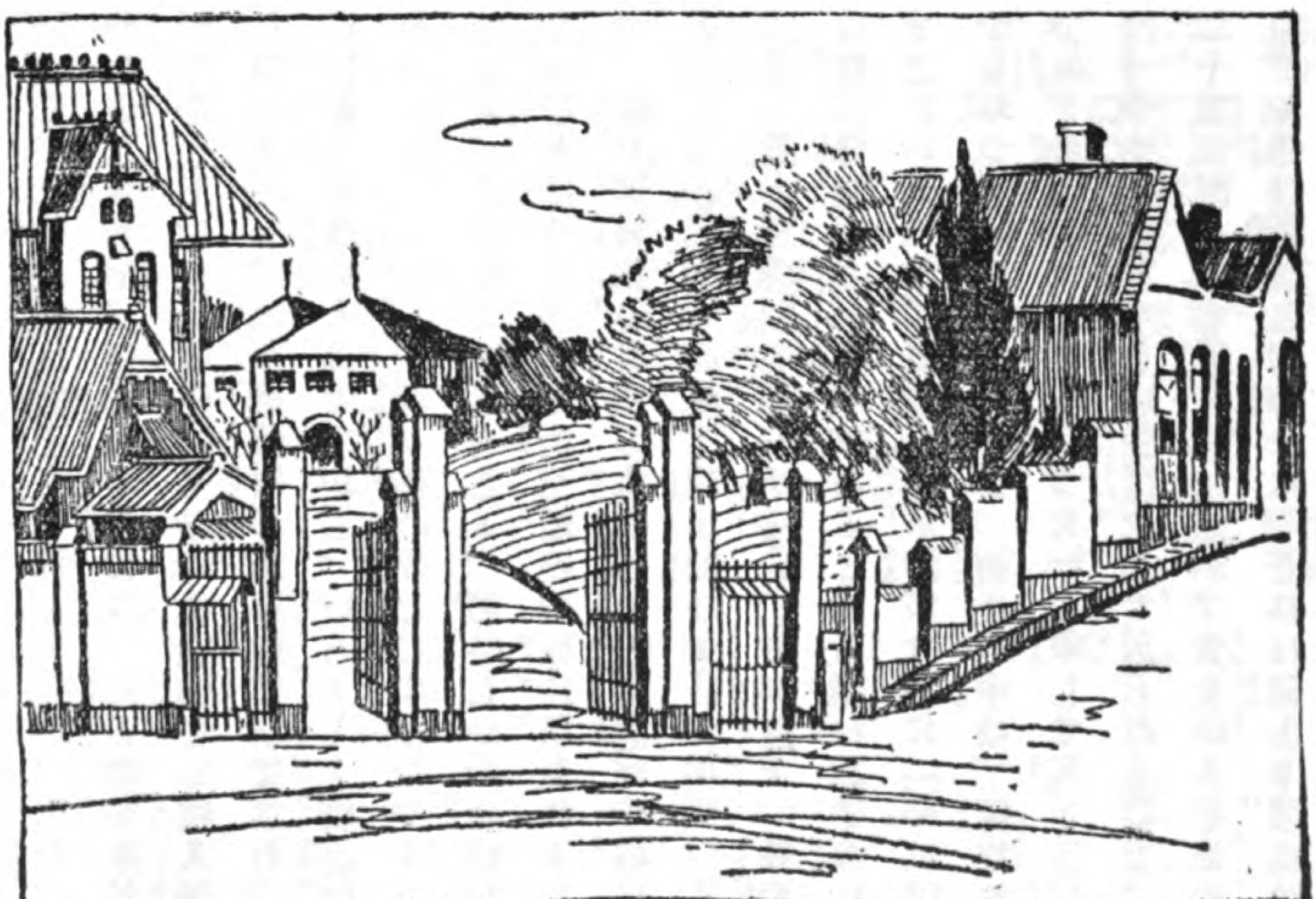
△重ね〴〵の御苦勞

　此のお方が蜂須賀家へお輿入遊ばしたに就ては、一寸こみ入つた話がございます。それは蜂須賀家の御世嗣へは最初他から奥様がおいで遊ばす事になつてゐたのですが、蜂須賀侯爵が筆子姫を御覽になると、どうしても世嗣夫人として迎へたいと云ふ氣にお成り遊ばして、德川様へ推してお頼みになつてお貰ひになつたのださうで、さうなる迄には、却々御手數がかゝつたやうでございます。さういふ次第でお輿入遊ばしたのですから、色々御苦勞があつたやうですし、それに御家族が多いものですから、いろ〳〵と御面倒もおありでしたらうし、却々御心配をなすつたやうでございます。こんなことからして、何時しかお身體がお弱くおなりになり、それ迄三田のお邸に居られましたのが、暫く御養生の爲に、大森へお住ひ遊ばす事になりました。其處へは私も時々向ひましたが、八疊に六疊二疊と三疊位の極く小さなお別莊で、袖垣の外は直ぐ往來で人が通つてゐるといふ誠にお手輕なものでございました。そして私が參つた時に「今は慣れたから却つて氣散じだけれど、初めの中は、何だか裸體で外を歩くやうな心地だつた」と申して居られました。平生隨分重々しい生活をして居られるので。十重二十重に圍まれて居らした方が、さういふところへ初めてお住ひ遊ばした時には、それは何とも言はれぬお

氣持でございましたでせう。誠においたはしい事だとおもひました。さういふ間からも、お子様方の御敎育をはじめなにかとお氣づかひ遊ばして居られたのが感心でございます。そして隨分重い御病氣を長くお患ひになつておかくれ遊ばしたのでございますがお附添の人々なども、『私共なら迚も堪へられぬ事をも我慢をして居られ、苦しいなどゝといふことは一度でも仰有つた事がなかつた』と申しました。實に立派なお方でございました。かういふお方でさへかうですもの、私共は幾ら苦しんでもよい譯でございます。

△米國大統領の令孃

現米國大統領の令孃ヘレン孃は乘馬が巧みで長途の距離を平氣で騎馬旅行さるゝさうであるが、その上又學問が上出來の方で、學校では特待生の待遇を受けて居られる、父君が學資を出さうと云へば孃は一向平氣で自分の貯金が澤山あるから、それで勉強すると云つて居られるさうです。孃は又佛語が上手で、西班牙語も中々流暢に話されます。おまけに顏は綺麗、髮の毛の立派な事も數ある令孃の中でも有名なものです。



東京女學館（校長土方伯爵　虎の門）



東京婦人の化粧

峰百合子

生粋の日本橋育ちで趣味のお廣いと云ふ百合子様は、ドクトル メヂ、ーネ峰秀世氏の令夫人です。記者、夫人を今川橋畔のお宅に訪ねましたが夫人は薔薇の双頬に笑窪をたゝへ、潤をもつた眼、締つた口唇、水際立つた調子で二時間に渉る雅談を聴かして下さいましたから其一斑を御紹介いたします。(婦人記者)

▲元祿姿の先鞭

私は若い内から金目のかゝつた服装をして見たいと云ふ考はないのでしたが、出來る範圍内でいろ〱自分の工夫を凝して見るのが好な方で、三越で未だ元祿模樣と申さない五六年も前(廿二三のおしやれ盛りの頃)私はこの服裝を致しました。併しそれは家に古くから持ちつたへた帶とか櫛とかが工夫の動機になつて衣服の模樣を取り合せ染めましたので、髪も丸髷めいた唐輪に結び紫足袋などはいて見ました定めし皆樣は好奇とお笑ひでしたらうが、自分で選んだ服裝をいたすのが誠に愉快だつたのです。

▲自筆の裾模樣

御覧の通り流行を追ふて衣服等を拵へる程の身分でもございませんし、亦何品でも似合ふといふ容姿でございませんから、自分流義のあつめもので間に合はせて居ります、夫で隨分他目には華美に見える時もあるだらうと存じます。近頃禮服の模樣に勿忘草を染めて見ました。是は私が遠から頭腦の内でやつて見たいと思つて居りました圖案で、良人が獨逸滯在中によこし

ました書葉書の中からこの花束を選んだのです。……高い染代を費せば、モツトと誂へが有るのですが、ほんの理想の十分一で下畫も上畫も自筆でございます。模樣は胸にも少しは有る方が宜いと存じましたが數のない者には目立ち過ぎますから廢しました。袖模樣も三十以上の婦人には少し華美かも知れませんが椅子へ腰掛けた機に物足りぬやうに存じますので、片袖を年に遠慮して無地にいたし、片袖丈へ模樣をつけて見ました。

裾模樣も唯今では隨分上部まで染め拔いたのが流行のやうでございますが、裾を長く曳く場合にはこれが非常に釣り合ひよく見えます。併し裾を短く端折つて歩く時には何うも工合が宜くないのでして、昨年御苑の菊花拜觀の砌、山のお茶屋からお池の向ふを歩いて居らるゝ婦人方を、近眼な良人が見まして、「オヤ裾を捲くつて歩いてる」と申して大笑ひになつた事がございます。成程言はれて見ますと高いぼかし模樣が丁度腰卷のやうにも見えますから、近眼の間違へさうな事だと存じました。中流の婦人は晴れの場所でも先づ裾を曳くといふ事は稀でせうから、矢張お端折にして釣合の宜いやうに工夫いたした方が宜しいかと私は考へて居ります。

▲上田屋の帶と道明の古着

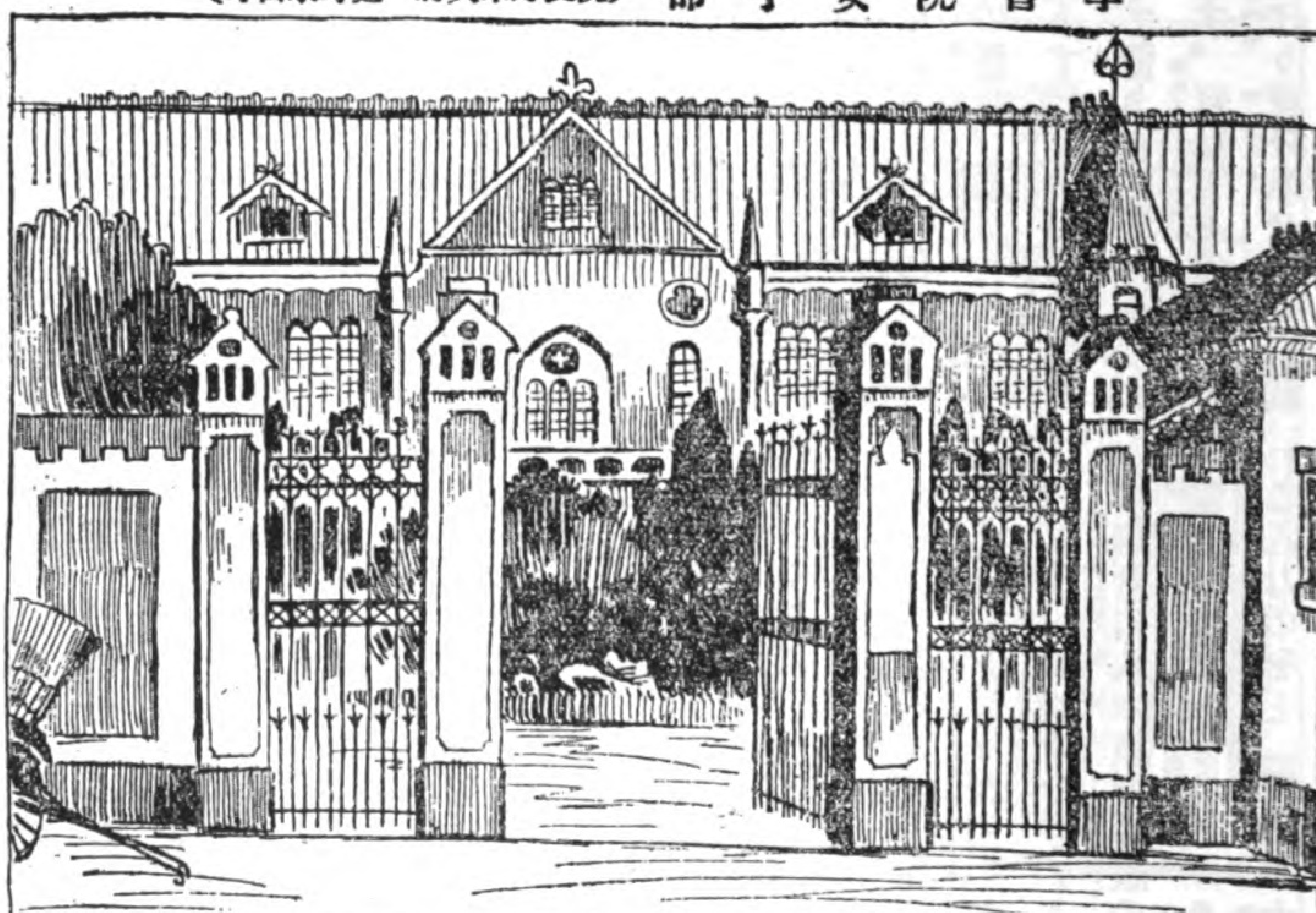
帶の價は御承知の通り際限のないもので、却々私共が彼れ是れ選ぶと申す事は出來ませんから持傳へ物で着物との取合せを工夫して居るのですが、偶に求めます時は尾張町の上田屋へ參ります。上田屋は京都の川島甚兵衞の製品を販賣いたしますが、價格も割合にお格好で一寸逃げた物がございます。夫から中通りの道明と申すのは以前から有名な古着屋で、古代の切れ地や衣裳を澤山に持つて居まして、金華山とか邯鄲とか申す名物切れは大抵此店にあるのです。好奇な外國人は歌麿の繪の衣裝には歌麿時代の古切れ地を搜すのださうですが、恁んな物も矢張り道明で求めるといふ事を聞きました。私は餘程以前千葉の吉田文學士の夫

人と一緒に古代の珍らしい切地を此店で見付けましてお揃ひに下着の廻りにいたした事がございますが、色や模樣は華美でも何處かに言はれぬ床しさがあるやうです。

▲髪の結ひ樣

氣に入つたやうに人に結はせますには時間や勞力がかゝり加之三日立てばこはれるものですし、第一自分の毛が好くなければ如何にも致方がございませんから、此方は成るべく諦らめてをかしくなければ宜として居ります。出入りの髪結の老婆が亡なりましてからは束髪にばかり結んで居

學習院女子部　（院長乃木大將　麴町永田町）



ります。偶に丸髷に結ひましても矢張傳來の古物利用で（をかしい事もありませうが）自分は甘んじて居ります。新橋のお愛でございますか、あれは癖直しの注意が特別ださうでございますネ。『普通の髪結は毛を壓し付けて癖直しを爲るから毛がふくれない。何んでも毛の根元から毛を立てるやうに癖直しを爲なければいけない』と申して居るさうですが成程さうかも知れません。近頃は大分蒸氣の癖直しが流行るさうで器械を提げて歩く髪結もあると聞きました束髪でも日本髪でも結ひ上げて了つてから暫時前髪や鬢を

蒸氣に當てゝ居り一面に濕氣が行渡りました處で一寸撫付けますと誠にふつくらと恰好よくなるのだ相でございます。私は宅に有合せの吸入器で試みて見ましたが手輕なよい方法だと存じました。

▲雪水とヘチマの水

化粧も自分で良いと思つた事は怠らず實行して居ります（勿論若い時程に氣はもみませんが）つまりおしやれなのでござゐませうが、私は隱しておしやれを爲るのは大嫌ひで、少しでも良い方法を見出しますと成るべくお友達にお知らせ爲たい方なのでございます。イエ別に秘傳も何も有はいたしません。顏は石鹸で洗はないで糠を用ゐる事、（子供のない内は米の白水で洗いました）白粉を解くのに寒中の雪水、或はヘチマの水を用ゐる事位のものでございます。寒中の雪水は毎年四合瓶に二本づゝ採つて貯へて置きますが、是で一年中の化粧料は澤山でございます。私は日々の化粧を極手がるにいたす方ですが、其代り夜分臥せる前に顏を洗つて雪水をつけるのを缺した事はございません。脂の顏で臥せるのは第一衛生に害があるさうですから、鐵瓶の殘り湯でゝも何んでも一寸洗ふのです。序にアノ申上ますが皮膚に特効のある硼酸も體質に依つて硼酸負がいたし、あれたり吹出物が出來たりするお方があります。私も其一人で良人に注意されて使用を止めた事がございました。

▲コートと手提げ

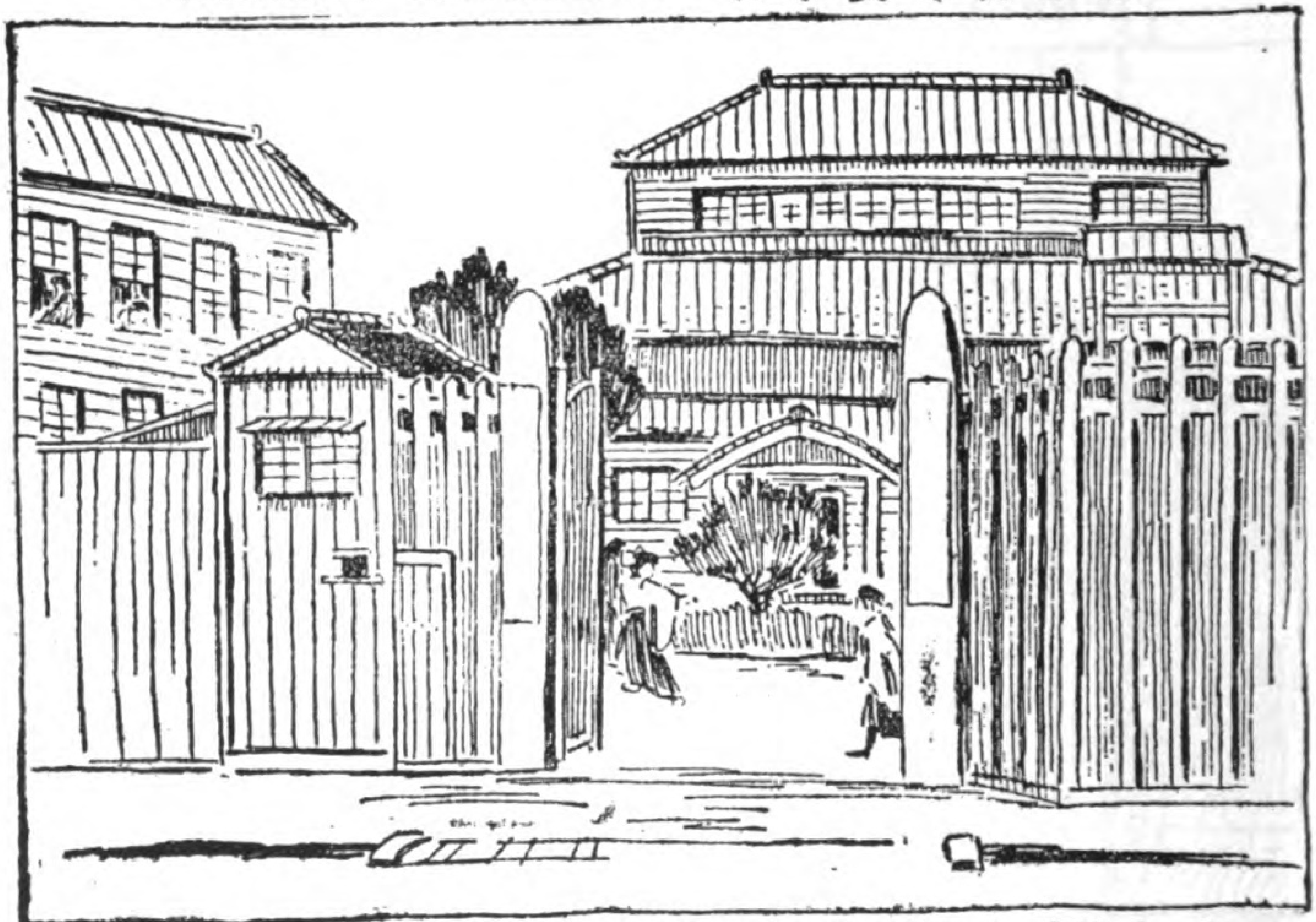
時勢の要求で婦人の外出が頻繁となりました今日コートも入用な物には違ひありませんが私は雨天用の外ワザ〳〵新調いたした事はございません。下の着物をかばう爲ならあまり氣の置けない品物の方が宜しいと存じます。折々着用いたすのも矢張氣の置けぬ方針で見立使の品物でございます。時には直し物のハギ隱しに麹町の八木屋で洋服のレース飾りなどを求めて附て置きますと一寸ハイカラに見えるので、お友達が私もこんなのをと仰つて大笑らひいたした事がございま

す。手提袋も當節は良品のが出來て居りますが例の我流で繪卷物にある殿居袋をまねて大和錦を手縫にして絹眞田の緒を烏帽子縫ひに通して用ゐて居ります。斯樣風に工夫算段をいたすのが樂しみなのでございますが、時々僥倖で圖に當り殊の外釣り合よく見えますと百合さんは贅澤だなどと評されますが却つてそれが成功なのかも知れません。

▲下駄

下駄は極く質素なのが心持が宜うございます。自分で求めます折は襦珍の鼻緒は決して買はぬ事にきめました。ビ

東京高等女學校（校長棚橋絢子女史　芝三田四國町）



ロードは足袋の爲めに宜しうございますし、昔から履物用として在りますからよし價は同じ事でもこれにとゞめて置きます。上つ方が綺麗なお庭をお歩ひになつたり、お馬車に召されるのには京草履の錦で張つたのと釣合ますが紬の衣服に木綿の足袋で襦珍の鼻緒を用ゐましてはどうも勿體ないと存じます。近頃は蒔繪表の下駄も出來たやうですが何しろ足にはいて土を踏む物ですから蒔繪だの錦だのと頭の物や帶と同列にいたしたくございません。私は以前よく羽織の胴裏の前をかきました切れを鼻緒屋に頼んで見まし

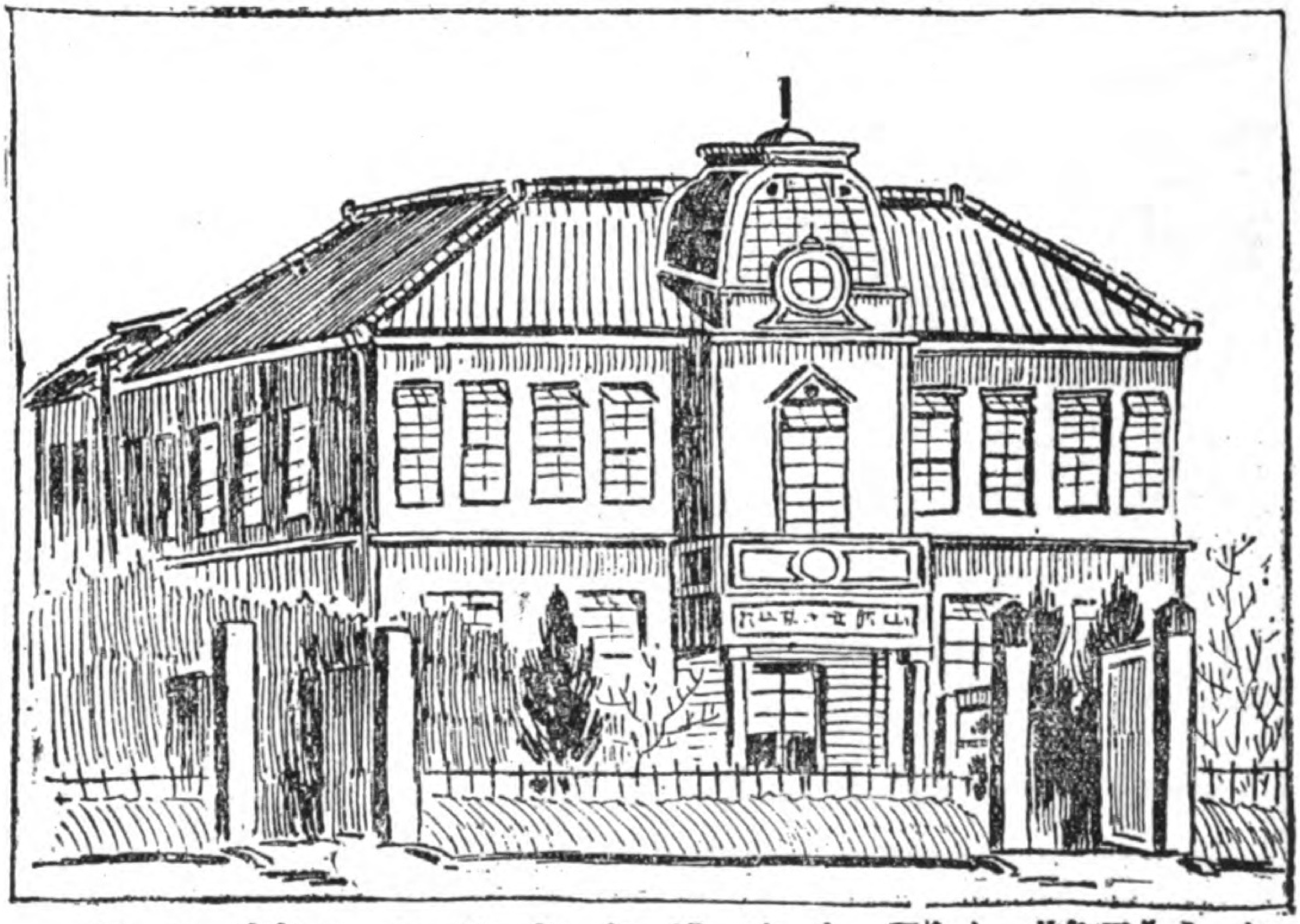
た。これは地質に依ては紙で裏うちをするので面倒ださうですが一尺の縱切があれば縫はして置くと重寶でございます。支那襦子のは一番持が宜しうございました。當春は吉野お召の鼻緒を見付けましたから用ゐて居ります。

▲ボアー

あのボアでございますか。

私はかねて思つて居りました、お鵞もフラネルも殺生にはちがひございませんが獸皮を其儘身につけますのは獵人のやうで優しいお顏には實に不釣合ではムいますまいか。寒い外國の婦人はあれでなければ凌げないのでムいませうが、我國では末摘花の姫君が召して居らしつた他は昔から無くても濟んで居りましたのに……。先づ鳥の羽毛位が日本婦人にはよろしうございませう。(御老人は別ですが)もし獸皮を用ゆる場合は裏につけて用ゐたいと存じます。流行は妙なもので下女がお薩を買ひに一寸そこまで行くのにもチャむさい肩掛を首根に卷つけますが若い女は平氣で向ひ風に鬢を吹かせて歩いてゐる方が氣持がよいやうに思はれます。

山脇高等女學校　(校長山脇房子女史　赤坂區檜町)



▲衣服の仕立方

ハイそれは別にむづかしい注文もありませんが、唯だ両手を前へ合せた時、袖の山が餘り後の方へ片寄るのが見苦しくもあり、窮屈でございますから襟肩を二分ぐらゐ後へ繰り越して襟を附けます。又袖付は後より前の方を少し餘計にして置きますと、衣紋をつくらなくとも丁度工合が宜しいやうでございます。序に男の袴に就て一寸御參考に申上げますが、良人は肥滿つて居つて普通の袴では腰の切れを破つてばかり居りますので、布をたつぷりに使ふやうに仕立屋へ申しましても一向效が見えませんので、昨年の夏袴專門の仕立師を呼んで研究して見ました處が肥滿の人には十布の袴でなければならぬ。丁度一反だけ用ゐるのであると申す事で、早速仕立方を習ひましたが、これで漸く破れる心配がなくなりました。これは皆樣も御承知の事と存じますが私が初めて覺えて感心したものですから一寸申上げるのでございます。

▲圖畫

書も畫も父祖代々の遺傳で極好でございますが、家婦の境界では皆さまのを拜見して樂しむだけで、一日一時間机の前に居られゝば其日は幸な日といたして居ります。西洋畫にはあまり盲目で展覽會などを見ましても情なく思はれますので神中糸子先生にすこし目を開けて頂きたいと申上ましたら、自ら鉛筆を持つて見よと仰しやいましたがトント怠けてばかり居ります。

▲小說より歷史

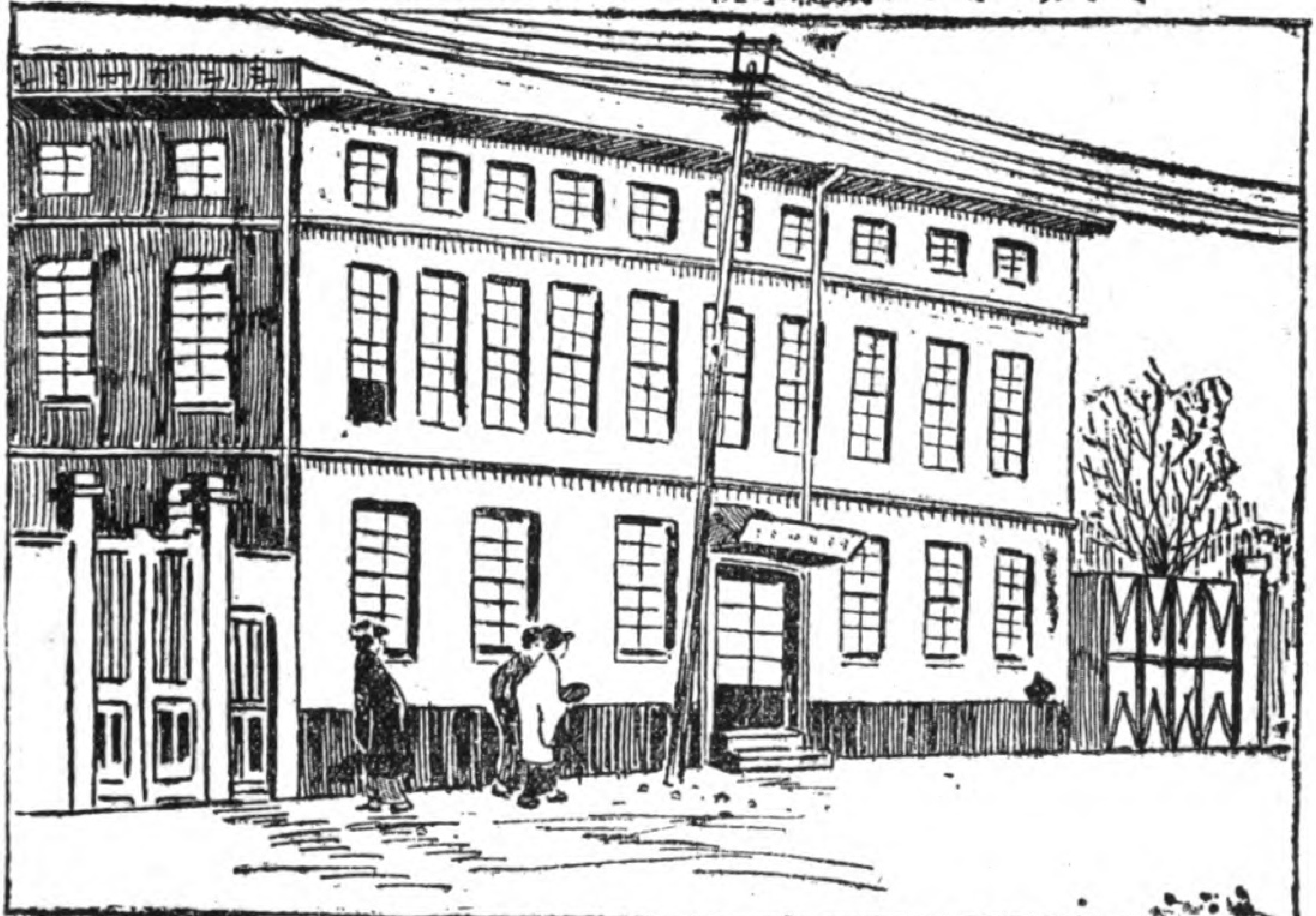
小說も以前は隨分好きな方で故一葉女史のお宅へ伺つた事もございましたが、當節は念慮の多くなるのが頭腦の害になりはすまいかと存じ成る可く控へて居ります。三十前は歷史が無味の樣に思はれましたが此頃面白くなりまして能く覺えたいと存じます。イエ歷史と申ても奧深く調るのではなく報知新聞の日本史蹟とか時事新報の武藏野などで子供の談相手になつて居り

ます。エ、渦巻はおめづらしい方が筆を執つて居らつしやいますから大切に拜見いたして居ります。大塚楠緒子さんのは何に出てゐるのでも探し出してよみます。矢張好きだと仰やるのですか、こんな事許り申て居りますと米も味噌も知らないとお思召といけませんからよしませう私が逆境を知らないと御覧になるのですか、これでも暗い幕の一つや二つは覗きまして驚いた事もございます。萬一の時には大原目の姿をして納豆でも賣ませう。

▲婦人會と衣服

築地の同氣倶樂部で毎月十日に開かれる善友會は、私が師父と恃む大内青巒居士が常

ミンガーミシン裁縫學院（校長秦利舞子女史　麹町區有樂町）



識教育と云ふ主意で教導して居られますので是には必ず出席致して居りますが、此善友會の會員は主に中流以上の夫人令孃方で御主人方も御同道で見ます。お正月の會の折などは隨分映い位の盛裝を拜見する事が出來ます。師父は『何でも身分相當がよい、上流の方が木綿の紋付を着ては却て見苦しいが、汝などは紬生活位を心懸けて、衣服は身分より質素にしても差支へないものだと毎度承つて居ります。構はぬ〳〵といひながら流行物にくるまつて居るよりまアこんな物でも着て居られるのが難有いと思つて居ります。



雜記帳

與謝野晶子

自分は一册二錢の雜記帳を毎月定つて二三册、多い時は十册も買つて、其れにいろ〳〵の草稿や、日記の樣な心覺えになるものや、ふと思ひ浮んだ感想の斷片や、眞人と小兒達の云つた語、來客の話、などを順序も無く書いて置く。斯う云ふと綺麗に字でも揃へて書いてある樣ですが、赤ん坊を抱き乍ら、脊負し乍ら、臺所で煮物をし乍ら、病氣の床で仰向き乍ら、夜遲く眠い目をして机に凭り乍ら、何かしら腦の加減で默つて泣きたくなり、又いら〳〵と獨り腹立しい氣分になり乍ら、筆、鉛筆、ペン、朱筆と其處にある物で書き、歌などは氣に入らぬ時には一首の爲に二頁も三頁も眞黑に塗抹します。其上小兒達に繪を書いて見せたり、知らぬ間に四歲になる二人の娘が譯の分らぬ惡戲がきをしたり、總領の男の兒が色鉛筆で汽車や電車の輪を書いたりなどするので、人樣にお讀めに成れない許か自分にも後で判じかねる所が多いのです。餘りに亂雜ですから、眞人は之を「お化帳」と呼んで居ります。近頃の分から差支の無いものを拔いて、毎號此誌上へ差出すことにしました。

△

光（八歲になる長男。曉星小學の制服）、母さん、只今。

晶子、お歸りなさい。

光、僕、今日、みんなの前で、先生が爲いと仰しやるから、お話をしました。

晶子、どんなお話。

光、それは可笑な馬鹿なお話ですよ。

晶子、云つて御覽。

光、蛇が居たんです。一匹。その蛇は大層懶けもんなんです。働かないで食べやうと思つたので家に何も食べるものが無いのです。其れで懶けもんの蛇は自分の尻尾を食べたんです。毎日々々食べてる内に終ひに自分の體がみんな無くなつて死んで了つたん

です。お話はそれつきり。

晶子、馬鹿な蛇ですねえ。先生は何う仰しやつて。

光、「みなさんは其蛇になつては行けません」て。

晶子、早く二階へ行つて御挨拶をして、其お話をお父さんになさい。（と云つて長男と一緒に二階へ上る。）

光、お父さん、只今。（と云つて前の話を二度して聞かす。）

寛、その蛇は母さんの事だらう。（と微笑む。）

晶子、いゝえ、お父さんの事でせう。（と同じく微笑む。）

△

感ずると云ふこと、我にありては、最上の智慧なり。

人の目、動物の目のみが物を見ると思ふは凡慮なり植物も鑛物も皆互に見る。目なきものは目あるものよりも餘計に見る。目あるものゝ目は纔に二つなれども目なきものゝ目は全體が目なるにあらずや。

人若し大昔に目を亡ひしならば、見ることの感能の進歩は今日に幾百倍したりしならん。

△

數字は人を賢くもし、又鈍くもす。口に出して千萬年と言ふことの易さよ。さはれ、人の腦力をもて誰か千萬年をさながらに意識し得べき。

この千萬年を諦むる時、人は「神秘」の呪文を唱ふ。宇宙觀と謂ふも宇宙の一片觀のみ。

△

極端な急進家が極端な保守家になる例は多い。極端な保守家が極端な急進家になる例は少い。稀に極端な急進家が保守家の假面を着て居ることがある。最も多いのは曖昧な保守家が急進家の假面を着て居ること。

△

東京の女の子が四歳五歳から綺麗にお化粧をお母さんからして貰ふのは、嗜みのよい事ですね。お湯屋へ行つて見ても、湯から上ると鏡の前で直ぐ、下町の小い家の娘さん達までが姉さんなどに白く塗つて貰つてます。不細工な娘までが美しく見えますこと。

私などは損でしたのね父は鷹揚でしたけれど、母が嚴しくて白粉などは平生少しもさせませんのですもの。赤い色の入つた物も碌々着せて與れませなんだ。而して偶に芝居か何かへ參る時俄に身づくろひを致したからと云つて、白粉が乘るものでも無し、柔かい物が身に合ふものでも無いのです。

母の考では、白粉でもすると直ぐに若い男から附狙はれる。男が何か云へば女はすべて其れに應じて墮落するものゝ樣に



思つてるのです。で、成るべく男の目に附かない樣にと許り考へて、自分の娘が野蠻人の樣な風をして居るのに氣が附かないのです。

教育の無い母は、自分の娘が何んな書物を讀んで、何んな理想や趣味を持つて居るか、娘の心が解らないのです。私は自分の境遇よりも母の心の内を悲みました。自分の娘は白粉もつけさせては成らん。直ぐ男の云ふが儘になる。と、かう云ふ淺ましい態度で自分の娘を見てやると云ふ程無慈

斯な事はありませんでせう。

地方では私と同じ樣な家庭で育つ娘さんが少く無いさう云ふ娘さんが近頃は澤山東京へ來て女學生になり俄に都會の派手な風を粧はうとするのですが、御國白粉も三越仕立の春衣も一寸急には體に適ひません。

娘時代は身嗜みばかりで無く、すべて活々と華かにありたいものですね。歐羅巴の娘の樣に。平安朝の貴族の娘の樣に。又江戸の町家の娘の樣に。

勤儉貯蓄などは、さう仰山に奬勵しなくても、娘が妻になり母になり、お婆さんになるに從つて、自然の必要から覺えます。又身分に由つては、一生そんな吝臭い量見は持たないでもよい婦人もありませう。

△

私は人の一生を、厭な、穢い、矛盾だらけな、煩いつまらないものだと思ふ。之がわたしの心の半。

又私の心の半分は、面白い、なつかしい、浮々する働くことを知らん趣のあるのが人生だと思ふ。

この二つの心が常に闘つて居る。

この矛盾が無かつたら、戀も、涙も、歌も、藝術の樂も、子の愛も、私には解らなかつたでせう。白痴か發狂か、死か。私は此二つの深淵の何れかに赴いたでせう。

△

私は何んな縫物にも興味があつて成るべく自分でする。併し足袋の繕ひ許りは爲たくない。私の無い暇をよし暇があるにしても、こんな事に費すのは惜しい。と思ひ乍ら、やつぱり今日も足袋を寛のと小兒のと繕つた。女中にさすのは何だか氣の毒で。

△

光。今日學校で先生が、みんなのお父さんの身分を言へと仰しやつた。

晶子。光さんは何と申上げたの。

光。僕の父さんは文學者ですつて。

寛、それだけ云つたのか。
光、活版屋へ行きますつて。

△

私は以前から女の友達へ手紙を餘り書かないが、近頃は絶對に書かないと云つても好い様になつた。妙ね。

御無沙汰をしては濟まぬと思ひ乍ら、どうも私は男の方に物を言ふ程女の友達に物が言へない。實際はさうでも無いでせうが、どうも女の友達には私の心持が解りかねる様な氣がして、つひ手紙を出さない様になる。私が思上るのでも、友達を見くびるのでも更々ないのですけれど。

男の友達には私の心持を會得して下さる人が多い。と云つて、男の友にも然う手紙は遣りかねる。厭な古い習慣が世俗の間に勢力を持つて居て、異性の交際を常に妨げる。

○○さんと△△さんは男同志で互に親密に往來して



居る。でも私が男に生れて居たら、〇〇さんと私とは△△さん以上に親しい友人として交はれたのでは無からうか。日本の今の交際では、斯う云ふ場合に女に生れたのがさびしい。

今日▽▽先生の奧樣が私の病氣を見舞に來て下さつて、いろ／＼御話の中に、「私は良人に散々苦勞をさせられましたから、今は辛抱してますが、長男が出世するのを待つて、良人に仇を討たうと思ひます」と仰しやつた。先生も奧樣もあの樣に氣立の好い方である學者の家庭にも、其裏面には暗い反目がある。婦人がまだ男の程度まで進歩せぬからであると思ふ。私は御挨拶に窮した。

若い夫婦は出來るだけ別居する風俗を作るがよい。二人の心の合ふのが何よりで、夫婦の目的は其れで十分達せられて居ます。息子の嫁、兄弟の嫁として貰つて置き乍ら、嫁と舅姑や小舅との折合を何かと云ふのは穩かで無い。良人を持つと同時に新しい親や兄弟を持ち、其機嫌まで取るのは不自然であると思ひます。

看護せねばならぬ程老年になつた良人の父母、是非監督が要る程稚い良人の兄弟ならば、若い夫婦と一緒に住む方が人情の自然を得て居ますけれど、さもない場合には別に住んだ方が、却て圓滿に舅姑小舅と嫁との間が行かれませう。良人とすら睦じく行かないで離婚沙汰にもなるのですもの、第二の親、第二の兄弟とまで其々氣が合ふ樣にせねばならんと云ふのは殘酷です。稀には其々氣が合つて修身書に載せられる樣な嫁さんもあるでせうが、其れが一般の標準には成りかねます。

息子に嫁を貰つたら別居して、舅風や小舅風を一切吹かさないこと、之が新代の道德に成らねば女が可愛相です。

下の座敷が俄に肅然したと思ふと、何か唸る樣な、

御經を上げる樣な低い聲が聞えて來る。少時その聲が止まない。良人が、見て來い、子供等が何うかしは爲ないか、と仰しやる。

密と足音を偸んで二階の梯子段を下りて覗くと、七歳になる次男の秀が衣紋竿を二つ高くかざして廊下から徐かに表れ、其れを燭臺に擬つて十字に組み、「南等も……」と舊敎の御經を唱へ乍ら進む。後から姉の八峰が兄の帽を逆樣に紐で吊り提げたのを振香爐の樣に擬つて出る。座敷では妹の七瀬が頻に胸に十字を描いて、立つたり坐つたりして拜んで居る。

私は思はず目がうるんだ。ニコライの御堂の側へ引越して來た甲斐があると喜んだ。

千駄ヶ谷に居た頃は、垣一重外の原へ村の腕白が集つて强盗ごつこなどをするので、子供を外へ出すまいと何れ丈氣骨が折れたか知れません。

△△雜誌來る　わがしたる源氏物語の話、いたく亂りがはしく間違へり。訪問し給ひし記者、女子大學の國文科出でし人と聞きしものを、かの學校よ、名のみこと〴〵しくて斯ばかりの事も敎へぬにや。あさまし。

なにがし女史等、今年も有婦姦の法律を設けよと議會へ請願し給ふと聞きぬ。われは然る言葉口にするも恥し。イプセンが斯かる婦人の運動を嗤ひて「今の世界は男子の世界なり」と云ひしは深き味あり。女先づ自ら修めよ。知識と情操の修養はるかに男に及ばずして男に勝たんこと難し。女は戰ふ者ならず。平安朝の才女の前には男おのづから禮容ありき。

女、口語詩の樣なものなら私にも作れ相ですわ。

男、では盛んな奴を作つて御覽。

女、でも作りたくは思ひまん。

男、俺に嫌はれると思ふのか。

女、まあ然うね。私が男なら口語詩を作る女なんか乾度捨てつちまひますわ。私、口語詩を見る時ばかりは、男の中にも房州出の女の樣な男が混つて居る氣がしますもの。

美人が原因となつた大戰爭

栗原古城

支那の諺にも傾國の美とか、國色とか云ふ事が云つてある程で、美人の力の誠に恐ろしい事は、古今東西を通じて永久に變らない事實であります。日本にも天鈿女尊が神樂を奏した爲めに、天の岩戸が開いて、始めて世の中が明るくなつたと云ふ傳說があり、天地開闢の當初から美人の絕大な威力を遺憾なく示して居ります。扨て又これを私共の專攻としてゐる西洋の文學で見ますと、其中で一番古くつて而も世界の最大傑作と迄稱へられる文學には、何が書いてあるのかと申すと、

○一人の美人を奪合ふ爲めに、二つの强國が互に存亡を賭して戰つた

と云ふ、幾ら太古の事とは云へ、今日では到底本當とは思はれない程の面白い不思議な事があるのです。

左樣お話すれば皆樣の中には、旣に御存知の方も御座いませうが、それは希臘の國の古い詩で、印度の吠陀と云ふお經文を除けば恐らく世界中で一番古い文學と申して差支ない、ホーマーと云ふ人の「イリアッド」及び「オデッセー」と云ふ二つの詩の中に書いてある、希臘の國とトロイの國が、ヘレンと云ふ一人の美人を爭つて、十年間の永い戰爭をやり、到頭トロイの國が亡びて、其美人が希臘の有になつたと云ふ物語であります。

では此お話はどんなに古いのかと申すと、夫は夫は到底一寸想像もつかぬ位に古いので、其作者のホーマーの生きてゐたのが、大凡耶蘇紀元前八百年、トロイの國の榮えてゐたのが最近考古學者の研究によると、同じくずつと泝つて耶蘇紀元前千五百年から千二百年迄の間であらうと云ふのですから、迚も其時分には文字も何も有つた譯ではないのです。それならホーマーの詩なんぞが何して今日迄傳はつてゐるのかとの疑問

も出るでせうが、夫は丁度日本で稗田阿禮と云ふお爺さんがよく昔の事を覺えてゐたので、後に文字の書き方が發明されてから、此お爺さんの話を筆記して始めて古事記と云ふ書物が出來たのと全く同じ道理なので御座います。乃ち此ホーマーと云ふ詩人は其實

◎歌を唄つて方々を流して歩く旅藝人

の樣な者で、當時世間の語り草に傳はつてゐたトロイ戰爭の話を面白い歌に作り、それを樂器に合せて、希臘の國中を唄ひ廻つたのが、如何にも美しく調子が可かつたので自然に其儘幾百年の間、人の口から口へと移されて、遂にそれが文字に寫され、今日我々の時代迄も傳はつて來た譯なのであります。元來人間の記憶は、文字が出來て之に頼る樣になつてから非常に衰へて來たので、昔文字の無い時代の人の記憶のよかつた事は、迚も今日の人の想像の及ぶ所でありません。

是丈けの前置をしておいて扨彌々肝腎のお話になるのですが、尚其前にも一つ申上げておかなければなりませんのは、此お話の中に神樣の事が始終這入つてくる事で御座います。何處の國でも古い物語や歷史の樣な者になると、神樣の事が主になつて來るのは當然ですが、特にこの

◎希臘の神樣は餘程人間に近い

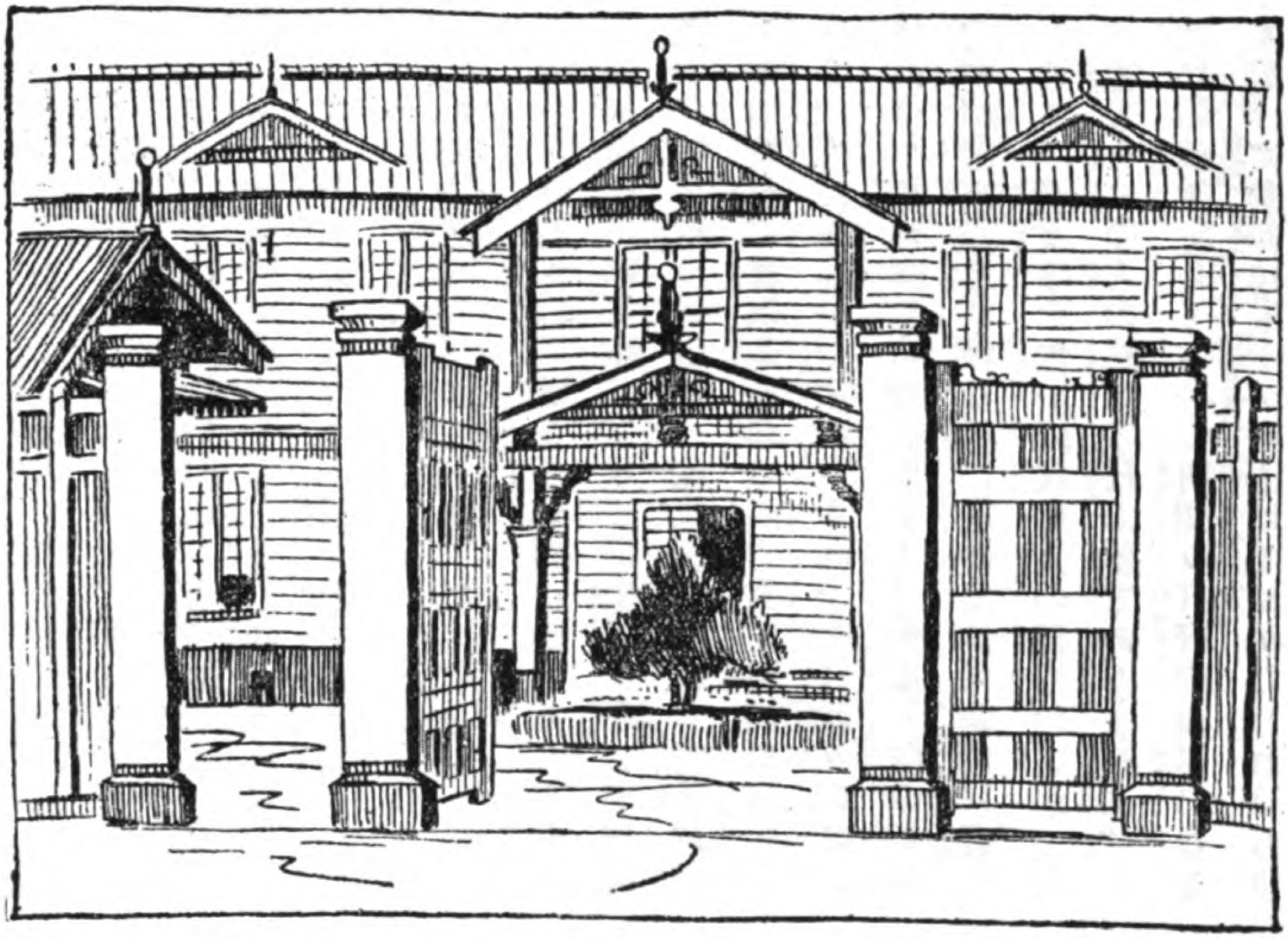
ので、人間と一緒になつて色々な惡戲をやつたり、甚しきは自分で戰の場に現はれて、神樣同士が鎬を削ると云ふ風で、或場合には全く人間だか神樣だか區別がつかない樣な事があるので御座います。

トロイの國王プリアムの子に、パリスと申す貴公子があつて、アイダと云ふ山に羊を牧して、至極のんきなのび〳〵とした平和の生活を送つて居りました。所へ或日忽然として

◎三人の女神

が現れた。第一の女神はジユノーと申して天地の主宰者たる大神ジユピタアの后で、數多くの神々中、威權

府立第一高等女學校（淺草區七軒町）



雙ぶ者なき神様であります。第二の女神ミネルヴァは學問藝術の神、第三の女神は戀愛の神様たるヴイナスでありました。

此神々は何の爲めに態々パリスの許へ來たのかと云ふと、イリスと申す神様が世にも珍しい一つの黄金の林檎を持て居て、誰でも

◎一番美しい神様に夫を遣らう

と申出したのが原因になり、多くの神様の中殊に容色自慢のこの三人の女神が、各々に自分が一番美しいと主張して一歩をも讓らぬので、多くの神様も持剰し、夫では何處へでも往つて勝手に定めて貰つて來いと云つて取合なかつた者ですから、扨てこそ三人打揃つてパリスの前にやつて來て、『三人の中誰が一番美しいか定めてお呉れ』と云ふ難題を持ち掛けました。

實際の處どの神様も皆な劣らず美しいので、誰が一番と判然言ひ切る事が出來ないので、パリス公子も大に閉口してゐました。其氣色を見て取つたジユノーは

「若しお前が私を一番美しいと言つてお呉れなら、私はお前に世界中の富と權勢とを上げませう」と申しました。すると之を聞いたミネルヴァも、負けぬ氣になつて

「私を一番美しいと言つて呉れゝば、私は其お禮に世界中の智識を皆んなお前さんに上げやう」と言ひました。そこでヴイーナスは最後に、

「若し私を一番美人だと言つて呉れれば、私はお前に

◎天下第一の美人

を奥樣に世話して上げる」と申しました。富と智識と美人、此三つを合せ得たら夫こそ何一つ不足はありませんのですが、其中一つを選むとなると、扨何を取つた者であらうかと、パリスは暫し思案に暮れました。何しろ若い身空ではあるし、美人が一番望む所であつたと見えて、「私はヴイーナスの神樣が一番美しいと思ひます」ときつぱり斷言致しました。そこで到頭その黄金の林檎はヴイーナスのものと決定つたのです。

これでさしも面倒であつた林檎の事件は一先づパリスの判斷で結末がつき、ヴイーナスが神樣中で第一の美人と云ふ事に相場が極つて了ひましたけれ共、さて納まらぬはジユノーとミネルヴアとの二人の神樣の胸の中です。そして又一方のヴイーナスの方では、約束通り世界第一の美人をパリスに世話してやらなければならぬと云ふ責任が生じて來たので、さあ此事から愈愈天下の大騷動となり十年間の永い戰爭が始まると云ふ順序になるのです。

パリス公子は其後間もなく希臘の南方、スパルタの國へ往つて、國王メネラウスのお客分となつて居りましたが、其皇后のヘレンと云ふ人は、大神ジユピタアの御落胤であるだけに夫は夫は

◎何とも譬ひ樣のない美しい人

で御座いました。正にヴイーナスがパリスに約束した天下第一の美女と云ふのは、此人を措いては他に決し

て無かつたのです。

處がもうヘレンはスパルタ國王メネラウスの皇妃と云ふ歷とした身分ですから、幾らパリスが思を懸けたにしても、到底正當な手段では何もなる譯の者ではないのでしたが、そこは戀の神ヴィーナスが魔力を振つてパリス公と皇后との間を近づけ、遂に

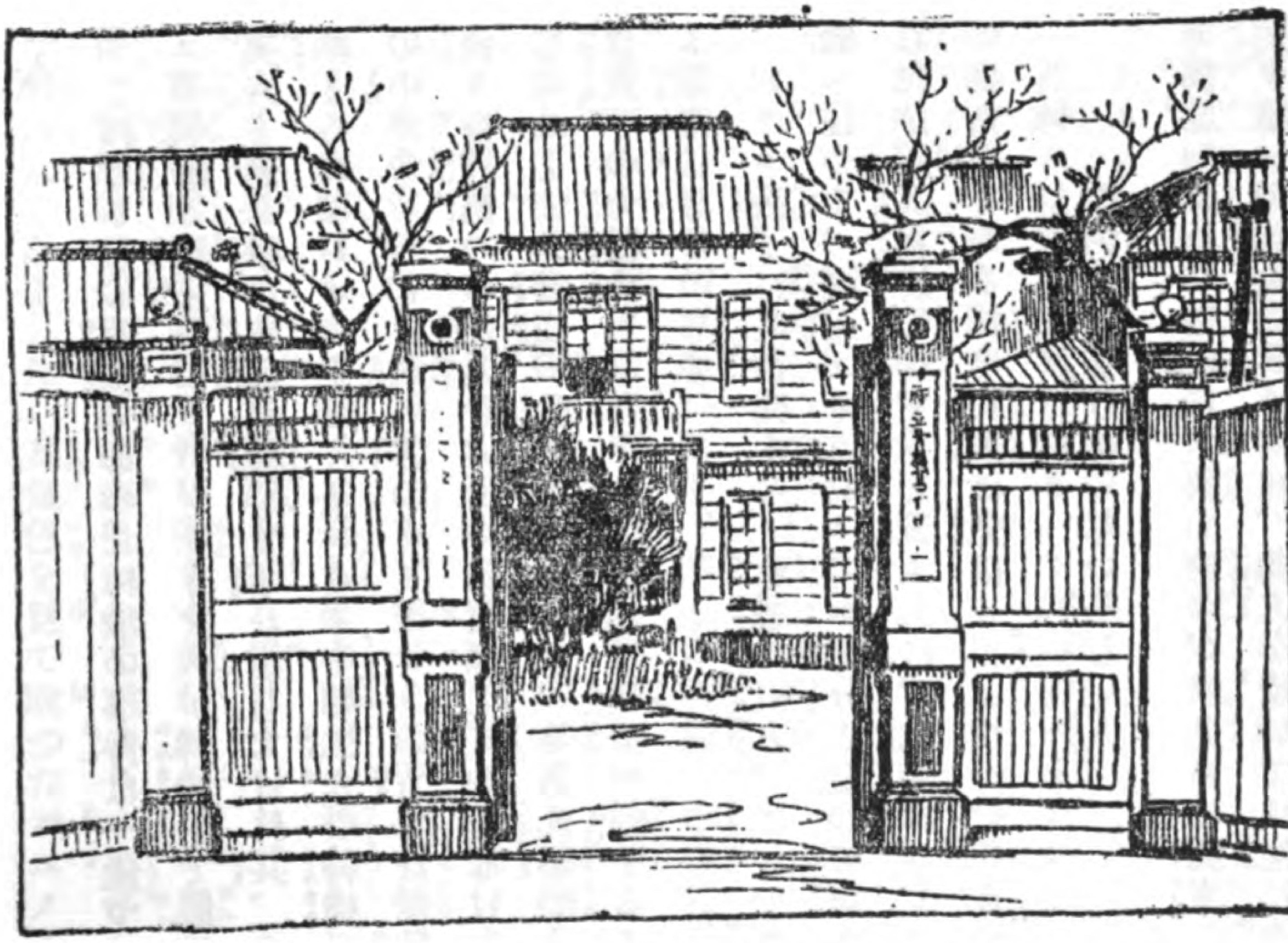
◎公子は此絶世の美人を拐かして

急いで自分の故郷トロイの國へと迯げて往つて了つたのでした。

すると忽ち希臘の國々は各此話を聞き傳へて、痛くメネラウス王に同情し、天下第一の美人を他國の者に取られて如何する事も出來ぬとあつては希臘全體の恥辱だと、皆一方ならざる憤慨で、爰にメネラウスの兄アガメムノンが總大將となり

◎トロイ征伐の大軍

を發する事となりました。



府立第二高等女學校　（小石川竹早町）

斯うなつて來ると今度は亦神樣の仲間の中でも大騷動が持ち上り、希臘方とトロイ方との兩方に立ち分れて、各々自分達の贔屓する方を助ける事になりましたが、此時希臘方になつた神々は、ジユピタア大神の皇后ジユノーを始めとして、智識の神ミネルヴア、大海の神ネプツン、鍛造の神ヴルガン、商業の神マーキユリー抔が主な者で、トロイ方を助けた神々は、戀の神ヴイーナス、太陽の神アポロ、月の神ダイアナ、戰の神マルス抔で、天地の主宰者なる大神ジユピタアは其中にあつて悠然として運命の御車を其手に握り

まだ希臘方に勝利を與へるとも、トロイ方を捷たせて遣らうとも、一言の詔だに無かつたのでありました。

扨て彌々希臘の軍勢が勢揃ひをして、港から船に乘つてトロイの國を指して出帆しやうとした時に、トロイ方の神ダイアナは、先づ差當り希臘方に打擊を與へやうと思つて、頻りに疾病を下して希臘の勇士を惱ませましたので、希臘の總大將アガメムノンも詮方なく、遂に犧牲を捧げて、此神の怒りを和げ、夫より直ちに軍を進めてトロイの首府イリアムを圍んで、包圍攻擊を開始したのでした。處が始めは

◎トロイ方の勢が中々盛んで

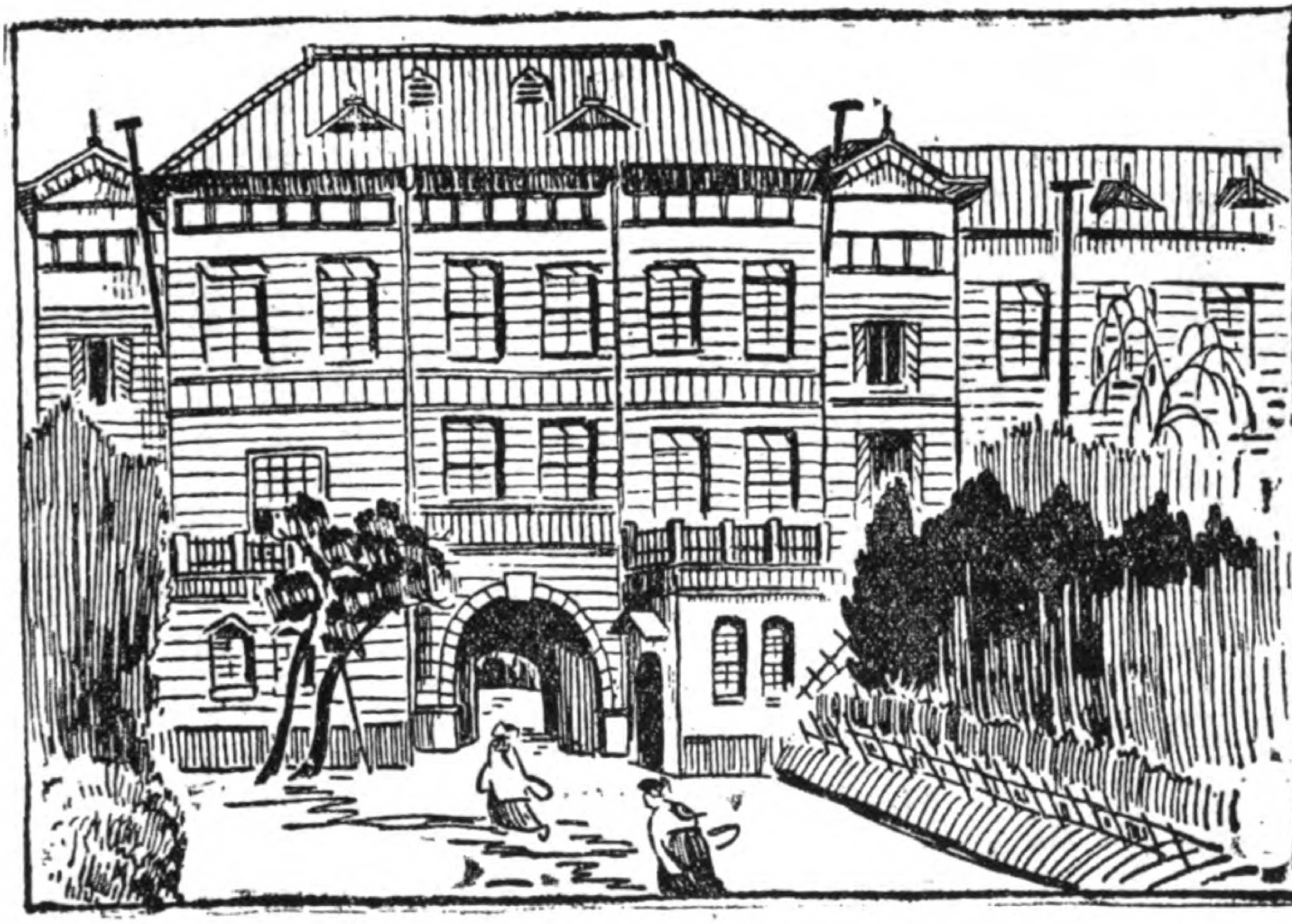
希臘の勇士達が、色々に手を換へ、品を換へて夜晝隙間もなく攻め立てますけれ共、城中は少しも動ずる氣色なく、之に應じて一歩も退かずに勇ましく戰つたのでした。其中に兩方の軍に味方してゐる神々も、人間共の戰許り見てゐては、まだるくて溜らなくなつたと見え、軍神マルスの如きは度々自分で戰場に現はれて希臘軍を驅け惱ましたので希臘の勇士ダイオメデスは自ら眞先に進み出でゝ此

◎神樣と槍を交へ

遂に其腕に負傷させましたので、流石の戰の神も敵はじと思つたのか、一聲高く叫ぶと忽ち虛空から

◎一朶の黑雲が舞ひ下つて

府立第三高等女學校（麻布日ヶ窪）



神樣の體を引包み、其儘すーつと消えて了ひました。

希臘軍の數多い勇士の中で、其の名をアキレズと呼ばれたのは、殊に驍勇無雙の名が高く、雄威敵味方の間に轟いた英雄でありました。此人は生れ落ちるとすぐに、其おつ母さんのセテイスと云ふ人が、赤ン坊の足首を握んで、其身體を一種の靈水に浸したお蔭で、此人は槍で突かれ樣が、弓で射られやうが、

◎全身鵜の毛で突いた程の傷もつかぬ

と云ふ不思議な性質を持て居りました。けれ共唯一つの弱點と云ふのは、兩方の足首の處で、此處だけは、お母さんの手で確り握られてゐましたから、靈水が滲み通らなかつたので、此處を狙れて遣られて了へば、到底もう助かる事が出來ないので御座いました。

此の如き半神的の英雄兒アキレズは、始め希臘軍に加はつて出陣した處、途中で總大將アガメムノンと議論が合はず、不平を抱いて暫く其故鄕に歸臥してゐたのでしたが、今や希臘軍の旗色が頗る振はず、トロイ

軍は勢に乘じて希臘の兵船を燒打ちすると云ふ有樣でしたから、大將アガメムノンは大層心配して態々

◎使をアキレズの許へ遣り

再三出陣の事を懇願しましたけれ共、アキレズの心は金鐵の如くで、容易に承認する氣色がありません。

其中に、希臘の勇士ペトロクレスと云ふ人は、トロイ方の勇將ヘクトルの爲めに討ち取られ、トロイは益益其兵氣を盛んにし、之に引換へて希臘は散々の敗北でありました。

親友ペトロクレスの討死と希臘軍の危急とを聞いたアキレズは、もはや安閑として故鄕に遊んでゐる時ではないと思つたので、急に蹶起して仕度を整ひ、ヴルガンの神の鍛へた堅牢無雙の楯と、一筋の槍とを小脇に抱込み、宙を飛んで

◎戰場に走せつけました

アキレズの到着と共に希臘の軍勢は又もや盛返して來ました。戰場を馳騁するアキレズの風采は、眞に雄威凛々として四邊を拂ひ、到る處無人の地を行くが如く、誰一人として之に刄向はんとする者もありません。

トロイの勇將ヘクトルは此有樣を見て、齒咬みをなして憤り、然らば我れ自ら討取り呉れんと、崩れる味方の勢の中から、唯一人取つて返して、爰に兩軍第一の

◎勇士と勇士との一騎打ち

の勝負になりました。するとアキレズの神の如き雄威と、其携へたる楯の怪しき光とに撲たれて、ヘクトルは刄を交へざるに先つてフト臆病風に誘はれ、直ちに踵を返して逃げ出しましたから、アキレズ隙さず其後を追跡し、トロイ城の外廓を四回迄追ひ廻して、遂に追着き、忽ちにしてヘクトルを討取つて了ひました。

さあこれから希臘方の勇氣は百倍したに引換へて、恃みに恃んだ勇士ヘクトルを討たれたトロイ方の失望落膽と來ては誠に目も當てられぬ有樣でした。ヘクトルの父の、國王プリアムは、そこで深夜潜かに一人で

アキレスの軍營に忍んで來て、「どうか

◎武士の情けで

せめて倅の死骸だけなりと、御渡し下さる事はできませぬか」と白髮頭を幾度か地につけて、悲しみ歎きました。アキレスは互に戰場に出でゝは、今日の人の身の上は、明日は我が身の上である。若しも自分が討死した時は、故鄕に殘して置いた年老いた父の歎きは如何ばかりであらうと考へると、坐にプリアムの境遇が、自分の身の上につまされて、同情の淚に暮れましたそこで快く其請を容れ、禮を以て厚く敵將の死骸を送り返したのでありました。

けれ共斯る稀代の英雄アキレスの運命も、最早永くはありませんでした。公子パリスがアポローの神から敎へられて

◎城樓の上から切つて放した一矢

は、天なる哉、アキレスが唯一の急所たる足の踵に中つたので、彼は之が爲めに命を棄てましたが、間もなくパリス其人も亦希臘方から亂射した毒矢に中つて、敢なくなつて了つたのでした。

恁云ふ有樣で兩軍の戰爭は數年に亙り、雙方の勇士の戰場に屍を曝した者も少くはありませんでしたがトロイの城は中々に落ちません。そこで希臘方の謀士ユリシスと云ふ人が、一つの計略を考へ出した。

◎非常に大きな木馬

を造り、其腹の中に數十人の勇士を忍ばせ希臘軍は圍みを解いて退く樣に見せかけて置いて、心利いたる部下の一人を僞つてトロイ方に降參させ、言葉巧に先方を欺いて、かの木馬を首尾よく城中に引き込ませたのです。

すると或夜トロイ方の油斷を見すまして、件の勇士等は木馬の腹を開いて、其內から躍り出で、火を放つて攻め立て、希臘軍が又外から城壁を破つて乘り込んだので、哀れやさしも堅固なるトロイの城も見渡す限

り◎一面の焦土と化し國王始め男士等多く討死し、希臘方は首尾よく美人ヘレンを奪返し、勝鬨擧げて其故郷へと引擧げたのでした。

以上が有名なトロイ戰爭の顚末で、主としてホーマーのイリアッドに述べてある所で御座いますが、又之に引續いてトロイ戰爭後日譚とも云ふべき者が澤山にあるのです。其一つは

◎ユリシスの漂流譚

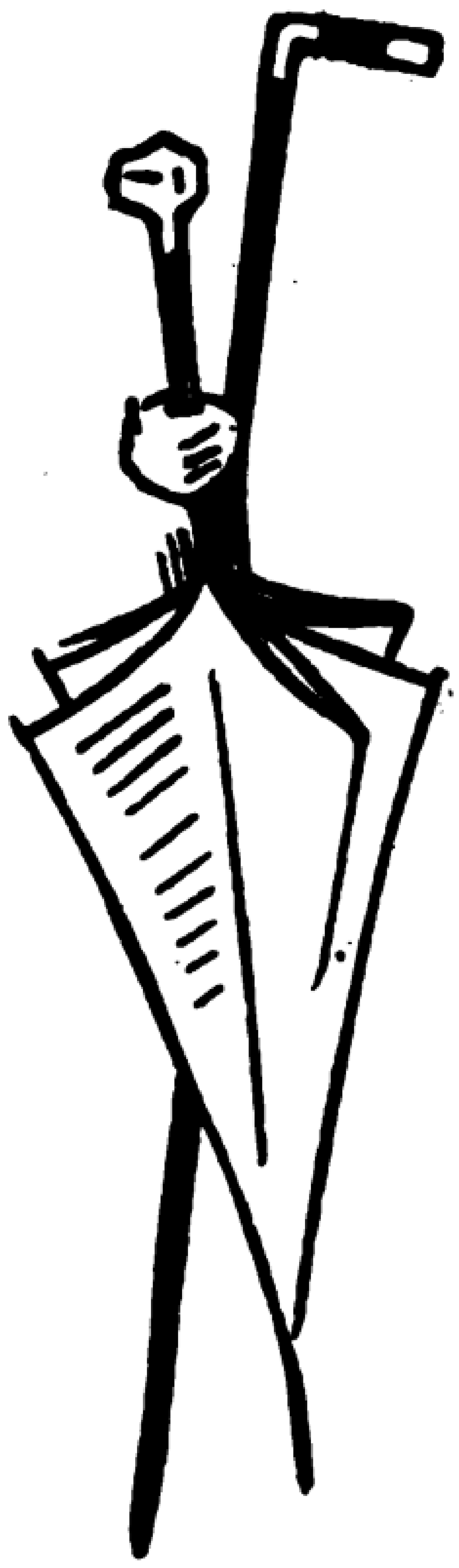
と呼ばれてゐる者で、トロイ落城の殊勳者たるユリシスが、戰爭を終つて歸國する途中、暴風に吹きやられて、行衞も知れぬ海上を十年許り漂流し、色々な目に遭つて艱難辛苦を甞めると云ふ、一寸「朝比奈三郎の島巡り」に似た者で、これはホーマーの詩篇「●オ●デ●ッ●セ●ー」に詳しく記して御座います。

も一つはトロイの一族エーネアスと云ふ公子が、辛り危くも戰爭の間を逃れて、これ亦漫々たる地中海のたゞ中を、彼方此方とさ迷つて、遂に伊太利の一角に落ちついたと云ふ物語であります。此事は羅馬の詩人ヴァージルが、エーネードと申す長詩に歌つてゐて、ホーマーの詩と相並んで、古典文學の精華と稱せられる者であります。そして面白いのは、希臘の後に起つて、殆ど天下一統の大業を成就した。

◎羅馬はトロイの子孫

であると云ふ一事で御座います。即ち始めて七つの丘の上に羅馬の市を建設したロミユーヲスは、此トロイの落人エーネアスの後裔と云ふ事が古い書物に記してあるのです。此等については面白いお話が澤山にあるので、諸孃が西洋の學問をおやりなさるには、是非御存知なければならない事柄ですから、孰れ又後日申上ぐる事に致しませう。

（完）



薔薇の話

花散里

やがて滿都の人の心を浮立たすべき隅田の花も春まだ淺きこの頃ではとんと冬枯のやうですけれど、花壇の中には西洋諸國で日本に於ける櫻のそれと同じく花の王と稱してめでたゝへられて居る薔薇のかず〳〵ひとり氣高き香りをほこつて居ります。西洋ではローズに就いての神話がいくつもございます、その中の一ツ二ツおなぐさみまでに……。

△薔薇に就ての傳説

ギリシヤ國の傍にローズ島といふのがあります。それは昔むかしズーッと昔のこと、ヴイーナスといふ美の女神が其の島に美しい薔薇の花を降らせながら海から生れたといふのでローズ島と呼ぶことになつたさうです。觀音樣が蓮華の花を降らされたといふ我國の傳說よりも若い美の女神だけに餘程氣高く詩趣ふかく感じられるではございませんか。そして初めは色は白色だけであつたのですが、後に赤いのができたといふのに就ての神話は、いくつも〳〵ございますが、其の一ツはヴイーナスに一人の若い美しいアドーニスといふ戀人がありました。そのアドーニスが仔細あつて殺される樣になつた時、ヴイーナスはそれを助けやうとして、あわてゝ薔薇のトゲを踏んで、そのきざんだ樣な形の好い足から流れた血が、白薔薇にかゝつて、眞紅のローズができたのだと云はれて居ります。もう一つは西洋で人間の祖先だと云ひ傳へられて居る。アダムイーヴといふ二人の美しい神樣が、ある時イーヅンの花園を逍遙して居りますと、あたりは一面の薔薇の花それでイーヴー女神の方です――がその花の一輪を摘んで香をかぎながら接吻すると、イーヴの美しい唇の

いろが移つて紅薔薇となつたとも申されます。もう一説には矢張りギリシヤ「エフラタの東海岸、フロリツス野で、ある若い女が、罪も無いのを火あぶりの刑に處せられることになつた。その時その美しい女は、天に向つて自分の清浄な事を訴へ、最後の祈りをしてから、炎々たる薪の傍へ進みますと、今まで其の身を焼かんとしてもえ上つて居た火の薪は、忽然として眞紅な薔薇になつて了ひ、未だ燃やさずにあつた薪は白い薔薇と變つたと云はれて居ります。いかに美しい話では御座いませんか。



△薔薇と秘密

また西洋では親しい同志寄り集つて宴會など催す時とか相談事のために自邸に人を招いた場合、その會合の室の天井を一面に薔薇の花で綺麗に飾ることが有ります。これは唯装飾といふことだけにするのでは無く此の室、内ではどんな話をしてもよい。お互に固く、秘密を守らうといふ意味になつて居ります、それは「薔薇の下」にと云つて、この事の起りは畫題や歌になつて居ますが一體先刻申上げたヴイーナスには美しい戀人が澤山あつたのをヴイーナスの子キユーピットが母の戀物語はどうぞ他の神様には打あけて下さいますなと云て沈默の神様に薔薇の花束を捧げましたので、夫から後今の世に至るまで、「薔薇の下に」とは沈默を守るといふ意味になつて居るので御座います。女學校の集會室などの天井に薔薇の花をつるし下げて——一面に飾らずとも唯一輪でも——その室内で生徒同志お互に勝手な話をつゝみかくさず致して樂しむとい

ふ風もこれから起つたことでございませう。そしてまた紅ばらは戀のまごゝろ、白ばらは純白といふ事に花言葉の方ではなつて居ります。それから野に生る犬薔薇は質朴、黄薔薇は衰へたる戀、また蕾は處女の代表に意味されて居ります。

△薔薇と戰爭

ミルトンの「失樂園」中イーッンの花園のところや、ダンテの「神曲」中天國編の深い意味ある大薔薇のことなどは世界に名高いものですが、その他にも泰西諸國の詩人中薔薇を歌はぬ者の無いのは丁度我が國で櫻をたゝへぬ歌人のないのと同じことでございます。歴史上では有名な薔薇の亂といふのがございまして、それは日本の源平の爭ひと同じ様にヨーク家とランカスター家とが爭つたのです。



一方は眞紅の薔薇、一方は白薔薇の紋所、それで永く爭つて居た中で一番名高いのは一千四百六十一年三月二十九日に、タウント村での戰ひで、その時には四萬たらずの多數の兵士が犠牲になつて斃れましたが、その屍を埋めた墓の側に記念に植ゑた薔薇の花瓣は紅白のまだらになつて咲いて居て兩家の爭ひの恨みは今も猶ありありと花にあ

らはれて居るといふ事です。恰も、我が國の平家蟹の様な趣きがあるでは御座いませんか。これは英國での有名な話でその墓には紅白の薔薇の花束を捧げて詣でる人が春も、秋も絶え間ないと云ふ事で御座います。

△薔薇と鶯

また梅に鶯といふ様な具合に泰西でもナイチンゲールと薔薇とは離れられない關係になつて居ります。そのナイチンゲールといふのは、鶯と譯してありますけれど、その實は鶯とは少しちがつた矢張り美しい聲で鳴く小鳥ださうで戀物語には、よく引き合に出されますが、此の鳥は薔薇の木に宿つてその美しい花びらをたべて命をつなぎつゝ春の花園をさまよふ人々に優しい戀の歌を節おもしろく謡つて聞かせ、またその小鳥の胸を薔薇のトゲにさゝれて居れば一層綺麗なやさしい歌に聞えるといふ傳説があると申します。

かぞへ來れば如何に薔薇といふ花には詩趣ふかいやさしい面かげが宿つて居るかゞおわかりになりますでせう。同じ一輪の花にしても無意味にこれを摘むよりは其の花に就ての美しい神話など想ひつゝギリシヤ昔の束髪にかざしたならばどんなにやさしいことで御座いませう。

石倉文學士の譯せられた薔薇といふ獨逸民謡をかゝげて終りと致します。

△薔　薇

われは蜜蜂花さく園に、純なる若葉嫩枝甜めて
美し蜜、露、濃かに吸へど美き香、今もさかりと薫る
さればぞ心は歡喜に充つらむわが薔薇かほれば。
恵みの靈光惜みぞ御神顧ふは初夏徐かにすぎて、
露、霜、憂の此の世を去りてわが幸、永久に美花にうもれど、
さらば歌はむ歡喜のうた、わが薔薇かほるよ。
すぐれし汝がしるしの笑みはこの艶容が想ひのちから
あだし薔薇花、摘まじ吸はじぞさらばつとめむ、想ひしむまで、
よそに見つらむ快樂は凡て、此の薔薇花にぞ。

九百名の生徒を預つてそれを導いてゆく苦心

實踐女學校長　下田歌子

△朝登校の生徒の樣子

私は自分の學校を常に一大家庭とおもひ、生徒が一日も早く圓滿な家庭を作るやうにと、それのみを祈つて居るのでありますが、官立學校の校長とは違ひまして、經營も事務も皆私の責任となり、色々の仕事が起つて參りますから、暫くもぢつとして居る事ができません。一寸申して見ますと、朝は大抵未明に起きまして、手早く食事を濟し、七時半頃にはもう登校致します。此の樣に早く登校しますのは、生徒の登校の樣子を見ることが、監督上必要だからで御座います。入つて來る生徒の姿勢が亂れて居つたり、毎朝樂しさうにして登校して居つたものが、俄かに憂ひの色が見えたり、或は甲乙の生徒の間に互に秘密がありさうだつたりする樣なことがないとも限りません。さういふ時には直ぐ主任教師に話して取調べさせねばなりませんから、それでから致すので御座います。

△年中絶間なき苦心

學校には目下六十人ばかりの職員が居りますが、時には病氣をする人もありまして、折々缺勤が出來ますさういふ時には直ぐ時間の樣子を見て、補充教員と打合せて生徒に無駄な時間を費させないやうにしなければなりませんし、そして私自身でも一週間十時間の授業時間を持つて居りますので中々大抵ではありません殊に女子は品性が大事ですから、倫理教授にも隨分骨を折りますので、上級生になりますと、講堂で致します一般的の倫理の外に、各生徒からいろ〳〵の意見や希望を答案させ、それによつて、生徒の性質を判定して、わるいところは矯させるなど、一學期中之れにも

新に生れたる模範婦人雑誌

婦女界

三月一日發刊 第一號 定價一冊拾五錢 郵税一錢五厘 一年共税壹圓七十五錢

▲閑院宮妃殿下の御平生と本誌に賜ひし大光榮

▲將來女子の爲すべき仕事と學ぶべき事柄…… 女子大學校長 成瀬仁藏

▲吾輩は斯る妻を擇ぶ
政治家 伯爵 大隈重信
實業家 日比谷平左衛門
學者 博士 高田早苗
小説家 中村春雨
美術家 久保田米齋
…見逃すべからず

▲貴婦人交際振 岩倉公爵夫人と鍋島侯爵夫人

日本室の装飾 久保田米齋

▲良人が勤王の爲に斬罪に處せられし前後の痛恨 前高輪御殿御用係 小川直子

▲子供に對する母親の愛情は父親に劣れり…… 文學士 三輪田元道

▲身に沁む祖母の訓戒と私の子女教育法… 遞信大臣後藤男爵夫人 後藤和子

大附錄

閑院宮妃殿下御染筆『藤花』石版八度刷

口繪 雛祭(三色版)岡田三郎助 桃の節句(石版八度刷)梶田半古…其他寫眞版七枚

▲不思議の怪美人に襲はれた實驗… 學習院長陸軍大將 乃木希典

▲無識の爲に知らず〳〵子供を殺す親…… 女醫學校長 鷲山彌生

▲女子大學を卒業して小賣商となりし實驗 伊藤玉子

▲音樂は早く學べ田舎の天才と器用彌はあてにならぬ 音樂學校教授 神戸絢子

▲三人の强盜に襲はれた私…危難を免れた實驗 やまと女塾長 伊庭國子

▲春のお化粧 遠藤つは子 お料理 宇山祿子

▲西洋料理法…… 櫻井女塾長 櫻井ちか子

▲善行旌表會の創立

孝女節婦等の事蹟を募り賞品を贈らんとす詳細は誌上に發表せり(寄稿歡迎)

寄稿歡迎 料理、衛生、文藝、問答、和歌(佐々木信綱選)短文(沼波瓊音選)俳句(内藤鳴雪選)繪畫(梶田半古選)

東京神田表神保町 振替東京一三五五番 **同文館** 電話本局特四三七 電話本局一五三九

(一〇九)

幼年畫報 第五卷第四號 増刊

三月十五日發行

ワン〱草紙

ワン〱ワン〱、ワン〱ワン!!小犬が一匹吠えて居る、驚き見返る郵便屋、シッシ〱と叱つてる、クン〱クン〱、クン〱クン!!小犬が一匹かぎよると、肴屋びつくり仰天す、ワンワン云ふなと盗人が、とり出す握飯みむかずに、猶更ワン〱吠えたてゝ、とう〱足えと嚙み付いた、後の褒美わ何だろう、さア面白いこの御本、ワン〱ワイワイやつて來て、早く御覧よ太郎さん次郎さん。

さゞなみ作
三郎畫

菊判美麗畫本
石版極彩色刷……十六頁
活版二色刷……十六頁
光澤寫眞版………四頁
正價一册金拾錢
郵税一册五厘



(その二)

東京本町 博文館 振替口座東京二四〇番

表紙と口繪

▼卒業式(表紙)…(岡野榮)▼雛の客(口繪)…(榊原蕉園)
▼桃の里(同)・(丸山晩霞)▼寫眞版…大阪、神戸、
和歌山、奈良の少女大會＝旅行みやげ

本文の記事

●お伽小說 怪牡丹……………………巖谷小波
●米國みやげ……巖谷小波●近畿地方少女會の記……沼田笠峰●女學校歌集
……●感心な少女……文學士下田次郎●少女小說、漂流少女……江見水蔭
●鶯物語……西村渚山●少女小說、まごゝろ……ひさ子●氣轉娘…
…黑田湖山●四季袋の編方……三木とみ子●彌生の野邊……
木村小舟●諸孃に……記者より

▼少女會館
その他面白き記事多し

第五卷 第四號
三月一日 發行



紙數百廿八頁
口繪美麗なる石版寫眞版澤山
正價金拾錢……郵稅一錢

東京本町 博文館發行

(その三)

試驗叢話

菊判紙數二百四十頁……正價廿錢郵稅二錢

▼中學世界 拾參卷第四號 增刊……三月廿日發行……



中學を始め、甲種商業其他同程度の學校卒業期が近付いて、二三官立學校では既に生徒募集の廣告を發表した。所謂猛烈なる競爭試驗のシーズンは、漸次學生諸君の身邊に肉薄して來て居る。此際、中學世界では『試驗叢話』の一編を出刊して日本全國に於ける當年の戰士數萬人の爲めに、逸早く最新なる報導を齎らして、便利を供したいと思ふ。『試驗叢話』には、云ふ迄もなく、試驗當事者諸氏並びに學校通、試驗通、此の點に最良の頭腦と經驗とを持つた專門家の筆になるものだから、年々に推移して行く試驗の事情に迂濶なものや、時勢後れのものは一つもない。資料は皆な今年今日に適切なものばかりである。同時に、又一方では、試驗に關する趣味豐かなる各種の話柄をも多く收めてある。即ち實利と興味とを併せたもので、受驗の準備書として、試驗の奇談集としても、從來のものよりは更に包容的で、そして適切である。この一冊を以てして、試驗に成功せざれば、その人は餘程運の惡い人と云はればならぬ。

目次

東京本町 博文館

(その四)

東京帝大文科大學講師
佐々木信綱君著

定家歌集

わが國民にして百人一首を知らざる人は無からむ。百人一首を知れる人は、撰者定家卿の名を知らざる人は無からむ。藤原定家は和歌の歷史に於いて、黄金時代と稱すべき新古今時代の代表者にして、一時期を劃せる歌人なり。しかも定家の名は普く知られて、眞に定家の歌を知れる人は少なし。此書は佐々木先生が、定家の歌集より、秀逸の作數百種を選出し添ふるに、定家の傳記、その和歌及び歌學に就いての評論、又年譜等を以てし、卷頭には定家の肖像、及び眞蹟を揭ぐ。殊に本書は「袖珍和歌文庫第一卷」として、體裁高尚なるポッケット形なれば、旅行に携帶せむにも、机上に置かむにも、最も優美なる歌集なり。歌に志ある人は云ふまでもなく、文藝を愛する士は、必ず一本を座右に備へらるべし。

全一冊

袖珍菊判半截形
洋裝總クロース
上製紙數凡二百頁
正價卅八錢
郵稅六錢

東京帝國大學文科大學教授文學博士 芳賀矢一君序
東京帝國大學文科大學講師 佐々木信綱君閲
大學院學生文學士 鴻巢盛廣君著

洋裝四六判
總クロース特製
美本紙數約七百頁
正價壹圓廿錢　郵稅十四錢

新古今和歌集遠鏡

全一冊

新古今和歌集は萬葉、古今と共に實に吾が和歌史上の大寶典なり。而して本集の註釋書が彼の二集に比して十が一にも及ばざるは學界の恨事と言はざるべからず。著者これを慨し、本居宣長の「古今和歌集遠鏡」に倣ひて此書を著す。解くに俗言を以てし平易簡明を旨とす。然も亦一首の風韻をもうつさんと努めたれば初學者と雖、一讀、忽ち歌意を了知し得べし。加ふるに難解の語、枕詞、序詞、懸詞、緣語、名所を註し、一々本歌を擧げ、其古人の說をも批判したれば專門の學者も亦見逭すべからざるの良書なり。

東京本町　博文館　振替口座東京二四〇番

（の六）


旦那も讀め
花さへ笑ふ彌生の空に、血腥き俗惡劇或は醜猥なる戀愛談をもつて讀者諸氏を煩はすは愚なり、本誌は世と共にこの一と月を笑ひ暮さんものと、精選せし材料は、先づ饗庭篁村氏作「紅雀」を載す、昔公冶長は禽の聲をよく聞て、東門の外に米のこぼれし雀の話を說きて囚を赦され、今この作家雀を愛して滿庭處得顔に囀るを樂しむとか、鳳凰來儀もすべき聖代、百千鳥とり〳〵に太平を謳ふ中に、この紅雀、いかなる聲をかなさんとする次號卷頭。雀舌一碗して其の流風を思ふべきなり。
三月一日發行
第十六卷第四號
文藝倶樂部
菊判本文三百卄頁　口繪精巧木版數十度刷錦繪
三色版寫眞版……婉麗花の如き者十數枚
正價貳拾五錢　郵稅貳錢五厘
次に山田美妙氏作「滑稽へそくり」海賀變哲氏作「太平樂」山田芝廼園氏作「喜劇智惠競」を載す、いづれも作者獨特の手腕を揮ひて讀者を笑殺せずんば已まずと、意氣込み居れり、讀者諸氏腮の用心肝要たるべし。
活社會
以下の諸欄は實に本誌の特色にして他の模倣を許さゞるものなり、謹で淸觀を俟つ。
奥様も見よ
東京本町
博文館

女（めの七）

産科婦人科専門 醫學士 北畠孝夫先生閲

最近

婦人病心得

子宮病自宅療法

☛無代進呈（但送料貳錢を要す）

目次（婦人病の總論⊙血の道（ヒステリー）の原因病理及び自宅療法⊙神經衰弱、貧血、萎黃病とは如何及其療法⊙しらながちの病理及其根治法⊙月經時の手當月經諸病の療法⊙姙娠の原理、受胎すべき塲合姙婦の攝生、つわりの養生法

女の一番つらい病は。子宮の諸病であるが。此病にかかりし婦人は。大抵之れを秘して、適當の手當をなさず。亦妙齡の頃などに。月經の閉止とか。不順等あれば、獨り心を痛めて、素人的の通經劑などを試み、遂には恐ろしき難病となつて。生涯の苦みを遺すことのあるのは。洵に痛歎の極である⊙著者は多年の實驗と。最近の學說を基礎とし。（婦人病者の心得）と題し上記の各項に分て丁寧親切に詳說せり⊙病める婦人は勿論一般の婦女は。本書を一讀して、自宅の療法を會得せよ

●當分の內無代進呈す送料貳錢封入至急申込まれよ

發行所 東京築地新榮町四ノ一（電話新橋三六〇一番）笹岡省三

故北村季吟翁著▲文學博士 黑川眞頼先生閲▲鈴木弘恭先生訂正增補

廿五版發行

訂正增補 徒然草文段抄

本書は兼好法師の著にして文章の流暢意義の高尚なるは云ふも更なり古へは本邦の論語ともいひて大に世に行はれたりしかれども文約にして其旨深く爲に古人の註釋とも殆ど三十餘種もあれど其眞意を得たるものを見ず中に北村翁の文段抄は簡にして能く其の旨を得たりしかれども是も未たしき所あれば鈴木弘恭大人に請ふてある限りの註釋とともに參照しこたび訂正增補徒然草文段抄なる者を發行せり世の人徒然草を窺はんと欲せば此書によらずしてまた何にかよる實に本書は國文に志あるもの丶一讀せざるべからざる良書なり

菊判上製
定價九拾錢
郵稅八錢

發賣所
東京市神田區錦町一の九
振替口座東京三四〇九番
二松堂書店

赤堀又次郎先生校訂
平民書房發

校訂標註 平家物語

上卷全一册
定價六十五錢
郵稅金八錢

見落す勿れ

地方讀書家の爲めに通信販賣開始 何れの發行圖書を論せず毎日各新聞各雜誌等に廣告ある圖書何でも郵稅を要せず本の定價丈けを以て御注文に應じ可申候又無料にて通信も送金も出來る振替東京三四〇九に加入有之候

二松堂書店

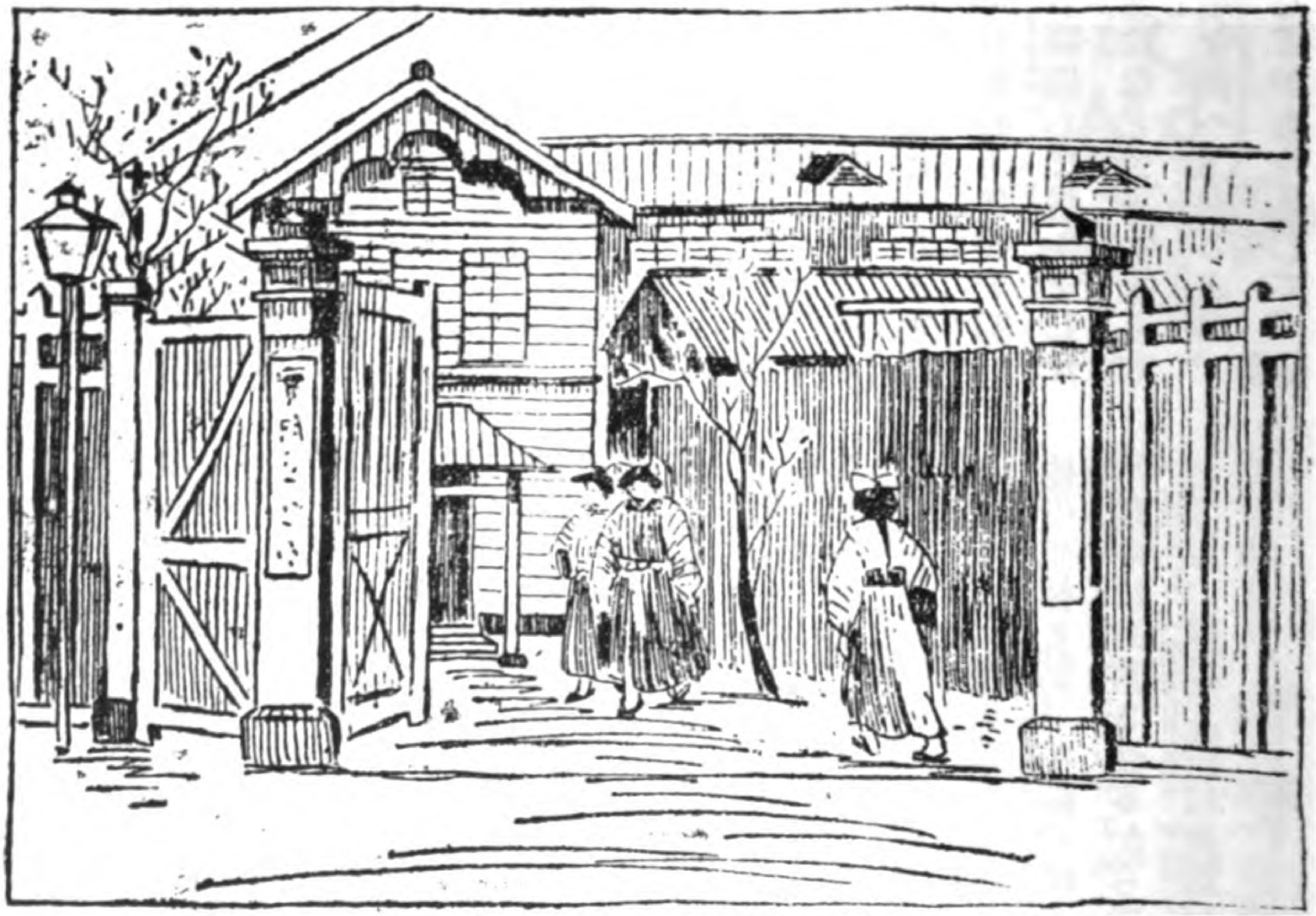
女（ぬの八）

少なからぬ時間を費やします。

△身體が二つあつても不足

或は毎日監督の状況を實見して其の統一を保つ事も必要ですし、又それを監督日誌に書く事の注意もいり其の外事務上の注意、或は授業の状況を檢閲して缺點のない樣に仕向けるなど、殆ど餘裕のない上に、毎週一回宛、教員會議を開いていろ〳〵相談をしなければなりませんし、又理科、國語、漢文の三科目を並行して研究させる爲めに、研究

實踐女學校（校長下田歌子女史下澁谷常盤松御料地内）



會といふものを設けてありますので、その方にも出なければなりませず、又時によりますと、午後三時過から事務會や、教員會議を開くことがありますが、それ等にも皆私が出席しなければなりませんから、實際身體が二つあつても足りません。

△學校は小さくても生徒は九百名

それに、工藝部が又隨分と世話が燒けます。なるべく新意匠のものをとおもひまして、よく三越の日比さんなどゝ相談いたすのです

が、なか〳〵容易ぢやありません。さうして居ります間にも御殿からは屡々お召しがありますから、其の折には早速伺候致さねばなりませんし、全く目の廻る程忙しいので御座います。小さな學校を一つ經營して居る位で何がそんなに忙はしいものかと仰つしやる方もありますが、たとへ學校は小さくても八百名の生徒が居りますし、その上支那の留學生六十名をも預つて居りますから、中々用事が御座います。

△卒業生の身の上相談

せめて、日曜丈けでも宅に居て積る用事を片づけたいと思ひますが、日曜といふと大抵生徒の組織して居る會に引き出されるので、それも思ふ樣にはできませんそんな風ですから、宅へ歸へるのは何時も電燈が點いて居る頃ですが、歸へると、曾て關係して居りました華族女學校や學習院女子部の卒業生などで身の振り方に就て相談に來るもの、破鏡の嘆を訴へて來るもの、結婚問題に就て協議に來るものなどがありまして、毎晩殆ど客の絶えた事がありませぬ。その御客がすんで御飯をいたゞいて湯に入りますと、いつも十二時頃になりますので、もう何をする事もできません。ほんとに一ヶ月間も眠らずに働く法があつたらどんなに便利だらうなどゝ言つて笑ふ事が御座います。

△人は不思議に働かれるもの

けれど人間の身體といふものは不思議なもので、働けばいくらでも働かれるもので御座います。以前はちよい〳〵避暑などに出かけたもので御座いますが、此の頃は少しも致しません。それは地方から出て居る學生の中には、同じ年齡のものでも、學力の程度に大層違ひのあるものがありまして、年齡に構はず學校に置きますと、結婚時期に大層關係しますので、なるべく他の生徒と同じ年齡の時に卒業させたいと思つて夏期休業中に溫習させるからですが、その樣にして居りましても、別段私は身體が弱つたとも感じません。



二十年前の女學生

某老女史の懷舊談

山家の冬

君ちやんが今度女學校へ入るのでいろ〳〵相談がしたいから休暇になつたら是非一度來てくれと叔母樣のお手紙。たゞさへ寒がりの私に、聞くさへ恐ろしい丹波の山奥、どうしやうと思つたが、獨り子の君ちやんを出すのだから、叔母樣の例のお氣性、あれやこれやとどんなに氣をもんで居らつしやるだらう、役にも立たぬ私でも相談相手と思召せばこそ――折角のお手紙――雪ぐらゐ何とあらうと、休みになると直にとんで來た。來て見れば聞きしにまさる山の谷、戸數とて僅五十あまり、賣り店一つあるでなし、町へ出るにも小一里ある。私が此村へ來た時に、子供や娘が澤山道に出で珍らしさうに見て居たが、叔母樣の家の辻迄來ると早や家中總出でむかへて下さつた。まあよくわかりましたねといへば、それはもう二三町前からよく知れるよ人力の通る事はメッタにないからと仰有つた。

此村へ來てから早や三日になるが、今朝から少し人立ちがあつただけ、昨日も一昨日も、人聲一つ聞かなかつた、聞えるものは鷄と犬の聲ばかり、夜には門口で師走狐がなくとやら、おゝいやだ。叔母樣よくこんな所にご辛抱できますねといへば、これも故郷なればこそ。住めば都よと微笑まれた。いくら故郷がよいといつて、よくまあこれで住まれたもの、私なんか淋しくつて泣きたくなるわ、叔母樣は兎に角君ちやんがまあ――十五や十六の娘盛りに――何を樂しみに生きて居るだらう、東京あたりの令孃方の夢にも通はぬ田園生活、嗚呼霄壤の差も甚だしいわ。君ちやんだつて來年一度出て見たらきつと歸るのがいやになるだらう。そ

れでも私が來てから大そうにぎやかになつたと仰有るから何故と聞いたら郵便屋が度々來るからだつて……田舍ねえ。

寫眞

昨夜汽車の中で讀まうと思て持て來た女學世界や婦人畫報を君ちやんに見せて居ると、叔母樣も入つていらつして、卷頭にある名家の令孃の寫眞を見ながら、いづれ劣らぬ梅櫻、美しい氣高いと大そうほめて居らしつたが、うつれば變る世の樣とは云ひながら、二十年前の女學生と比べたら、丸でお姫樣と下婢とより見えやしない叔母さんなんか、女學校に居た時分は此の方などが上流の令孃であつた、賤さん笑つちやいけないよ、是でも叔母さんの一番大切なお友達の寫眞、二十年ほどしまつたまゝ、君子にも見せた事がないと簞笥の抽出しから一冊のブックを出して來て、これが當時の知事令孃、これが○○子爵の令孃、○○子爵といへば公卿華族でも指折りのお家柄、此方のは叔母樣、英照皇太后陛下に宮仕へなされたお方もあると出されるのを見るなり、思はず失笑してしまつた。着物の有樣手の置き樣、何んだか貧相なこと、紡績の職工でも氣のきいたのはこんなではないわ。いくら二十年前でもこれが華族の姫樣とはあんまりだわ、間違てやしませんかといへば、イーエみんなさういふ風だつたのですこんな風をして居ても蓮葉な上すべりの風がなくてお行儀なんか中々よかつたものです、姿は職工でも心は姫樣以上の氣品があつたと大氣焔、次々に見るのも皆ゆきの短かい手織木綿か、双子位、それに黒の襟をかけて、羽織といへば丈けの短かい腰きり半天の樣なもの、其くせ袖は思ひきり長くて、その格好の惡るさつたら、髷でも唐人髷とか仰有つたが何だかしまりのない樣な大きなまげを頭一ぱいにのせて――見てゐても馬鹿らしい樣な。次を開けると今度は前髮を切たのやら、雀びんの樣にべたつとふくらした十八世紀式の束髮。いまのに比べると味もなければ風情もない。ほんのひつこき同樣、愛らしさは一つもない。十三四位の

少女が高い所にひねくれた束髪に結てすましてゐる。時の流行とはいひながら、見るから胸がわるくなると笑へば、それは其筈よ、十年立てば一昔といふぢやないか、二昔あまりも前のだものと仰有る。ほんとにさうね、もうまた十年すると私達の寫眞も君ちやん方に笑はれる樣になるだらう、あんまり惡口は云はないものねと大笑した。



寄宿舍

容姿が此麼んだもの學校の樣子だつて大變に變つてゐるでせうよ、學資でも今の三分一位しかかゝらなんだ、月謝が五十錢に食費が二圓五十錢といふのですもの、生活狀態も大抵察せられるでせう。

　食費が二圓五十錢とはどんな物を食べて居らしつた

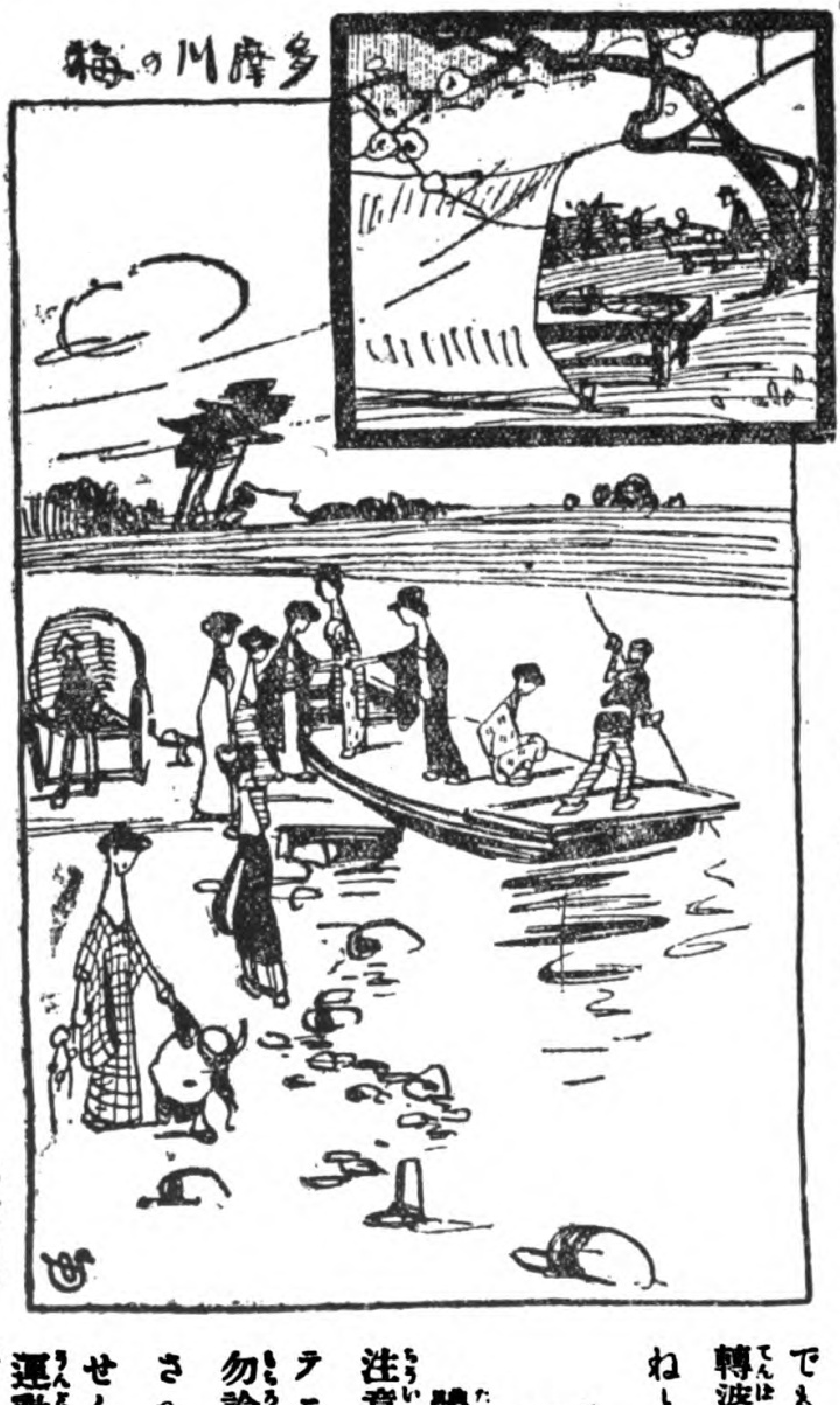
のときけば、それは餘り御馳走も無かつたけれどそれでも外よりは大そう注意がしてあると、先生方のお自慢だつた。一週間目に寮長さんがよつて決めて、それを舍監に見せて許可があると、賄方に渡すので、随分御馳走すぎるなど云て却下された事もあつたよ、一週間の献立が

朝	晝	晩
味噌汁	さつま芋きざみ昆布	はんぺん煮すまし
昆布	牛肉水菜	大根揚豆腐
蒟蒻	千切揚豆腐	いとこ煮
味噌汁	鯛つけ焼	水菜ひたし
たくあん煮びたし	牛肉葱	卯の花
千切	さつま芋椎の尾煮	豆腐あんかけ
味噌汁	巻ずしなます	かぶらむし

まあこんなものでしたが女ばかりなので南瓜、茄子お芋などはいつも歡迎されるのだが、私はそんなものがきらひなので大そう困りました、毎日八人づゝ替る替るに炊事の助手をするので、當番の時は随分忙がしかつた、また日曜日の晝飯には、お萩だのおすしだのと、常に出來ないものをこしらへるので、皆はそれを樂しみにして居つたのです。

寄宿舍は廊下を中にして兩側に三十餘りの部屋が連つて居て、八疊六疊位の部屋に三四人づゝ居りました。私の入舍した當時はまだランプを用ゐず行燈でしたが、長い廊下に掛行燈がついて居る樣子などは、よくお話に聞く大奥の長局とでもいひたい樣、實に奥ゆかしい風でした、時の舍監は先頃迄高輪御殿の御用掛であつた小川直子樣を頭に、田邊和氣子樣玉木樣といふお年を召したお方ばかりでありました、あゝ玉木先生で思ひ出したと云つて叔母樣は微笑ながらかういふ可笑しい事があつた、冬は障子を立てるから中で少々惡戯してゐても分らないが、夏になると兩側共障子を明けはなして勉強をするのでせう、何しろ遊びざかりの娘達の事、夜分など暇さへあると隣や向ふのお部屋へ行て遊んでゐるのです、舍監はまたさういふ事のな

い樣にと時々巡視されるのです、廻られるのは玉木先生に決まつて居りました、すると此方では皆が申合せて、先生の足音がすると一人がノウ〳〵と合圖をするノウ〳〵〳〵と次から次へ傳つて遊びに行てた者が歸てすまあしてゐるといふ風に、手筈がきめてあつた、惡るい事は出來ないもの、其先生は御老人ではあつたが、英學校時代から居らしつたので、ノウ位の英語はよく御存じであつたのです或時私が例のノウ〳〵を叫んで居たら、先生が笑ひながら「貞子さんノウてなんや、アイオンは鐵でオイルは油えなー」とやさしい京都辯ですつぱぬかれ一言もなく恐れ入つて、後は皆で大笑ひ――わたしも今に忘れない程困つたとのお話、叔母樣のやうな眞面目な方でも學生時代はお轉婆だつたのですねとまた大笑ひ。



俥に乘つて遠足

體育にはあまり注意する方でなくテニスピンポンは勿論、ブランコでさへ設けてありませんでした、また運動會だとか遠足などもありません、たゞ春秋二季に春は嵐山のお花見秋は松尾山へ茸狩に行くばかり、それも全校の生徒でなく、寄宿生ばかり、百幾名の女學生が俥を連ねて出

るので、決して歩く事はありませんでした、髪は生徒がお互に替り合つて結ぶのですから、さあお花見といふ前の晩が大變な騷動、理髪のお上手な方などはわれもわれもとお頼みするので理髪室に徹夜する方もありました、髷は大てい其寫眞にある大きな唐人髷で、かけ物は白の丈長ときまつて居ましたから、皆お揃ひですつぱりとして居りました、其頃市中で女學校風といつて流行つたのがこれです。

頭がこれですから着物といつても今の樣に綿服々々とやかましく云はないでも、自然に質素でした、私共の卒業する時分に毛襦子の羽織が大流行で、銘仙位にこれを引掛て居れば、どんな所へでも出られたのです丁度此頃の紋羽二重といふ所ですね。

西洋熱

束髮ですか、さうね、私の十五の時だから二十年頃でせう、私が束髮にしたのが流行の最先きで、女學校でも僅か三人ばかり、勝手がわからぬものだから、新島先生のお家へ行つて夫人に卷き方を敎はつたのでした、小川先生はそれがお嫌ひで廊下などで出遇ふ度に「サ、マタ、ナンヂャイ」と加賀言葉で冷笑なされたが半年經たぬ中矢張時代思潮にはかなはないと見えて、先生も束髮になられ、洋服さへ新調されるといふ調子でした、何しろ西洋熱の盛んな時で、一にも西洋二にも外國と、西洋物でなければ世が明けず、書物は原書着物は洋服、西洋料理なども此時から敎はる樣になつたしかし永つゞきしさうな筈はない洋服も一年餘りで廢つてしまひ其かはりに袴を着ける事になつた。

こんな事で私は娘ざかりをとう／＼島田にも結はず矢絣一つ着ずにしまつた、でも今だつたら隨分ハイカラの中でせうねと笑はれた。

女丈夫風

過渡時代であつた故か學校の主義が良妻賢母主義といふよりはむしろ知育に傾いて居つた國語漢文では通鑑、春臺雜話、土佐日記、源氏物語などまた十八史略

八家文小學論語、理科、地理、歴史などは殆んど原書
習字などは書は以て姓名を記すれば足るといつた風で
小野先生の優美な書風など見たくもありませんでした
家事科は卒業の一年前位にはいつたので、お料理や看
護法なども其間に習つた位、學力が確かであつたかは
り、凡てに於て優にやさしい風を缺いて居ました。
　同級會で自白した皆の理想に一人も結婚を念頭に置
なかつたのでも當時の氣風がうかゞはれる。
　品性陶冶の方面はあまりやかましくなかつたのだが
所謂活模範でもつて率ゐられた故か、遺憾なく訓練さ
れて居ました、何じろ小川先生の主幹のもとに薫陶さ
れるのだものあの一絲亂れぬ小形の丸髷に、常に紺縮緬
のお被布を召して、急ぎ足でお歩みなさる御風姿、嚴
格の中に温情あふるゝお言葉に接しては、感化せられ
ずに居られない、しかもお孝行の事や、御貞操のかず
かず洩れ承つては、頭にしみ込んだのも最もだと思ひま
す、夫で私共の時代には女丈夫風の卒業生を出して、獨
立生活をして居る人も少なくないが、決して品行を非
難される様なものは一人もなかつた、これを見ても女
學校の先生はよほど人を選まなければならぬと思ふ、
矢張りお年を召して確かな理想を持た先生が必要だと
思ひます、君子なども京都へ行つたら先生なりお朋友
なり、よく〳〵其人を見てお交際しなければなりませ
んよと仰有る。叔母様のお顏には慈愛の中に一種侵し
難い威嚴が見えた。今迄職工でもなどゝけなした口が
恥かしくなつて、私迄頭の下がるのを覺え、今昔の感
にうたれて居ると叔母様は二十年以來なつかしいおも
ひでも、たゞ夢に通ふだけで話をした事もなかつたが
今年は賤さんのおかげで久しぶりの昔語りに、何だか
若返つた様な心持、まことによいお正月だと仰有る。
私はまた珍らしいお話を伺つて開け行く御代のありが
たさを感ずると共に、平凡ならぬ叔母様を埋れ木にす
るのがまことに惜しい。いくら覇氣滿々の婦人でも、
こんな山の奧に引込んで居ては時世に後れるのは當り
まへ。なるほど私の様な者でも相談相手にと仰有る筈
どうぞ君ちやん丈は此轍を踏せたくないと思つて。

世界奇聞

世界中の珍俱樂部

いろ／＼の珍らしい會合

◎離婚者俱樂部

紐育に離婚者組合と云ふものあり。こはハーソンと名くる富豪の組織したるものなるが、氏は金持にて名高きよりは、むしろ離縁を以て名高き人なり。この組合は既に十二年の歳月を閱し地盤は頗る強固なるが、之に加入せんと欲する者は、屢々離婚の苦を嘗めし者にて、他の離婚者二名の公然たる紹介と保證を要すと云ふ。此の組合員は其の元氣の旺盛なると、屢々懇親會を開きて愉快に生活するとを以て鳴る。而して會員の集まれる時には食卓には愛情の極めて果敢なき事を表明する裝飾を用ゆと云ふ。

◎獨身者俱樂部

獨身者組合は桑港にも、斯府にも、亞爾然丁にも、又寡室峰にもありて、其數甚だ尠なからず。而して組合員にして若し結婚する者あらば、多額の罰金を課し、其の金を



以て宴を開き、組合員の健康を祝する杯を擧ぐる事と爲し居れり。

◎老孃俱樂部

こは紐育にありて、所謂老孃が相集まる會なり。其會員は聖書に基きていたく男性を憎み、互に心身を堅固に把持せんこと誓ひ居りて、獨身生活の無聊を慰むる爲には讀書、交際などに力を注ぐなり。

◎鰥夫會

斯かる會は他國には恐らく其の類例を見ざるべし。唯ブラジルに於てのみ之あり。其會員は少くも四回結婚したる鰥夫たるを要する定めなるが、ブラジルは熱國なるが故に、四回の結婚は敢て珍らしからずといふ。

◎接吻禁止會

こは合衆國にも英國にもあり。頗る野暮な會なれども又一理なきにあらず。衛生家は接吻は黴菌の媒介をなすと唱道し、道德家も亦之に和して風俗壞亂の源なりと說き相共に現世紀の風俗史より接吻の習慣を除去せんことを努めつゝあるなり。

されば此會にては、抱合ふことを堅く禁じ、禁を犯す者には罰金を課する規定を設けあり。

◎握手禁止會

葡萄牙人は平素快活なる國民なれども、握手を嫌ふこと甚しく、之が爲に同國には握手禁止會なるものゝ組織を見る。同會創立者の說を聞くに、人の手の「サンチメートル」平方には黴菌八萬を宿すと云ふ。是を以て同會員は斷じて手を握らざることを誓約し、若し誓約に背く者あれば、之に三法の罰金を課する事となり居れり。

茲に珍とすべきは、同會最近の集會に於て、君士坦丁堡の通信員ドクトル、ナヤタセ氏の提案を採用したることなり。氏は握手の禮に代ふるに東洋の優美なる禮を以てせんことを發議したるものなるが、其の所謂東洋の禮なるものゝ仕方を聞くに、右の手を胸と唇と額とに順次押當つるものゝ由にて、人に向つて此の如き禮をなすときは「貴下は始終吾心、吾口及び吾考に上りつゝある御仁なり」と云ふ意味なりと。面白き話ならずや。

◎自殺倶樂部

最も不可思議なるは自殺倶樂部なり。こは近頃の創設に



係れるものなるが、米國にては相當に流行し、會員は既に三十二名に達せりと云ふ。言ふ迄もなく自殺志願者の倶樂部にして、世の中が厭になつたと云ふ所謂厭世家の集まる會なり。自殺を誓ふ事が會員となる第一の要素なるが、自殺の期日は會員の隨意に任せあり。我國に若し此の如き倶樂部ありたりとせば、彼の藤村操の如き連中は爭つて之に加入したりしならん。

◎其他のいろ〳〵

尙ほ珍奇のもの尠なからず。同病相憐む理由より、傴僂倶樂部、不具者倶樂部など起り、前者は費府に、後者は維納に設けられたれど、不幸にして餘り發達せざるが如し。其他嗜好の相投ずる者相集りて衆友會なるものを作り、或は紐育には蛇友會なるものありて其の宴會は有名なるものなり。其の蛇を愛するの深きより、當日蛇を色々のソースにして食すと云ふ。恐ろしい會もあつたものかな。

又倫敦の一街には警察の眼を忍んで、徒刑人倶樂部なるもの組織せらる。之れと緣ある泥棒倶樂部の如きは、倫敦にもあらん、日本にもあらん。

世界は廣し、世は樣々なり。世態人情の複雜なる、今後如何なる珍妙な會が起るか測られざるなり。(鐵嶺)

私の日常生活

男爵夫人 澁澤かね子

△歸朝後は一層多忙

一家の主婦として澤山の人を使ふ身になりますと、日毎に殖えるものは、交際と雜務とで、それに一日追ひ廻されてゐるのですから、規則立つた生活などは容易に出來ません。今日はかういふことを致さうと思つて居ましても、不意に外出しなければならぬとが起つたり、又、斷り切れない來客など御座いまして、それは〳〵忙しう御座います。定めし御閑であらうなどと申される方もありますけれども、なか〳〵寸暇も御座いません。

米國より歸りましてからは、出立前よりは更に忙しい樣な氣が致しまして、お土產物なども、この頃になつてやつと分配が出來た樣な始末で御座います。

△お土產物分配の苦心

御土產と申しても配る處が中々多う御座いますから其振分方には容易ならぬ苦心を致しました。一方へ厚くして一方へ薄くしたり、又餘りつまらぬ物や先樣のお家庭にふさはしからぬ物を上げるのも、義理づく目の通り一遍の禮の樣になりますから、そこらを斟酌するのに、人知れぬ苦心があるので御座います。

それに、米國の貴婦人方より、いろ〳〵の記念品や珍らしい物を頂いて參りましたにつけても、何か御返禮を致さなければなりませんので、恰度水野領事の御歸任も間近いので御座いますから、御賴み致さうと思つてゐるので御座いますが、其の品物の選擇が又却々むづかしいので、此頃は毎日見立てものに苦心して居るので御座います。

△やつとトランクを乾した丈け

こんな事で歸朝後四十日間といふものは、何もせずに暮しました。それはもう庭園へ出た事も御座いませんから、昨年米國へ出立前に朝鮮から貰ひました愛蓮堂が何處に建立されたかさへも存じないので御座います。

それに、米國から持つて歸りました着切らしの着物が、座敷一杯にとり散されてあるのですが、其の整理が又骨の折れる仕事で御座います。何は解き、何は洗ふといふ風に、大體の方針をきめましても、女中丈けでは解りませんから、矢張り私が手を下さなければならないのです。それに



歸朝後は種々の歡迎會や來客があつて、殆ど手を着けられず、此頃になつてやつとトランク丈けを乾かしたやうな始末でございます。

△夜は何時も十二時過

晝は餘暇がございませんから、さういふ事は多くは夜間に致しますが、一日の出來事の整理を致したりさういふ事をしたりして居りますと寢るのはどうしても十二時か一時になります。十一時頃休むなどは、風邪をひいた時とか、何處かへ招待されて疲れて歸つた時とかでなければ先づ御座いません。

其の整理したものは其夜は棚の上に置いたまゝ休み翌朝になつてキチンと仕舞ふのですが、此の樣にして

いざ入用の事が起つた時に容易く出し入れの出來る樣になつて居りませんと、どうも氣持がわるう御座いますので、大抵のものは手を下して片附ますから、何は何處にあるなど言つてまごつく樣な事は滅多に御座いません。

△午前中の仕事

夜はさういふ風で何時も遲うございますが、朝は大抵六時半か七時頃に起きます。何分主人が毎日外出するものですから、長く休んで居る譯に參りません。けれども、私は主人よりもどうしても三十分位おくれて起きます。起きますと寢臺の蒲團を揚げ、寢室の窓をのこらず明け、充分空氣の變換をさせてから室を仕舞はせますが、其の間に私は含嗽をいたし、それから女中の運んで來ます牛乳と鷄卵とを頂いて居りますと、やがて主人は風呂から上り、食事を了へて外出いたします。その中にはポツ〳〵御客が見えますから、それ等の御方と御話して居りますと直ぐ午砲が鳴りますので、朝飯はいつも頂いた事が御座いません。實は朝の間に庭内なりと散歩して見たいと思つて居るので御座いますが、それさへ思ふ樣には出來ません。

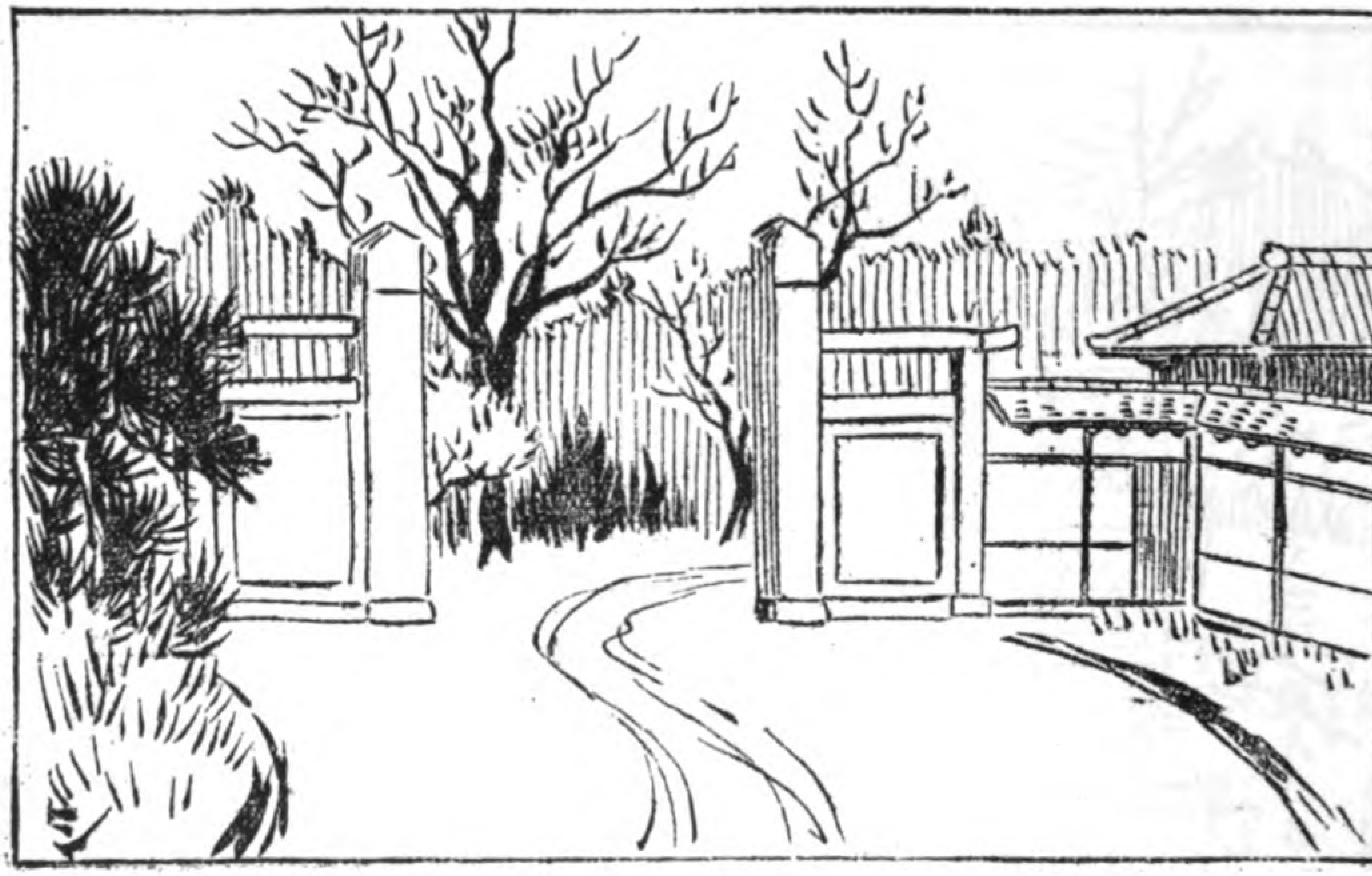
△食物と着物

食物や着物に就ては主人は少しも頓着しませんから誠に仕合せでございます。私なども餘り好みは申しませんが、食物の調理は清潔にして貰ひませんと、どうも喉へ通りませんから、之れはいつもやかましく申ます。それにお米の惡いのと磨ぎ方のお粗末なのも困りますから、之れも臺所の者に特に注意をさせて居ります。副食物は兎角飽き易いものですから、和洋折衷のものを作つて、成るべく一方に偏しないやうにして居ります。旅行をしたりしますと、何處へ參りましても定まり切つた料理を出されるので、何時でもこり〳〵致しますから、夏二週間位の避暑に參るにしましても女中を自由に使つて何でもさせる事のできる處を選びます。それには伊香保が一番好いやうで御座います。

箱根や鹽原へ參つて臺所をのぞいて見ますと、とても御飯は頂く氣にはなれません。それゆゑ旅行を致しますと、大抵御飯が一膳位は減るので御座います。着物なども、立派なものを見ればわるい感じは致しませんが、別にかういふものと言ふ好みもなく、いつでも出來合のもので間に合はせて置きます。たゞ人に縫つて貰ふよりも、自分で縫つた方が着心地がよいものですから、自分のものは大抵自ら針を執る樣に致して居ります。

△世間的のお仕事

私もいろ〳〵の會に關係して立派な肩書を頂戴して居りますが、まだ一度も出席した事が御座いませんので、まことに不忠實の樣ですが、今のところ何うしても出ることが出來ません。成るべくならば臺所向の事迄も親しく自分でした方がよいのでせうが、それさへ能きないのですから、なかなか世間の事業に携はつてゐる事はできません。家事ばかりでも體が二つあつても足りませんのに尙ほ此の上に仕事が出來ましては、御客樣などに何時も失禮ばかりして居なければならなくなるでございませう。

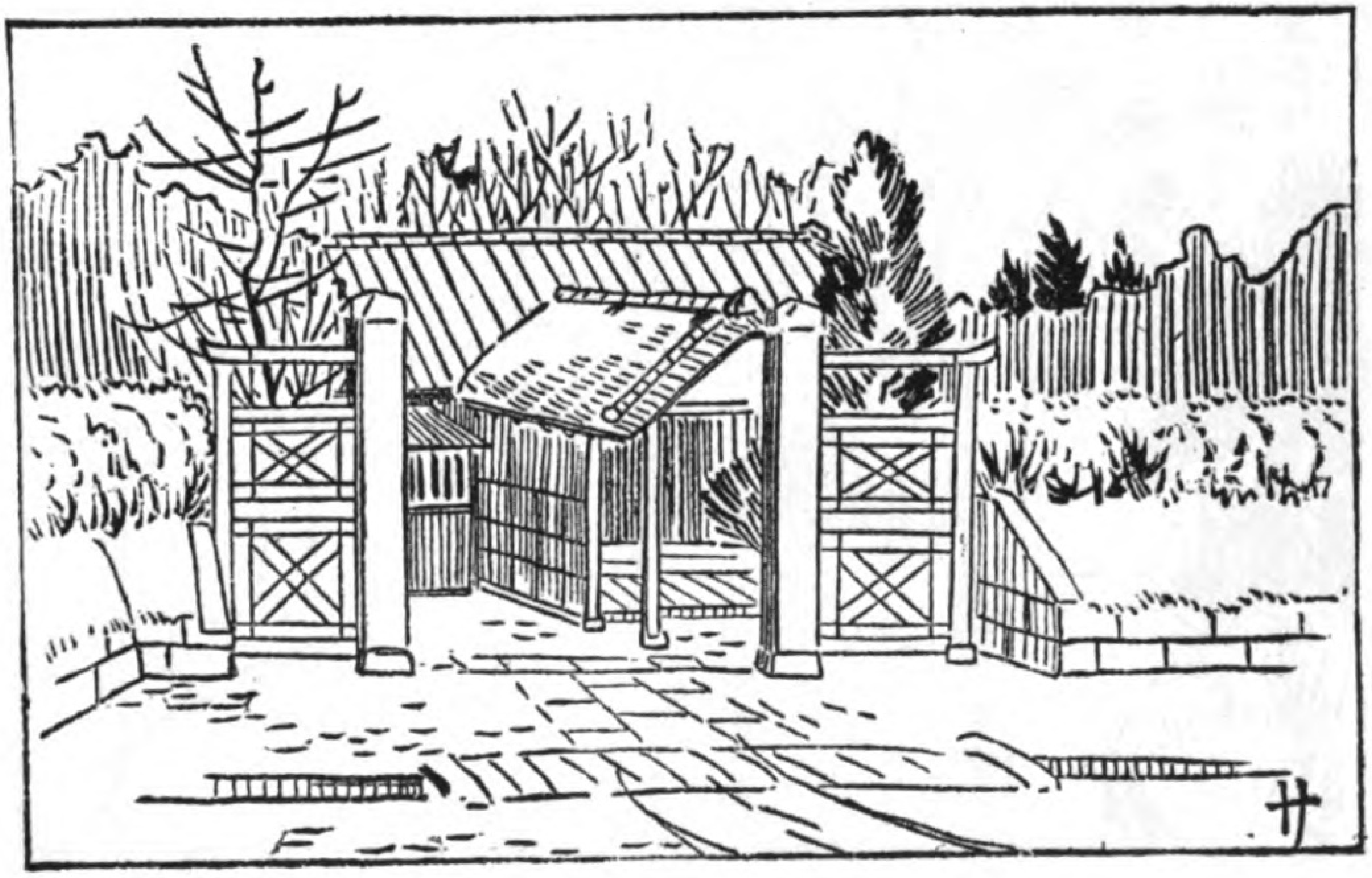


澁澤男爵邸（王子西ヶ原）

△娯樂

それから娯樂の事なども誠に不調法でございます。謡曲にしましても、茶の湯にしましても、嫌やではありませんがさて自分で師匠をとつてやつて見樣といふ氣には一寸なられません。唯もうあくせくとして、其日々々を送つて居るので御座います。

只時々普請をしたりします時に、色々自分でも工夫しますのを樂みにして居りますので、只今の私共の居間なども、元は客間であつた爲めに床なども三間通しでありましたが、それを居間にするといふ時に、私が工夫しまして、三間の床ではあまり單調ですから、一間の置き戸棚を附けその後の壁を除いて小障子にしたので御座いますが、夏冬とも大層宜しう御座います。



前藏相坂谷男爵邸（小石川原町）

▲倫敦の繁昌

昨年の統計によると大倫敦の總人口は七百五十三萬七千二百人で世界第二の大都會と稱せらるゝ紐育より多い事三百萬人我東京に比して殆んど四倍の人口である▲一昨年中市廳の受理したる結婚數は四萬件一日平均百十一宛の結婚式がある譯だ▲二歳より十二歳までの子供の數は百十一萬四千人で其中就學兒童數は七十五萬百二十一人である▲市街道路を延長すれば二千百五十四哩其中電車道は百二十七哩である

懐中論語

槐園女

若き婦人の處生訓

「婦人は天使なり、されど婚姻は惡魔なり」とはバイロンの警句かとおぼゆれど、チト極言の樣に候、もつとも現代の如き世潮にては、あるひは惡魔と申されても辯解の餘地なかるべきか、申すまでもなく、婚姻は人生一代の命運の向上するか、落下するかの分水嶺に候。

今時の若き婦人は婚姻に關しては無暗と自分をエラきものに思ひ樣々の理想を持ち居らるゝやうに見受られ候、先日ある同窓會で端なくも婚姻問題に移りその節各自より提出せられたる條文を一括すれば實に左の如くに候。

一、二萬以上の財産家にして一生衣食に苦しまず安樂に生活し得べき家

二、姑、小姑などの厄介物は一人もなかるべきこと

三、良人たるべき人は溫柔慈愛にして少くとも學士以上、軍人ならば將校以上然も美貌者たること

四、僕婢の二人位は無かるべからざること

等に候。

隨分振つた理想に候はずや、これ固より一場の戯言にすぎずとは申せ、無き呼吸は鼻からも出でずと申候へばかゝる事不斷に思ひ居り候次第と存じ候吾等は之を聞いて傍痛く、餘りといへば不見轉藝者の如きに驚入候、聊にても新時代の教育を受けたる婦人の口よりかゝる條件を臆面もなく提出せらるゝに至つては、社會のため國家のため痛歎のいたりに御座候。

かの條件に適合する如き家庭が果して實在に轉がり居ると考へたまふか「梅が香を櫻の花に匂はせて」的の理想界が、現世のいづこに咲き出づると考へ給ふか、圓滿無漏の家庭は天國ならでは見るを得じ、あゝ今時の同胞は道長朝臣の望月の咏や、光源氏の風流などが誰にも出來得るものと思ひ給へるにか、雙岡の法

師さへ「望月の圓かなるとは暫くも住せず」と斷せしにあらずや。

今時の若き婦人が嫁に行くを花見遊散にでも往くが如き積りで居るは以ての外の事と申すべく候。國家の爲めに斯る婦人の繁殖せんことを返す〳〵も遺憾至極に候。右について私は是等の婦人の爲め左の如く條件を出し候。

一、先方の財産などは無一物にて結構なり

二、姑や小姑などの異分子は寧ろ多からんことを望む場合によりては繼兒の二三人はあるも苦しからず

三、配偶者の美醜賢否など更に意に介せず、禁治產者や準禁治產者等の無能力者にては致し方なけれども普通の常識を具へ惡癖、惡疾なく、品性さへ確かなものなれば其他は希望する所に非ず

右の三ケ條は昔沛公漢に入りし時「法三章」を約し候由、今又吾等が嫁に入らんとする人の爲め條件の三を設け候これ世の婦人に向ひ高祖を氣取れといふわけには候はねど、斯くありてこそ眞に婦人の婦人たる天職を發揮したる言と致し候、考へても見候へ嫁にゆくのに伊達や、物好で修身齊家が出來るものに候はんや。

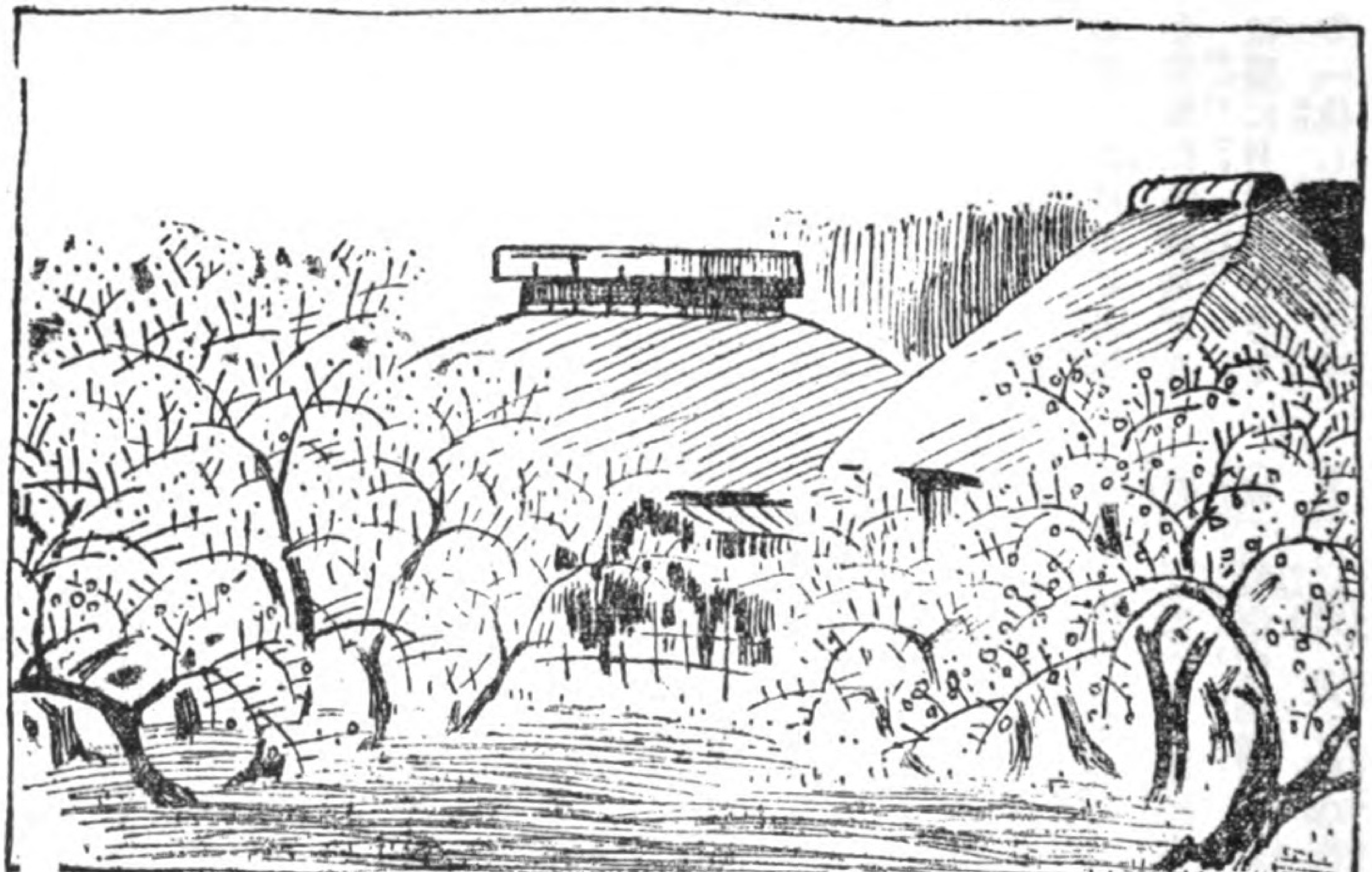
私の希望は現代の物質的より見ては一寸異樣たるも知らねど、寧ろ是が普通なるべきに候。

「人はパンのみにて活くるものにあらず」「財は末なり德は本なり」眞理は永久に其光を放つて無明の闇を照し候、諸姉は何故に一大決心を以て貧苦と戰ふことを辭し給ふか、富貴に處して富貴に行ふは易く、貧賤に處して貧賤に行ふは難しとするが如きものは、到底苦樂を共にし艱難を共にするの資格なきものに候、諸姉はアービングの「宿の妻」を讀み給ひしならん、かのレスリーの妻の如く、床しき妻、優しき妻、愛深き妻はメッタとあるまじく、富貴に處しても、貧賤に處しても、夫に對する熱情と、家政の整理に、不屈不撓の精神を發揮してよく內助の功を奏せしもの眞に美談と申すべく候。

豐太閤の北政所なども始は荒薦の上で三々九度の盃を上げしと承はる、然も其終りは、いづれも其夫をし

て不世出の英名を遺さしめしにはあらざるか、佛家にて「不惜身命」といひ「一心欲見佛」といふは實に難局に處するものゝ箴言にござ候。この金剛力あり、この大精進あらば、貧を轉じて富となし、苦を除きて樂とするを得べく候かくいへばとて吾等は強ち良妻といはれん事を欲して貧家に嫁げよといふがごとき小さき野心を有するものには候はず、婦人として心身の眞の快樂を得せしめんと欲して貧苦と戰ひ、飽まで困窮と戰ひ、日夕營々として自力を振ひ、自我を勵まし、夫と共に無盡の寶庫を開かんと、何よりの

木下川の梅園



欲望とするものに候。

果してかくの如くんば神は自然に吾等をあはれみ給ふべし、誠を以て勤勞するものは天の恩物を受く、『重きを負へるものと疲れたるものとはわれに來れ、われ之を休息ません』吾等はかゝる安心の地、立命のところを得ば、更にそれ以上を望むの要なかるべしと自信仕候、この希望この光明、この幸福、この慰樂はいづれも貧が授くる賜物にて候。こゝに至らば天空海濶光風霽月、よしんば身に襤褸をまとひ、食に美味なくとも、精神はいつも大乘妙典の臺にあそび、九品蓮臺の樓　にた

しまん、これ私の寂光浄土にて、そも〳〵亦無上究竟界にござ候。

△異分子多き家庭を望むの理由

これ實に言ひ易くして行ひがたき一事に候、殊に痩ても枯ても初婚の身にとりては、一層つらき事柄にござ候、されど退いて考ふるに、いづこの世間、いづこの家庭か、よく夫婦差向ひの樂な世帯があるべきか、遠きアメリカ邊なら知らず、いやしくも日の本に生れたる婦人は、決してかゝる空想にまよひ給ふ可らず吾等は前條の信念を基礎として、飽くまでこの苦境に立たんとするものに候、姑小姑の如きは倘忍ぶべきも、継子の有無をも問ざるの決心は、なみ大抵の事にはこれなく候、されど思へ、吾等の一生は決して單調一律のものにはあらざるを運命のリズムは常に吾等をして複雜なる波瀾の中に投せんとするにはあらざるか、兼好法師は何と観せしか「花は盛に月は限なきをのみ見るものかは」とまたいはずや「仇し野の露きゆる時なく、鳥部山の烟立ちさらでのみすぎはつる習ひならば、いかに物の哀もなからむ」と、罪なくて見ん配所の月こそ中々に哀れ深からんものぞと始めより観念の臍をかためて、難局に入りたるものは、樂境より一轉して逆境におちいりたるものより、必ず幸多きものに候、勞を以て逸を待つものと、逸に居て勞を待つものとは、固より同日の論にあらず候、樂しむものには嫉妬きたり、苦しむものには同情いたる、これ人情の常に候、萬物の向上するは沈滯にあらずして運動なり、浮世は大方逆七分に順三分なり「朝夕の飯さへ剛し柔かし」が通り相場なり、相應の摩擦あるがゆゑにそこに面白き運轉がはじまるにて候、逆に取て順にかへす人が腕のあるものに候、「スレ〳〵の中に花さく木賊かな」一句妙味津々たるをおぼえ候。

凡て浮世は氣の持ち様一つにてどうでもなるものに候、「千なりや蔓一すぢの心から」とはよくも申され候、境遇の捕虜とならずして自ら天地を開拓すべきものに候。

△忍耐の力

異分子おほき家庭に於ける最大の武器は「忍耐」にござ候、「堪忍は無事長久のもとゐ、怒は敵とおもへ」とはいしくも申されけるかな、勝敗の決はさいごの五分間にありと申し候が、忍耐の決も最後の五分間に候、姑や小姑がいかに邪慳の牙を光らかし、慳貪のやいばを磨けばとて、われに於てよくこれを忍び、之を避ければ衝突などおこるべきものにあらず、「根を〆て風にまかする柳哉」寸言萬稜の訓をふくむとも申すべきか「情に向ふやいばなし」櫻町時代の悪奸岸右衛門の刄も二宮翁の慈愛にはトント鈍りたるにても分り申すべく候、負じ魂の清少さへも「有がたきもの」の中に「姑にほめらるゝ嫁の君」とこそは本音を吹き給ひけれ、返すぐも忍耐の二字忘れ給ふべからず。



△起動力と反動力

凡そ起動と反動とは其方向を異にして、力の強弱を一にするものたるとは、力學の證明するところ、家庭においても姑の起動力と、嫁の反動力とがとかく其方向を異にするよりして、つひには双方の彈力に反撥力を、加へて、火を見るが如き衝突を來すものに候、「小説時鳥」の川島男爵未亡人の如きは、随分厄介なる姑殿には相違なきも、併浪子夫人の忍耐と勤め方と

にも缺點なしとはいひがたく候、良人に對するの愛を以て舅姑に對し、良人に捧ぐるの情を以て小姑に捧げなば、風波衝突は起さんとしても起す能はじ、獨逸の小學校の教科書には、嫁が姑を虐待して死にいたらしめたるに、その子また同樣の虐待をまねて其母に加へんとしたるに、母は驚きて深く前非を悔いたる嫁の寓言も見ゆとか、流石に祖先崇拜、家族同棲主義の我國には假作にさへかゝる罪惡の寓言を見出さず候へども、何事も西洋に瀕する今日別居論などの盛になりゆくは國家の前途も危ぶまれて寒心の至にござ候、「一家仁に起れば一國仁に興る」とはこの事に候。

△身を捨てゝ山に入る

單に一家の家庭のみに止まらず、社會の秩序階級は大姑、小姑、嫁の如き關係をたもち居り候、課長のもとには書記あり、局長のもとには屬あり、其上には知事あり、大臣あるを、皆この關係に外ならずと存候もしこれ等の環視壓迫がいやとならば、失禮ながら社會にも、家庭にも、國家にも、生存し能はざる儀にござ候、「身をすてゝ山に入る人、山にても何うき時はいづちゆくらん」有機體の社會にうまれて、細胞の任務を盡さゞるものは、自然淘汰の天罰に洩れずと知るべき儀に候。

△三人行けば我師あり

「孝養の心深く至れるものは聲なきに聽き、形なきに見て、こゝろに先立ち志を承く」とは禮記に見え候まことやこの心を以て舅姑小舅等に對すれば、それこそ天下泰平家內安全の境界に候、こゝに至りて古めかしくも「庭訓今川」や「女誡十三條」等の奧ゆかしさをしのびて之を渴仰するものに候。

△不動明王と觀世音

矢釜敷姑はわが身の師なり、拗けたる小姑は吾身の鏡なり、此師と此鏡との中に立ちて修養し、勉勵すれば其成績必ず見るべきもの有るべく候、如何にやかま

しくいかにねぢけたればとて、人として良心なきはまれなり、射吾に燃ゆるが如き同情あり、金鐵も融るが如き慈愛あらば、堅氷も春くるのときあるべし、の日影には解け、霜雪ものどかなる日光には敵すべからず、われ等はこゝにおいて一面觀世音を學び、一面不動明王に擬せんとするものに候。

△主婦と機智頓才

姑小舅等の機嫌氣褄がとれぬといふは右の如く慈愛の情と、堅忍の意志とがなきためには相違なけれど、なほ一面には主婦たるものに、機智頓才の缺如せるにもよる、孫子も曰へるあり、



「知レ彼知レ己百戰不レ殆」又曰く「不レ知レ彼不レ知レ己毎戰必敗」と「鳥亂者伏也」などの兵法は用なしとするも一家の主婦たるものは前にいふところの無聲に聽き、無形に視るの活眼を具備せざるべからざることに候。

△良人の不品行と妻

女學生上りの若き婦人は經驗の乏しきと、多少我儘育ちとのためか、一家を圓滿に推廻して、和氣藹々の樂園をつくるの手腕は到底かの待合の女將や商賣屋の主婦などには遠く及ばぬことと存じ候、これ一つには商賣違ひの點もあらんが、一つには兵家の眼識なきために候、彼等女將

連がたくみに客種を鑑別し、その嗜好を判定し、その特徴を捕へて之をあやなす巧妙の手段には、大抵の敎育家も心理學者も三舍を避くべく候、良人の不品行は大半其妻の不明なるにあり候。

あたゝかき情と、強き意志と、敏き知とを備へてよく愛し、よく忍び、よく悟れば、いづれの難處かわが前に立つべき『知者不レ惑仁者不レ憂勇者不レ懼』三面六臂兼備はりて、複雜混亂なる家庭に立ちて、巧に三軍の帥となる身もまた樂しからずや、妻は決して『人生勿レ爲ニ婦人身一』などの弱音は吐かぬものに候、又『百年苦樂倚ニ他人一』などの愚痴も溢さぬものに候、夫婦差向の愉快よりも『與レ衆樂』が大なる樂かと存候、かくて大困難を切りぬけ、大惡戰をこぎぬけ、おのが理想の現實にせられたるあかつきの光明樂はそも如何のものに候か、蓋し良人が京都土產の西陣や友禪の比にあらずと存候。

△精神的生活の價値

かくの如くにして能く内助の勞をつくし、和樂の實をあげなば『子也器也瑚璉也』最上の名譽と贊辭とは望まずして麗はしき月桂冠とともに我等の頭上に冠ぶらなん、隣邦も近隣も相倚り相親んで向三軒兩隣只わが感化の光明に浴すべく、『德不レ孤必有レ隣』遠近相仰いで花も實もある良妻賢母は玆に出現すべく候、『爾は世の光なり、山の上に建てられたる城は隱るゝを得ず』精神的生活の眞價始めて現はる。

されば如何に異分子多き家庭たりとも、又不幸なる境遇なりとも轉じて幸となすべし、『吾と來て遊べや親のない雀』『孤兒が獨り飯くふ秋の暮』世に繼兒ほど哀にいぢらしきものはこれなく、繼母ほど因果なものもこれなく候所詮は輪廻轉生の業因と諦むる外之なく候、さればおん身若し繼母の地位に立ち候はゞ是も前世の宿因と觀じ、且は懺悔滅罪のしをりと念じて出來得るかぎりの心力を盡すべき事に候

邪念淺からざる繼母の下にも時としては閔損の如き孝子を出すとも有之候『孝哉閔子騫人不レ間ニ於其父母

昆弟之言」と夫子も稱贊遊ばされ候吾朝にても税所篤子刀自の繼兒を撫育愛養せし心事は今に美談として傳へられ候、元來繼兒なるものは幼な心にも幾分おのれの弱點を認識し候ものから、義の母たる人にしてもし生の母にも劣らざる慈愛を注ぎたらば、其感恩謝愛の念はどれほどなるべきか、將來に於てその子が天晴れ偉人ともなり候はゞそれこそ其名譽其功名は皆繼母の一身に蒐まり申すべく、蒔かぬ種子の生えぬ如く、蒔きたる種子は必ず生ゆるの時あるべく候、金光教の敎理にも『吾身が大事か、人の身が大事か、人も吾も皆人』と記され候、今にはじめぬ博愛慈仁の同情心は、古今東西其軌を一にすといふべく候。



△人をとる茸果して美しき

人は男女にかゝはらず餘りにみめよきは多くは其薔薇の如き眉目の奥に、刺を包めるものなり、美人と毒婦とが一致する場合の多きを見ても知らるべく候、男子に在りても大方此例に洩るまじく、是れ特に美醜を問はざる理由に候、『眉目よきは夫のための不爲なり、女房は家のかためなりけり』固より、一片の戯作狂詠に相違なしと雖も、かくの如き自信と機智とは、何事にも必要にござ候、若き男女靑春の異性等は、ともすれば此皮相の見惑に動かされ易きぞ哀れなる、容顔衰へ易く、男心は變り易し、夫の美醜何かあらん、夫の好惡何かあらん。

「品形こそ生れつきたらめ心はなどか賢より賢にも移さば移らざらむ」吾夫もし賢ならば、われは夫により才學を磨くべし、夫もし不賢ならば、われは夫を奬導して學德を高めしむべし、今や女子の教育さへも日に日に進みゆくの時、などかは婦人より低き學歷の夫あるべき、品性高潔にして常識だに備へ居らば、夫子ならねど吾亦學びたりといふべく、それ以上に夫に對して希望を有するものにあらず候、繼兒にまで献身の愛を捧げんと觀念せる人、爭で夫に對して不貞不順の行爲あるべしや、相撲取を夫にもたぬまでも、外交に便はる男子の身は、常に土俵に上るの心地やせん、家政を司らんほどの女子は、常に夫の境遇に同情して、ぬかりなきやう努力すべきは言はでものことに候。

△好んで難境に入る

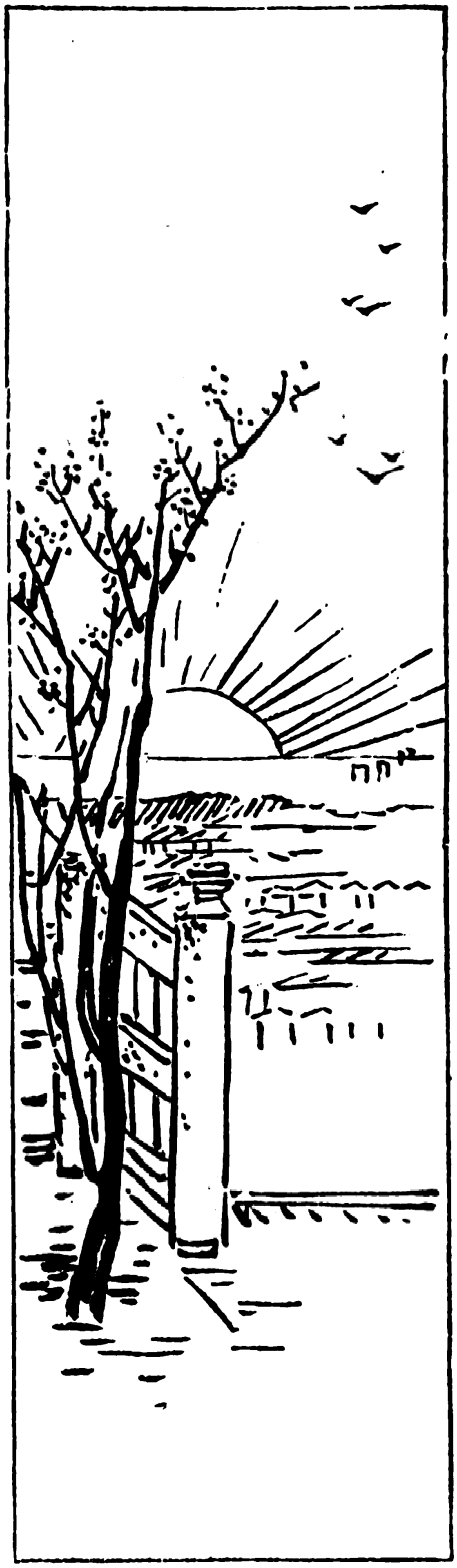
婚姻に際し男子が妻定めをなすに愼重綿密の思慮が必要なる如く、女子も夫定めには大いに熟慮探究すること肝要と存候　北政所が美貌有福の犬千代に迷はずして、一介の素士藤吉郎に嫁したるが如き、たしかに一見識と申すべく候、瀧鶴臺の妻なども、エラキには相違なけれど、身の弱點を知らずして、しかも當代の名士を標準としたるは聊か恐入りたる次第に候、シカシ自己の修養と理想とがよく有終の美を完うし得たるは流石に鶴臺の妻かと感服仕候。

一寸の蟲にも五分の魂、如何なる人にも自信はあるべく候、世の中は上部は花と見えても内心は涙の多きものに候、世には不幸にして逆流の淵瀬に沈まんとするもの有之候へども然し物體が水中に入りて失ふ重量は、其物と同容積の水の重量にひとしきが如く、吾等が嫁して失ふ力量はやがて、其と同量の力となりて現はるべきは、アルキメジスの法則によりても知らるべく候、即ち物質は常に不滅なり、これに損してかれに益するなり、失ひたるにあらずして貯へたるなり、歷史の一頁を繰返さば直ちにそこに現はるゝものに候。「日蓮は泣かねども涙止む時なし」と自白いたされ候が大きいか小さいかは多少皆これあるべく候「大難五

たび小難數知れず其他のものは風前の塵の如し」と喝破せられたる意氣はたとひ法華經の行者に非ずとも體讀すべき事に候、婚姻は女子の『リバイバル』なり蘇生なり、如何なる難門も、如何なる厄難も、之を打開くの決意なかるべからず候、彼の不法の敎理を改革せんとて立ちたるルーツーも劍戟の林に分けいりたるにあらずや、日蓮上人も幾度か刀杖瓦石の强難に逢着せしにあらずや、況や吾等凡庸の身別してはこれから一戸を建設すべき身にとりては、將來如何なる運命に遭遇するや知るべからず、多幸なると同時に、多難なり、去かし翻つて考ふれば聖賢も偉人も、吾等纖弱の双手によつてつくり出さるゝなり、任重きだけに希望も少からず、『子を養ふものは世界を造るものなり』言や大袈裟なれども、眞理ならずとせず。天人論の一節に曰く一家庭といへるものは我等の



棲息し休養する場處たるのみにあらずして、子を感化せしめて第二の我たらしむる神聖の式壇なり」又曰く「この意義より見れば夫婦なるもの丶いかに神聖なるかをも知るべし、夫婦は全く一體なり、一體にして始めてわが生命を新たなる肉體に宿らしむるを得、本來の向上主義を達するを得るなり」と、家庭の面目夫婦の責任、かくの如く重きを知らば、婚姻の重大事件なる亦あきらかに候、吾等はつねに一擧一動、神のみこゑ、神の御手として顯はるべきことを覺悟せざるべからざることに候「世にはいかほど小さきものにても、神性を宿さゞるまでに小なること能はず」とは幽玄微妙の語に候、嗚呼吾等わかき婦人達、果してこの理想を實現し得るやいなや、ナイチンゲールの如く慈愛あれ、ジヤンダークの如く勇氣あれ、マリヤテレザの如く知謀あれ、誠實と忍耐と知謀と慈愛とは、特に婦人に重要なる德性ぞかし、恐るべきは舅姑等の迫害にあらずして、わが身を知らざるの不明に候、吾等は今この如き信念と決意とを以て進まんといたし候果してその運行を繼續し其行を實にするを得るや日蓮先陣をなせり若黨ども二陣三陣つゞけよ〳〵雄々しきかな。



地方風俗

雪國婦人の生活

津留女

△將校婦人の交際

こゝは雪國で名高い越後の村松、新津停車場から三里餘もはいり込んだ極小さな町で、新潟へも三里、昔は三萬石の城下、今は歩兵第三十聯隊の所在地、おそれ多くも三皇孫殿下をおとりあげ奉つた產婆岩崎刀自の出生地、町といつても一時間もあれば殘らず見て步かれる位、何しろ兵營のたつ迄は生魚は中々容易に手に入らなかつたといふ不便な土地、そのかはり人情の質朴な事も格別でよく、他の地方で見る下女の拂底もこゝでは知らず、一ヶ月の給料一圓三十錢から五十錢位出せば上等で、十六七歳の女ならば八十錢から一圓位で忠實に立働き、場所もせまければ桂庵もなく、隨つて中途で出かはる事もなく三年も五年も居ります、服裝の如きも中流でも平生はモスリン友禪の襦袢など着ず、浴衣の洗ひざらしを重ねて紺足袋は女もはきます、冬は龜の甲といつて眞綿を平たく丸くしたものを着ますが、ほんに龜の甲の樣です、暖で止められない相です、右のやうな有樣ですから、女で平生お白粉でもつけやうものなら、それこそ直藝者だと申ます、先日も吳服屋がお正月の御紋附如何と出すのを見ますと三枚重ねの裾模樣で、仕立て上り十九圓と申ます、勿論地は秋田織とやら申す物です、それでも紅絹の裏も附いて居れば、しかも裾綿あつ〳〵と這入つて居ります、藝者衆の春着といふ事です、就て服裝の一般はお分りでせう、されど一流の夫人方は矢張り新潟より時計に指環と裝身具に至るまでおとりよせに成る相です此處の社交會の華たる將校婦人なども、一寸の訪問にも他の地方の如く三枚重ねのよそほひもなく、ねずみの前のあゐ、其前の小豆すらポツ〳〵にて、多くはまだ其前の黑の羽織で大威張り、公會の席には黑のキヤ

ラコの紋附、裏は縮の紋附、かう定まつて居りますと却つて絹物ではキマリの悪い位ですから、着物云々で出席せぬ人などはないかはり、お荷物ドッサリの新奥様には、あたら實の持ちぐされで、お氣の毒です、されば此處許りは誇りもなければ、虚榮の夢も見ず、實に氣樂ですが、芝居花見と他に樂む餘地のないだけ、御互の訪問頻繁で、夫人方はあちらに半日、こちらに一日と、殊に冬は火燵にて遊びまはられ、又は食事に招きあふやら、爲めに人知れず心をなやます方もある相です。

凡そ學校の同窓會といはず、婦人會といはず、婦人の集まる所皆が皆まで温良貞淑とはゆかず、中に必ず二三の口も手も八丁で、圓滿な會をかき廻す方の有る物です、學生時代ならともかく、人の妻となりては中中家の内許りでもまはりかぬるを、さりとては御苦勞樣ないらぬ他人の御世話までやかれ、爲めにおこる、人笑ふ人、泣く人、場所はせまくともかはりはありません。

△暢氣な茶飲會

一體此邊の人は暢氣によくあそびまはるせいでもありませうが、お茶をガブ〳〵飲む事つたら、美しく掃除の行き届いた大きな圍爐裡にまどゐして、上から吊り下げられた藥罐から巧に急須に湯を注いでは飲み、注いでは飲む、お茶うけはお漬物です、それを一寸つまむ手つきも中々うまいものです、ですから東京あたりでちとお話にお出でなさいといふ處を、ちとお茶飲みにお出でなさいと申ます、言葉は東北に免れられぬ鼻にかゝるやうですが、仙臺や、會津のやうではありません。只能く假名ちがひを致します、たとへば海老をイビといひ、且つ書きます、仙臺のあんもちを、あんもつと共に、他の地方の人はほんとうと致しますまい、其他立派な婦人でも、自分の事をオレと云はれますのには興がさめてしまひます。

△名物の雪

冬季は、十一月末から、翌年の三月頃まで雪で冬こもりを致します、雪と申ても同じ越後のうちでも高田のやうにひどくはありませんが、それでも名物ですから二三尺も積つて來ますと、雨戸は立てきり、其上軒下は雪よけといつてよしずでかこひます、勿論雨戸は明りとりの爲、上一尺許り障子がはまつて居りますが私共暖國に育つた者は陰氣でたまりません、空氣の流通は悪いし、其上爐には炭火をドンドン起して置きますから、始終頭が重い様です、此季間は陰鬱な雪空で年によりますと、一度も太陽を拜まぬことがあります、其かはり三月頃になり天氣がよく雪がづん〳〵解けて、お茶の木の頭の見える様になります時のうれしさも又格別です、只雪とけの音がいつも雨の様でうるさいです、斯様な有様ですから冬の間に東京あたりの砂ほこりの立つのが羨ましく、一度地面の上をカラコロと歩いて見たいと思ひます、いつも〳〵地上一尺許りの雪の上を歩いて居りますですから、自然ころばぬ用心に一生懸命



足に力を入れますから、此邊の婦人は皆足つきが無骨です、運歩輕くなどいふ事は無理な注文です、も一つ此邊の殊に子供の頭のかつかうは皆後頭部が出て、丈の短き奥行の深い頭です、私が考へますに、此邊では居づことか申まして、京阪地方の冬お櫃を入れるふごの樣なものに赤ン坊を入れて置きます、赤ン坊は抱いてくれろとて一生懸命後にのけぞつて、泣いて居りますのを、度々見受けます、其れが爲柔かい頭は次漸重みで後頭部が出るのではあるまいかと思はれます、これは途上ふと思ひ浮んだ事で、間違つたらお許しを願ひます。

△日用品と市場

日用品は大抵東京出來が多く、舶來品も一寸したものなら手に入ります、化粧品等も大抵なものは取りよせてありますから、廣い東京で外出せぬよりは、却つて色々なものを見る事が出來ますし、一軒の家にて何もかも整ひますから便利です、物價は米價も安ければ隨つて屋賃も安く、野菜等は見渡す限り作つて有つて、それが又土地のよい爲みづ〳〵と能く出來て居りますから、自然價も安く、庭の明地に枝豆など慰に蒔いて置きましても、面白いやうに實が入ります、誠に暮しよい處です、生魚は少く、味もまづく、馴れるまでは食べられません、其筈で幾日も雪にうづんだのですから、腐敗してないと思へば結構な位、そして價は高く、冬雪の間などは刺身一切幾錢といひたい樣です大抵のものは三八の日に市が立ち、季節々々の物を賣ります、雪の上に野菜、生魚、呉服物、小間物、荒物等に至るまで並べた有樣は、暖國の方にお目にかけたいやうです、此日には皆待ちかねて將校婦人も、町のお神さんたちも、又近在から出る人も有り、唯一の樂みで、一樣に手かごを提げて出掛けます、そして次の市までの買物を致します。

△食物奇習

よく越後の食道樂と申ますが、別に食物に奢るとい

ふ意味ではなく、祭りだといつては團子を拵へたり、お萩をこしらへて見たり、甘酒をこしらへて見たり、始終手まめに致し、近所に配りますのを申したのかと思ひます、交通不便の土地で、珍らしき物も手に入りませんから、せいたくの仕樣はありません、序に越後のお雜煮とは兼ねて聞いて居りましたが、東京の燒雜煮、京阪の味噌仕立てなどゝちがひ、人參、大根、かまぼこ、田作り、鮭の子と、色々な物を一緒に煮た、頗るくどいものです、又五月節句のちまきも團子でなくて糯米をさゝの葉に三角形につゝみて蒸します、之れが本式だと申しますが、一寸おつなものです、お正月と申してもお魚は生鮭位なもので、其のため追羽子もたこ上げも出來ませんから、お正月らしくもありませんたこ上げは此邊では五月のお節句に致します、始めは不思議に思ひました。それから都會では跡をたつた盆踊りなども、亦た行はれて居ります、矢張り警察の目を忍んで、男が女に、女が男の服裝をして、丸く成つて踊りますが、鐘や太鼓ではやすでもなし、只シュッシュッと足をすつて手を左右に動かす許りで、何が一體面白いのかと思ふやうですが、好な者になりますと夜通し踊つて歩く相です、盆唄はいくつも有りますが。

八幡林の松の木ごろたの樣でも妻と定まりや……

何とやら申すのを、陰氣な沈んだ調子で唄ひます、よく越後美人と申して名高いものですが、町を歩きましてもふり返つて見るやうな美人にも出あひませんですが、概して色が白くて、肌が美しい樣です、水のせいも有りませうが、一つは年中陰欝な天候は、やがて雪となり、自然外出する事が少く、隨つて日に燒けないのも確に原因して居るかと思はれます。

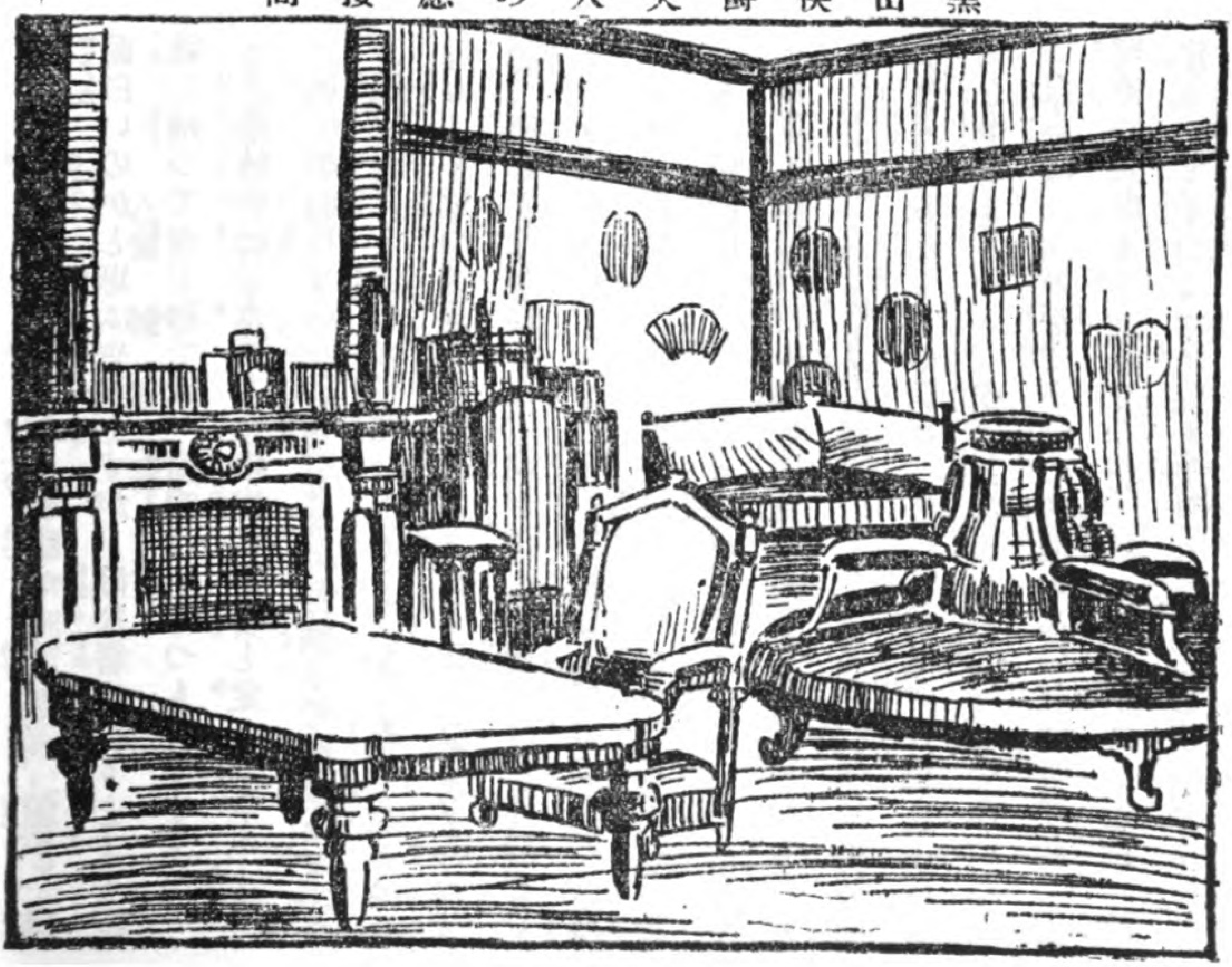
お菓子は他の物の割合に致しますと、上等なものがありまして、甘黨も不自由致しません、以前錢屋五兵衛の交易して來た角砂糖は、盛に越後地方に賣りさばいたと申しますから、或は其名殘かも知れません。

以上はほんの暫時の間の表面のみの觀察ですから、間違つた處もありませうが、然し住みなれて土地に感化されて了つては特點も美點も認める事は出來まい。

大山公爵夫人の應接間



黒田侯爵夫人の應接間



今風の姿と昔風の姿

下中芳岳

△近頃の婦人の表情

此頃人が婦人の容貌を品騭する語を聞くに「醜くはないが舊式だ」とか「善くはないが新しい處がある」など﹅言ふ。極めて漠然たる評語のやうだが、此の中に、婦人美に對する新しい傾向が含まれてをる。

然らば、舊式或は近代式といふ、その標準は如何なる點にあるかといふに、仔細に分類して之が標準を示すことは困難であるが、大體の上から差別が附かぬでもない。第一、情の表出の上から見ても、舊式美人は顏だちがいかに立派でも、表情が極めて乏しい爲に、チャーミングな處がない。即ち顏面の筋肉が十分に訓練されてゐないから、どことなくたるみがあつて間が拔けてゐる。遠目にはそんなでもないが、暫く向き合つてをると見飽きがする。之に反して、近代式美人はどことなくチャーミングな處がある。つまり顏面の筋肉が十分に訓練されてゐる、變化あると共に引き緊つてをる。

△顏の輪廓と額付き

更に顏の輪廓に就て言へば、舊式美人の特徴は長面瓜實或はそれに近き型にある。近代式美人は、どちらかと言へば、圓面で、額付にや﹅力の籠つたといふ處にある。素より長面でも瓜實でも、全體の釣合がよくとれてゐて、間が拔けてさへゐなければ決して舊式とは言はないが、しかし總じて長面又は瓜實の部類に屬する額は引き緊るといふ事とは兩立し難い。つまり、目から口までの間の隔たりが割合に多い爲に、目の下から頰のあたりがどうも充實しない、弛みがつき易い西洋かぶれの美術家などに言はせると、舊式の日本婦人の顏はまるでなつてないと評する。といふのは審美學上の標準によると、目を中心として上下に二分し得

のが顔面の理想的型式だとしてあるからである。然るに日本の舊式美人の顔は、二分どころか目の處が三分線に相當する位なのだもの、間が抜けて見えるのも無理のない話である。

△大きくて圓みのある眼

更に部分々々について言へば、まづ、表情の中心たる眼に就て言はねばならぬ。釣合ふ限り眼は大きくあらねばならぬといふ點は舊式も近代式も一致する所だが、しかし同じ大きい中にも舊式のは細くて眼角のキッカリしたのが特徴であり、近代式のは圓みの方をとるといふ違ひがある。瞼の二重、一重といふこと、これは釣合の上からでなければ、判斷は出來ぬが、概して言へば舊式美人の要素は二重にあるらしい。近代式では一重でも二重でも、それには全く重きを置かない。涼しい眼と涼しくない眼と、どちらがよいかといへばそれは素より涼しい眼に越したことはない。そして之には眼の色即ち輝きにもよらうが、睫毛が大に影響するもので、睫毛が勢よく立つてゐると涼しく見えるのである。婦人で近頃眼鏡を用ゐる人も漸々とあるやうだが、實際近眼ならば兎に角、伊達に眼鏡を用ゐるのは考物であらう。眼鏡を用ゐると、睫毛をころして折角生々したところを失くする。

△精神修養と眼の工合

うるほひのある眼といふ語が近頃の流行であるが、之は勿論近代式美人の一要素であつて、舊式美人の眼には總じてうるほひがない、乾いてゐる。このうるほひのあるなしは、決して涙含んでをるといふのではない。形體的には一寸説明が出來ないが、精神的にいふと、うるほひのあるといふのは、理性にも感情にも意志にも深みのあることを表現してをるので、物を觀察するに、皮相的にウワの空で見てをる人には見られない處である。從つて、現實的社會の眞相にはなるべく遠ざけて、言はゞ眼かくしして育てられた舊來の日本婦人には、斯の如き眼は少ないのである。勿論、かう

いふ眼の婦人が幸福だか不幸だか夫は別問題である。

常に婦人の表情に就て研究してをる、ある美術家はこんなことを言つた。人を引きつける眼はどんな眼かといふと、それは眼を包む外側の總べてのものと殆ど關係がない。全く眼の球の輝が人を引きつけるのである動きつゝ物を見据ゑる底力ある眼の輝き、それが人を引きつけるのだと。或はさうかもしれぬ。眼の形は兎も角、眼の動きは内心の發表であつて、全く精神的のものである。從つて半、後天的修養によつて力ある眼



たらしむることができる。

△脣はやゝ内へ向けて閉づ

次は、口元である。口の大きいのは舊式も近代式も共に忌む處だが、舊式美人の口は、たゞ自然に合したといふまでゝ、假令緊りがないといふほどではなくも、どうも味に乏しい。近代式のは、幾分かものを含んだといふ風に脣をやゝ内へ向け氣味に閉ぢる。その含んでをるものは何かといふと、理性である、意志である、情熱である、口の中まで此等の心的作用が充實

してをるのを只一重の唇で隔てゝをるといつた形である。舊式のは、口の中にまで充實すべきものがない。情にも淡い、理性にも暗い、意志も弱い、從つてかるく平たく閉ぢられてあるといふ形である。

△鼻にも表情がある

鼻は舊式美人にあつては大切なる一要素である。從つて子供が生れると先づ第一に誰も鼻の形に目をつける。しかも、近代的に言へば、眼が第一、口が第二、鼻は第三といふ順に品騰される。そして、舊式ではツンとした純ピラミツト形のが良いとせられるが、近代式のはやゝ丸るのある方がよいことになつてをる。鼻について見ねばならぬのは、鼻心線であるが、之は、美術家などがその顏面の特徴を定める上に第一の標準とする處で、額より口の邊りへかけての表情は主としてこの鼻心線によるのであるが、舊式の美人はこれが明瞭でない。「何だかあの方の顏は美しいけれどもさびしい」といふのはこの鼻心線の働きが弱い場合である。近代式のは、これが著しく活動して、それに伴ふやゝ凹いところがあらはれてをる。

眉や額についても次のやうな別が認められる。

	舊式	近代式
眉	細い	やゝ太い方
額	のつぺりしてをる	狹くて輝がある

しかし、此等は他の釣合の上から定まるもので、一口にかうといふことはできない。

△近頃の美人は修養に依る

かう言つて來ると、近代式美人といふのは、顏面全體の調和と充實がその基本的標準になつてゐて、その背景には精神的活動がかくれてをる。舊式美人は、部分部分の形が整つてゐて、精神の表現としてよりも形として人形の如く美しければよいといふことに歸する從つて、その評價は、全然先天的型式に規定されるが近代式美人は、後天的修養と相俟つての評價である。容貌の品騰が同時にその人格の品騰にも關するわけなのである。

△坐居は容姿を害する

以上は顔に就て言つたのであるが、姿についても舊式と近代式とは見方が異つてをるやうである。舊式の見方に從へば、總じて顔が重んぜられた。といふのは日本の婦人は、キチンと行儀よく坐つて置物同樣に眺められるのが主であつた爲に、全身の體格よりも先づ顔を中心として評價されるやうになつたのである。が近代的に言へば、單に見るのみでなくて、精神的交通といふことが、婦人に對す



る一要求となつたと同時に、靜としてをる處によりは、動作する處に美を認めやうとするのであるから、顔のみならず、姿の上にも大に重きを置く傾向を生じたのである。所が舊式の美人は一體に姿の上から見ると立派でない。『日本婦人は脊が低くて理想的婦人のモデルになるものは殆どない』とは美術家のよくいふ所であるが、實際、下半身の發達が極めて不完全で、腰より上の割合に足が短かい。從つて身長の割合よりは額が大きい。これは古來日本婦人が常に坐居することから

自然の發育を妨げられた爲であらう。而も、これまでそんなに目立たなかつたといふのは、つまり筒のやうな衣服を着けて、腰の上に大きな帶を締めてをる爲にさう不格好にも感じなかつたのであらう。

△高木醫學博士の說

高木醫學博士が、曾て日本婦人の體格改良を絶叫されての話に、日本婦人は幼時より坐居を强いられる結果、腰以下に於て、一寸乃至二寸發達すべきものを發達させないで縮めてをる。その譯は、健全に滿足に發達した人體は、腰を中心として上下の高さが等しいものである。然るに、日本婦人の身體を調べて見ると、腰より下が大抵一寸乃至二寸低い。稀には三四寸も差のある婦人がある。男子も同樣に發達を妨げられてをるが、自由に育てられる丈に婦人に比べるとずつと差が少ない。かくて我が國の婦人は百代二百代の後には如何に奇妙なる形になるだらうかと言つて居られる。幸に近頃は小學校時代から椅子に凭つて物學ぶことになつた爲、幾分かこの弊を減ずるに至つたは嬉しいことである。曾て、女子の體育調査の必要上、お針屋に通ふ女子と女學校に通ふ女子との下半身の比較を試みたことがあつたが、平均三分ばかり女學校に通ふ女子の方がよく發達してゐることを認めた。勿論十二三人に就ての統計だから正確とは言へぬけれど、坐居が脚部の發達を害することは動かすことのできぬ事實である。これは學校教育に於てのみならず、家庭教育上にも大に考慮すべき問題であると思ふ。

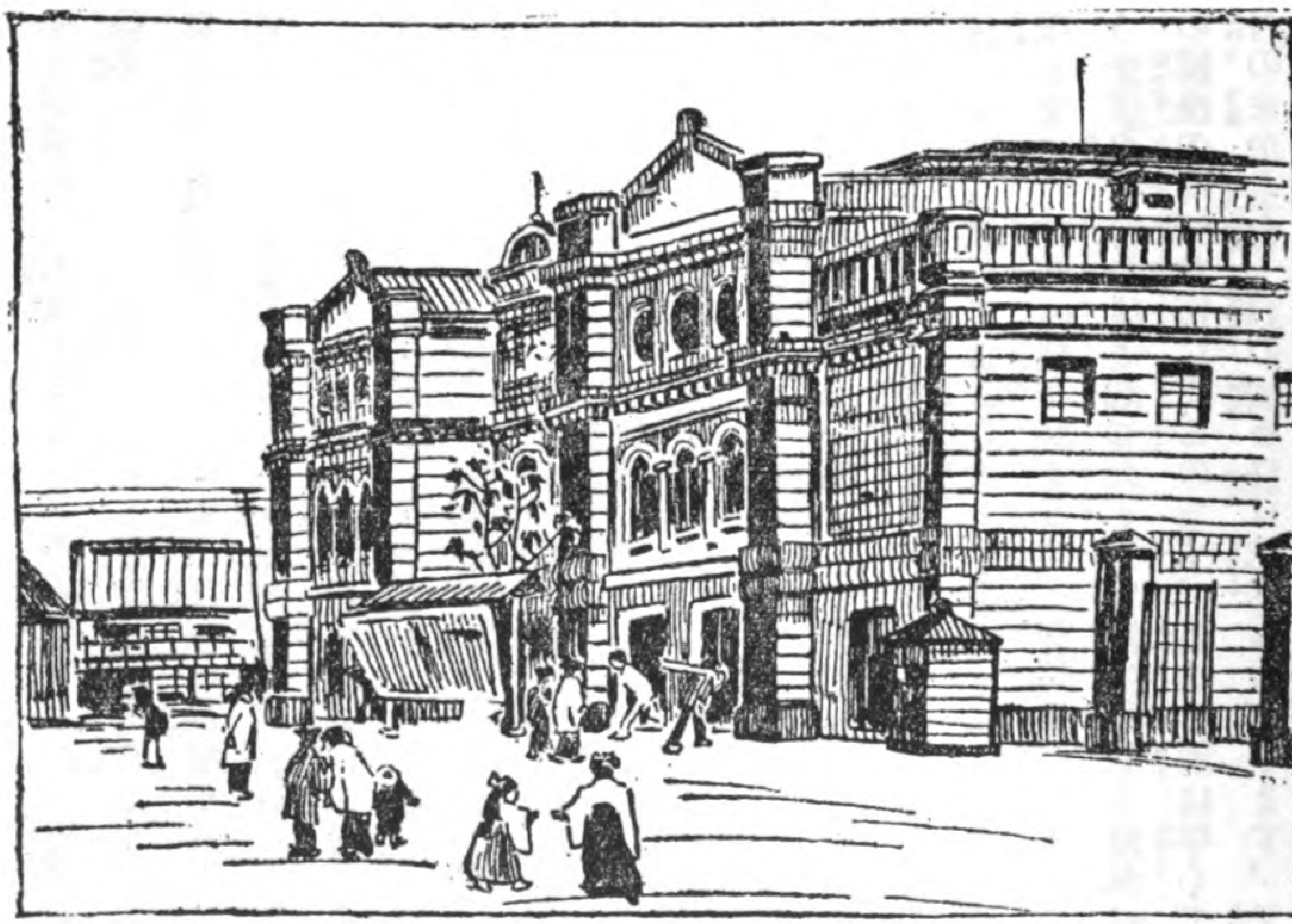
△プラットホームに立つた美人

話は横道に外れたが、さて近代式美人は、下半身の發達が必要なる一條件である。首の短かゝらぬことが舊式美人の一要素である如く脚部の短かゝらぬことが近代式美人の一特色である。これは、近來、袴を着けたり、時には改良服、洋服をも着たりすることによつて、下半身の發達しないのは、いかにも姿がよくないと分つたからでもあり、一つは常に西洋婦人を畫で寫

異で實物で見て比較するやうになつた結果だらうと思ふ。即ち舊式美人は顔中心であつたのが、近頃漸々姿に重きをおくやうになつて來たのである。窓から顔を出した時の美人では滿足しないで、プラットホームに立つた美人を求むるやうになつたのである。

こなしに就て言つても、一時、少しく前かゝみに歩行ことが流行したが、女子教育普及のお蔭か、今日では、反對に少しく胸を張氣味にして、頸の處と膝のところとでこなしを取るといふ風になつて來た。これらは、健全なる母としての體格の上から喜ばしい傾向であると思ふ。

更に舊式美人と近代美人との最も著しい相違は、舊式美人はどこ迄も從順といふことを表してゐるに反して、近代式のは、幾分誇慢な態度を取るといふ點にある。女子はどこまでも「右向け」「はい」「左むけ」「はい」の從順一點張がよいか、或は幾分自我を持つた方が生活内容に興味があり、且つ母としての任務を盡す上に適當であるかは、自ら別問題である。



東京の劇場　（本郷座）

雪に埋れたる札幌の市街

石狩伊都子

△五ヶ月間雪の舞臺

何樣春は四月半頃迄雪に埋てるのですから花は五月中旬に。それも、櫻桃梅梨一時に笑みそむると申た風の極をかしな處でございます。雪ををかして花の魁のなどゝ申す梅が五月半に小さなませた葉の間から瘦せた白い淋しい色を見せてるなどは迚も內地では見られない事です。猶此の花時前四月の解雪期が一等厭な時期です。上皮の方丈け溶けて。半年此の方含み越した馬糞だとか芥などが水に漂てる上に下層の方はまだ溶け切れぬスル〳〵した氷なのですからどうかすると轉びます轉んだが最後馬糞も芥も頭から浴びるのです、それでまあ半月も經ますと道がしつかりしてまゐりますが一難去て一難來るでこれからが札幌の幌の字（アイヌ語で幌の字は風の强い處へ付けるとの事）にかなはせんが爲め？大風となるのです火事なども此時期が一番多いのです一昨年の大火も丁度五月卅日でした、夏期は短く且つ暑いのは日中許り朝夕は羽織がほしい位です、それも七月の末から八月一杯で、九月にもなりますと、もうそろ〳〵寒くなります十月にもなりますと近山雪をおく事もあるくらゐです、で夏期は雨量至て少く、雨傘も一本が一生道具です、札幌停車場から三ッ目の驛錢函を降りますと直ぐ濱ですが白沙靑松のほとり白鷗浮ぶなどゝ申樣なやさしいものでなく赤裸の松一本なく休息所とてガラ〳〵建の。波は日本海それとて荒く實につまらないものですけれど、札樽から集ひ來る客は夥しい事、ちつとやそつとの休憩所では間に合はず殿方連は小舟のかげなどで日を防ける位ですが、之れでも近在唯一のものとて、夏も一時は榮えます、往年は鯡で以て此海一面變色したものださうです名もこれより起つたとか當道の景氣不景氣は此の鯡漁の有無如何によるのです、名物の雪は早くて十月の末から十一月の始めには乾度ちらつきます、尤も

寝雪と申まして降て積つたまゝ來年迄解けないのは十一月も末頃からだそうですが地の諺に初雪の早い年は寝雪が遲いと申ます。內地で雪と申ますとそれこそ銀世界だとか何とか申まして。雪見酒でも酌み交し俳句會も振ひますが此處では先づザット六ケ月の間といふもの白皚々の中で多どもり、そう／＼每日雪見酒で遊び暮す譯にも行かず、實際厭になります、それで大吹雪となりますと大したもので降る雪許りでなく地のを誘ひ屋根のを拂ひ亂れ舞ふので、一間先は見えなくなる道を失ふ其の內に積ると來るとこんな時に田舍の野道で立往生をするのです、汽車も立往生して爲めに二日位延着する事は度々で、冬期北海道を旅行する方は前以て立往生する覺悟で食料など餘分に持ち込むのです以上申た通り半年は雪の中で大した活動もできず、蟻の樣に暑い時一生懸命に働いて置て寒くなつたらウジウジやつてるのです。で春も短く夏も束の間秋も來たかと思ふと紅葉も一日限り雪の舞臺となるのです。

△風俗人情

當地は小樽函館から比べますと幾らかよい處でございますが、人情の薄い事驚くべし先づ北海道で三年辛抱して居心地よくなつたと思ふ頃には、自分も幾らか泥棒根性となつてるのに驚かれます「トゞのつまりを北海道ときめて」と俗謠にもあります通り、失敗して國にも居られぬといつた風の夜逃げした連中が集まつて、築き上げた處なのですから、此の邊での弗持ちと申せば、皆曰付きの人が多いのです、だから地での風上に立つ人の會合と申ましても、隨分と殺風景なものです、かつ秋田、津輕、越後、仙臺あたりのダンベーやら、ヅー連、追分先生なんかゞ羽振りをきかしてるのですから、いつかも停車場で立派な紳士が御婦人を連れての御散策、ハテ孰れの華族様かと皆立ち止り振り返つて見てをりますと切符買ふにチップと申ましたのでウンザリしてしまひました。言葉ですが尤も會社諸官衙などの務め人が多うございますので、従て異動

烈しい爲め取り〲でございますが、

今晩は　オパンデスカ

小僧　アンコ

家（世帯持つ事）　カマドモツ

メチャ〲　ワヤ

可愛　メンコイ

馬鹿らしい　ハンカクサイ

扱ふ　チョース

などが耳新らしくございます。

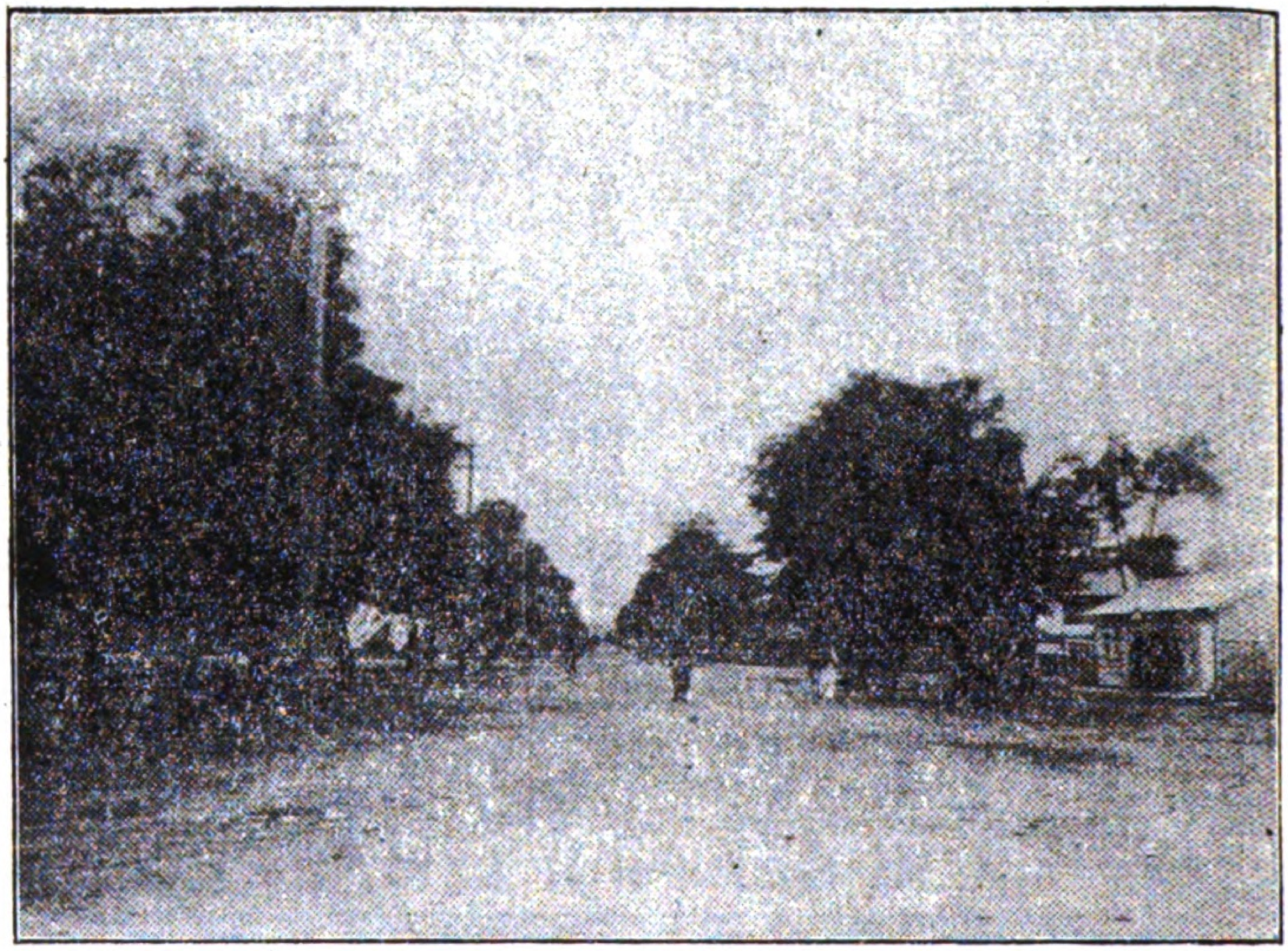
何處も同じ當節ですが、わけて此處は學校が多い處へ、下宿やが割合に少うございますので彼處の二階にも書生さんが居る隣の六疊にも女學生を置てると云つた風に素人下宿の多い事、開けて置くよりは、男一人居てもらへば内もしつかりするからとて大學生など置て終には浮名を新聞に迄晒されるのもあり隣の噂を又隣云ふ人も高聲なれば聞く人も赤面せぬ、噂される女も平氣の平坐、すれたものです。

此地へ參りまして一ツをかしく感じましたのは雪が



札幌市街南一條通

札幌市街停車場通



積りました時人車は用ゐられず、橇が代用されます、人力車の車丈けを取り外しまして下に角な細い棒二本を付けて雪の中を滑つて行きます、前に落ちさうで乘心地の惡るい事夥しい、スケーチングも流行致します、用聞の小僧の中にも名手を見受けます、一體雪國の女は肌が美しいと申ますが、どうして酉の市に笹に付けて賣るおかめの御面相、頰ぺたが風の爲めに赤くむくれて、サメ肌多く、湯屋でも美しい人を見た事はありません、通學してる女學生の樣子と來たら又、十九世紀末に流行したやうな毛布大の角卷と申ものに頭巾お道具を脊に負てボコ〳〵のゴム靴アイヌ式ですから、全く田舍ですよ私等東京から參りました當時藝妓と見違へられた程なのです。

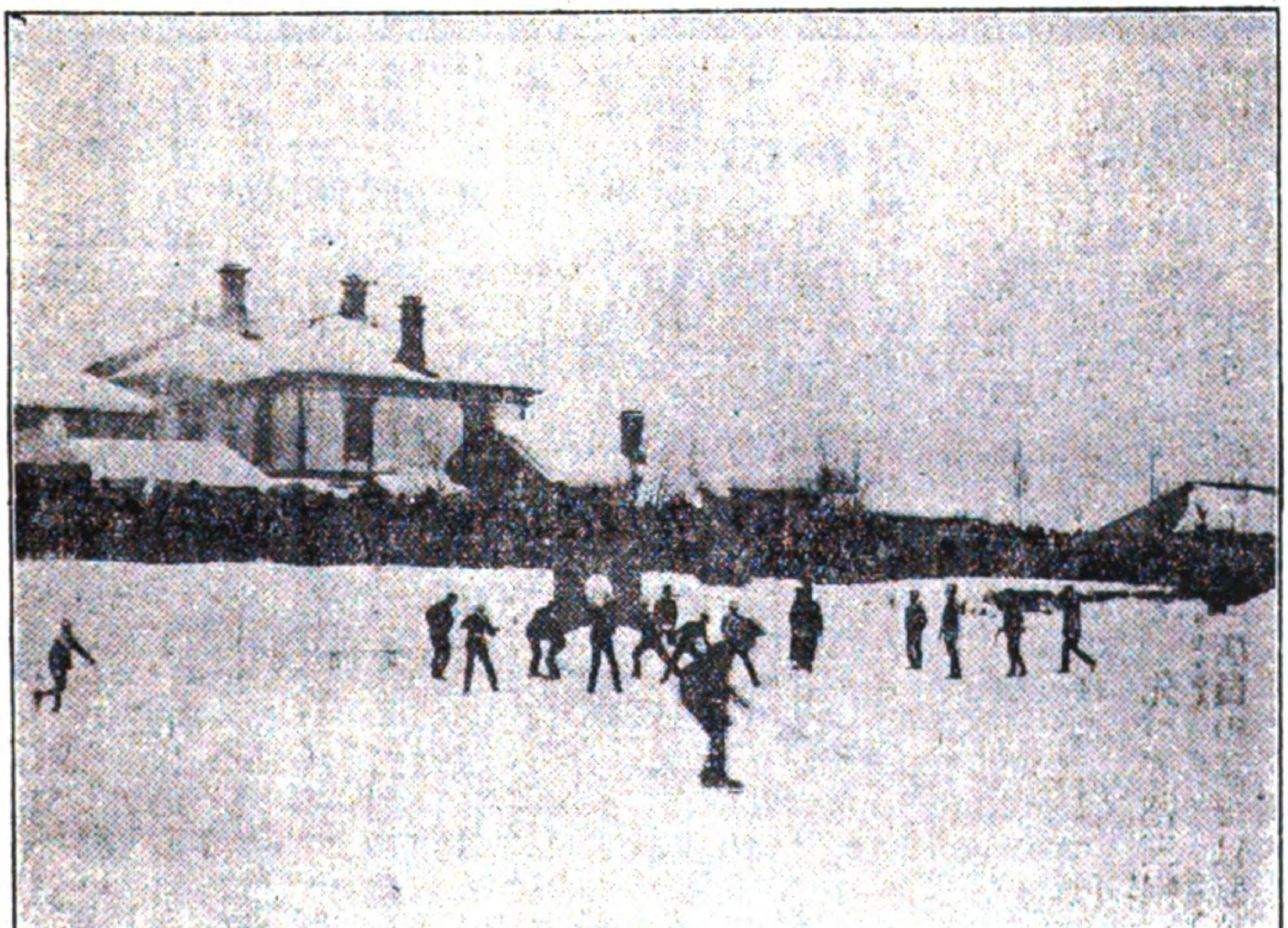
△物價と產物

は極々高う御座います、安いのは魚、野菜、位で吳服文房具小間物洋物となりますと、先づ五割三割は高う御座います、先日三越の出張店員の話では當地一流

の店で牛樣を見たら（同業者仲間でカヤズレと申キズ物）を平氣で商つてる、との事。柄なども流行おくれ迚も買ふ氣にはなれませぬお家賃は疊建具付、八、六、四半、三、位で十一、二圓、南一條通りと申て目拔の場所では三間間口、奥行四間位廿五圓より卅圓内外位で御らうじませ、全く燐寸箱列べた如な建方當節でこそ壁も土を使ふ樣になりましたが大方板壁なのです屋根はマサ葺多くトタンを偶には見受けます瓦は寒氣に堪へぬとかで用ゐませぬが特別の褐色に塗つたものが折々目に付きます。

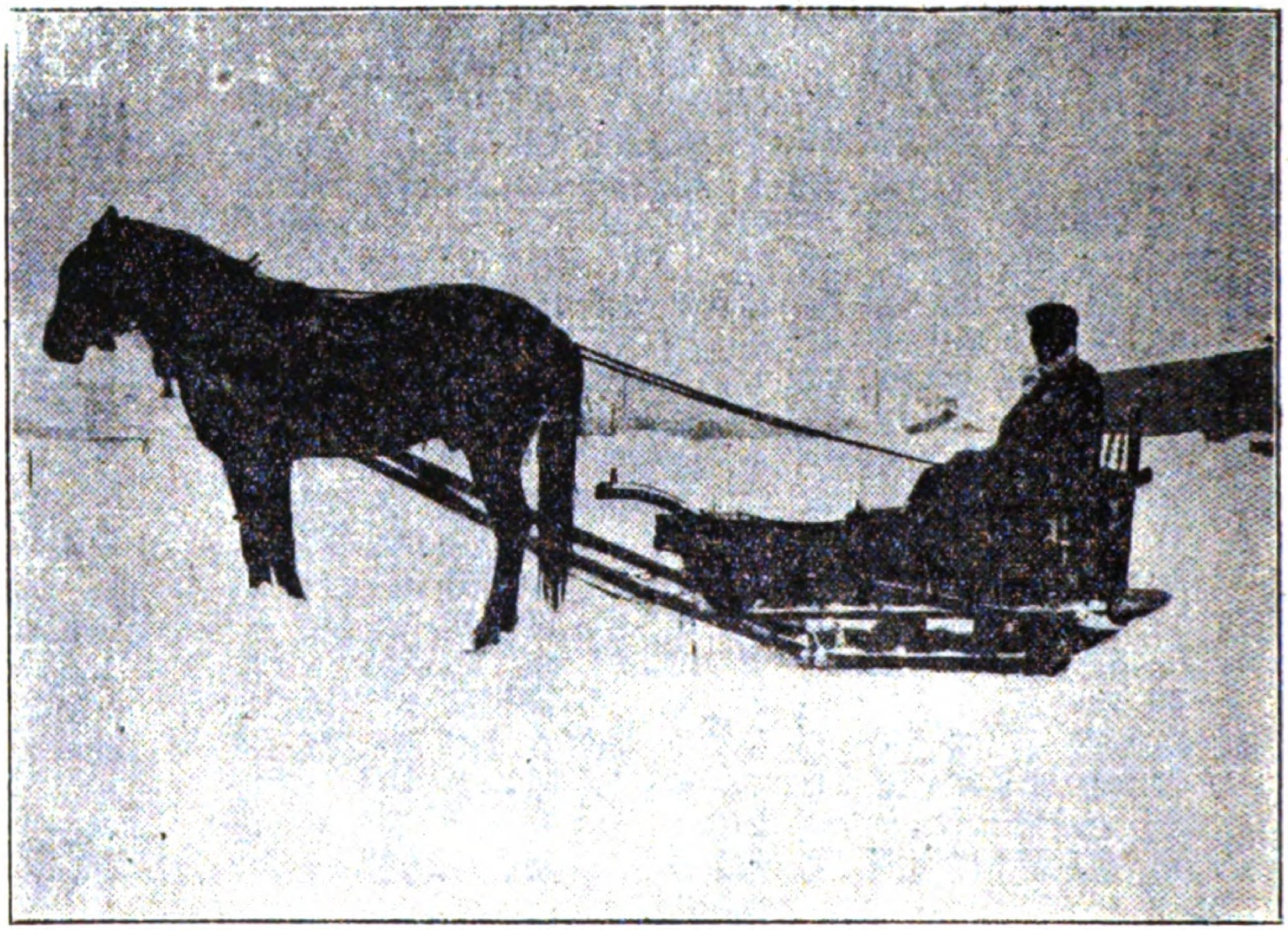
當道物産は海産、木材を第一として菜種、豆類麻麥酒杯あります札幌産としては、淺羽農園のジヤム、苺酒、リンゴ酒、製麻會社の麻、麥酒會社の麥酒、牧草三國屋製魚類粕漬等ありますが之れと申品は見當りません道廳水産試驗場製の蟹の鑵詰は米國邊迄輸出されます熊の皮も立派なものがありますが之等は田舍の方でアイヌが獵るのです。

葉山、箱根、輕井澤、伊香保さては、須磨や舞子の



札幌農學校前雪中の打毬

馬に牽かす橇



優さ波に浴し給ひし方々も一度轉じて北海熊吠ゆる、山野を跋渉し給へ、汽車は二等で上野より通し十二圓幾十錢津輕の海も四時間の夢蝦夷が島根をお訪ひ遊せ此處よりは少し離れ居りますが蘭島、登別溫泉、神居古潭、近うて常山溪も七里の山道、石狩の鮭漁も一興です。

石狩の荒野廣々と野の果てに聳え立つ峰も內地のそれに比べものにあらず、或人の米國式と申された山の姿、森の樣、御歸途の御土產には老人へのアイヌ細工も安くてよいものでございます。

▲糶市

或人が糶市で金を無くして心付かずに歸宅したが氣が付いて再び糶市場へ引歸し支配人に遺失したか掏まれたか三百圓を喪つたと屆け、振り返へつて一同に向ひ金を還して呉れろか見付けて呉れゝば五拾圓の禮金を出すと叫だ、すると片一方の隅から「百圓出す」と云ふ聲が聞え、又一方から「百五十圓」と呼ぶ者があつたが、忽の中に遂々千圓迄糶り上てしまつた。

四季折々の旅行の利益

男爵夫人　目賀田いつ子

△人の懷中を痛めぬ旅行

私の生活の中で、最も愉快で、そして趣味を持て居る事は旅行であります。私の旅行好きといふとは、大分世間にも知れて居りますし、自分も出來得る限り歩いて見様と心がけて居るので御座いますが、併し私は家政上無理算段をしたり、又良人の懷を痛める様な事迄して旅行するのではありませぬ。年に五回や六回位旅行しても差支ない私の財産がありますから、それで以て毎年何處へでも氣の向た處へ參るのであります。

この旅行癖は、今に始まつた事ではありませぬ。以前靜岡に居ります頃に、母に連れられて、よく山や野原を歩いたのが元でございます。それに私は身體が丈夫ですから、家にばかり籠つてうよ〳〵してゐる事がどうしてもできないので御座います。

△旅裝は至つて簡單

其の習慣が東京へ參りましても失せませんで、閑さへあれば散歩したり、又は旅行をしたりして居ります。先づ春になりますと殆んど例年のやうに、遠くは京都奈良、近くは箱根や小田原邊へ參りますが、櫻の花は美しく咲いてゐますし、樹々の梢にはそろ〳〵綠の芽が見られ、鶯の啼聲が其の間に聞えるといふ其の麗らかな自然の景に浴する心地は、何とも言ひ様がありません。それが好きですから、春は大抵旅行を缺かした事はなく、そして旅行に就きますと、早くて二週間永くて一ヶ月位を費して歸ります。

夏の旅行も亦特別の趣がありますが、汗まびれになつて歩くのも面白くありませぬから、夏は何處か餘り雜踏しない様なところを擇び、子供を連れまして海水

浴に出かけます。それも人様の様に、女中を連れたりどつさり着代へのものを持つたりなど、大袈裟な眞似をして出掛けた事はなく、只僅かに着更への着物二三枚丈けを大きな信玄袋の中に入れ極めて簡單な支度で飄然出かけるので御座います。そして先方に着きますと直ぐ相當の旅館へ着きまして、暑中の尤も烈しい間を其處で送るのですが、その間も閑さへあれば近郊を旅行致します。

△自然の景が何より愉快

夏が過ぎまして、秋氣の滴つる頃になりますと、また出かけるのです。この旅行は大抵紅葉の名所を探るのですが、どうも春の旅行よりは樂みが乏しい様に感ぜられます。併し秋は秋丈けの特殊の趣が御座いまして、彼の日光、又は箱根の紅葉などは、言ふに言はれぬ風情があります。

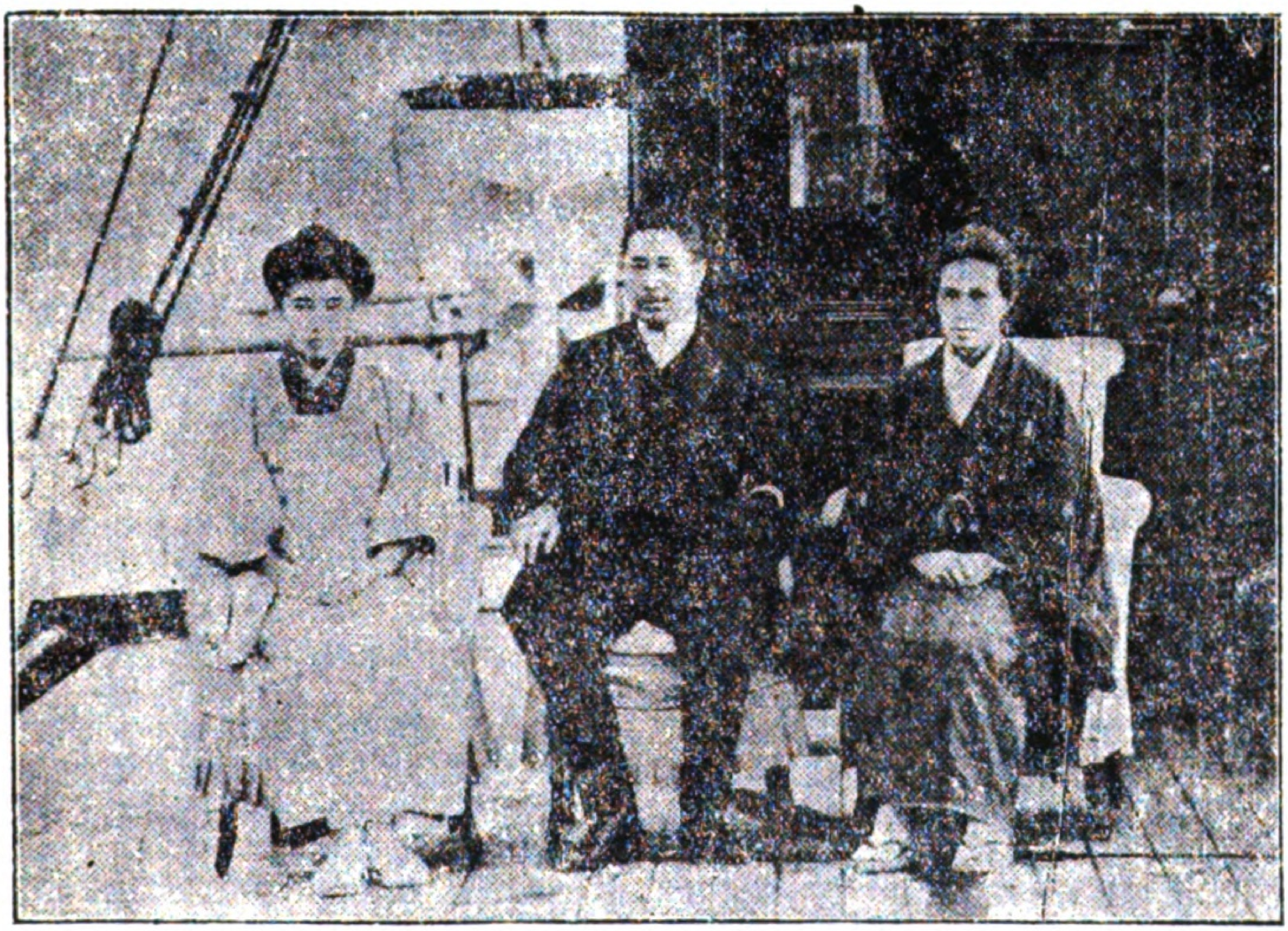
斯樣な具合に、春から秋まで、ちよい／＼旅行いたすので御座いますが、冬丈けはあまり旅行は致しませぬ。と申しましても、めづらしく大雪でも降りますとすぐ着たまゝで家を出まして、飛鳥山とか大森とか、眺めのよい處に參り、時ならぬ銀世界に見とれつゝ一日暮す事もあります。どういふものか私は家の中にこせこせして居るよりは、郊外に出て自然の大きい景に接する事が非常に愉快でございます。

△富士登山の一大利益

それですから、昨年の夏は娘を連れまして富士登山迄試みましたのですが、實に愉快なものです。次第次第に登るにつれて、眼界が段々と廣くなり、ひろくなるに從つて、氣持もどことなく清々して、眞に宇宙の大に接する樣な感じが致します。丁度四合目迄登つた時でした、脚下に遥かに鏡のやうな湖水や、連綿とつづく峯を見まして、覺えず手を打つて喜びました。特に朝の御來光は實に見もので、あれ丈けはどんなに文字を並べても形容が出來なからうとおもひます。それから暫くすると一天明け渡つて、自分の五體は、まる

で天上界にでもある様に思ひましたが、かういふ愉快は家に閉ぢ籠つてゐては迚も得られませぬ。そして只愉快といふ丈でなく、一つは精神修養の助けにもなります。

富士登山で非常な利益を得ました事は、生活上に於ける忍耐といふ事です。もし私共が富士の石室で食べた様な食物で我慢が出來るものなら、どんな事でも忍耐が出來ないなどゝいふ事はないと、つくゞおもひました。さういふ實驗を娘などにさしたといふ事は、たしかに精神修養上言



甲板上の目賀田男爵夫人と令孃

ふべからざる効果があつたらうと思ひます。

△石坡亭山上の腰辨當會

斯ういふ具合に、始終旅行して居りますから、五里や六里の山坂を歩きましても、少しも疲勞など覺えません富士へ參りました時なども平氣で、登山して歸りました。脚はまづ達者な方で、人様にはなかゝ負けない積りでございます。

朝鮮に居りました間なども、閑さへあれば公使館の人々などゝ一緒に、辨當を腰にして、彼處此處の山に

遊びに參りました。彼の有名な石坡亭などへは能く參りましたもので、參りますと毛布を芝生の上に敷き、其處此處に散つて居る木の葉などを拾ひ集め、火を燃き、持つて行きましたものを、煮たり燒いたりして、それを喰べながら、飛んだり、踊つたり、いろ〳〵おもしろい事をして、一日を愉快に暮して歸る事が數々ありました。

交際して見ますと、男の方でも女の方でも、西洋人の方が活潑でそして無邪氣で面白いやうです。そこになりますと、どういふものか日本人は、男は男、女は女と分れまして、男は碁を打つ位が上品な方で、多くは待合入りなどをいたし、その遊び方が何うも高尙ではありません。

△令夫人風は旅行の禁物

斯ういふ風に、平素旅行をしつけて居りますから、いざ出かけると申しましても、至極簡單なもので、いつも着たなりで出かけます。そして成るべく世間の活きた事實に接したいと思ひますので、假へば京都へ參りましても、或は箱根へ行きましても、ちよい〳〵變つた旅屋へ宿りますが、今日迄まだ男爵風を吹かした事はありませぬ。ですから族籍などを明かに宿帳に書いた事もありませぬ。處が、この頃は中々氣がゆるせませんで、こつちが族籍を書かずとも却つて先方がちやんと知つて居る事があります。いつぞや箱根へ參りまして、それから又他へ旅行しやうとする時に、先方の旅館への添書を呉れましたので、途中でそつと開封して見たところ、男爵令夫人なンて書いてありましたから、こりや大變とおもひまして、直ぐ破いて仕舞つた事がありますが、さういふ大びらの事ではなか〳〵旅行は出來るものではありません。

△茶代廢止主義の勵行

殊に此の頃何處へ參りましても、人のなりと茶代で客の扱ひを二三にする風のあるのは、惡い癖でございます。私は元來茶代廢止主義者ですから、何處へ參り

ましても茶代なンて置いたとはありませぬ。唯、特別に親切にしてよく氣をつけて呉れた場合には、ホンの少し許り女中にやる位なものですが若し茶代が無くて利益がなければ、席料なり何なり利益のある丈け取つたらいゝぢやありませんか。出すかどうか解らぬ茶代を當てにするなどは頭から營業の方針が間違つて居るとおもひます。さ



ういふ處よりもお錢の用途は他にあるやうでございます。田舎の車夫などに、往々飲代を貪る癖があつて、殊に女だと思ふと一層さういふ事をする樣ですから、私は俥に乘るときは、いつも先づ車夫の樣子を見て正直さうなものを擇び、値段をちやんときめて乘りますが、其車夫がどこまでも正直で、よく走つたとおもへば、少し許りの

心付けをやりますので、餘計の茶代などよりは成るべく斯樣な勞働者に與へるとにして居ります。

△私のは意味ある旅行

私が斯樣に旅行をしまするのは、無意味で出歩くのではありません。一には人情風習を見て、世間の事情に通じたくもあり、又一には土地の狀況を知つて、恁ういふ處には恁ういふ事業を起したらどうか位の事は注意して居るのです。それですから、いつ旅行をしましても、何處かで土地の利用法を見出さぬ事とてはありませぬ。時折琵琶湖畔を旅行しますと、秋の收穫時分には、澤山の落穗や籾が到る處に散らばつて人の踏むが儘に任せてありますが、年々何萬圓といふ鷄卵が支那より輸入される時代ですから、あゝいふ場所を養鷄などに少しく利用したらよさゝうなもので、天然飼養で立派に出來ると思ひます。此の他にも色々郊外の利用法があるのも知つて居ります。私共がこんな事をいくら言つて見ましたところで、迚も世間の人の注意を惹く事はできますまいが、さういふ實況を見て置きますと、都會生活ばかりに慣るゝ子供を訓育する上に一方ならぬ助けとなるのでございます。





今様 枕の草紙

様々の婦人觀察

一宮きよ子

○忌々しきもの

若き女の英語まじへて話したる。小說等に讀みかぶれ結婚は人生の係蹄なりなど、賢しらげに云ひたる。息せき切らせて走り來たるに電車のはや動き出したるいと忌々し。正月の數の子食べしに其小さき粒一つ口中に殘りて如何に嚙み碎かむとするも巧に逃れて齒にのらぬ。さては試驗前諳記物せる折、隣家にて鋸の目、引く如きバキオリンの音させたる。こは世話女房の事ながら虎の子の如くせし貯蓄債劵、餘りに當らぬに、ほと〳〵腹立てゝ夥しき損して賣りやりたるに、ふと其次の抽籤番號廣告に當り居たる、人事と聽けば笑止なれど我身の事ならば忌々しさに淚もこぼるらむ。其外、他人の馳走等になりし時、食物に毛髮のまじりたる、況して茶椀の中に見出でゝ、片端を引けば黑き長き一筋に飯粒團々とつき來るなどいと忌々し。

○長く續かぬもの

お孃樣の外國語お稽古。殿方の鐵啞鈴。日記書くこと、頃は十二月末、學期試驗も濟み、國に歸る用意、そさ〳〵怠なき時、ふと來年より日記つけむと思ひたち、價闕はず求めし優しき品、一月も一日二日三日等こそ、雜煮の餅の數迄書け、二月も初となれば據なき用事の爲一日二日さし置きし日も出で來しか。花も過ぎ袷着の頃になる迄には、必ず机の抽出に封じ込められし日記帳、主人の一顧をも得ざるこそ憐なれ。誰が乙女心の變り安さを日記帳とは譬へ初めにし。さる如

き戀する人も多し

〇興ざむるもの

詩人文學者の顔殊に美文などよくする人を懐しく思ひ、かゝる人と獨り面影を描き居しにふと、雜誌の口繪にて見し時、興さむる事多し。顏丸く、眼細く、ねぶたげなる人は猶忍ぶべし。髮などおどろ〳〵しく、馬の如き顏したる人には耐ゆべから



ず。それも男ならば未だしも、女にては少くとも優しき眼のあらまほし。人より贈物よこせたるに子供等は悦びて、解く間遲しと中開けば、我身には用もなき松魚・椎茸の類出でたる、いと興さむ。またリボンの色、髮の光澤後姿すぐれてよき令孃の前へ廻ればこれは〳〵。美しき顏したる人の言葉の下卑びたる、況し

て聲などおどろ〳〵して低きは興さむる事多し。
世に新聞女なる女あり、新聞を嗜む事食事よりも甚しき人には、仕事など片方に押しやり、俯伏しになりて讀む、讀むものは多く續物の類にて、義士銘々傳より月並の戀愛小説に至るまで好まずと云ふ事なし、かかる折、夫、姑の呼ぶとも浮の空の返事をし、火鉢にかけし豆のこげつくをも知られざる事間々あり。また新聞好の人ならずとも妙に尻重き人ありて縫物始めし時用事を吩咐けられて、ハイと返事はすれ共、直とは立たず、及び腰になり一二寸先を縫ひ漸く立つなど快よきものにはあらじ。

○恐ろしきもの

後藤様の御馬車。雨夜の一人歩き。唯さへ恐ろしき事多きに鐵道員の劍帯びたる。

○迷惑なるもの

さる奥様より入りもせぬ慈善音樂會の切符賣りつけられたる。長居の客、下駄の裏の灸、逆箒など種々工夫すれど一向に靈驗なく、常に火鉢に吸殻の山を築き部屋中を煙にして悠々と歸るが、かゝる人の癖なり。中にも圍碁の客は他人の迷惑の分らぬにや。今一局、今一局とし云へば此次こそお歸りかと、夜寒に燭臺提げて玄關に出づれば、二人の笑聲に混りて、さら〳〵と石よする音の一しきり、二階の火影は動かで亦もパチリ。女の身になれば孫子に傳へて碁は教へまじと思ふ。

酒飲む人、迷惑此上なし。興もなき事に笑みくづれあるは、大なる聲立て、同じ話幾度も、賤の苧環ならなくに、繰返し繰返しする。

○夫婦の數々

妻は流行のコートに毛皮の肩掛に埋もれシナリ〳〵と歩み給へるに、夫の君いと寒げに、鼻赤くして飛白の羽織の垢附けるに何も着ずある。況して乳母車押し眠れる子の前に買物の包などのせ奥様の後より行く

人。夫婦仲よき人。湯等に迄、二人連立たずば行かず、豫て、共に歸る約束なれど奥様何時迄も出で來ねば、夫の君所在なげに新聞讀み、さては上り場此方彼方に歩みなどして待ち給ふいと目出度見ゆ。況してさる御二人の御入浴中一つの石鹸を男湯の隔板の下より互に



送り交し等し、また男湯の板微に打叩き『上るぞ』との暗號あれば妻なる方あたふたと洗ひも敢ず上り行かるは何となく優し。

夫隣の湯にありと知りながら、此方にては近所の人に其人の事等問はれける、答せざる事もならず若き人ならば胸つぶるらん。されど子持てる人ならばさる

事なからむ、かゝる折日頃の不平を聞こえよがしに云ふもよかるらむ。
　縁側へ犬の尾振りつゝ寄り來る時傍に眠り居し猫急に脊もり上げ、犬を吹き、あられもなき唸り聲出すかゝる時「玉よ」と脊に手觸けば如何にも優しく眼細くして「ニャーン」と鳴き、また犬に向ひては唸るにその二つの聲の出方いと面白し、常々下婢等を口汚く罵り給ふ奥様の、御主人のみには優しき言葉遣し給へると、この猫の樣なりとさる人は申しゝか。

○心ゆかぬもの

　奥歯に物の挾りたる、と云へど足袋の中に石の入りたるもわろし、夫婦住ひに他人の混りたる實にわるし。
　嫁入りするに種々の注文する人あり、品行よき人、酒飲まぬ人。「月收何々、初婚の淑女を求む。但し養子○。○。○。○。○。に行きてもよし」なる廣告には誰しも二の足を踏むらん。當世流行の外交官夫人は臺所向御嫁の令孃逹の理想とこそ知れたれ、よし巴里の地は踏み得ずとも、一生に一度は馬車にも乘りたく、切角學校にて習ひし英語讀本の應用もして見たく、雜誌の口繪にも何々令夫人として載せられ、亦本欄には「交際家としての苦心」等の題の許に御自慢澤山の事を書くも面白かるべく、「兎角日本の女は表情がなくて不可ませぬ」と西洋人の樣に云ふも興ありぬべし。
　また娘遣る母の態度にも數々あり、あるは美男なればとて娘より先に乘氣になる母・成らぬ中を算段して衣類調へ、「何術なれば誰々の嫁入には負けず」など我娘より調度少かりし人を只管悪しく云ひなす母、切角此處迄育て上げしを無殘々々、只遣るは、と歎く母。
　女の女らしきいとよし、此頃は萬事西洋めきて、女も男の樣に立振舞ひ、內端は外端に、立てる時、風に吹き倒さるゝ患、更になきかは知らねど、足袋は十文半。日本の女子の脊低きは坐る故なりとて食事の時も、雙足先左右に鑑の如く出して坐りつ。況してさる學校の姫御前の白靴穿き自轉車に乘り廻し給へる。色黑くなれば「美人」の上に、衞生の二字さへ頂き、嫁入口

も一入多しとはさても世は變りし物よとさる老婆は嘆きぬ。さるにても若き男のクラブ洗粉愛用者として麗々しく寫眞を新聞にのせられ、三田邊の學生の白粉など塗る人あるに思ひ較べ、こゝ百年も經たば今の男は女に、女は議員にも成り得て男と變るやも知れじ、げに女學生が空中飛行機に乘り、あるひは獵銃荷ひてバイロンの詩等誦し行けば、男には白狐のショールに穴熊のマフをはめ、狆に頬ずりしつゝ歩む人出で來らむ。

花絶えぬ戀



○稀なるもの

何々女史など呼ばるゝ人の顔よき、中にも寄宿舍の舍監の君など、なべて恐ろしき人多し。唐茄子嫁の奥様。間喰せぬ令孃。女學世界の家庭日記など見るに、見合の席とも知らず饅頭頬張り横向きし人、さてはお萩一ッ口に入れ給ひし姫君の苦學生の小間物屋に向ひて物も言ひ得ず立ち居給ひし等考證いと多し。永く香

○見るめ可笑しきもの

美顔術の利目なしと悪し様に云へる人の鼻いと低き。禪學世界。禪學三ケ月速成いと可笑し。謡唄ふ人の我流こそ最もよしと思へる、況して謡は我物なりとの顔せる横辨慶。旅碁同志の互に一心になり合へたるも可笑しく。顔いと黒き令嬢の毛皮の肩掛したる、何となく獣物の様に見えて。また猫好の奥様いと可笑し。子供の汚れし足袋のまゝ上るを太く咎め給へど三毛が雨降る日縁板に梅鉢の紋點々と附くるを默り給へる。鼠喰ふ其口を甜めむ許りにし給へる、夜中子供の腹痛に、床離れ惜しみ給へど家の猫の車屋の「黒」と喧嘩すれば、冬の夜寒さも厭はず、竿竹持ち、シシと追ひに行かれ、流石辯疏には「皆が眠られないだらうと思つて……」と云ひ給へる。

八卦見は何となく可笑し。何々堂と立派なる看板出せるはさる事なけれど、賑なる町の片端に、小さき灯凩に吹かせ、さゝやかなる店張り、鹿爪らしく筮竹立て。風にまくらるゝ五六冊の書物に天眼鏡重としたる。藁灰色の顎鬚を、いと汚げなる首巻に埋め、貧乏ゆすりしつゝ炭團一ッ入れし火鉢をかき抱きたる等屢々見つ。偶人の前に立てば

「八卦でトへば何でも分る……伊藤公の遭難がワシの卦には丁と顯れて居た……かの眼の下の黒子が劍難の相ぢや。運が悪ければ開運の法を敎へて進ぜやう」など申す。「他人の開運の法は愚か、我身の開運さへ、えせぬ物と」と、われ男なりせば云はまほしく覺ゆ。

○憎きもの

自轉車の子供突きまろばして、斷も云はで逃げ行きたる。將棋さす夫の旗色悪しくなりて、顔赤くして思案するに、相手の男「先づ一服」と横向き煙草つけなどし、「もう考が定りましたか」と鷹揚に云ひつゝ、床の梅など見、又側の妻の顔見てニと笑ひたる顔。況して夫の方軍勢乏しく王將一歩々々雪隠近くなり行くに相手はガチャ〳〵と持駒多く持ちたる、またなく憎さ

げなり。
源氏名のみきゝて其人の面影をあれかこれかと思ふいと興あり。水仙女史など云へば裾模様の御衣召してスラリと立ち給へる御姿、御腰の邊の得も云はれず、格好よき方の樣覺ゆ、されど年少しとり給ひて、物言はるゝ毎に金の義歯のチラ〳〵見ゆる方なるらむ。源氏のそれならねど花散里の君は色いと白き御方なる心地す、顏丸く眼と眼との間に雀斑少しあり御鼻も餘り高からず物言いと愛嬌づける方といと懷し。青鷄女史、猛烈女史いと恐ろし、此處にて御面影の事など書けば直ぐ腕まくりし、棒など持ち來て、打ちころし給はむ人の樣覺ゆ、あな恐ろし、あな恐ろし。内藤千代子の君は十八よりは年老け給へる樣思ひつ、才滿ちたる黑き御目、顏赤く、髮美しけれど枕はづし給へば根毀れたる時多かるらむ。

（以下續出）

婦人と手蹟

昔の人は今の人に比べると非常に書道を貴んで研究して居ました、夫れに甚麽に忙しいと謂つても、今の人程でなかつたから、充分書を學ぶといふ餘暇もあつたので、先日上野で催された維新志士の遺墨展覽會などへ行つて見ても、彼頃の名士は國家多事の際でも、矢張り書道を捨てずに熱心に遣つて居た事が分る、併し今の人は忙しいから、中々然は行かぬ、私の處へ稽古に來る者でも種々あつて、中には生涯樂みに習はうといふ人もあるが、婦人の方は先づ手紙位が巧く書ければ可いと言つた向きや、然なくとも嫁入前だけと言ふのが多いから「年限も餘り永く續かぬ樣です、尤も嚴格な家庭では、年限は短つても可いから順序を正しく敎へて與れといふのがあります。然いふ人は先づ楷書から入つて行く樣にして居る、一體假名の方が樂なものと見えて、誰でも假名を先づ習ひたがりますが實は先づ楷書の方で力を養つて置かないと、假名でも力の入るべき處に力が入らぬ、ですから、正則に習はうとならば、先づ堅い文字から入るのが正しいので、能く世間で速成などゝ謂ひますけれど、書道には全く速成はありません、理窟は兎に角根氣よく練習するのが肝要で、字でも餘計書いたものは夫れだけ巧くなるのであります、（小野鵞堂氏談片）

岡山の後樂園

市の社會觀察

ふぢなみ女

「私しや備前の岡山育ち米のなる木をまだ知らぬ」

此の俗謡はよく聞えたもの普く御承知でございませう、商業繁華な岡山に人となつたを半誇り顔に謡つたもの、東京より凡二百里、下の關への通路、停車場でひさぐ名物吉備團子は如何の賣り聲に、汽車のお夢はさめませう。

△交　通

九州、讃岐路への通路の事とて、交通は頻繁です、東京の新聞も夕方には配達されます、市の中央を流るゝ旭川の濯ぐ所は兒島灣、五人の知事を經て漸く竣工した宇野港もつひ此程式が擧げられました、遠からず宇野鐵道も敷設せられ四國路への交通も是から目覺ましい活動を致しませう、美作地方への中國線は當地が分岐點、古い狹い停車場は四時旅客をもつて埋められます。

△敎　育

由來當地は關西の敎育地と目されてをります、何分狹い土地に學生の多い事と申しましたら、夏は夕闇どこやらに本郷通りの面影も偲ばれます、第六高等學校を初めとして醫學専門學校、縣立師範、商業、工業、中學、語學校、女子の方では縣立師範、附屬女學校、山陽、實科、珠瑰の三高等女學校が私立としては主なものです、三從學舍、翠松舍と裁縫所まで數へたてたら限りはありません。

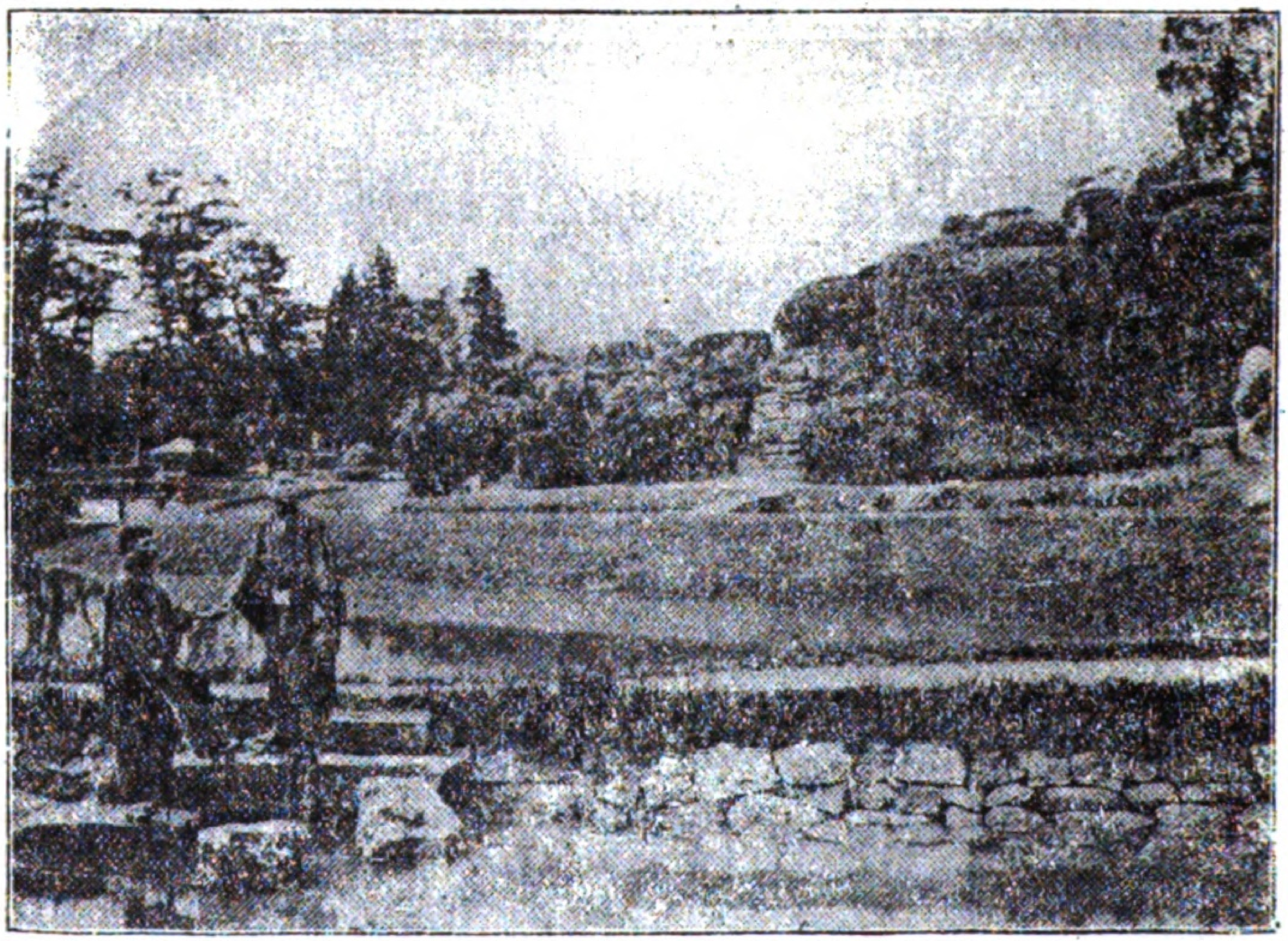
女學生は質素、惡く申せば田舍じみてるのです、遊癖憧がるゝのは東京で、東京化さうとのみ勤めるのですけれど、嚴しく頭おさへる先生の恐いと見え、皆おとなしくして居ます、小間物屋で此品が東京の流行とでも申さうものなら、リボンでも簪でも傳はり傳はつて賣り切れてしまふ、學校はリボンも白粉も殆ど禁制

で、紡績絣か何かの地味な筒袖に粗末な袴で見すぼらしい姿です、可惜お嫁入り前のお孃さんを可愛さうなと思ふ事もあります、ですから派出に結つたマガレットに四吋もあらうといふ美しいリボン飜し、優しい靴に袴の裾を器用にさばいて紫矢絣の長い袂の都びたスタイルは當地では見られません、然し此の極端な束縛は一朝卒業した曉には放たれた籠の鳥、隨分派出な服裝も致します。

▲娯樂

娯樂としては茶の湯、活花、琴曲は隨分盛です、茶の湯は千家の其れも裏の方が主で、花は專敬、琴は生田です、踊は藤間流で此地の三味線のすたれて居る事と云つたら、素人で稽古してる人は殆ど皆無の姿、尤も地唄は多少ありますけれど好いお家のお孃さんで長唄の一つもやれる樣な方は斷じて無いと申すを憚りません、まあ一年や二年女學校で習つた調子も碌ざつぽ合つて居ない。バイオリンをキユー〳〵いはせてる方がお上品とか何とか思つてるのでせうよ。

踊は黑人に限られて居ませう、能樂は保存會の設も



後樂園（其一）

あり春秋會員の催しがありまして漸次盛になつて參ります、當地で創始の吉備舞樂は當今餘り盛でもございません。

演劇は折り節し好のが參ります、寄席では始終、新派の小芝居打ち續けです、五錢十錢の坐り勝で呉服屋の丁稚や酒屋の樽拾ひが一寸とのぞきます、東京や大阪のよいのになりますと一年に一度づゝも參りかねます、此夏盆興行に東京の歌舞伎座連中が演りましたが戻り橋、大森彥七、玄冶店等當地では滅多に見られぬ芝居として歡びました、然



後樂園（其二）

し觀覧料によつて入りも渉々しからぬといふ次第です。

△人情風俗生活

人情は浮華輕薄と申すに近いでせう、東京崇拜と大阪崇拜と二派に分れて居ます、女の服裝は粹氣な處は見えません、呉服物は京大阪より出張販賣も致します、目の肥えてゐる人は當地でも紋羽二重の羽織などは用ゐません、紋付の下着にも之れに代ふるに本紋綸子など云ふ傾向です、當地のお役人達の奥樣方になると品の好い丸髷になど結つてる人は餘りございません

大抵束髪で訛たつぷりの東京辯、根の高い大形の髷一絲亂れぬ夫人ぶりは此地の婦人會合の席には見えません、それかと云ふて輪のせまい銀杏返しに、黒襦子の半襟見るからにキリツとした粋な女も少うございます妙齢の娘さん達でも野暮な束髪に限られて、可愛らしい桃割れ上品な高島田などは見受けませぬ。

言葉は正しく判然と申ましたら、其通り書いてもよく台點が參ります、方言は多い方では無いでせう、問ふ時に用ゆる言葉抔は語尾を略する事はありません。



後樂園（其三）

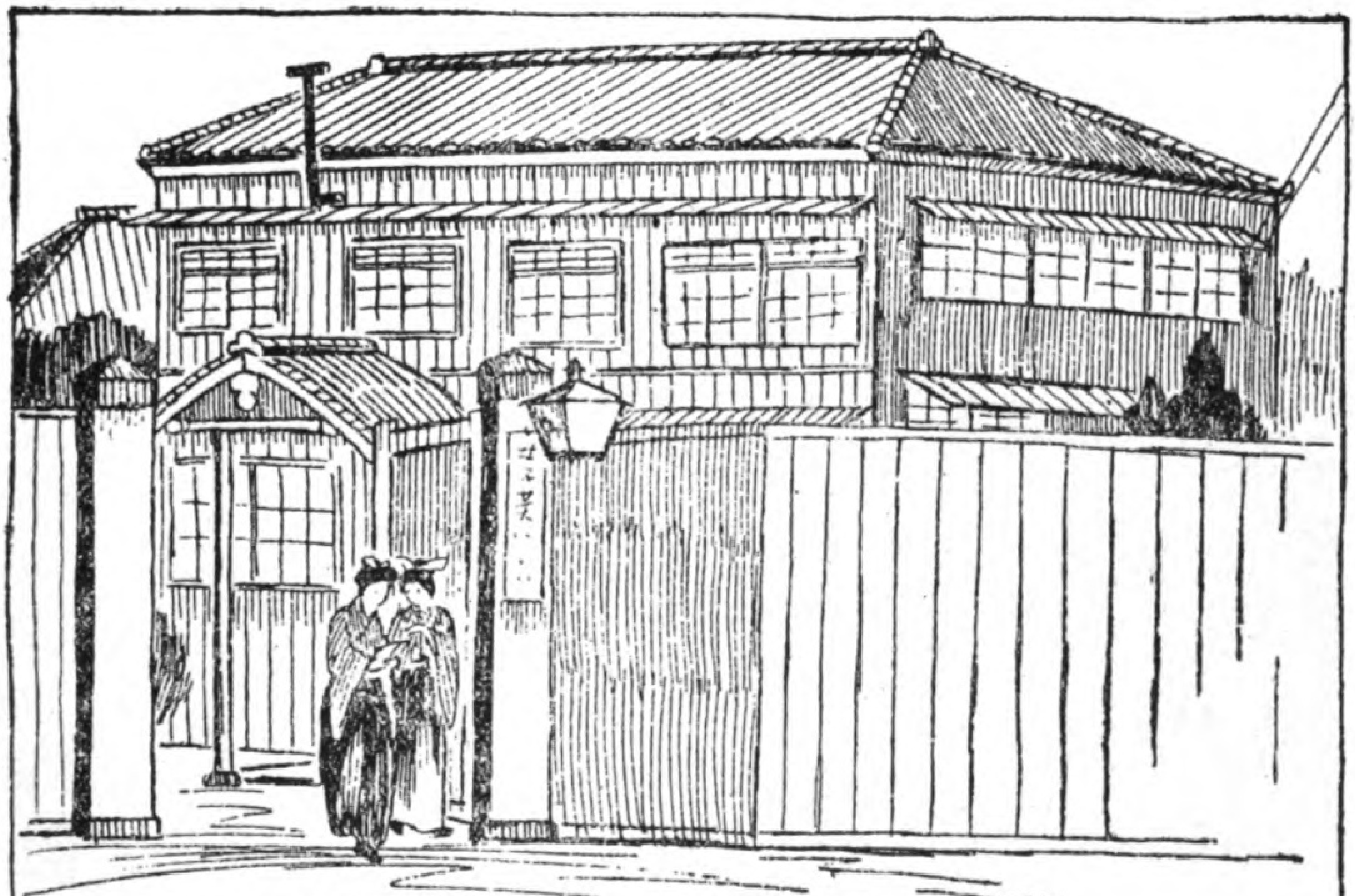
師團が新設せられ、軍人の入り込しが多いと見て取るや、借家などずん／＼値上といふ可愛らしく無い仕方も致します、魚類は他の地に比べて高價です、仲買人が暴利をむさぼるからでせう山の奥でもありません故。

△名所と名物

第一は日本三公園の一なる後樂園、春は櫻、秋は紅葉つきぬ眺望は大に誇とする處です、夜間開園の無いので月を賞する事の出來ぬのは惜しい事です、然し公園の神聖を保つ上には、此方が結構かも知れません。

市の東端操山には三勳神社、此社は楠正行、和氣清麿、兒島高德を祀れるもの、小學校の生徒のお辨當持で運動に出かけるには此上ない場所。

次は東山公園招魂社位なもの、尙其れよりも名高いは此麓にある岡山孤兒院宮内省より年々御下賜金もあり比較的完全な孤兒院です、敎育の方法もキリスト敎に依つて施されてゐます斯う申しては何ですが、神と云ふ事のみ頭腦に入れる樣で、君の恩、國の惠といふことを敎へません、人道をわきまへるのには近道か



女子英學塾　（塾長津田梅子女史）

も知れませんが眞實憐れな孤兒に注ぐ同情薄らぐ次第此の區別を判然として養はなくてはと異論を立てる人も少くありません。

歷史で名高い藤戸の渡、高松城水攻の跡、昔床しく偲ばるゝ所も遠くはありません、山陽耶馬溪の稱ある豪溪も、一時間汽車で搖られゝば殘り五十丁は人力車の便もあり、一日の行樂には適當な所です。

名物は吉備團子、桃太郎の昔話に坊ちやま孃ちやんはおなじみ、御土產に召せばお喜びでせう、其他では調布菓子、水蜜桃、花莚、伊部燒が主な物です。

若奥樣評判記

高等官の奥樣

若葉

右田歌子夫人

旦那樣が長官をお勤めで居らつしやるだけに廳員一同奥樣方一同下へも置かずあがめ奉られ給ふ、お孃樣お二人に坊ちやまお一人ゐらつしやれどそれは〳〵お若い奥樣、加茂川の水で産湯を御使ひ遊ばしたと申だけあつて、何時見てもお美しい、お顔立のよい、御可愛らしい、優にやさしきといへばまづこの奥樣。三年前に御赴任以來未だ一度も廳員の家を御あるき遊ばさず、いつも御引籠りにて御子樣御相手にお仕事とやら、たまたま伺つても始終言葉少なに只ニコ〳〵と笑つてゐらつしやる許り、あれでは知事の奥樣がつとまるまいと氣をもむ連中もあれど、まづは天下泰平平穩無事の奥樣。

岩崎たまき子夫人

これも廳中ではリユ〳〵の奥樣、お顔が古いだけに權勢オサ〳〵右田夫人にゆづらぬお羽振、生粋の江戸つ子なれど御育ちは秋田あたりとか。お脊が低くてお肥り遊ばして、お色が黒くて、何だかお顔だちも餘り上出來とも申されず、其上お髪が薄くつてお腰が少々曲つてゐらつしやる所を見ると何でも四十の坂を越されたと思はるれど實はまだ三十四歳、旦那樣との仲にお孃樣只一人の御靜かな御家内、年俸二千五百圓と申せば下女二人お使ひ遊ばすのも御もつとも、然るにこの奥樣始終足らぬ〳〵の仰言り通し、時には月末など二圓三圓と、とんでもない所で御相談にあづかる人があるといふはさ、どうして合點が行かぬと裏へ廻つてさぐつて見れば、お家に殘すは小遣に足るや足らず、後は皆銀行にお入れ遊ばすとか、それならもう萬以上は有る筈なれど、女と看板掛けたゞけに、それは〳〵もう〳〵御自分の御身の周りには、お顔にも恥ぢず、

浮身をやつされる故思つた程にはないとの話、此奥様別にこれといふイヤ味はなけれど、おさと自慢のひどいのと餘り前後のお考への無い爲に、時には飛んださわきがもち上る事もある。左程勝氣な奥様とも、お見受け申さねど、それこそ何一つ知らぬと仰言つたことのない奥様、お茶の湯、生花、お料理はおろか、ピアノオルガン、テニス、英語、和歌、俳句まではよいけれど長うた、三味線、ヲッパ節、花合せと來ては少々お人柄にもかゝはりますが、長年お交際はして居れどまだ實際にそんな御手並つひぞ一度拜見した事もなし

「あのね——和歌も少々ね——あの中島歌子さんについて一週間許りは參りましたんですよ」

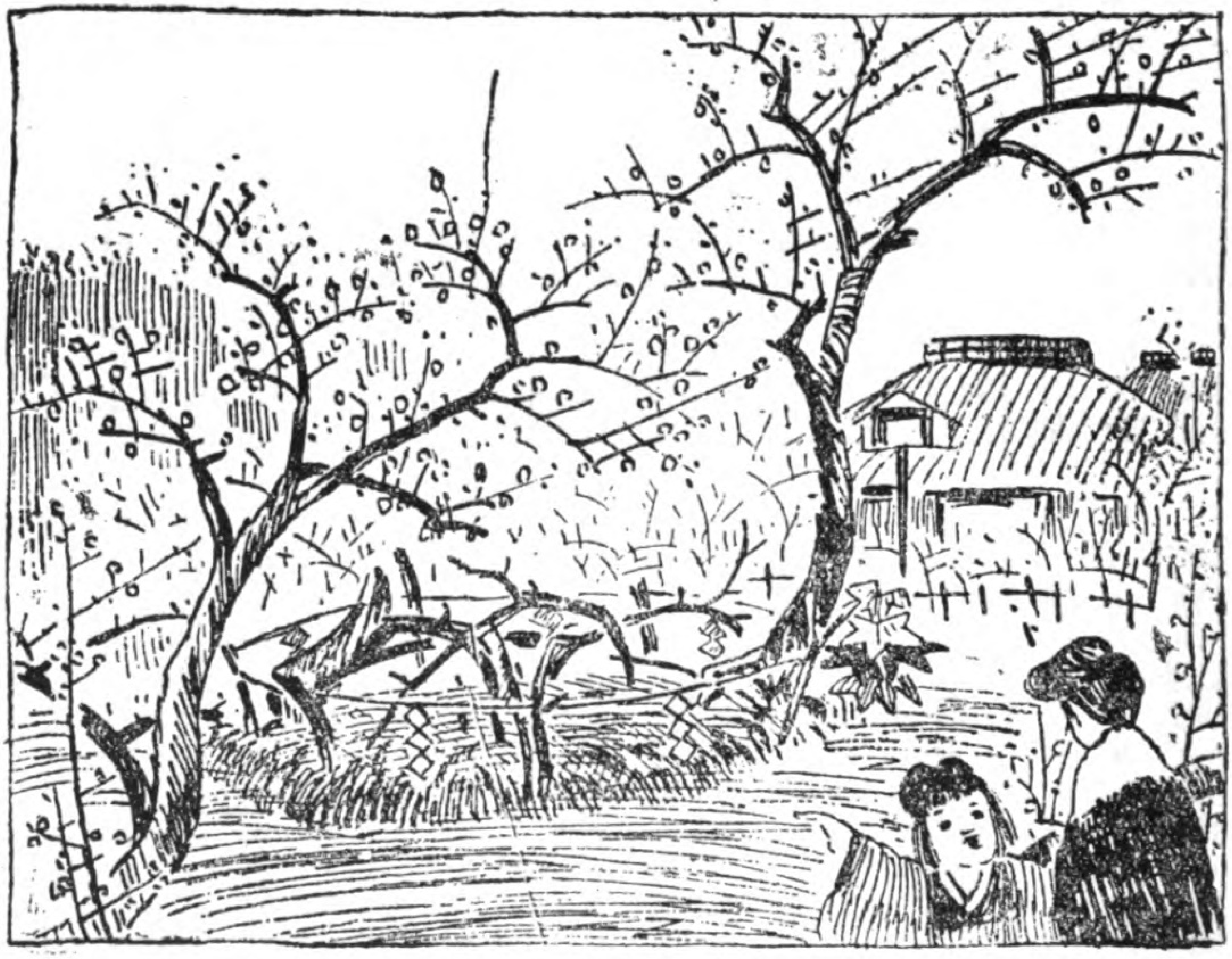
他は押して御承知のこと、つまり博學淺識の奥様と申つべし。お料理は下女まかせ、お仕事はお針まかせ、家事一切は旦那様まかせそれで御自分は朝から晩迄お出あるき、時にはすこぶるトンチンカンの、御言葉も出るやうなれど少しはヒステリーもお手傳と、承れば別にふしぎもなかるべし。

大山なを子夫人

岩崎様よりはズッと下つて一千二百圓　それでお孃様三人に坊ちやま二人、旦那様と都合七人高等官中でのお多人數、下女只一人おつかひ遊ばして廣いお家にチリ一つ止めず、お孃様には毎日の御通學におそろいの御洋裝、坊ちやま方には愛らしき海軍服、旦那様には夏冬共に流行に後れぬ御支度、そして御自身許りは洗ひ張りのものに御滿足遊ばして……此の多人數の御召もの決して外には御出しにならず洗ひ張り縫返しは固より御洋裝の御仕立迄すべて奥様の御手一つ。それで毎月キチン〳〵と貯金を遊ばす上尚御親類の御面倒まで御覽遊ばすとか眞に奥様の好模範。お年はまだ三十一、お茶は千家の裏を只今御稽古中、お花は遠州をすでに十分御上達、お美くしい上にお色が白くてお脊が高くスラリッと恰好よく上品に、御口少なで氣のおけぬ、眞に女でもホレ〳〵するやうな奥様。こんな奥様をお持ち遊ばした旦那様こそ御幸福。

木山はま子様

お色が黒くてお顔もまづ御仲間の方なれど御身體が大きいためにどうか押し出しのきく、お美しいといふよりも、おやさしいと申上ぐるよりも御立派な奥様ぶり尤もお年も四十近い。極をとなしい方なれど何處かむづかしい所があるといふ評判、されども決してにくまれものといふわけではなく少々敷居の高いといふお家、別にお茶菓子に迄御倹約と申すのではなけれども隨分とよくおしまり遊ばす方にて、其代り事情に依つ



ては十や二十は何時でも御ゆづうがきくとのうわさ。坊様お二人は中學校に、一人の孃樣は女學校でいつも優等、旦那樣少々御むづかしき方なれど先は平穏無事の御幸福なる奥様と申して……此方は千八百圓の課長樣。

高田いと子様

旦那様は法學士、お子様は坊様お一人に孃樣御一人奥様のお年も未だ二十八とか、立派な美しい奥様月に百圓以上の收入はあれど、旦那様大のお酒ずき、すきとはおろかお酒の蟲、殆ど

川ねもす從もすがら……其の上少々御くせがあしく、どうやら此度も御酒の爲めに或はとんだ事になりはすまいかとは人の癇氣を頭痛に病む連中のうわさ、お若い身そらで奥樣がお可愛さう、どうか末長く圓滿に御暮し遊ばすやう神かけて願ひ奉る。

小原いく子夫人

この奥樣、旦那樣より三つ程姉樣なるをひどくお氣に遊ばしてそれは〳〵ハデなおつくり、五十に近き御年ときくも笑止や、十六貫何百の御身體、特別大に爲らつしやる上に、お顔がすこぶる非常の滑稽的と申上ては餘り失禮なれど、とにかく上下切つての評判奥樣、それがまた御利口なと申さうか御智恵があると申上やうか僅か千圓の俸給で、坊ちやま三人は中學校に御出ましなれば其學資でも少々ならず入ものぞ、旦那樣は元より御自身にもいろ〳〵流行の柔かもの、それに時時の御贈りもの、御立派さ、此方から差し上げるもの古來かつて一度も御氣に召した例なしとは無理からぬと而も御口上手にて天にも地にもないやうな御禮の仰言りやう伺つて居ても脊に汗が流るゝ、女中にそつと蔭口きけば、御無沙汰すれば禮知らず、繁々伺へば仕事の邪魔をする不躾もの、さし上るものは御氣にめさず空手で伺へば心得なしと御叱言殆ど堪へる暇なしとか何とも機嫌のとれぬ奥樣。旦那樣は出張の御留守などには男の御客樣御出入り遊ばして私など見も知らぬ花合せとか遊ばす由、而も本物で、そんなとでかどうかは知らねど夏冬の御衣更などにはあやしき婆出入して時には大きな風呂敷の出し入れもあるとのこと、何かは知らねど中々の奥樣、まづよらずさはらずの方安全なるべし。

（完）

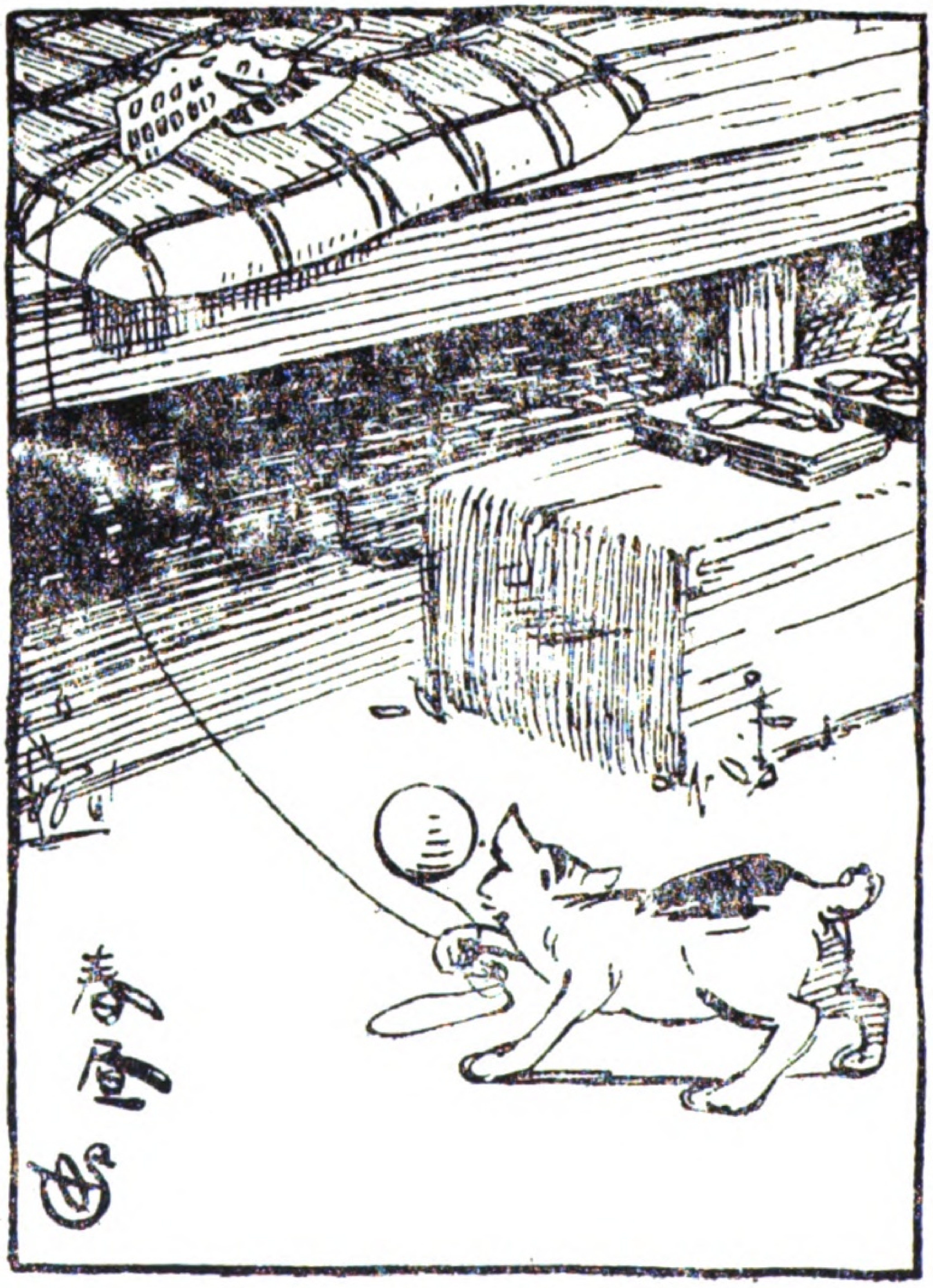
女先生の評判記

紅顔女

村井先生

今年の三月の高師の文科出、お年はやつと二十三と

か脊はあまり、お高くないが、小じんまりした、丸顔の一重瞼の落着いた御眼、色は少しお黒いが女先生中での美人だと誰でもの評判、前髪を思ふ樣庇に、お出しなすつて根を下の方に、飾のない、三枚櫛が一層品をます新時代の空氣を吸はれたゞけに、何事も新式で、自然主義の小說を愛讀なさるので「孔子曰く」が口癖の校長には不受だとか、少しも見識ぶらない、御やさしい愛嬌のある、何處と云つて缺點のない先生、良家庭にスーと曲らずに御成長なすつたと思はれます。



上級の生徒からは特別にしたはれます、中には、其下にお袴をはいて、何時も白襟の襟元を、きつと合せて、胸の方をゆつたり、たるめた、衣服の着樣を迄、眞似る人がございます。女らしい、優しいばかりではなく、テニスが、お好きで、毎日のくらゐ、コートに立たれます、學校に居た時分は、チヤンピオンだつたさうです、其せゐか、裁縫が嫌ひとか、それだけが、玉に瑕、東洋歷史と、修身と、作法となさいます。

清水先生

これも同じ今年の高師の技藝科出の方、村井先生とは科こそ違へ同じ室などになつて、大仲善だつたさうです、その仲善同志が、同じ學校へ來られたのだから今も仲の善い事、姉妹の樣でございます、お顏は村井先生とはまるで反對、色の白い、ぼつてりした、やはらかさうな肌、上瞼が、かうぼうつと、はれぼつたい樣なそれがなんとなく顏中を可愛く見せる、一口に云へば、子供らしいお顏です、村井先生よりは美人だと云ふ人もございます。

お話しなさる時も、ちよつと甘えた樣な喋舌り方をなさるし、一たいにすべての擧動が子供らしいです、それで居て、どうも不公平があるやうな氣がします、風采のいゝ人や、美人には、ちやほやされますが、バンカラな人や、不美の人には、嘲笑的の事をちよいちよい云はれるので、一部の生徒には好かれ一部の生徒には嫌はれます、本科四年と、技藝科三四年の裁縫や手藝を受持て居られます、この暑中休日中に、海軍中尉の方と、結婚なされたさうで、今に小松と、姓が變るさうです。

小島先生

音樂の先生、お年は三十の上を餘程越していらつしやるさうです、師範を卒業なすつてから、小學教師をして、ゐらつしやる時、矢張小學校の教員の方と、結婚なすつて二年ばかり、家庭を作つて居られたさうですが、趣味が合んからつて、自分から出て、そして、音樂學校をやつて、いらつしやた程の方ですから、中中きつい、しつかりした先生、四部合唱などに、どれ程叱られるものか知れません、樂しいはずの、音樂が一向面白くもなく、出る聲も縮んでしまひます。

お脊はお高いが、髪の毛が、少なくつて、其の上ひどい縮れ、束髪にして居らつしやいますが、まつたくお氣の毒ですよ、お顏もよくは、ありません、この間誰かゞ、小島先生は、谷間の姫百合だつて云ふので、

どうして？ と聞くと、兩方の頬が高くて、鼻が其陰にあるからですつて、ほんとに油斷が出來ません、かうですもの、一生獨身で送らるゝさうです。

淺田先生

裁縫敎師中での古參、六人からある裁縫敎師の牛耳を執つて居られます、渡邊(裁縫女學校)の出身ださうです。お年は小島先生より二つばかり上らしい、オールドミスでございます。補習科全體の裁縫其他の手藝を受持て、居られます。島根縣の出身ださうで、武士道で小さい中から、鍛えられた事を御自慢致されます女大學でかたまつた人です。オールドミスの、缺點を備へて居れる樣な氣がします、人を白眼で見る、嫉妬の強い、が、それを巧に、かくして居られるだけえらいと思ひますさすが永く世に採まれ給ひしだけあつて、人前を作る事の上手さ、校長には、一番信用が厚いさうです。

寒い冬の日、火鉢に集まつても、所在なさに、よく、この先生の、獨身で居られる意味を研究します。或人は、失戀のためだといひ、或人は理想の高いためだといひ、また或人などは「小さい時からの許嫁が東京で勉強中になくなられたので、それで操を立てゝゐらつしやるのさ」などゝ實しやかに云ふ人がありますが、何もお話しなさらない事ですから誰も知らうはずはありません。

小川先生

英語の先生でございます、學校は靑山女學院の專門部ださうですが、八つの時から、西洋人の所に居られたとの事で、發音が正しくて、會話などは西洋人でも驚くさうです。だから私等にも、生かぢりの事は少しもなさらず。否でもなんでも、引ぱつて、どん／＼致されますで、敎授中は隨分きびしいけれど、同情深い、親切な、なんだか姉樣の樣な氣が致します。

おしい事に脊が、人並よりも、餘程お低さいので、お氣の毒でございます。それがために、獨身で送らる

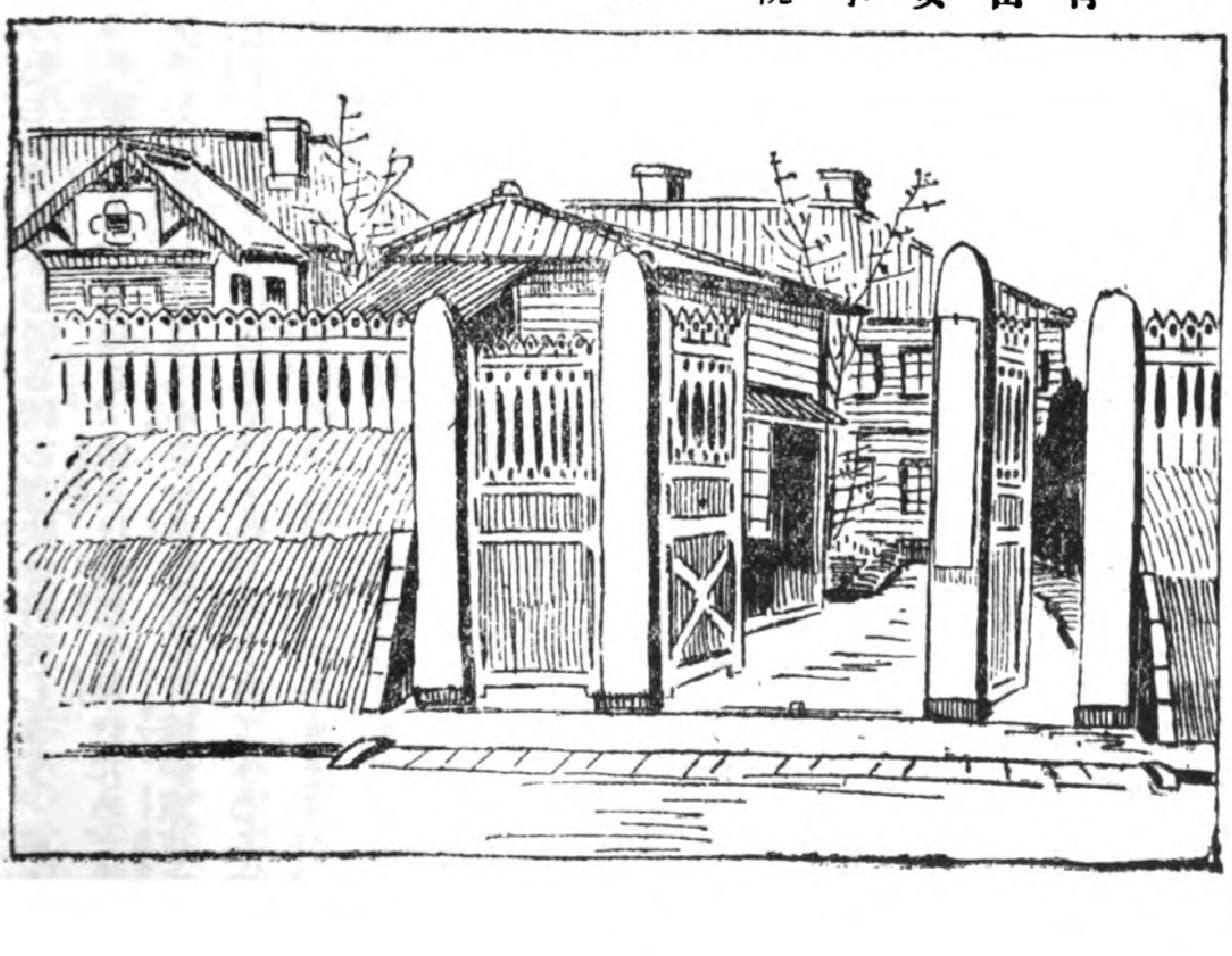
るとやら、お年は三十あまりの樣でございます。ふさはしい御縁があつたら、結婚なされゝばいゝになどゝ餘計な心配をして居る人もございます。缺點なのは、ちと周章なさる事でせう。新任紹介の時、五百からの生徒が等しく注目して居る前で、臺へ登られる時、パタリと、臺に、躓いたので、生徒はどうしても、笑をおさへる事が出來ませんでした。

此外にも御座いますが生徒の身でありながら先生の批評をいたしては申譯ない事でございますからこの位にしておきませう。

△米國大統領の机

米國大統領の机は中々曰くのある珍品です。嘗て、サー、ジヨーン、フランクリンの行衛を搜す爲めに英國はレゾリユート號と呼ぶ船を米國の北海へ派遣しました。處が氷の爲めに進退谷まつて其儘になつて居たのを、米國の鯨取りが之を發見したのを今の大統領が米國民を代表して、英國の好意を表すべき紀念としてヴヰクトリア女皇に送つたとがありました。そこで、英國の造船所では船體を毀して、一の机を作つて米國大統領の親切を謝する爲めに送つたのが今の白堊館にある大統領愛用の机であります。

青山女學院　(校長イー、アール、ベンダー氏　府下澁谷)



食卓十二ケ月

シッポク料理と普茶料理

桑原東涙



△シッポク料理の炮烙焼

一人留守して、何となく話敵欲しき、春も彌生の晝過ぎ、門の格子の鈴の音に、耳欹てゝ、立出でた若奥様、訪ふ聲に笑を浮かして。

「アラ叔母様……」と如何にも嬉しさうに、先に立つて茶の間に招じ入る心易立て、

「叔母様が度々お訪ね下さるので私もホンに氣丈夫な様な氣がしますの。」

「でも澄さんが世帯を持ちなすつてから未だ半年にもならないから、家の取廻しが如何か知らと、何だか氣になつてネ、それにお母様は御用の多いお軀、私の家は至つて人少なですから、時々お母様代りにと思つてネ、おせつかいな譯だけれど。」

「アラあんな事お仰つて好い處へいらして下さいました、今日は土曜日なので、主人は歸りにお同僚を四五人伴れてくるとお仰ッたのですけれども、別にお献立をする程でもないお親しいお交際ですが、何か變つたものを今一品添へたいと思ふんですけれど困ッてるのヨ。」

「外の品は皆揃ッてゐるんですか、五品ですか七品ですか、一寸會席風にでもする積りなの。」

「イエ、何にそれ程にしないでも好いの、實はなるたけ世話のないので、お格好に擧げたいのですヨ。」

「そんならシッポクで出して、炮烙焼といふ一寸目先

の變つたものを一つ加へたら好いでせう。」

「叔母様、シッポクつて如何様事をするの。」

「シッポクといふのはネ、支那料理の仕方で、支那風の大きな食卓を据ゑて、四人でも五人でも、十人位までは一臺で構ひません、其食卓の周圍に、食事に入用なお箸、お皿、之も深目のと淺いお皿と要るので、蓮花かスプーンでも添えて、人數に應じて並べて置くので、そこでお客様がお出になつたら、仕度のでき次第に、お膳に御自由に着いて戴くのです、先づおさしみを食卓の眞中に据ゑて、自由にお小皿に取分け、さしみ醤油のお猪口が配つてありますから、それを附けてお食りになる、大概召食つたと思ふ時分に、次の御料理を出して、おさしみの大皿を退いて仕舞ふのです、此様な風にすると、ズン〳〵方が附いて行きまして、お交際も親密な様で、一寸西洋風なところもあつて、全くの日本風にやれるので、誠にお手輕にまゐりますヨ、恰度今日は暇ですから、私が手傳つて上げるから行つて御覧なさい、別にむづかしい事はありません。だが御献立を書いて御覧なさいヨ。」

「先頭魚屋と八百屋から少し許探つておきましたが、此様なもので間に合ひませうか知らん。」

「なに何でもやり様ですのヨ。先づ「おさしみ」ですネ、鯛があるから此様なさい、鯛を「おさしみ」の様に厚目に切つて、山吹の花の様にお皿の中に並べ、花の心のところに、湯煮卵の黄味を入れるのです。妻は何か見立てゝ入れるとして。

一、おさしみ、山吹鯛

一、お吸物、三月ですから菱餅を少く切つて、櫻海老に、鶯菜を青味にして、早蕨を入れ、澄し汁、これは此間大きな蓋附の錦手の鉢を上げたでせう、あれに入れて出すと好いのヨ。」

一、うま煮、筍、獨活、蓮根、銀杏に、鶏の身で五品、銀杏は殻は裂つて、炮烙で炒ッておくのですヨ。

一、木の芽和、之は白魚の湯引を山椒味噌で出す。

一、炮烙燒。

之は四五人の御客なら、一尺二三寸位な炮烙を二枚

買つてゐらつしやい、一枚の方に饂飩の粉を薄く延べて中に敷くので、其中に里芋とか、人參とか、生麩とか、ヒロスといふものも入れるのです。ヒロスといふのはお豆腐を絞つて、擂鉢で擂り、木耳の刻んだのと麻の實を入れて、五厘銅貨位にまるめ、胡麻の油であげたものですが、之は精進の時に使ふのです、今日のは腥の方が好いし、またお滋味いから、鯛の殘りを好い處だけ四角にお切りなさい、それに前の野菜の外に、慈姑も一處にして好く味を付けて、饂飩粉の延べてある中に入れ又別に饂飩粉を延べて、其上にかぶせ、それから別の焙烙をまた其上にかぶせて火に掛けて燒くのです。燒く前に煮汁も少し入れておく方がお滋味いのです、火が充分廻つたと思つたら、又轉倒して燒く。中の身が熱くなつた



ら其儘お客樣の前に出し、蓋を取つて、饂飩の粉の焦げたのを取除けて仕舞ひ、各自箸で中のものを取分けて食べるのです、これで五品揃つたから、此位で澤山でせう。此炮烙燒は九州が始まりで、大阪でも、京都でも、自慢なお料理屋がありますョ、尤もお料理屋のは材料に好い物を種々入れますから、格好には上らず、その代りお滋味い、けれど手前拵でもなか〳〵滋味いもんです、一寸目先が變つてゝ好いでせう。

一體このシツポク料理といふのは、シツポク臺といふチャブ臺の樣な立派なものが出來てゐるのですが、なにチャブ臺でも、一貫張の彼のお机でも間に合ひますョ。之を精進ですると、又名が違ひます。

△普茶料理

東京でも本所の五百羅漢で元此普茶料理を出しまして、通人の方などが嬉しがられたものですョ、しかし普茶料理はシッポクの精進物許でするのをいひますので別に變つた事はないのです、私が思ひますに、此頃は普請が大分地味におなりで、お宅へ御同僚をお招きになつて、會食を遊ばす事が流行つてきましたのは、誠に結構ですが、其都度會席風にしてゐては、人手の少ない家ではなか〳〵骨が折れますから、皆其儘出して各自御勝手に取つて戴く樣にしたら宜敷からうと思ふのです、それにはこのシッポク料理といふ遣方であるのですから、日本の家の構造からいつても、洋式を折衷するには、これが適つてゐると思ひますョ。

それに道具も別に多くは要りません。大きな三ツ組の鉢が二組に、小皿の淺いのと深いのと十枚宛と、蓮花が十本もあれば、何時でも間に合ふのですから、新世帶には持つて來いです。

「アラ最早三時……程なくお歸りだらうから、御手傳しませう。」

「叔母樣、未だ御悠然で好くつてョ。」

「だつて御客樣のお見えになつてから、お臺所のガタガタするのと、香のプン〳〵するのは、餘り好いものではありませんョ。」

「それでは……」と、加勢の出來た喜びに、勇立つて

甲斐々々しき襷掛今日結つた許の赤い手絡の丸髷に、フワリと手拭を姉様被、叔母様はこの幼稚な風を見て眼に潮を寄せて恍惚てゐたが、フト臺所の鼠不入にある袋を見つけて、

「アラ若い者は困るネ、いくら腐敗らないつて此様に胡麻を買ふ者があるものですか、澄さんコリヤ如何したノ。」

「厭な叔母様ネホヽヽ何んぼ何んでも其様に買ふものですかネ、これはお友達がお



國から送つて來たからつて分けて下さつたのヨ。」

「そんなら好いけれど氣が効かないネ、此様に澤山あつたつて仕様がないから、此様な時にこそ胡麻豆腐でも拵へるのですよ、之は手が掛るから、今日のには間に合はないが、二三日中に又來るからお拵へなさい飛んだお滋味いものですヨ。」

△貰物の始末に困つて思附いた胡麻豆腐

「この胡麻豆腐は普茶料理の様な精進には附物で、口

取の節飾に使ひますが。只無暗に食べられちや張合がありません、拵へるのに骨が折れて、手が掛るから、講釋附でお出しなさいョ。ホ、、割合はネ酒白胡麻一合に、葛粉一合、水三合の割で、白胡麻を、炮烙で輕く炒つて、之を擂鉢で擂つて擂つてすり拔くのです、すると全然餅の樣になつて來ますから水嚢で裏漉に掛け、粕を除去いて深い煮鍋に移し、葛粉を水に浸したのを入れ、白砂糖を適宜に加へ、それに酒鹽を猪口に一杯か二杯注して、文火で攪混ながら能く煉るのです加減を試て、味も好し、火も通つたと思つたら、切溜の蓋か、お重の淺いのか、後で切るのに都合の好い深さのものに詰めるのです、三四時間經つと、羊羹と同じ樣に硬くなりますから、それを體裁好く切つて附添へるのです、そのお滋味さは又格別で、只別に胡麻豆腐許りお皿に盛つて、松魚節の滋汁を附けて食べても宜しいのです、これが出來ると、同じ仕方で胡麻掛といふものも出來ますョ。

△胡麻かけ

之も多人數に出せるお料理で、前の胡麻豆腐よりは緩いので、仕方は同じですが、水の分量が多いのです胡麻一合、葛一合、水五合の割合で、それに味をつけて置き、里芋、人參、獨活、蒲鉾、又は半平かお魚の身を賽の目に刻み、生麩なども入れ、松魚節の滋汁で味を付けて、之を大きな鉢に移して、胡麻の葛煉位な濃さのをかけ、其儘蒸籠に入れて蒸し、熱く蒸れたのを、お客樣の前に出すのです、一寸葛の餡掛の樣ですが、それより味は遙かにお滋味のです。」

「ホンにお喋許りしゐて、モー火が起ッたノ、それおや私は鯛をおろして上げませう。」



羽二重の名産地

生活費の低廉なる福井市の俗風

雪子

△晴れぬ土地

越路は概して雪多き處とは皆様御承知でせうが。今はそんなには降りません。昨年も一尺ばかり雪にはさほど驚きませんけれ共。四季いつも陰氣に曇つて居ります。夕鳥のカア／＼と淋しくなき渡るのなど。一しほ悲しく北陸の淋しみ。身にしみ／＼としみ渡ります雲ひくうたれだ日はほんとに胸も迫るやう頭も重く覺えます。雨の日も淋しいです。降り出したら二三日はきつと降ります。又梅雨の時など恐ろしいやうに降りしきります。十月の末よりは雨多くやがて霰となり雪となります子供の爲めにも。子供を育てる人のためにもほんとに、可愛想な土地です。

△言語と奇習

當地の言語はよく分ります。發音のまちがひもあまりないやうです。たゞ語尾を長く／＼引くのが癖ですあのーをー何さんがーあーと引つぱります。其他取りたてゝ云ふ程の事もありません當地の人の言葉を陰で聞いて居ると。調子が高く又笑ふ聲の大きい事。驚くばかり土地の女二人よると話の切れ目には。天井も拔けるばかりの聲で笑ひます。奇習としてはお嫁さんの來る時饅頭もらひとて。大勢の子供が其家の前に集り今か／＼とお嫁さんの來るのを待て居ります。やがて參りますと皆に饅頭を分けるさうです。又二三日過ぎて親族知己を京人形のやうな嫁さんが廻る時も、大きな饅頭を手土產といたします。子供が生れた時もやはり饅頭をくばります。

△羽二重の產地

福井といへばすぐ羽二重を連想しませう。誠に當地

は羽二重の產地。此地で一ばん巾の利くのは羽二重商です、機屋も隨分大きいのがあります。紋羽二重綾織などもいたしますけれ共。おもに輸出向きの幅の廣いものを織るやうです。出來上つたものは、羽二重屋の手に渡り、荷造りをして、橫濱へ送り海外へ積み出します。大勢の工女を使ひ電氣を引いて大仕かけにする機屋もあれば。我家に一ッ機臺を置いて織るものもあり。又可愛い子を祖母にあづけて。機屋へ通ふ女もあります。霜白い朝でも、月凍る夜半でも、機の音は、町のそこ〻に聞えます。秋の長夜の月傾いた頃。かすかな機の音と共に、女工の唄ふ淋しい歌を聞いた時は、又更なる悲しみを覺えます。活氣なき福井の町も此羽二重により稍發達を望まれませう。此頃ではリボンなども織り出します。其機械はよほど複雜で、七筋程一度に織れます。

△風俗人情

北國の人の氣質は陰險なと皆樣申されます。それは氣候に連れてならんと、思はれます。都の人のやうにサッパリした處はないやうです。其かはり、なか〳〵忍耐は强いです。又西京風か外見を飾る事はなか〳〵です。日々の食事など隨分粗末でも他出の時は立派にいたします。婦人連は筒袖がけでよく働きます。なかなかの儉約。それもたゞよき衣得たい爲かと思はれます。總べて此地の町は活氣なく。往き來の人の顏の色さへ餘りに蒼白い。折角着飾つて出た婦人も京人形のやう、二十世期の女の活氣は何處に見られませう。當地は佛敎の盛んな土地。寺院も多く老人連は參詣に日もたらぬ有樣。若き人に比して老婦人は元氣です。佛の御惠みと申ませうか六十以上でも杖ついた人はありません。一人者の老婆など家をしめては日毎の寺參り。盜賊の噂も聞かぬは佛の御利やくか。人氣は誠に穩です。中以上の家では娘を女學校迄やりますけれ共それ以下の家では大てい機織りの女工にいたします。年頃の娘で家に居る者はありません。從て下婢などは誠に拂底です。他の地方から來て需用に應ずる位。よ

い者は稀です。當地には普通の學校は總べて備り、男女の學生も大勢居ります。又醫業の盛んな地で岩佐侍醫、橋本博士なども當地の出身ときゝました。其他の開業醫も澤山あります。雪の積る事は一尺餘りですけれ共。風はあまり吹きません。寒中など霜柱立つ東京に比しては却て暖い位、ただ寒さが長いのみ。しかし當地の人の寒がる事は非常なもの、子供にも驚くばかり重ね着をさせ、運動の自



由を妨げる位、十月の中旬より五月迄に火燵に炭を起し通し、夜も火燵で寢みます。雪帽子とて綿の厚さ一寸ほどのものを、赤子の頭より目も見えぬ位にかぶせて歩きます。福井の人の不活潑の所爲でせう。町は廣いけれ共誠に活氣なく他地方の如き發展は望まれません。夜など通りましても電氣の光り冷やかで客を呼ぶ聲もなく。足は自ら家路へ向ひます、正月とても門松を立る家もなく。七五三を

はる家も少く。ただ業を休む位。都の初荷や賣買り思ひ出せば一しほ淋しい。私も此淋しい新年を三度いたします。概して當地は静かなじみな土地人氣は穩かで物價は安い。都會の戰ひに破れた人や、老後を靜かに養ふ人などの、住ひには適して居りませう。人の氣質もなか／＼利口故心して交つたならば、益する事も多いでせう。

△公園記念

當地は此春迄公園はありませんでした。九月に東宮殿下行啓になるに就て足羽山を開いて公園といたしました。熊笹生ひ茂る山を開き赤土を掘りて、廣き道と廣き平地を造りました。それに就て總べての學校生徒と、市民は、土を運びに出ました。時は夏の盛り照りまたゝく日の下での勞働どんなに辛かつたでせう。小學生徒は歌をうたひ遊戲をなして慰めました。總べての人の勞力と精神とに依て足羽山は立派に開かれました。行啓記念の公園はた神聖なる勞働の記念として、福井市の上にかゝやきます。山はかなり高く頂上に繼體天皇の石像があります。福井全市を足下に見下し、足羽川は一筋帶のやう、廣き平野を越して波のやうな連山を望みます。一際高く白雪を頂いたのは、加賀の白山です。昔羽柴秀吉此山の上より柴田勝家の北の庄を見下して、遂に戰ひに勝たよし。今は斯く打ち開けた公園地。今昔の感に打たれます。此山續きに招魂社と、共同墓地があります。

△飮料水

當地は堀井戸を使ふ所もありますけれ共。大ていは芝原上水とて九頭龍川の支流を引いて飮料にあてゝ居ります。これは全市を流れて居る。市中の川を上水。惡水。に分ちます上水は飮料のみに用ゐ少しでも物を洗ふと罰金を取られます。しかし川水の事故、雨が降れば直ぐ濁る。風が吹けば塵がはいる。其他蟲なども居りませう。考へると不潔で氣味がわるい。何んの事はない開放した水道です。馴るればさほどでもなく。

皆これを飲料にあてゝ居ります。川水はお茶がよく出るなどゝ、平氣なもの。一年に一度大水引とて。三日間少しも此水の來ない時があります。其時は大へんに困ります。餘り汲むので堀井戸も水切れとなります。汲みおきの水も殘り少なになり行く時はほんとに心細い、一日も早く水道が敷かれるやう、心から願つて居ります。



△城内の試農場

昔は松平家の居城今は通行が出來ます。内外の濠にかこまれて、樹木は鬱蒼と茂つて居ります。城内には松平侯爵邸と。結城秀康を祭つた佐佳枝神社。中學校。圖書館。などあります侯爵の邸内には廣い試農場があつて技師を聘して種々珍らしい野菜果物を作られる由。侯爵は大ていこゝに住はれます。城内には櫻の木澤山あり。春は見事に咲きます。雪にも似た花びら片々と水の上に散る。春の

夕もなつかしければ。澄んだ水に紅葉した楓やいてふが。逆にうつる、秋の朝もすてがたい。池の白蓮匂ひ高く、お宮の白鳩、お濠の緋鯉、子供のいゝ遊び場所になつて居ります。

△名所舊蹟

取たゝて名所といふ程の所もありません。藤島神社は官幣中社新田義貞を祭ります。藤島山の上にあり又義貞戰死の跡は、東明寺畷とて、少し離れた處にあります。昔北陸に時めいた柴田勝家の城址北の庄には柴田神社とて、さゝやかな社があります。橋本左内の墓は妙園寺に在ります。永平寺は當市から四里。さすが曹洞派の本山とて。莊嚴を極め四時參詣の人が絶えません。殊に秋の彼岸前後には幾百と群をなして參ります。吉崎の別院は五里許り。北潟を前にして砂白い邊に在ります。こゝには有名な嫁おどし肉付の面があるよし。毎年五月には諸人に見せます。蘆原溫泉は五里程清らかな鑛泉で、土曜より一泊がけには此上なしです。昔秀康の子忠直大阪陣に功名ありしかど、恩賞の少なかつたのを怒り。色々の亂行あり。終には。はらみ女の。腹をさいて子を取り出すなど。身の毛もよだつやうな狂亂を極めました。其時使用した石の爼は今でも二里餘。はなれた大安寺にあるさうです。此事に就ては種々物語もあります。

春は城内の櫻。秋は瑞源寺の萩。足羽川の夕照なども捨てがたい眺めです。

△生活程度と物產

生活の程度は低うございます。米のねだんなども大阪に比してはよほど安いです。其他炭や薪なども安い故。雪の降らぬ内に澤山に買ひこみます。税金は隨分と取られますけれ共。家賃などは他地方よりよほど恰好です。當地は雨多き土地故、野菜果物等あまり上等の物は少いです。只。里芋に葱。これはよく出來ます其他名物とてもありませんけれ共。羽二重の手巾などは餘程廉價で求められます。其他三國港でとれる蟹に、

雲丹はお酒飲みが喜ばれます。前にも申た通り雨多き土地。又雪消の道などはなか〳〵に悪い。從て下駄屋に傘屋の多い事。品物も上等です。當地のお豆腐は何たが他よりすぐれて居ると思ひます。先づ當地は一般に穏かな靜かな土地お天氣は悪いけれ共物價は安く人はやさしい。新進の氣に富む若い人には向かないけれ共。老後を安く養ふ人や。靜寂を喜ぶ人。しづかに物思ふ詩人などに。適しはしないかと思はれます。これは他國人たる私の見たところでございます。



鈕釦は、どうして作りませう

（家庭工藝夜話の第四）

石井研堂

ボタンにならない物は無い

「おつかさん。シャツや洋服に着いてる鈕釦は、皆一つゝ作るのでせうか。それとも、機械で一度にどつさり造るのでせうか。」

「皆一つゞゝ造りますのです。」

「どうして造るのでせう。」

「一口に鈕釦といひましても、此の節の鈕釦は、貝もあり、牛角もあり、骨もあり、セルロイドもあり、木も布もボールもあり、堅い方では、眞鍮其他の金屬もありますから、製造法も皆違ひますよ。」

「そんなに色々ありませうか。」

「ボタン屋さんに買はせますと、世の中の物、何でもボタンにならないものは無いと申してます位で、それはそれは澤山の種類があります。」

水牛ボタンの製法

「内の節さんの洋服に着いてるのは、牛角なさうですが、あれの作り方でも宜しうございますから……」

「水牛といひますのは、水牛の蹄ですね。先づ好みの厚さに挽いて、板にします。その板を火で炙りますと、軟になりますので、それを、打ち拔きで、一つゞゝ打ち拔くのです。」

「それから、うら表やまはりは、急に廻つてる鑿に當て、幾度にも削り上げますが、表の方の、中が窪くて縁の高いのなどは、刄先の眞中が高くて兩端の低い鑿に削らせますから、思つたよりも容易くできます。縫糸を通す四つの孔は、四本の錐が、廻つてます先へ持つてッて、四つ一度に明けるのです。その後で、むくの葉で仕上げをするや何かで、あの樣にすべ〳〵した、色のいゝものになるのであります。」

貝ボタンの製法

「貝ボタンは、最初に、打拔にかけましたら、こはれませうね。」

「貝は打拔にかけません。傘の轆の樣な圓い管のさきに刄の有る鋸にかけ、一つづゝ挽きぬかせますが、その速いことといふたら、目のまはりさうですよ。そして、この方は、小さくて薄い鈕釦が多いのですから、表うらを磨りますにも、一つづゝは磨らず、昔一朱銀や二分金など勘定しますに使ひました金升の樣なものがありまして、それへ一つ並びに行儀よく入れます。そして、砥石にかけ、一度に百も二百も磨つて、平にします。孔だけは、矢張四本錐であけますが……。」

「作るとこを見ましたなら、面白いでせうね。」

「目黒に、貝鈕釦製造所といふのが有ッて、大きくやつてますから、序が有つたら、見せてお貰ひなさい。あそこの、白井權八に小紫の塚なんど見るよりは、どんなにか爲めになりますから……。」

「是非見せて貰う樣にいたしませう。鈕釦類の貝は、何貝の殼でせう。」

「小さいのは鮑の殼、大きいのは南洋から來ます蝶貝の殼なのです。蝶貝のなどは、こちらで鈕釦に成つて、又外國へ賣り出すのださうです。

縞ボタンの製法

「セルロイドかの鈕釦で、羅紗の縞模樣通りに、縞色の着いてるのを見ましたが、あれは、セルロイドを造る時に、縞をつけて造つたのでせうか。」

「なアに、あれは、ゴム印で、或る藥品を押したのです。が、上手に出來てますね。中には、その縞を着けた上、縮緬の樣な皺を彫ッた鐵型に當て、叩き付けて皺を寫したのも有りますが、その皺で縞がぴく〳〵になりますので、尚々眞物らしく見えます。」

ボタン採集

「どうでせう。鈕釦といふ鈕釦を、一色づゝ集めて見ましたら、面白いでせうね。」

「それは面白いですとも。多く集めて、比べて見ますと、非常に面白いでせう。どうです、幾色ばかりだらうと思ふね。」

「分りませんね。」

「それでも、ざッと考へて……。」

「さうですね。二三十もありませうか。」

「どうして〳〵。かあさんが、いつか口卸の問屋で見ましたのは、九尺四枚の障子位の額へ、透き無く綴ぢつけておきましたから、何百と有りませうよ。勿論あの中には、一つものと言ふてもよいのが、幾らも入つてませうが、何しろ随分有りますよ。」

「それでは、とても私には集められませんのね。」

「なアにそんなとは有りませんよ。集まるだけでよいですもの。節は、よく夜見世を見て歩くのが好きですから、古いのを見つけ次第買はせればよいでせう。灰水で煮さへすれば、汚くもありませんよ。」

「それなら、今度節さんに頼みませう。」

頭痛と食事心得

◎食物の咀嚼　頭痛の重なる原因は、飲食物の不注意と、不潔な空氣を吸ふからでムいます、殊に前者は主なる原因で、頭痛みの人は多くは、其日〳〵の疲勞を癒し身體を健康にする爲めに食事をするので無く、單に眼及び習する爲めに暴飲暴食をする人の様ですから、凡て飲食物は十分に選擇し、選擇すると同時に十分に咀嚼する事を忘れてはなりません。

◎頭痛を起す物　餘り甘過ぎるものも宜くないし、野菜類や果實類の不足も又頭痛の原因でムいます、何も混つて居らぬ純粹の珈琲は、他の物を食べずに只其れだけを靜かに飲んで居ますと、疲勞から生じた頭痛を癒す事がムいますが、リクームや砂糖を混じた珈琲は反つて頭痛を惹き起します、菠薐草や蒲公英の様な物は鹽煮位で極く簡單に料理すれば腸に佳いから頭痛を癒す事もムいますが、肉と一緒にして脂肪で揚げたのは毒です。巴旦杏も善く咀嚼して少し食べれば頭痛の癒る事がムいますすべて脂肪で上げた物や鹽漬の物は食べ過ぎると頭痛を起しますからこれも注意せねばなりません。

◎腹八合の心得　過食して頭痛を起すのは暖爐に石炭をくべ過ぎて反つて燃えずに火の消える事のあるのと同じです、夏食べ過ぎると熱を病み、冬食べ過ぎると流行感冒を引く事がムいます、從つて頭痛も起るといふものですから、「腹八合に病氣無し」と云ふ事を忘れてはなりません。

◎料理の配合　滋養分に富んだもの例へば牛肉と魚肉を同時に食べるのは佳くないから、牛肉ならば牛肉、魚肉ならば魚肉丈けを食べる様にせねばなりません、腸の弱い人や便通の悪い人の頭痛は殊に二種の肉を同時に食べるからです。又肉類と一緒に水や茶の様な液體を多量に飲むのは慎むべき事で、之れは食後少し飲んで置いた方が宜しう御座います、三度の食事に同じ物を食べたり、毎日同じ物を食べるのも頭痛の原因となる事がムいますから、之れも注意を要します。

◎頭痛時の禁物　頭痛のする時に食べて悪い物は貝の身、櫻實、堅果、濃いスープ、豚肉、鱒や鮭の様な魚、脂肪の強い肉類肉と一緒にしたココア、焼いた熱いパン、甘美な果實、氷を用ゐた料理、肉と一緒にした牛乳、濃い茶、椎類、肉のチヨコレツト、純小麥製でないパン、菓子、鹽物、肉桂類、砂糖漬けの果實、支那料理等であります。

さま〲の家庭衛生

◎婦人の神經衰弱養生法

婦人の神經衰弱症は大抵十三四歳より十六七の頃から起るものです、所謂成女期で最も大切な時ですから若し其徴兆があつたならば是迄の唯だヒタ隱しにするといふ習慣を破つて當人からは母なり姉なりに是を告げるが可し、又母なり姉なりは之に對して充分の手當をしてやるのが宜しいのです、例の神經衰弱は此手當の不充分な處に基因する事が非常に多くありますから念の爲め其時の養生法を申して見ませう

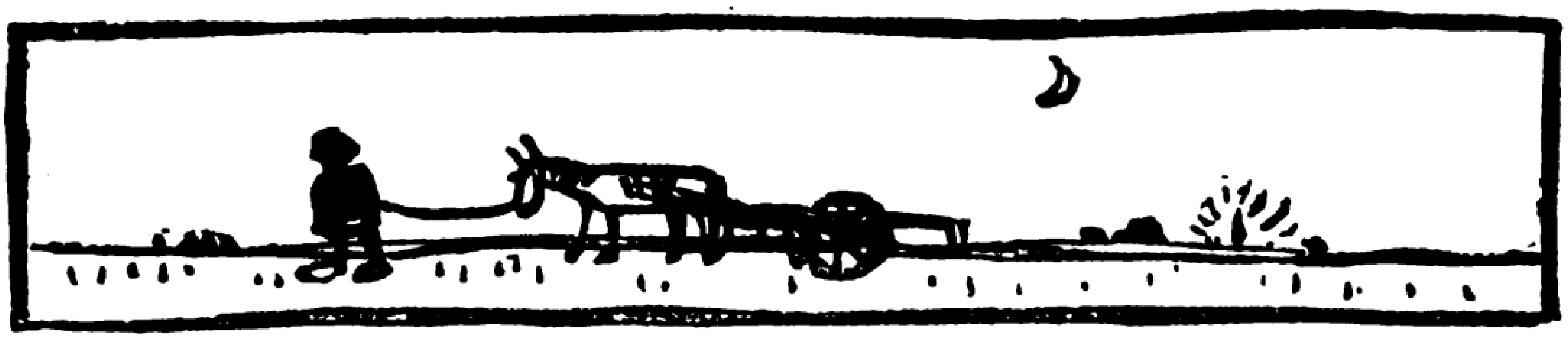
第一　强く神經を刺激する樣の事を避ける事

第二　仕事や歩行を控へ目にして勉めて身體を安靜にする事例へば五時間の業務は三時間、五丁の道は二丁にしておく等

第三　感冒に罹り易い故平生よりも一層注意する事

第四　清潔を最も重んずること、身體の冷えぬ樣にする事

第五　睡眠を餘り多く貪りてはならぬ大抵六時間位にしておく事



◎一體神經衰弱は何の樣の婦人に起り易いかと申すに私の經驗では重に意志の弱い者、移氣な者、常識の缺けた者、中流以上の者、官吏の家庭より實業家の家族に多い樣です、ソレカラ教育の有無を云へば十分教育のある者の方が少ないやうです

◎其れから神經衰弱は勉強の過ぎた爲めだと能く普通に申しますが私の考では之れは大間違の事と思ひます眞正に勉強して或る一定の事を研究すれば、腦は却て正しく且つ强壯になる筈です、處が女學生の人々など多くは無秩序の勉强に耽りわれから求めて神經を傷つける方が多いやうです

◎嫁したる婦人の神經衰弱は御當人からの特發でなくて良人から病毒を感受した場合も少くありませんが斯る場合他には異狀がなくて病毒は直ぐに神經を犯し頭痛とか足部の神經痛とかを感ずる場合もありますから御當人なりその良人の方なども病毒の結果とは知ずに了ふ場合が澤山あるやうです

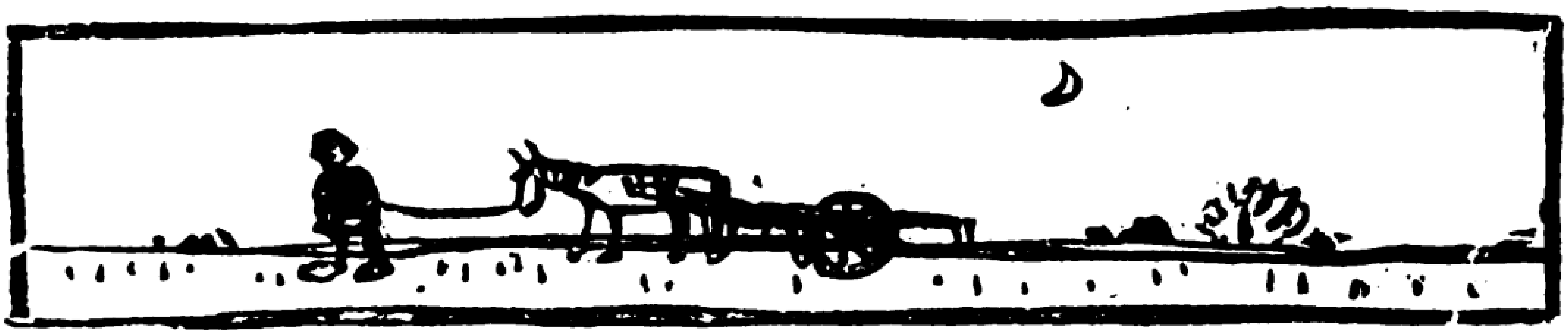
◎母樣が其の病氣でも生まれた其子には一向病氣の關係はありませんが、然し母たる方が神經衰弱に罹つて居る子供に對して怒らずともの事に怒つたり褒める要もない事を褒めたりなどして遂に子供まで立派な神經衰弱に仕上げて仕舞はるゝ樣な悲慘な事もないとはいへません御注意が第一です（富山類生女史）

◎小兒の腸胃病原因と豫防法

◎病原の新發見　メチニノフ教授は黴菌學上の功勞によつて客年ノーベル賞金を得た人ですが近頃佛國醫學院に於て研究の結果嬰兒の早死するのは急性腸胃カタルに罹るからで、其病原は一種の黴菌にあるを発見しました、教授は夫れ迄に幾度か猿と案兒とについて試驗をなし、急性腸胃カタルは眞正の腐敗性の病氣であること、又其腐敗の原因はプロテウスと名くる黴菌の作用であることを知つたのです、

◎健康體と病體の相違　右の急性腸胃カタルの原となるプロテウス菌といふのには、健康體の小兒の糞便中にはないさうですが、病兒になりますと四十人の糞便中三十人までは此黴菌があつた事を教授は發見したといひます、

◎牛乳は原因にあらず　又教授の試驗に依て、牛乳の中には此腐敗を起す所の黴菌が皆無とは云へないが、十中の九以上までは存在してないといふとがわかりましたから、そこで教授は小兒の急性腸胃カタルは牛乳の爲めでないと斷定し、其病原が他の物によりて小兒の體内に入るのだと云つて居ります、然らば何者が此の恐るべき病原を小兒の體内に導くのかと申すと、そは其小兒を養育看護する人が小兒の飲食物を取扱ふ時の注意が足りない爲めだと教授は云つて居ります、



◎體中に入る道筋　教授の分析によりますと、このプロテウス菌は「季節黴菌」に酷似て、夏期下痢季節には甚だ多く繁殖し、各動物の糞便中、牛、犬、猫等のには常に大層多くあるさうです、又牛肉屋の牛の表皮、チーズの皮等にも時々之を認め、其次には大根、サラダ等の野菜にも葡萄の表面には隨分存在し、又これ等の肉菜等を取扱つて居る間に人は知らずく其黴菌を體内に移植するのださうです、但し大人の胃腸は容易に之に傷害されないが、小兒に取つては實に上述の如く早死の原因となるのである、

◎之れに犯されぬ方法　一言に云つて了へば食物を清潔に取扱へと云ふ事になりますが、尙ほ詳しく言ふと、

一　カマンベー（チーズの一種）チーズ等の外皮の黴の付いた所は切つて捨てるが可い、

一　使用に際してまづ葡萄、野菜等は數秒時間沸湯中に入れるが可い、

一　食物を料理し給仕する際にまづ其手を清潔に洗ふが可い、

一　牛乳は實沸或は蒸汽等で殺菌してそれから小兒に與へるが可い、

右の條々に注意さへすれば小兒を不幸に導く腸胃カタルを避ける事が出來るといふのです、

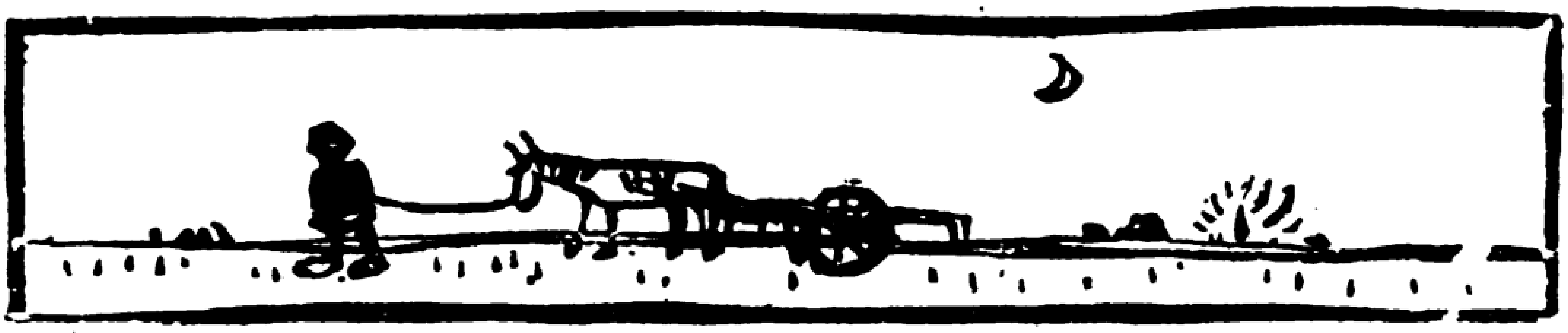
◎小兒に與へる乳と食物

◎近頃赤ン坊を育てるのに、母乳よりも牛乳の方がよいと云ふ説が大分起つて、上流の人は澤山母乳のあるにも拘はらず殊更牛乳で育てる人もある樣ですが、之は大變な間違で、子供を完全に發育せしむるには矢張母の乳に越すものはありません、尤も母が病身であるとか、或は乳が少ないとか云ふ樣な場合、若くは傳染病に冒された時には例外です、

◎母の乳と牛の乳とはどう云ふ差別があるかと云ふのに、牛乳の方は母乳より脂肪分に富んで、他の實質は餘程少量でありますから、滋養の點から云つても母乳の方が勝つて居るし、消化が良いので子供の胃腸を損れる樣な事は滅多にありません、それから同じく脂肪質と申しても母乳のと牛乳のとはいくらか異ひます、そしてどちらが子供に適當するかと云へば母乳の方で、之等の點から比較して見るとどうしても母乳に限るのであります、

◎次に母乳は何時まで與ふべきかと云ふに、生後一ケ年の間は純良な而かも其子供に適當した乳が出ますが、其から後は漸次薄くなつて、母の乳ばかりでは子供に不足でもあり、又母の方でも體の爲によくありませんから、長くとも一年半位までゞそれから先は乳の外に極く軟かな粥を與へるのです、分量は猪口に二杯位、お菜は新しい卵の黄味を解いて與へるのが一番良い樣です、それから漸次子供の歯が大きくなるに從つて適當した種々の食物を與へれば可いので、子供に歯が生えても尚ほ食物を與へずに何時までも乳で育てるのは、一寸子供を可愛がる樣に似て、其實よくない事であります、

◎それから乳母の乳、之は母親に代りて育てるのであるから、充分に調べた上でなければ甚だ危險であります、先づ乳母の體質の健全なるを選ぶべきは申すまでもありませんが、其家に忌はしい血統のない者を選ばねばなりません、此系統と云ふ事は一寸表面からは解りませんから、世間の人が往々誤る事があります、乳母は成るべく生母と同じ位の時期に產をしたものが最も良いのです、母親に乳が出れば此上の事はありませんが、若しさもない場合に於て望ましい乳母がなかつたならば、其時には牛乳で育てる方が悪い乳母よりは遙に安全です、（瀬川博士）



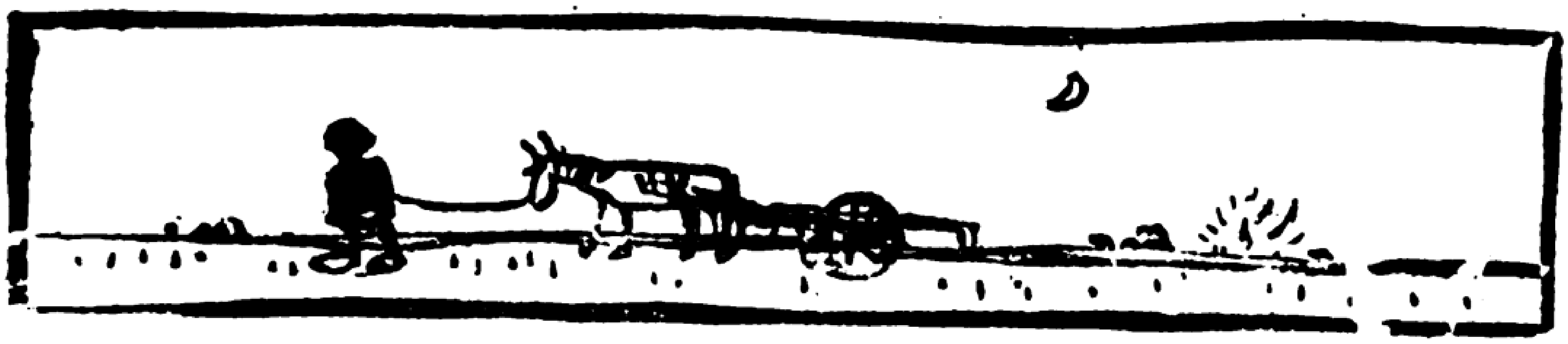
◎小兒の感冒豫防法

◎此頃の病氣といへば先づ感冒で、氣管を悪くするのが、主ですが、咳嗽は、夜と明方に多く出るもので、其の理由は、室内の空氣の腐敗から來るのですから、夜分寢る前に戸を開いて新

鮮な空氣を入れる樣にするが宜いやうです、

◎咳嗽を鎭める祕訣　それでも猶咳嗽が出る樣なれば、室内に繩を一筋引き、それに六疊の座敷なれば、タオル二枚程を濡して掛け、枕邊へ火鉢へ火の能く起つたのを少し埋めて置くのです斯うすれば、室内の空氣が、幾分濕潤して、咳嗽が少なくなります、常に濕度の平均を保ち、室内の換氣法を行ふ事は藥よりも感冒には益があります、感冒を進行させぬ樣抑壓するには醫者の藥が入用です、之れも平常かゝりつけの醫者ならば、見て貰はずとも大抵知つて居ますから、容體を話して藥を貰ひ、直ちに發汗させて、其あとは前記の樣な方法を取れば能いのです、喉を温濕でひたしたフランネルか何かで卷き、其の上を油紙布等で卷いて置いても宜しい、室内の空氣は常に新鮮なる樣、一時間隔に四五分間位窓の戸を開いて、換氣法を行ふ事も宜いでせう、

◎抵抗力を強くせよ　子供は夜分、絶對的外出をさせぬ樣に爲度いものです、其の代り朝十時頃から午後三時頃迄の間は、出來る丈戸外で遊ばせる樣にして、朝早くと晩は絶對に外出をさせぬ事、其れから夜、寢衣は、必ず着替へさせる事、其れも生後半年以後の子供には、寢衣は温めないで着せる方が宜い、さうするには漸次着替ぎわに冷えさせる樣にします、それから朝獨りで顏を洗へる樣に成つて居る子供には、水で顏を洗はせ冷



全身を水で、極小さければ湯で、摩擦して與へると、感冒に罹られぬ許りか、身體の健康を保つ事が出來ます、又これからは學校へ通ふてゐる子供で脚の冷える樣な事があつたら、此頃ならば、股引をはかせるとよいやうです、（富山女醫）

◎寒冒の豫防法

◎寒冒を豫防しやうと思へば空氣の乾燥して居る日などは室内に水蒸氣を含ますやうに心懸れば宜しい之は水蒸氣で鼻腔又は咽喉内の粘膜を濕してカタルに罹るのを防ぐのでありますが然し斯樣な豫防策は老人や赤坊に出來ることで働き盛りの人には到底實行出來ない話です、それよりかも矢張り冷水摩擦で平生から鍛へた方が宜しい、

◎冷水摩擦は皮膚の抵抗力を丈夫にするのと、摩擦そのものゝ效能と、二つありますですから、婦人の方や身體の弱い方は温湯で摩擦しても確に效めがある譯で、無暗に自分の身體をも考へずに、亂暴なことを爲るのは却つて害があります、

◎冬季は浴　後寒冒に罹ることが多いですが俗に謂ふ湯ざめを注意せねばなりません、浴後は三十分以内に寢に就けば決してこれに罹る憂は無い筈ですが、兎角下らぬ話などに時を費して病氣を誘導するものですから充分の注意が必要です、（醫學士駒田實氏）

海の姿と山の姿

玉井紅葩

◎海の教訓

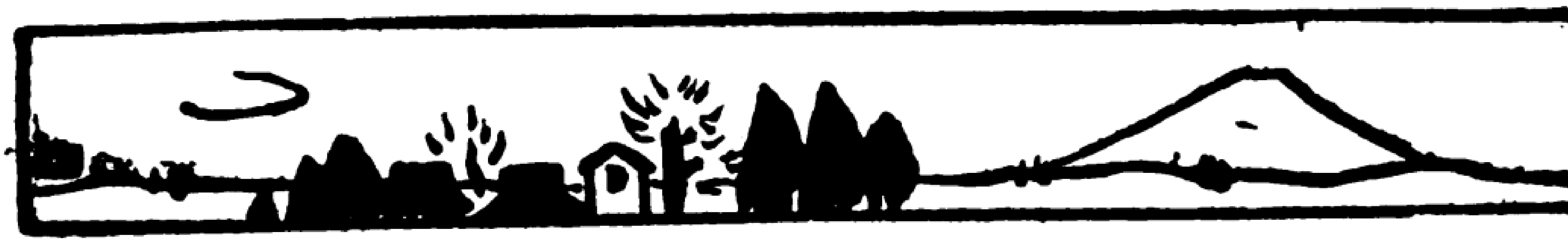
奥山の木の間の雫が梢傳ふて落ちて滴りて木の根巖角をくゞつて流れ、細谿川となり、いさゝ小川となつて末は澎湃たる海にそゝぐ。この海は小を集めて大を成したるもの、よき標本である地球上に於て海ほど廣大なものはない見よ、朝暾を吐き、夕陽を呑み、金波銀波を以て飾る時の莊嚴なるを、又見よ烈風叫び、豪雨飛ぶ、黒陰暗の裡に激浪を蹴して半空を蹴ることの如何に壯觀なるかな。

◎無限大の力

嘗て犬吠ヶ岬の巖頭に立ちて沖を眺めたことがある、其時の感じは只恐怖の念の外はなかつた。暗黒色の恐ろしい濤が、小山のやうにうねつて來て、巖も碎けよ、石飛べよ、白沫の天に朝するを見ては、豪壯の氣に壓せられずには居られない。彼の無限大の壯觀に對しては只沈默の外はない。

◎大人の姿

嘗て七里ヶ濱の砂の上に坐して相模灘の凪の海を眺めたことがある、空は薄緑色にかすんで、一波動かず、白鷗閑かに水に浮びて魚を啄ばむを見ては海ほど靜寂で、海ほど平和でそして海ほどの大廣量のものが世にあるかと思はるゝ位、眞に大人君子に對するが如くであつた。



◎山の教訓

海に趣味の多きは勿論であるが、山も又大なる趣味を持つてゐる、彼の有名なる碓氷峠の隧道を經て蓊勃たる淺間の大嶽を仰ぎ、南に亂山起臥の間より波濤の如き蓼科山を望む時雄大なる活畫圖は吾人の胸襟をして自然に飛躍せしむるの概あり、落葉松の木立の下に夏草の花咲き亂れ、北米の天地の何處かにあるやうな景色の輕井澤、海拔三千二百尺、都は炎たる熱鬧の中に喘ぐ時、此處は涼風滿斛、荒野を吹き下ろして、清爽の氣肺腑に沁むの感あり。

◎巨人の姿

夕日は更級山の彼方に沈み、暮色蒼然として佐久の野に襲ひ來る時、淺間山は巨人の屹立せるにも似たり、夕空に瞬き始めたる星は彼れに何事をかさゝやくかのやうである、山は天の默示である。

◎旅の友

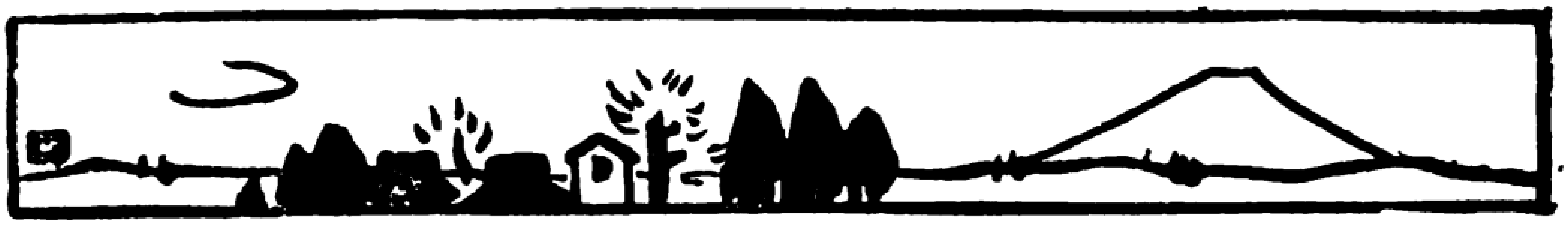
謠曲「鉢の木」に「信濃なる淺間ヶ岳に立つ烟、をちこち人の袖寒く……」とある其の淺間を北に見て、車百合の咲きほこれる千曲川の川べりを御牧ヶ原の方に下つて行くならば、信州の連山は一々に我れに點頭するかの如くである。山は旅の友である、山は又旅の宿りである。

◎雄壯と優美

山は又其土壤の高い處のみが全體ではない。山には實に林泉の美が併せ備はつて居る、之れ大英雄は只其の豪壯なるところばかりが本領でなく、彼に柔らかな優美な所があると同じ事である。山あれば必らず谿あり、谿あれば必らず水がある。白雲のたゆたう峯の巨巖は雄々しき姿であるが、潺湲と流れる谿川の桔梗色の水は優美である。

◎山の感化

山は又我々の疲れた頭を淸め、慰むるのである、而してそれはその特有の峻烈なる淸透なる「山の氣」を持つて居るからである、深山大澤を踏み分けた人ならではわからないが、彼の黒き林を過ぎ、羊腸の山路を谿に沿ふて登る時、崢嶸の山が頭を壓するやうで、其の山、その谿から湧いて來る冷めたい刺すやうな靈氣が、肌に泌みるやうに覺えることがある、此の山氣、削れる巖、暗い水黑い林は全く浮世を離れたもので、原始的の荒蕪を遺憾なく發揮したものである、山は疲れた頭を醫やすのみでなく、又惰る者に強烈なる刺戟を與ふるものである。



◎山の力量

人の匂ひのしない深山は實に吾々の生の壓迫を慰むるところである、瑠璃末をといたやうな純藍色の珊々たる谿の水に頭を洗つたならば、こゝに油然として勇ましい生の奮鬪を助くる壯快なる力を與へられたやうで言ふべからざる矜誇を感ずるのである。

◎山の感化

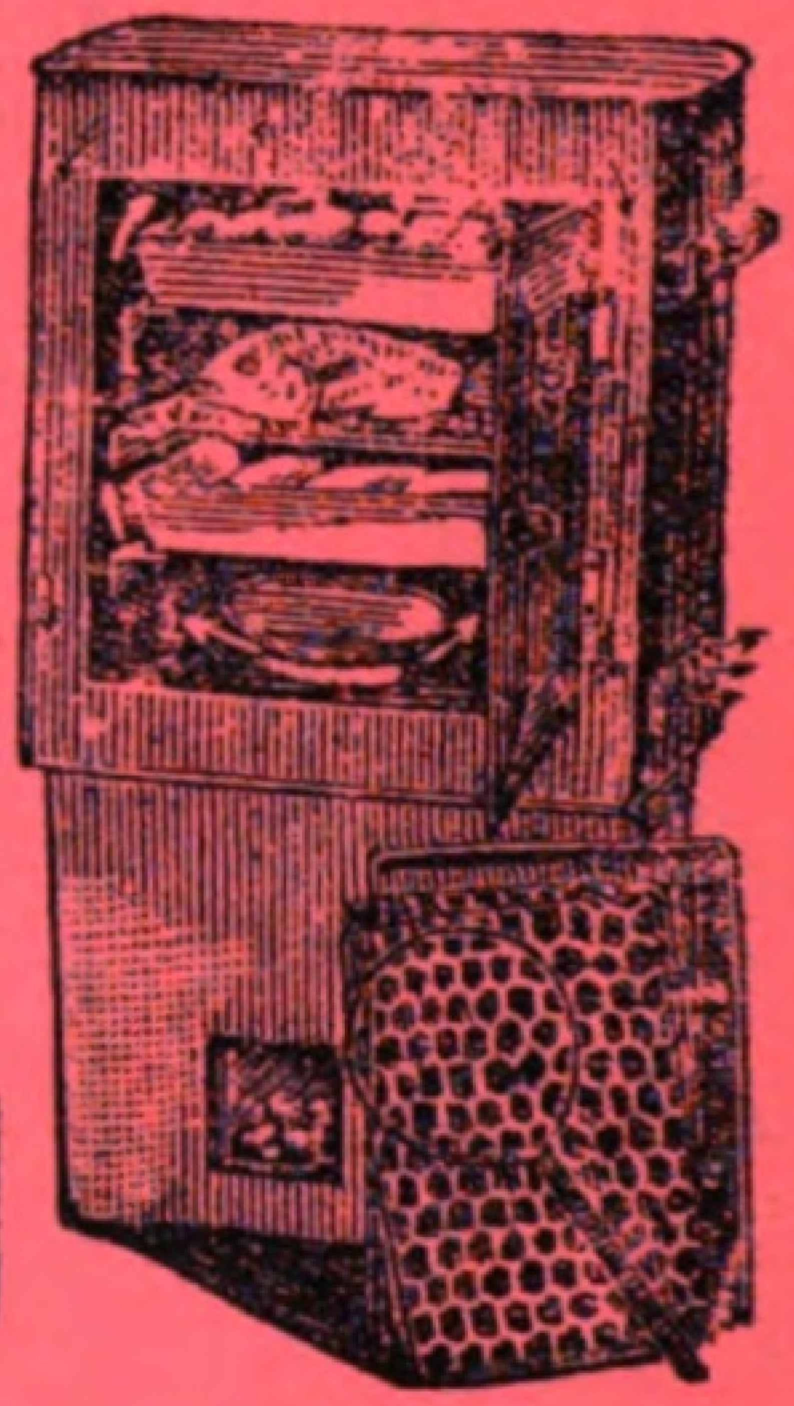
「日光」の陰森たる森、「中禪寺湖畔」の黒き山、「鹽原」の翠巒疊疊、「輕井澤」の高原、一夏を其處に親しんだ人は、必らずや或る感化を此等の山から受けるであらう。

◎聖心女子學院

同院は今回カソリック教派の人々に因り芝區三光町四百二十五番地に設立せられ、來る四月より開校すといふ、總長をマダムエードン（佛國人）といひ、幼稚園、小學校、高等女學校等各三十名宛の生徒を募集し、高等女學校にては裁縫、外國語、體育、衛生等を授け、勅語の精神に依りて毫も宗教には拘泥せざるものゝ由なり。

專賣特許
臺所重寶
名和式テンピ





大三圓●中二圓五十錢●小一圓九十錢●說明書御希望の方へは無料送呈

專賣特許名和式テンピは曾て實業之日本誌上に於て「改良されたる臺所重寶器」として紹介されし和洋兼用のテンピなり

東京日本橋區蠣殼町二丁目十五番地電話浪花一一七七振替口座一〇二五四番

特許カマド搖風呂

名和商店





最上醬油　キハク印

釀造元
茂木七郎右衛門
千葉縣野田町
電信略號ハク又キハク

東京支店
中野長兵衛
日本橋小網町三丁目
電話浪花百七十七番

家庭整理の指導

當代第一流の女子教育家編著

家庭百科全書

全部五十册＝每月一回發行

和裝美本◉紙數各三百頁
石版彩色口繪一葉
挿畫 十數個
正價一册金四拾五錢
郵稅一册金八錢

近時婦人教育の普及するや、女流の才學は一般に著しく進みたりと雖も、尚ほ之を日常家庭の上に施こすに臨み、動もすれば實際に適せざるを憾むこと多し。是れ學校に在るの日には概れ理想の學修に止まるが故に、實際の應用に臨み、或ひは學ぶ所高尚に過ぐるか、然らざれば未だ十分ならざるの憾ある所以なり。若しも家庭に敎師ありて一々實際の問題に就て指導せんには、世の良妻賢母は言ふも更なり、未だ在學中の女流學生達の爲にも如何に裨益の多かるべきかは、敢て多言を須ゐざることながら、人ごとに家庭に敎師を聘するが如きは、得て望むべからず。是に於て本書は最良なる家庭敎師たる目的を以て編述發行し、敢て婦人敎育の缺點を補はんと欲するなり。

第一編 新家庭訓 三輪田高等女學校長 三輪田眞佐子女史著
第二編 四季料理 宮中原氏兩流料理師範 大日本割烹學會々長 石井泰次郎君著
第三編 裁縫指南 女子高等師範學校敎授 喜多見佐喜子女史著
第四編 和洋菓子製法 東京治庭會講師 龜井まき子女史著
第五編 茶道と香道 水原翠香女史著
第六編 諸流生花指南 琴松園文雅君 松幸齋理常君 共著
第七編 育兒の務 醫學士 田村貞策君 朝夷孤舟君 共著
第八編 簡易治療法 新潟縣高田高等女學校敎諭 藤井靜子女史著

第十二編 婦人の生理と衛生 青山學院敎授 牧野清子女史著
第十三編 敎育お伽噺 少年世界記者 木村小舟君著
第十四編 女德の養成 前田長太君著
第十五編 家屋と庭園 内山正如君著
第十六編 魚鳥家畜の飼養 農業世界記者 鹿野化骨君著
第十七編 女子作文法 遠藤ふみ子女史 松崎ふく子女史 共著
第十八編 子女の敎養 私立高等女學校長 棚橋絢子女史著
第十九編 家庭の趣味 文學士 大森兕山君著

發兌元 東京日本橋

販賣用電話 本局二六二〇

（ろの二）

婦女必讀の大全書

第九編 **禮式と作法** 女子高等師範學校教授 佐方鎮子女史著

第十編 **惣菜料理** 赤堀吉松君 赤堀峯吉君 赤堀菊子女史 共著

第十一編 **編物指南** 女子技藝實踐學校編物科主任 三木とみ子女史著

第廿編 **家庭遊戲法** 高橋忠次郎君 松浦政泰君 共著

第廿一編 **書道手引** 歌道書道專攻大和會々長 井田秀生君著

第廿二編 **歌の手引** 大和田建樹君著

第廿三編 **刺繍術指南** 刺繍術專門 磯村大次郎君著

●總則＝▽姿勢▽下畫の心得▽絲の紗り方▽實習用具▽針の使用法外七項●木花草花の部＝▽薔薇▽櫻花▽躑躅外十六種●果實の部＝▽柘榴▽蜜柑▽枇杷外六種●禽鳥の部＝▽鸞▽鶴▽雉子外十四種●昆蟲の部＝▽胡蝶▽蟬▽蜂外五種●獸類の部＝▽馬▽犬▽猿猴外八種●魚の部●龍の部▽雲龍▽水龍外四種●風景、刺繍の心得（實習部）●手柄の部（二項）●婦人洋服の刺繍の心得●胸掛の部●團扇の部●ハンカチーフの部（二項）●紋物の部（三項）●洋傘の部（二項）●寫眞挾の部（二種）●半襟の部、十項、●衣類模樣の部（三種）●衣服紋繡の部（五種）●袱紗の部（二種）●額面の部（四種）●卓子掛之部

第廿四編 **摘み細工指南** 山田與松君著

●第一編 總論●第二編 材料●第三編 從業の順序と用意●第四編 實習上の說明●第五編 實習製作●第六編 實習上の說明●第七編 簪の作り方說明●第八編 實習法の說明●第九編 應用科諸種實習法●第十編 巾著模樣各種作方●第十一編 摘み細工雜感◎附錄――モール細工諸種製作方外十二項◎

第廿五編 **新式化粧法** 藤波芙蓉君著

●序說（化粧の第一義…外四項）●顏容美化の基礎的方法（皮膚美の攝養・外十一項）●化粧美術（通道と別道…外十三項）●化粧美化の美術的方式…▽美的沐浴法（七項）▽肌膚美攝養（十三項）▽扮飾美化の手段（卅二項）●手足美育成の方途（等閑視去られたる手足美の育成…外八項）●毛髮美養の秘訣（毛髮と人體美…外廿七項）●化粧品の選擇と調製（扮飾美化と化粧品との關係・外十二項）●歸結（顏容美と服裝美との關係に就て、化粧と鏡臺）

〔近刊〕…………▽第廿六編●**室內裝飾法** 近藤正一君著

（その三）

本町三丁目 **博文館** 振替貯金口座 東京二四〇番

空前の新案日誌成る

明治四十三年度

日曜日誌

全五册美本

尋常四、五、六各學年用 一册…定價金七錢

高等一、二各學年用 一册…定價金拾錢

▲郵稅一册貳錢宛▼

●本誌編纂の主旨概要

本誌は世に類ひなき一種獨得の小學校兒童用日誌である。一體小學校兒童に年中毎日日誌を書かしむる方法として日曜日毎に書かすといふは無理なことである。そこで年々時々絕えず書かすことにしたので兒童敎育上最も嶄新適切の方法である。本誌記載事項は簡單明瞭を主として各種の娛樂的事項の外特に新定敎科書に連絡を保たしめてある。故に日誌を書くの練習をなさしめ得ると同時に一面に任意的感興的に不知不識の間に多方的知識を收得せしめ常識を養成することができるので極めて適切有益のものである。

●本誌の特色

本誌は普通敎育に經驗ある敎育家が多年研鑽の結果に成れる前古無比の新案編著である。今本誌の特色大要を左に

●上欄記事を設けて毎日曜日の讀物としてある。其材料は

一、【修身】修身上の訓話、國家的材料等。
二、【國語】…讀方、綴方、書方 漢字考へ物、歌俳 其他敎科補習的材料等。
三、【地理】…敎科補習材料、地理的考へ物等。
四、【歷史】…敎科補習材料、著名事蹟、事物起原、歷史的考へ物等。
五、【理科】…興味ある敎科補習的問題、季節的自然界現象材料、理科應用手品等。
六、【圖畫】…工夫畫、探し繪、えどり畫、書添へ繪、一筆畫、其他敎科補習的圖畫等
七、【其他】…手工科材料、考物、笑話、お伽噺、一口噺、謎々等。

●課題欄を設けて各日曜日に興味ある補習的課業を與へてある。
●上部欄外記事には當該月日に因める歷史上著明なる敎訓的國家的事歷を載せてある。
●下部欄外記事には各學年の程度に適應せる敎訓的格言、俚諺、俳句、和歌、等を載せてある。

▼本誌は賞品用、進物用としても亦至極適切のものである▲

發兌元 東京日本橋區本町 振替東京二四〇番 博文館

女(ろの七)

新藥に就きて

最新發明 肺病、肋膜

獨逸ドクトル高平氏報告（醫事週報二一七號報告再録）

新治療劑主藥の諸結核による熱度下降は可驚著効あり四十度を示す熱は本藥應用後は常温下に減じ患者は藥劑が無味なるを喜び之が服用を嫌忌せず食慾を増進す

右の外本劑の著効ある事は既に諸家の試驗報告及賞賛により明らかなれども今本院服藥患者につき其成績を左に報ぜん

●金森某（總て上住所姓名を略す）女子三年前發病遂に末期重症の**兩肺結核**に陷り咳嗽たん盗汗發熱激しく度々咯血し非常に羸痩す服藥壹週頑固なる熱を去り咳嗽咯痰を輕快す服藥貳週咯血やみ臥蓐せしものゝ屋外に出で日光に曝をとるに至る連用三十日病全く治し食慾進み體重を増加せり

●兵頭某卅一歳男**肋膜炎**（咯血無し肺病初期の疑あり）胸部痛み食不振身體倦怠盗汗。咳嗽。頭痛あり身體羸痩を見る卅九度に至る發熱あり服藥五日奏効あり二週にして全治す僅々二週にて全治す如きは病輕症なるに因るとは云へいかに新治療劑が肺病。肋膜。肺炎。肺尖加答兒。氣管支加答兒。腹膜結核等の諸症に對し可驚効力ある全治藥なるを知らん以下病歴を細述する時は冗長に亘るを以て左の通略式とす

患者	性	病名	成績
三村	男	兩肺結核	全治
中川	男	肺尖加答兒	全治
松信	男	結核性肋膜及腹膜炎	微効
笠井	女	肋膜炎	全治
上野	男	右肺結核及腸結核	全治
龍谷	男	兩肺結核末期	無効
宮本	女	結核性肋膜炎	全治
岡田	男	氣管支加答兒及肺炎	全治
阿崎	男	右肺結核及腹膜結核	全治
神村	男	肺結核初期	全治

斯の如き好成績は從來の藥物に於て見る能はず我國藥劑界名譽の發明藥として報告する義務あるを信ず又効力多大にして持長服藥するも副作用なく殊に**咯血**と其豫防に可驚効あるを以て醫藥の傍ら服用最も妙ならん吾人は病者に向つて新治療劑は現今に於て完全なる發明藥なるを紹介し安心服藥せん事を勸むと共に醫師は自家患者に本劑を投藥せん事を勸告す●本治療法を知らんとする患者は貧富の別なく（貧者にも療法あり）遠慮なく送料郵券二錢添東京神田竪大工町拾三番地療養院製藥所村尾明治堂宛申込あらば新治療法の書を無代貰ひ得らる、故是非一讀あれ益する處多からん、之れにより全治の幸福を得らるべし

藥價

壹週 金二圓
貳週 参圓九十錢
参週 五圓七拾錢
四週 七圓貳拾錢
五週 九圓

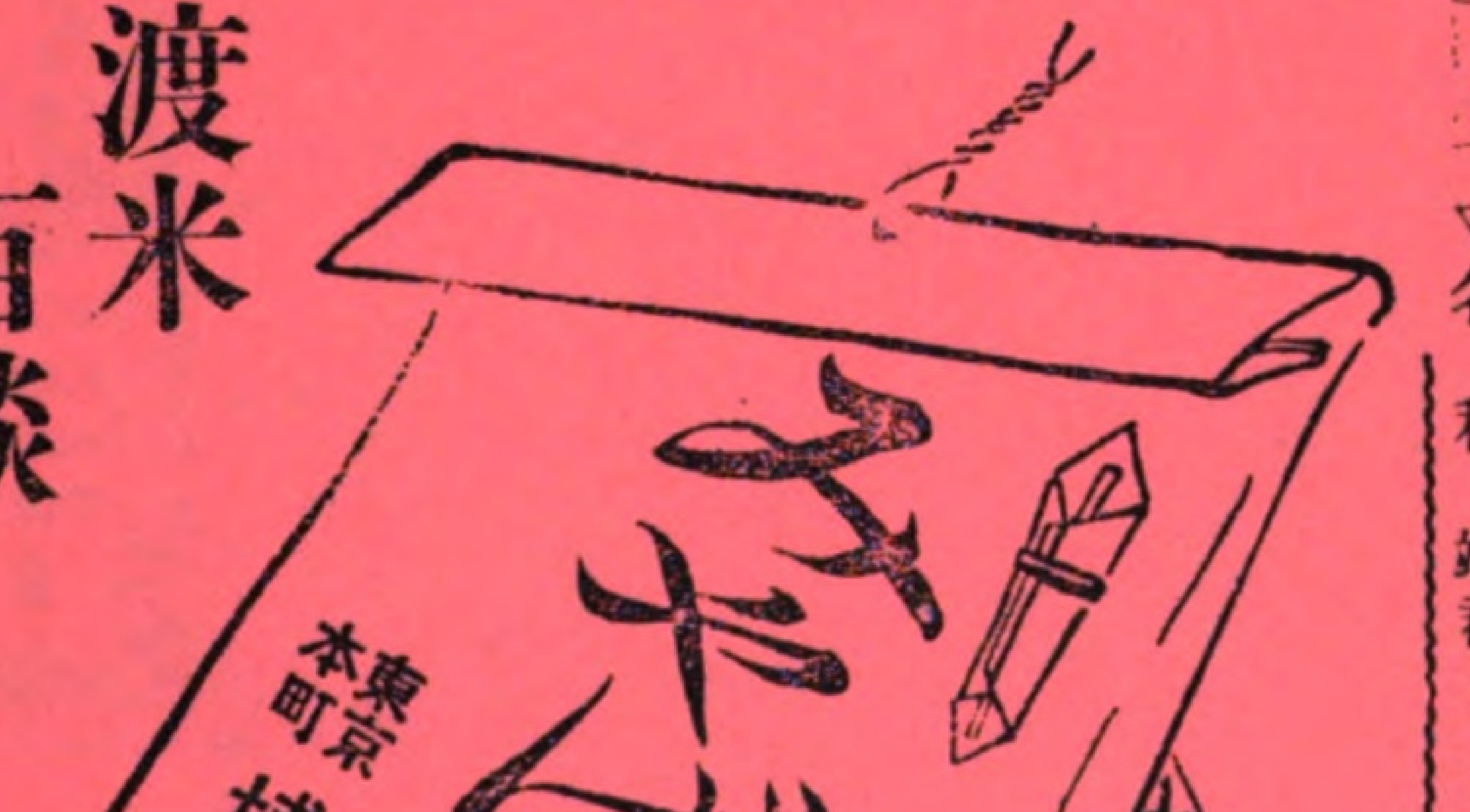
療養院 製藥所 東京神田竪大工町 **村尾明治堂**
電話本局参千七百五十二番（私書函神田本局第三號）
振替口座東京壹四参壹九番

名家寄稿

▽石川理學博士▽岸上理學博士▽近藤工學博士
▽三好理學博士△松村理學博士▽坪谷水哉君
▽名和靖君……（其他數名）……

渡米百談

巖谷小波筆 久保田金僊畫



よみもの

△新案畜人機△活動寫眞△圖書館案内
△名所みやげ△地中會議△魔術の先生
△空中漫遊談△動物園△海底の秘密
△博物館參觀△びつくり箱△其他材料如山

（紙數 二五六頁、口繪三色版、石版書、寫眞版廿二頁

女（るの入）



大阪婦人の趣味と氣風

紅花

△婦人と言語

「姉はん、中座へ行きなはつて。」

「いゝえ。」

「眞實だつかいな、それは〳〵面白うまつせ、役者が皆江戸つ子だすさかい。」

「わたい、壯士嫌ひッ、ちんぷんかんなこと許り云つて、何が何やら解りやへんで。」

「うそ〳〵過日はお樂しみ……。」

「ありや何だわ。」

「何だすの、まあ行つて見なはれ、伊井つて好い男振りよ。」

「さう、どんなを仕なはるの。」

「何だか六ケ敷い學者にならはるけれど、あんなの嫌大工が宜いわ。」

「わたいも左う思ふわ。」

「あら嫌、もう見やはつたの。」

「はあ、一昨日一寸。」

「人を馬鹿にして居やはるわ。」

「でも芝居は舊芝居の方が矢張役者が揃ふてると思つてよ。」

「そりや最う辨天座の方が……あんた鴈次郎はんの素顔を見やはつて。」

「はあ。」

「美しうおまつしやろな。」

この會話は例の井戸端會議の筆記であらう、と讀者は思ふで有らうが、事實大阪では斯んな話が平氣で婦

女子間に取かはされて居ることが多いのです。馴れては耳立たぬものと見えて、男子がたも聞き流しに仕て居るやうであるから、別に咎め立てするにも及びませんが、土地馴ぬ紅花などは隨分奇妙に感じたものです。

もと〳〵紅花は東京で育つたものですから、彼方のことは克く存じて居ますが、實際大阪の婦女子ほど芝居狂は無からうと思ひます。ふと東京の女がやゝもすると相撲場へ駈け込みたがることを思ひ出して、東京の相撲、大阪の芝居と云はるゝ原因もこゝらから起つたもので有らうと思ひましたの、が、女の相撲見物が勝負より體格を主とするやうに、大阪の女は芝居を見に行くと云ふよりも役者を見に行くと云つた方が適切した言葉でせう。一方役者の方ではまた克く其の弱點を知つて甘くあやなして居るのでは有るまいか、と思ふて見ると大阪は到底團十郎を産する地では無いやうであります。

△彼等の趣味

兎に角、大阪の女は芝居を見に行かないのを恥のやうに思つて居て、役者の素顔一つ知らないものは話せない者と思つて居るのであります。

「芝居一つ見に行かれないんですもの。」

とは度々奥樣方から聞かされる小言で、お花見にと云はない所が東京とは違つて居ませう。いつでしたかお茶の水時代の御友人がはる〳〵尋ねて來て下さつたので、中の島公園へ御案内しますと。

「まあ、これが公園ですつて。」と呆れて居なさるから

「いゝえ、女のは別にあつてよ。」と申しますと。

「何處に？」と眞面目に聞かれたので。

「道頓堀の芝居です。」

と、はては大笑ひに笑つたことがあります。變な所で女の勢力も可笑しいですが、大阪に公園らしい公園の出來ない理由もお花見主義の女に乏しいのが確に一因をなして居るに違ひないかと思ひます。

芝居を見ずに役者を見る、大阪の女の氣風は大方察せらるゝでせう。これもつまり土地柄だけあつて女に

も金廻りが善いから、いつとは無しに斯う云ふ傾向を生じて來たものであらうと思はれますが近頃は家庭に依つてはこの芝居見物を嚴禁して居るやうです。何も芝居其のものを惡いとは申しませんけれど、今日の樣な風なら、大阪の女のために贊成するの外は有りません、天王寺公園のやうなものが出來上がつたからつて、



まだ〳〵誇りとするに足りません。

などゝ申しますと紅花は大阪に居ながら大阪の惡口ばかり云ふつもりか知らと、大阪の讀者は思ふでせう。けれどこれでも最う紅花は大阪の土になる決心ですもの、なんで好んで惡口を申しませう。只事實は事實として矯正を待つ許り、少なくとも讀者だけなりと、まづ役者の紋所などを知らないのを

誇として、この風潮を打破することに御盡力が願ひたいからで有ります。

最う一つ。

これは無論中流以下――と云つた方がお差支が無くて善からうと思ひますが――その中流以下の家庭では女の子が生れると、おつ母さん達は學問とか裁縫とか云ふことよりは、もし主人が留立を仕なかつたら、遊藝を仕込むに重きを置くと云ふ傾があるのです、紅花は此のおつ母さん達の氣が知れないと思つて居ましたら。

「花ちやんが藝者にならはつたさうだす。」

とお隣の細君に聞いて吃驚り仕ました。

花ちやんと云ふのは、ある學校の先生の娘さんですもの。

「なせまあ、そんなことを。」

と紅花は聞かずに居られませんでした、が、細君は一向平氣なもので。

「なせつて、先生もこれからは樂が出來ると云ふものだす。」

と、紅花の聞いた「なせ」は方角違ひの答を得たので、如何にも厭な氣が致ました、が、だん／＼聞いて見ると、先生は反對であつたが、母親は娘の出世を楯にして、とう／＼藝者に仕たと云ふことで。

「學校の先生なんて頑固なものだすな。」

とお隣の細君もその母親と同じ意見らしいので、嘔吐を催ほしたことですが、其の後注意して見ると、この暗流は隨分廣く行き渡つて居るやうで、大阪の女が俗曲に感化されて、浮薄な考を抱いて居るのには――申すまでもなく場末に限らうけれど――驚かずには居られませんでした。

△彼等の誇り

が、こんな暗黒面ばかり書いて居ては、それ暗の夜も有らうと云ふものですから、これからは紅花の感心して居る所を申し述べることに致しませう。

小學校に通ふ女の子、それもお小さいのなら何です

が、最う十四五にも成る女の子が十中八九は前垂掛のまゝ平氣で居るのを見て、流石に大阪だと思ひました。

敎育と云つては餘り大業ですが、女の子の躾方は何う仕ても斯う云ふ風に土地に當てはまつたもので無ければ否けないと、よく〳〵氣をつけて見ますと、袴をつけて居るものでも下には此の前掛をはづさないで居るものが多いやうです。

進んで高等女學校となると、それ〳〵制定の袴が有りますので、已を得ず、それをつけて居ますけれど、歸ればすぐ前垂掛になります。

只一つの前垂掛、實は何でも無いやうですが、これ



が及ぼす感化はやがて大阪の女の誇とすべき所で有らうと思ひます。

御覧なさい大阪には壯士めいた女は見たくても有りません。

東京の女學生などには隨分亂暴なものが有つて、紅花なども困らせられた一人ですが、大阪には新聞記者の槍玉に擧げらるるやうなものは極めて少ないので、女子敎育に就ての非難は餘り聞きません、と云ふのも前垂の感化では有りますまいか。

「必ず袴などゝ云ふ窮屈なことはお廢止なさつたら何

うです。」と女學校の先生にお話し申したことが有る位ですが、紅花は何處までも此の前垂主義で有りたいものだと思ひます。

△彼等の理想

理想の夫はと、年頃の女に聞くと、東京なら教育あるものは文學者とか外交官とか大方其のあたりのお答が多いでせう、が、大阪では十中八九は實業家と答へます、これは其の土地柄に依ることだから、何方が當を得て居ると云ふのでは無いが、考が考だから大阪の女は空想に陷つて仕舞ふやうなことが有りません。あきらめをつけることが早いです。

このあきらめをつけて、餘り物事に執着しないのは大阪の女の長所で、實業家の妻として成功する所以であらうと、そり〱胸に當ることが有ります。

虛榮心は女に附きものです、しかし大阪の女には時にこの虛榮心は何處へやらと思はるゝことが有ります明日のために、今日を犠牲にするは已を得ぬとの感が強いやうです。大阪の今日ます〱繁昌せんとする勢あるは確に男ばかりの精では無いと、うなづかれます。

京都の女が御殿女中なら大阪の女は氣のきいた仲居でせう。

「大阪の男が京都の女を妻としたら一身代出來るだらう。」

と云つた人が有るので。

「成程、一身代は出來ませうが、二身代三身代は何うでせう。」

と笑つたことが有ります。

京都の女はつゝまやかで、火鉢の火も客が歸ればすぐ灰をきせるか消して仕舞ふと云ふ風ですが、御殿女中に仲居の役は勤まりません。それは丁度仲居に御殿女中が辛氣臭くて勤まらないと同じことで有らうと思ひます。

わが國の中で大阪ほど活動の質に富んで居る女の多い所は有りますまい、實際大阪と云ふ舞臺がぐづ〱

仕て居ることを許さないので、自然に斯う成つたものでせう。京都の人は歩いて居るが大阪の人は走つて居るのですもの、大阪の臺所は大阪の女でなければ持てません。

大阪の町を素通なさる方でも、愛嬌たつぷりとお客に接する腰の低い女が目につくでせう。それは最う馴れたもので、大阪の女が男であつたら、なか／＼立派な外交官が其の中から出ることで有らうと思はるゝ程お客に對する掛引などは甘いものです。

大阪の女は人をそらさない、これがまた豪いところだと感服して居ます。田舍上りの仕入商人などは隨分わからずやが有つて無理を云ふものですが、ちやほやと何時の間にか自分の方に引き附けて仕舞つて、而かも滿足を與へて歸らすなどは、まだおぼこいと思つて居る娘さんの中にも少なくないやうです。

大阪の女は腕の人で、男に代つて萬事の引廻しそも敢てすることを辭しません。

それで男の茶屋遊などは、家の事を忘れざる限りは男の甲斐性として餘り咎めません、それは女ですもの、あまり快いことは無からうと思ひますけれど、交際の遊は已を得ぬものとあきらめて居るのでせう。

男の方でも十二時過までも遊に耽つて居ると云ふ方は少ないやうです。

「それに今晩は遊に行かれたなと云ふことが、よく解りますね。」

と、ある奥樣に聞きましたら。

「男は正直なものだす。そんな時に限つて私らの機嫌をとらはるさかい、ほゝ……すぐ知れますの。」

と、惡らしいほど平氣で居らつしやる。

こんな風で女の權力がまたなか／＼すばらしいのです、紳士とか紳商とか云はるゝ方で、細君と云ふ聲だけ聞いても縮み上がると云はれて居るほどのもこれまた少なくないのです。それは左うでせう、もとはと云へば今日の紳士紳商と云はるゝものも共稼ぎの結果に過ぎないのですもの。

それが家つきの娘と來たら、また格別で。

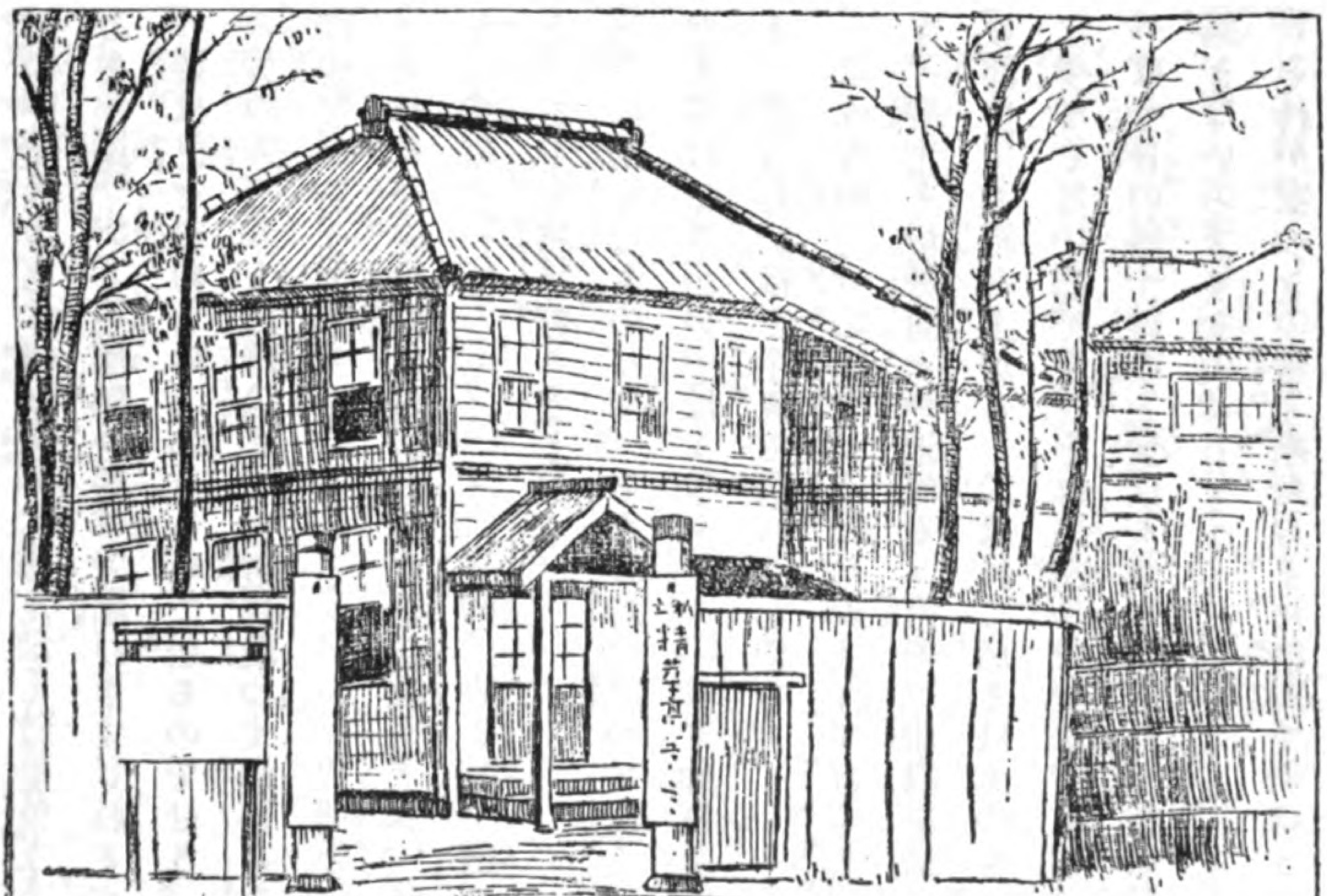
「小糠三合持つたら養子に行くな。」とは大阪のために云つたかのやう、餘程の男でないと生涯頭の上りつこが有りません。

兎に角　大阪の女には男まさりの方が多いと云つても決して過言で無からうと思ひます。

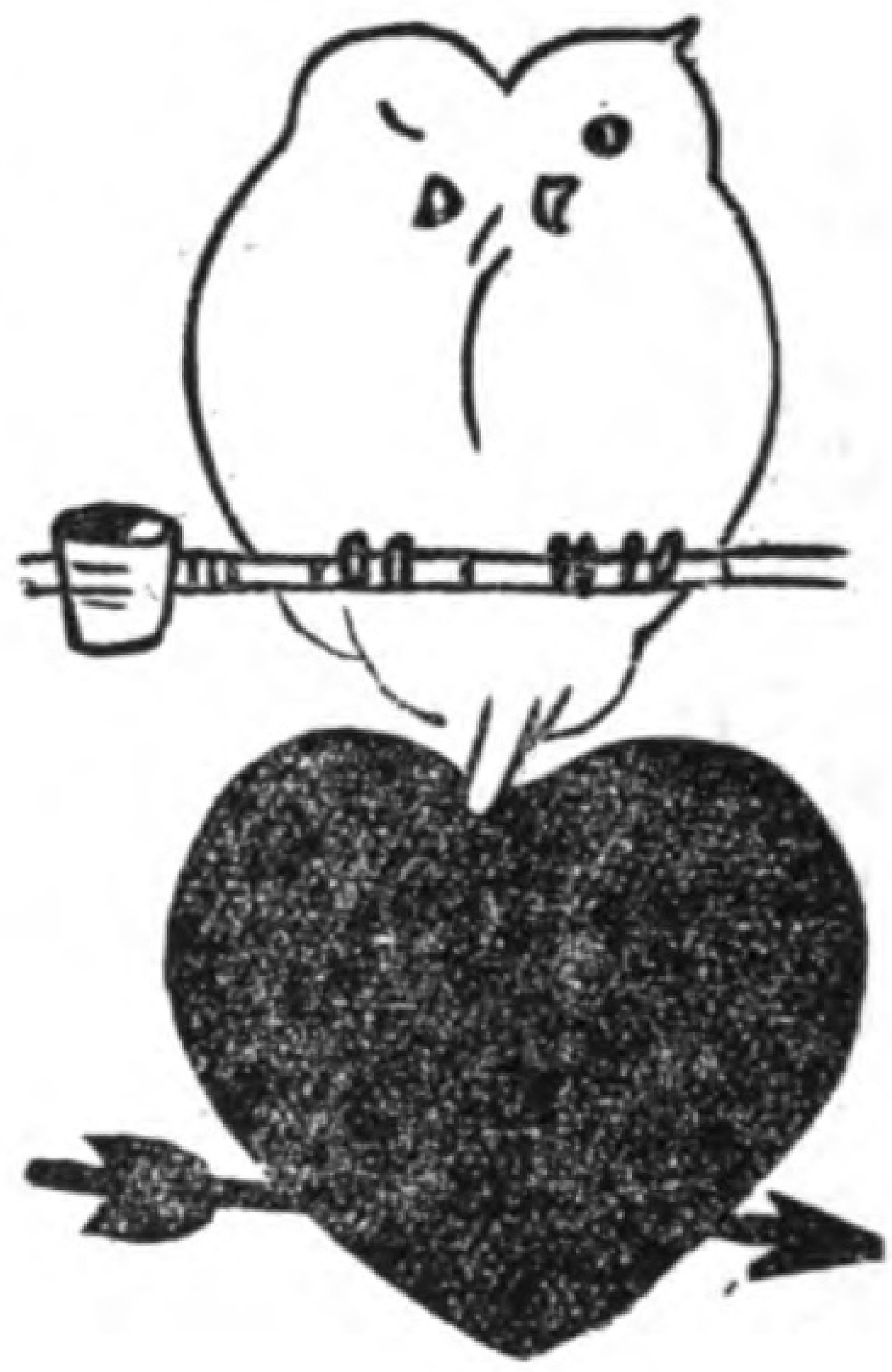
次號には大阪上流社會（舊家）の家庭趣味を御紹介いたします（紅花）

△英國皇后陛下の御眼識

英國皇后陛下の寫眞撮影を好ませらるゝことは有名な話であるが、嘗て、陛下は親らウヰルフヴートンの鐵橋を早取り遊ばされたが、技師が仕上げたのを御覧になると、其の橋の支柱の一つがどうも具合が惡いやうだと係りの者に調査をお命じになると、果して其支柱は具合が惡かつたから、早速立直して危害を未然に防ぐことが出來た。



精華高等女學校　（校長靜田孫彌氏淀橋町）



緣なかりし君達が今日の身の上

かへで

夫は昨日東京へ出立るし、お姑樣は今しがた伯父樣のお家へと門をお出に成つたので、猶淋しくなつた。窓に身をよせて見るとも無く庭を見ると、初春の日がよわい光を東からなげて、梅の香がかすかにたゞようて居る。大きな松の下に三羽の雀がチユウ〳〵と何かしきりに拾つて居る、ほんとに靜な日だ、耳をすまして見ると門外はずゐぶん車も人も通つて居るし、勝手の方には光や雪の笑聲もするのに……。

私が振袖姿に恥しい思ひをつゝんで此家の人と成つた日も二月の初であつた。

思ふて見れば早五年の昔。私が未だマーガレットに巾廣のリボン掛て居た頃、此樣なものでも嫁にと云つて來た人は、なか〳〵娘一人に聟八人どころでは有ませんでした。其中でいづれ菖蒲と引ぞわずらう五人の君。でもとう〳〵父上のお眼鏡で白羽の矢は今の夫にたつて、妻と云ふ身に成りまして此五年の長い月日を樂しく暮して居る幸福な私。それにつけても彼の四人の君　一樹の影一河の流れ夫婦と成る緣は無かつたとは云へ、私只路傍の人と見る事は出來ませぬ、だから其後の消息も折にふれそれとは無しにしらべて見ますと、又今昔の事が胸に浮びます。

田山樣、早稻田出の文學士。希望に輝いたお顏、胸の内には汲めども盡ぬ愛の泉の湧て居さうな柔和お方恥しながら人知れず、文學士を理想として居た私、心は少なからず動きましたが、靜と考へて被居つた父上

が「どうも文學士より外の方面がいゝ樣だ」ととう〳〵お斷り遊ばした時の私の失望……。其後間もなく美しい花嫁迎へ給ひしと聞き、何とは無しにねたましい樣な氣がして、其當時は父上をお怨申たが今更思へばもつたいない、君は此世に運のつたなくやあられけん、父母の君の安心し給ふ間もなく、病の爲に歸らぬ旅。嫁して間も無い花嫁の心の内も偲ばれて、思はず身ぶるひ致しました。あゝ私は幸福でした、もしも私が……、心の内で深く〳〵父上に感謝しました。

山本樣、大地主の若樣、學校は中學を七年もかゝつてやつと卒業せられたとか、

「家にをいては申分なけれど。今の世に最少し學問も無ければ」と父上も云はれるし、寫眞で見た其君は、美しからぬにあらねど何となくハイカラな氣取つた樣な方、髮なんか嫌にベッタリ撫つけて……。

今は目出度父君の後つがれて嫁君も三年前に迎へられしとか。されど此頃妹の君離緣となりて歸り給ひしと聞けば、どうしても面白くない日もあるでせう。

平田樣、帝大の未だ法科三年でしたが、秀才の聞えも高う前途有望の方、濃い眉高いお鼻男らしいお顏に柔和らしいお目。

「是こそ千江には過ぎた大人物だ」と父上は幾度か仰せられまして大變なお喜びなされ方、ところがだんだんしらべて見ますと、殘念な事には其血統が面白く有ません。

父上の御失望、私の悲しみ……。聞けば此程海外の留學終へて歸られしよし。

白川樣、名高い富豪の若樣で高商出の立派な方、幾度もお目にかゝりました、少し圓いお顏でどう見ても若樣らしい上品な君。父上は餘りに我家とは不釣合だと仰有つてお斷り遊ばしました。私も別に何とも思ひもしませんでした。

其後間もなく私は當家の人となり、其君も花嫁迎へられました、ところがどうしてか御夫婦の仲が面白くありませんの、それもお嫁樣がお氣に召さぬとかのう

はさ。何がお氣に召さぬやら、どこに一點の申分なき方と聞くに……。あゝ一歩ふみちがへば涙のふちへ落るのであつたと、又父上のお眼鏡を嬉しく思ひました。

ところが忘れもしませぬ去年の秋、私は外出の歸りに某公園を通りぬけ樣と春待ちがほの櫻の木立の間を、ヒラヒラとちる葉をクリーム色の洋傘にうけて、いそぎ足に行く後から、



「千江さんぢやありませんか」と聞きなれぬ男の聲、

「ハ………」と振り向けば一人の紳士が立つて居ます、よくよく見れば思ひがけない白川樣と知りました、と同時に未だ一度も言葉交した事も無い君に呼ばれる譯はないと不思議のあまり我耳を疑ひました。

白川樣は二三歩靴先重げに進み寄られて、

「お呼び止め申してすみませんが……」と云ひにくそ

うに、ステツキをいぢくり乍ら、「私少し貴女にお話申したい事が有ので……何時かお目にかゝつたらと思ふては居たのですが……今日は幸ひでした、貴女聞いて下さいますか。」何のお話だらう、私此方にお話聞く譯が無いと思ふと共に、云ひ知らぬ不安が胸に湧いて人なき公園の夕暮に秋の淋しさがせまつて來る。ああどうせう……。とは云へ此場合いやと云つて逃れるものでなし「ハイ……何のお話かは存じませぬが……」是より外に答樣が有ませんでした。

凡一時間程の立話、西と東に別れた後の私の胸は、今までに知らぬ苦しさを覺えました。昨日までも今日までも只人事に聞いて居た御夫婦の不和が、我身故とは夢にも……實に夢にも知らなかつた。

彼の君が今のお言葉、ふと見上たお目には涙の露が、「此失戀の苦しさを憖にお話して貴女まで苦しめるより……とは思ひながらあまりの苦しさに、只一度でも同情の涙をそゝいで戴きたく……女々しいやつとお笑ひ下さい」淋しく微笑れたが、お聲は涙に潤んで居ました、私の樣なものゝ爲にとふとい男の涙さへ惜み給はぬお心、嬉しう思ひます、私に夫も父も無く君にも嫁がないならば、すがりついて泣いても見たい氣がする。だつて私は情にもろい女ですもの・涙はハンカチをぬらしましたが……、ふと我にかへると、私には夫がある昨日東京から下さつたお手紙にも、御身は我生命で有、かならず身體を大切にして呉れと書かれて有つた。今私は他の男と人無公園で互に泣て居ると知られたらどうであらう。あゝもう少しの間もかうして居るのが心苦しい。

「お心はよく解りました、それ程までに思つて下さる深い〳〵お志わたくし一生忘れは致しませぬ……この樣なものゝ爲にとふとい御身をなやめ給ふより、奥樣と仲睦遊ばして下さい、私のお願ひで御座います」思ひ切て是だけ云つた。惘やりと氣ぬけのした樣に立て居られた彼の君は、暫時して、

「やあどうもおじやましました」重々しい足どり、其傷しい後姿を暮るに間もない秋の日が淋しく照して

一そうあはれに感じました。

其當時はその事ばかり思ふて居りましたが、樂しい家庭は何時となしに私の心から其事をとりさりました。

昨日はからず髪結の話に、

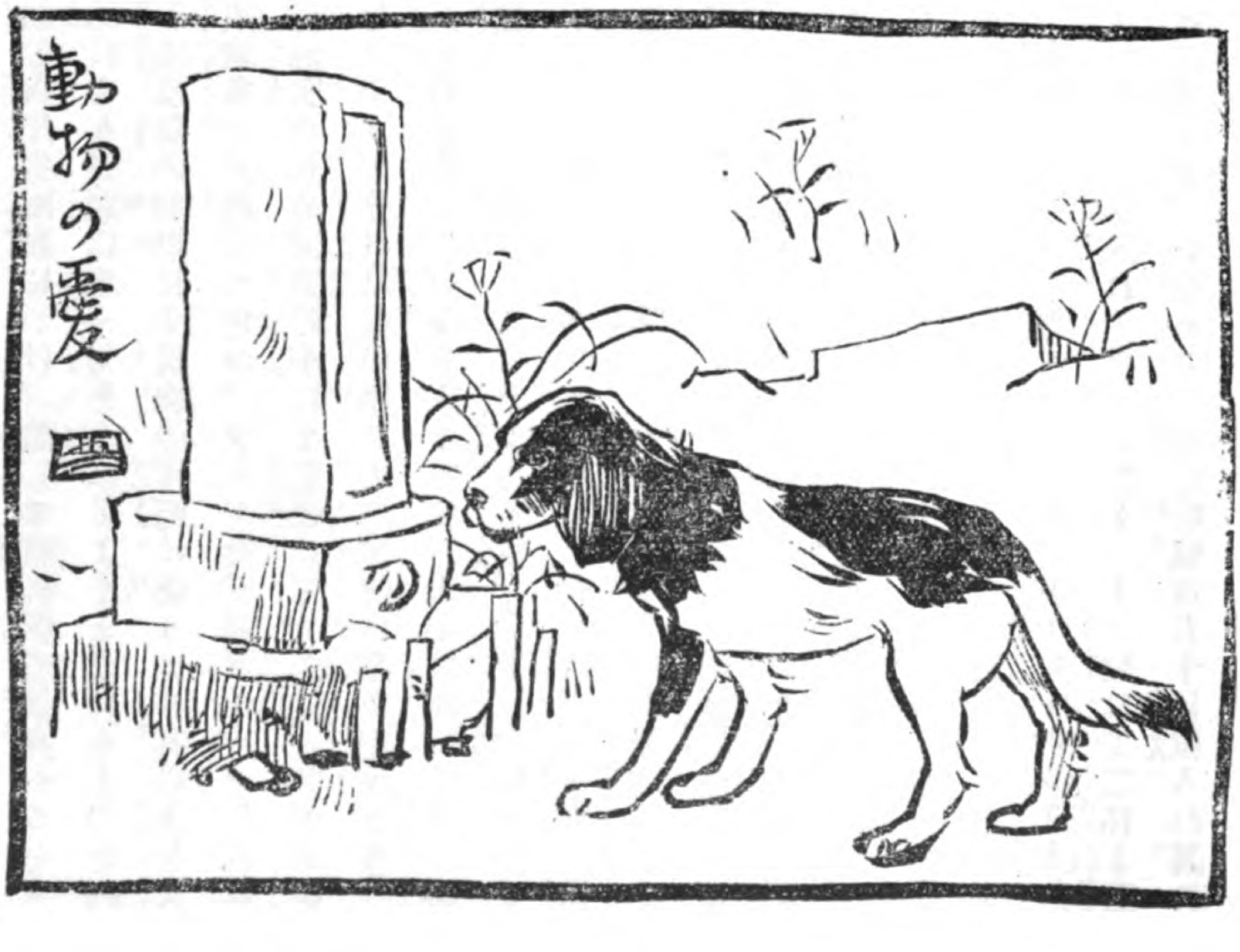
「白川樣の若奥樣が御姙娠遊ばしましたつてねえ」つて、私は思はず胸を撫下しました。

長い思ひから覺めて仕事にかゝつた時、

「電報ッ」

「イマブジツイタ」今頃はどのあたりを行つて居ようかと、電信がくるまでは御安心遊ばさぬ母樣、ほんとに親は有難いもの早うお歸りに成つたらお目に掛やう。

此樣身を眞實の娘の樣に可愛がつて下さる姑樣、愛して下さる夫、あゝ私の樣な幸福な身が世に澤山有でせうか。いでや是から命のあるかぎり夫を内助て實業界に名を上げねばなりません、と思ふと共に彼の四人いや三人の君達の行末も幸多かれとかげ乍ら祈つて居ます。





濱寺の珍料理

濱寺風流女

(一)鯛のカツレツ　(二)牡蠣のスープ
(三)水菜のサンドイッチ　(四)イスパニヤ、マカロー

△カツレツ

先づ正身一片四十目位の鯛の切身を採り、一切を一人前とし、うす鹽をなし凡そ二時間位置て、よく水にて洗ひ、布巾にて水氣を拭ひ去り、之に粒胡椒をかけて、新聞紙の上に篩ひ置きたる十五匁のメリケン粉を前の肉片の兩面につけ、然して別に卵の黄身一つを、鉢にとり、之に水一勺を入れてよくませたるものを刷手或は鳥の羽根にて又肉の兩面に塗りつけ其の上を又裏表共パン粉にて包み、ラードを、フライパンに入れれ沸騰せしめ、其の中にて狐色になる迄揚るなり、(但しラードの分量は肉の厚さの二倍位の深さを度とす、又一時に多くの切身を入るれば、その冷みにて油さめ後のものを揚げるに、差支ある故、大抵三片位を度とす)衣の狐色となりたる時少しく火を遠ざけ尚暫く揚げる、而して是に箸をさして見て厚さの四分通り、さざりたらば、又かへして、さし同じく四分通りに及ばば之れで、よく揚がりたる物とす、是れを一まず新聞紙の上に取りて油をきり後皿に盛りて出すなり。

△スープ

牡蠣のスープを製すにはソースパンに、バターをスープ匙に二杯入れメリケン粉をスープ匙にて二杯と玉葱二箇とを、いためその中に牡蠣百五十目位入れ其れ

に牛乳八合程加へ鹽胡椒にて味をつけ火にかけ沸騰したる時上に浮ぶ泡を取り去り食用に供すべし。

△サンドイッチ

先水菜の葉先を採り去り、湯出て出來る丈細かく切り置き、別に一斤の麵麭を十八枚に切り外側のかたき部分を去り、合せる方にバターを引き、バターの上に芥子を塗る、前の水菜を挾みて悉く重ねこれを、ぬれ布巾にて包み、輕き重をなす、一枚を六切となし、ナプキンを敷きたる皿に盛る。

△マカローー

正身　十目位の鰆の切身六片を(一片一人)鹽胡椒にて味つけ、十分開湯出熱き内に皿に盛り直に食卓に供す、是れにはパセリーソースを用ふ。

(一)ミートオムレツ　(二)タピオカスープ
(三)小蕪の味噌あえ

△オムレツ

先づ一人前卵二個と定め割りて丼に入れ牛乳三勺を加へ鹽胡椒にて味をつくべし、之を泡立にて、よくかき廻し泡の立ちたる時別にフライパンを採りバターを茶匙に一杯程入れ前の卵を泡立にて二度程かき廻して置き別に牛肉又は鷄肉を細くたゝき前の泡立たる卵の中に入れ、包みて燒き、かへしては又片側を燒き皿に盛りて食用に供す。

△タピオカスープ

之れを製せんにはタピオカ十五匁位を鍋に入れ、水を入れる、上に浮くごみを去り水を替へて凡一時間程浸し置き別に鷄肉三百目十二切になして鍋に入れ水二升四合を入れ其の中に玉葱大一個を輪切になしたるものと、にんじん一本を小さく切りたるものとを入れて火にかけ沸騰しはじむるを待ちて泡をすくひ去るべし後之れを文火にかけて大約三時間煮る而して汁の一升

二合位となりたる時火より下し裏漉にてこす之を小しく放冷じて、其中に卵の白身を入れよくかきまぜ再び火にかけ、煮立つまで、ゆるやかに、かき廻す、沸騰したらば火より、はなし、あくをすくひ出し後布巾にてこすなり、然る後又火にかけ煮立て食事の十分前にタピオカの水をきりて、煮立たるスープの中に投じ鹽胡椒にて味をつけ、スープ皿に盛り食卓に供すべし。

△小蕪のみそあえ

小蕪の皮をうすくとりのけ、之れをごく薄くきざみ少し許の鹽をふり、暫くして沸騰せし湯を、ざッと、かけ直に蕪をしぼり輕く二三回もみて置き別に花形に切りたる人參を湯の沸騰せる中に入れ一寸わかして、ざるに打上げ置き別に味噌をよくすりその中へ酢と砂糖と小さくきざみたる唐ガラシとを入れて又二三回すり、程よき樣に味を見て其の味噌の中に前の小蕪と人參とを入、よくかき廻し後、鉢に盛りて食卓に供す。

(一)木葉丼 (二)櫻生姜 (三)鰯の鐵砲あえ (四)牛肉のすきやき

△木の葉丼

之れを製せんには先普通に米をしかけ御飯にたき置き別に魚肉(何でも宜し)を薄鹽にて煮立能煮立ちたる時其の肉を引きあげ、暫くさまし置き別に椎茸を水にひたし石づきを除きごく細かにきざみて、前の魚の汁の中に入れる肉も又細かく手にて引さきて元の汁へ入れ少量の醬油を入れて薄味をつけ煮上る迄火にかけ後前の御飯と共にかきまぜ但し汁共に能くかき廻はして後深き器に盛る而して盛りたる中へ生卵をつぶしこみよくかき廻はして食すなり。(但し器に盛る毎に卵をつぶしこむなり)

△櫻生姜

極く若き生姜を薄くさき暫く日光にあて置き別三杯酢(酢、砂糖、醬油、程よき丈合す)を作り前の生姜に沸騰せし湯をかけ直ちにざるの中に打上げ水氣を去

女子美術學校　校長佐藤男爵夫人本郷菊坂町）



り前の三杯酢につけるなり暫くすると生姜は櫻色となるなり、色のつきたるを度として鉢に入食卓に供すべし。

△鐵砲あえ

先づ頭尾骨ワタの類を皆きれいに除け身を酢に付け置くなり（但し身にうすき、しほをなす）別に大根と人參とをうすくひやうしぎ成にきり薄じほして置て能く手にてもむなり別に味噌、唐がらし、砂糖と酢とをまぜてよくすり後魚と大根人參とを味噌の中に入れかきまはし味を見て後丼鉢に盛りて食卓に供す。

△すき燒

先づふを水にひたし置き玉葱も又洗ひて、こぐち切りになし置き鍋に牛肉のアブラ又はバターを引きて其の中に牛肉玉葱を入れ少しく煮立てるなり凡煮立ちたる時ふをしぼりて鍋の中に入れ能く煮る（砂糖醤油にて味をつくなり）煮上りたれば皿に盛りて食す。

施療患者を扱ふ避病院

實驗せる一患者

去年の夏、堀井戸を飲料水に用ゐて居りました私の住む町の一廓に、チブスに罹るものが續々と出來まして、中には擧家此病が傳染して、親子四人同じ枕に呻吟する向きへあつた位、わたしも終局病毒に感染して幾日か四十度前後の熱が續いた後で、醫師は全く窒扶斯だと診定して、頻りと避病院へ入院するやうにと勸めました。

醫師は早速手續をなして、其翌日區役所の衛生係が、警察署と同道で釣臺を部屋へ擔込ませ一應診察してから、親戚附添の上施療患者として○○の避病院へ運ばれました。

△入院當時の感想

病院へ着くと、釣臺は玄關脇の初診室へ下される、白衣の看護婦の手で着て來つた着物は、殘りなく白の患者服(日本服の袷)と着換へさせられた後、一應の診察があつて、小車の附いた擔架に乘せられ、看護婦の手で病室へ送られました。

收容されたのは、第三舍の六號室三間に四間位の一室で、這入ると直ぐに、四臺の白い寢臺の右手の二つだけに、同じ患者が氷嚢を頭に載せて、横になつて居る。而して此夜は入院騒ぎで餘程神經を刺戟され、病熱も昂まつたと見えて、頭腦は爭々と痛み續けるので、氷嚢を括り附けた儘、呻吟の中に夜を明かしました。

翌朝、隣の空寢臺へ昇上げられた十二三の少女は、餘程の重體と見えて、最初から寢臺の上で、くるひ廻はつて、囈語ばかり云ひ續けて居ましたが、夜になると寢臺から轉げ落ちました。何れ避病院へ送る程のものですから、附添ふ人もなく受持の看護婦は、醫員の命のまゝに手當をして、此兒を寢臺へ縛り附けたばかりで、定めの時刻にこの部屋を退いた儘寄附きません。親しく看護するものゝない哀れな病兒は、夜の更けるに連れて苦惱は募るばかり、修羅の苦みも斯くやと思はれるやうに激しくなり、果ては縛られた紐を脱けて、又もや板間へ落ちました。

此兒の呻聲に刺戟されて一層腦徑も攪亂されました。同室の人々は見兼れて看護婦を呼びやうやく元の寢臺に移しましたが、翌朝重症患の室へ移され、其晩終局亡りました。

△存外の好待遇

實は病院の方でも重症は重症、輕症は輕症、快癒期は快癒期と云ふ如に、それ〴〵區別して、一室に收容する如に爲ては居るものゝ時には室の都合で、一日か二日位は入交ぜに爲て置く場合もありますので、私はそれに遭遇ました。

幸それが爲めに病勢の募る如な事もなく、二三日後には熱もさがる一方では室も七號へ移されます。二週間後には常熱に復しまして、經過も

重湯。それ迄は重湯の外に粥が三食に一合宛、牛乳が午前と午後に一合宛給せられて居りましたのが、別に鷄卵一箇を朝飯に添へられ、それが二つとなり、又進んで食毎に一箇一日三箇となり、粥も交飯と稱へる粥の濃いものとなりましたが、三週間の後には粥、四週間目には常食と申して一食だけ普通の御飯、それが朝晝二食となり、次には三食となりなりまして、六週間後には退院の出來る事となつたのですが、流石に嚴重な病院だけに、醫藥食事から看護の模樣迄、事々規律の正しいものでした。

△餓鬼道に似た患者

規律の嚴重なだけそれだけ、恢復期に向いました患者は、此病氣に經驗を持たれない方々の想像されない、苦患を嘗めなければならないのです。

一體チブスは、今の進歩した醫術によりましても、即治させる方法は未だ研究されて居りませんで、患者には僅かに解熱健胃の藥劑を與へて置いて、自然の退熱を待ちまして、熱が退れば其所で始めて食養法で身體の恢復を計るのである、と申す位のものですから、熱が退た後の食物の給與方は、極めて嚴重なものです。前述の通り、重湯、粥、卵、米飯と順を逐ふて、患者の體質や、衰弱の模樣、恢復の經過抔を、仔細に考へ合せて、各自各別に與へられるのですが、何樣恢復期に向つた患者は一般に、食慾の增進して居るもので食べられないものは尙ほ食べたく、且つ入院中は一切讀書などを禁じられて居りますので、退屈も手傳ひまして、唯もう食物の事ばかりで、食事の配膳がある毎に、隣床のお膳など横目で睨んで、食物の分量の多い寡いを胸算用いたします抔は未だしも醫員の回診の時には、それとなく增食を督促する。其上手になると同じ部屋に自分より食の多いものがあると、其人から盜別けを頂きたがるやうな、餓鬼根性を起す向がある、唯々牛乳の配附されますのと、食事の時間ばかりを待焦れて、檢査の都合で、（患者から、看護婦、附添人の辨當まで、食物は一切醫員の檢査があつて、不良品は明方に取換へを命ぜられる。）時間が後れると大騷ぎです。

私の實見したのに未だ充分熱の退めない隣室の患者が、見舞の人から密と餅菓子を三つ貰つて食べたばかりに、一晝夜苦み通して亡くなりました、そんな恐ろしいのがあるのに親戚や知己の見舞に來るのを口既立て禁制の菓子類を、密と背中抔へ忍ばせて貰つて、受持の看護婦に看破られ持つて參つた人は面皮を剝がる。患者は頭から叱られ、持込んだ品は、棄て了はれる。それでも患者は、被品を棄てゝ了ふのか知らん、眞實に惜しいわ抔とまるで子供のやうです。

△獻身的の勤務

病院の看護婦は一室を三四人分擔するのですが、其職務の激しい事と申しましたら、中々です、まづ午前三時頃には一人だけ起出でゝ、廊下の拭掃除を致し、一會二三十人の患者毎に備附けられて居ります、藥瓶、

含嗽水、茶碗抔を載せたお盆の掃除をいたします。夫が濟んで四時頃になりますと、又一人補助が起きて來て、患者毎に備へてある尿器の尿量を斗り、便器と一所に不潔物の掃除場へ運びます。夫が濟みますと臉盥の上で一々患者に顔を洗はせまして、體溫、脈搏、呼吸の數を量つて、患者毎に備へてある溫度表に記します 續て病室の拭掃除を濟ませて、七時には賄方から食物を受取り患者毎に配附します。八時から九時迄の間には、隔日に患者の灌腸も爲ます、（窒扶斯患者は、熱の爲めに屹度便秘するものです。）十時頃始る醫員の回診には、二三人附添ひて、種々の世話をします、と云ふ風で、回診が朝夕二回、食事が三度、牛乳が二度不潔物掃除が朝と午後の三時、室掃除も二度、檢溫が熱の ある ものが五度常熱のものが三度、これだけは是非とも一日に爲なければならない勤務です。

其上重病者は、氷で頭を冷やします、毎朝洗藥で口中を洗ひさす、藥も吸飲器で飲ませれば、糞尿も褓襁で取ります。不寢番は夜中でも體を休める事も出來ません。一晝夜全然間斷のない勤務振で、之が一舍五六名の看護婦（院内が八舍に別れて、病氣に依つて夫々區別されて居ります、一舍は確か八室でした。）が取仕切つて引受けて居る仕事ですが、其報酬と申しても、少ない方は月に十圓位、一舍一人の看護婦取締でも、三十圓を越えないと云ふ事です、一歩を過れば、直ぐと自分の身に傳染する危險な患者の無理我儘を、眉一つ動かさないで手の屆く限り親切に看護られねばならぬ、ア丶慾徳では出來ない、獻身的の立派な勤務であると心から感じました。



雖然夫も、これは永らく病院の厄介になつて、院内の規律をも聞き、親しく看護婦の勤務振も見た上での感想で、入院の翌晩重症少女が苦悶の餘り寢台から轉げ落ちても、容易に駈附けなかつた時抔は、ア丶避病院の看護婦抔は不親切なものだ、と感ぜすには居れません、亡くなつた者の側から觀れば、避病院へ遣るのは殺しに遣るのと同じ事だと、考へる向もあるでせうか、全くの處は重症になつては、甚麼名醫でも手の附けやうはないもので、看護婦抔は醫員の命令通手當をすれば、其上に盡し樣はないのです。生死は既に定まつて居る運命で、夫を恨むのは愚痴でせう。癒つて退院した私抔は、避病院は思つた程恐ろしい處でなく規律が嚴重なだけに、斯う云ふ病氣を癒すのには、至極適當な處だと思つて居ります。

私の趣味生活

法學博士 江木衷氏夫人 江木榮子

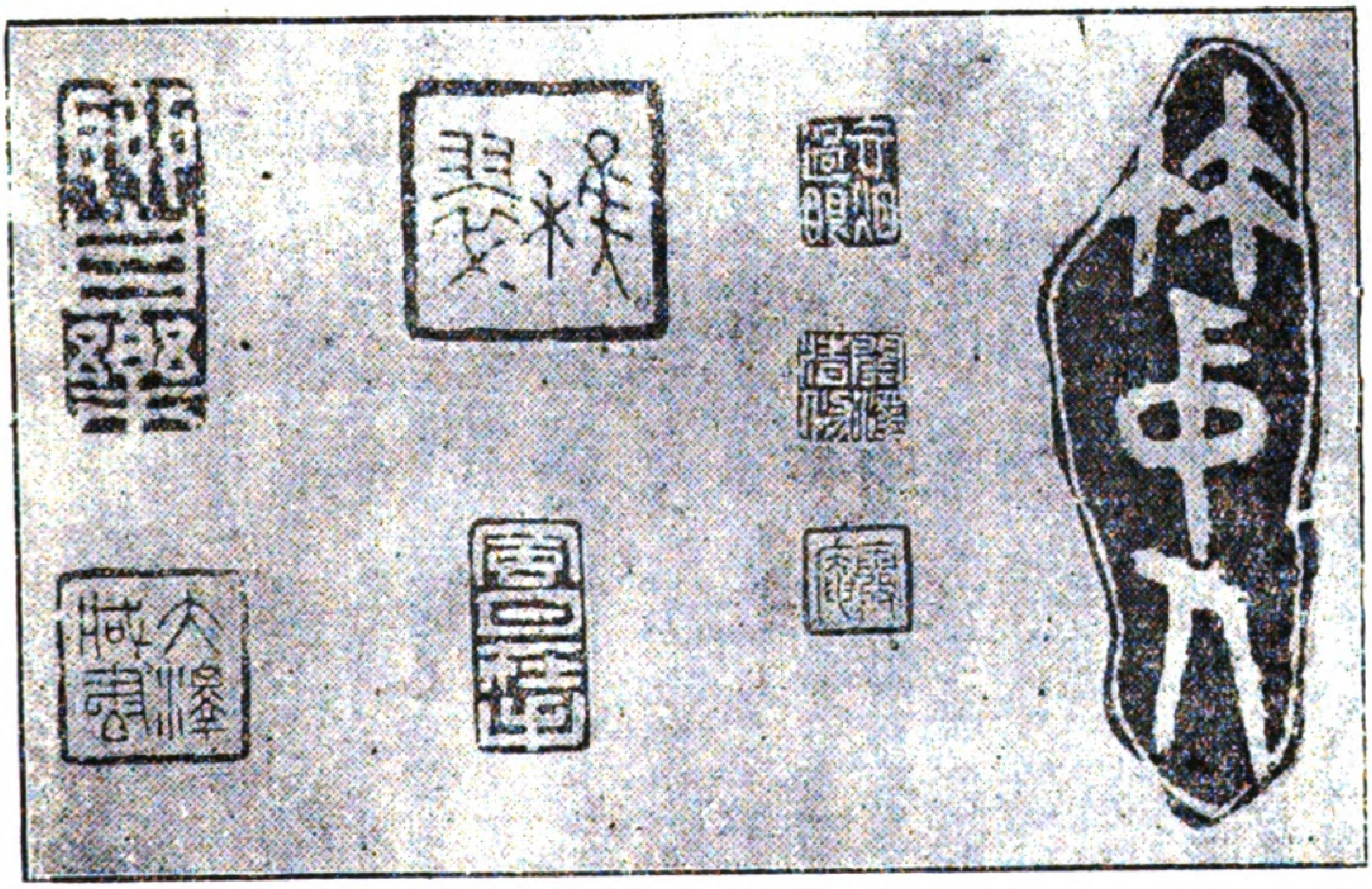
△土肥博士に就て料理を研究

人樣が御覽になつたら、餘程氣樂に見えるかも知れませんが、主人は毎日他出致します上に、折々長途の旅行も致しますから、家事向きのことは一切私の責任となりますので、少しも氣は許されません。それにかういふ職業ですから、殆ど來客の絶えた事が御座いませんし、使用人も少なくはありませんので、中々骨が折れます。臺所のことは、大抵ホテルからコックが來て造つて呉れたり、又他の料理人など、時々參つて皆やつて呉れますから、殆ど自分で手をおろすといふ事はありませんが、材料の買入取捨など、やはり私が目を通さなければなりませんから、色々仕事が御座います。

その代り料理は大抵研究いたしました。何分主人は永い間の糖尿病で、殆ど澱粉質の食事を取る事が出來ませんので、米飯は無論の事、魚肉を料理しましても少しの砂糖さへ入れる事が出來ず、僅かの薩伽淋で味をつけて居ります爲に、誠に不味さうに見えましたから何とかして今少しおいしい樣にとおもひまして、其の仕方を土肥博士のところに參り、いろ〳〵研究しましたので、料理のことには少しく精しくなつたらうと自分でも思ふので御座いますが、何しろさういふ病氣ですから十分食欲を充たす譯にも行きませんので、ほんとに心配で御座います。

△うつかり物はできぬ

江木夫人最近の篆刻



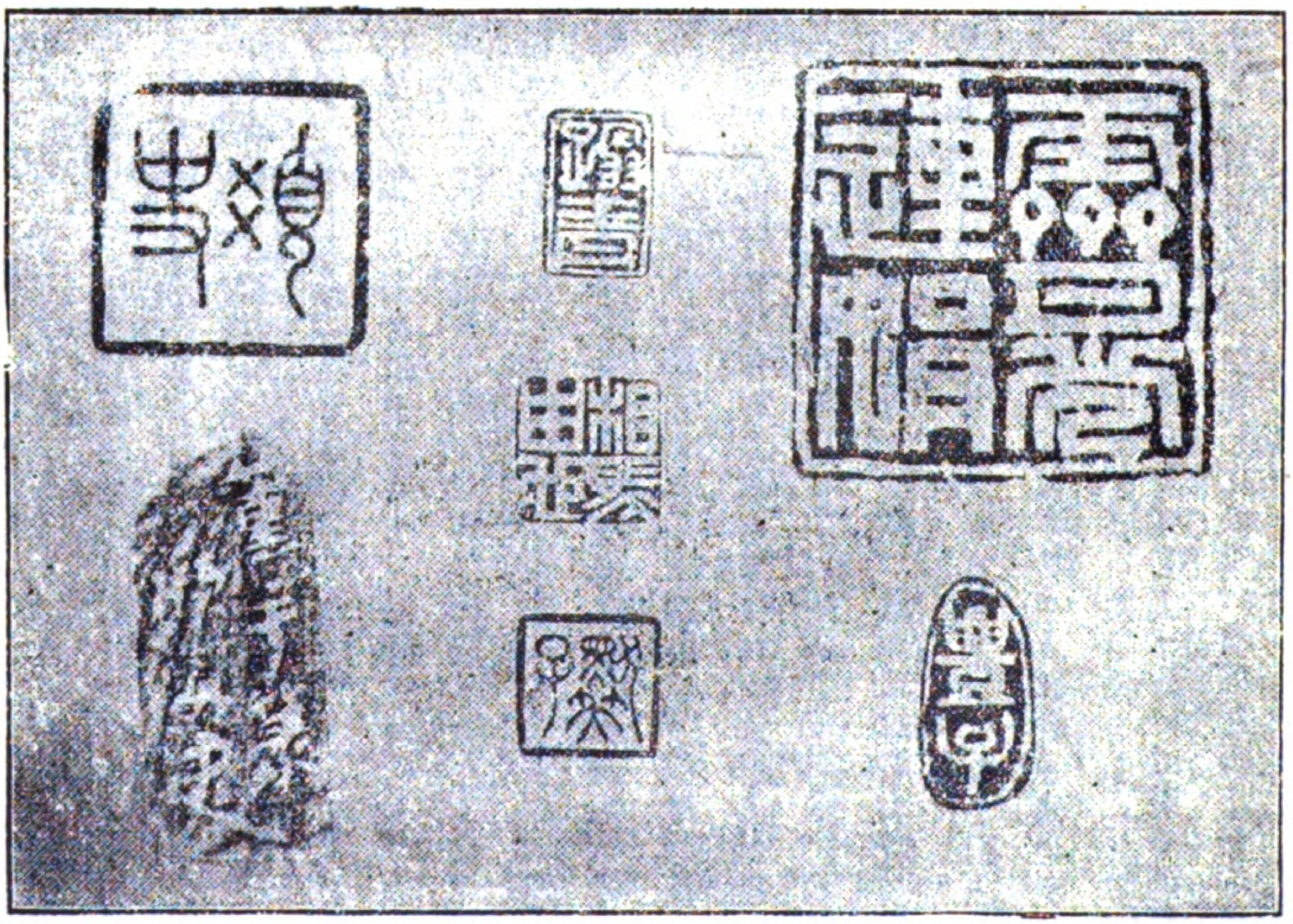
花は少しく稽古いたしましたので、どうかかうか活ける位のことは出來ます。尤もこれはほんの室内裝飾として活ける位のもので、自分では左程面白いとは思ひません。茶も點てますが、これは主人の方が却つて能く理解して居りますので、少しでも落ちがありますと、隨分皮肉な批評が出ますから、それが口惜しさに滅多に開きは致しません。着物などでも主人の方が却つて趣味が高いので、襟一つでも一々見立てゝ呉れるので御座います。

主人は平素あまり物を言はない方で、私が解らない字などを聞きましても「そんな字は知らん」と言つた切り何にも申しません。それを執拗く聞きますとそれ位の事がわからないでどうする、何の爲めに師匠を雇つて置くのだ」と申すのですが、それで居て何か私がやつて見ますと、頭ごなしにされるのですから、うつかり物はできません。

△妙な機會から印材を蒐む

近頃私は篆刻を習ひかけましたが、此の方は自分でも趣味をもちまして、中々熱心に致して居ります。いえ、まだ〳〵ほんの初歩でして、迚もお話にはなりません。こんな事を始めましたのも矢張り主人の病氣が動機で御座います。

御料理の事を研究します爲に土肥博士のところへ參りますと、不鬪印材を美事に並べてある箱に眼がつきまして、それが妙に私の頭に響いたので御座います。あゝいゝなと思ひ乍ら能く見ますと、皆博士の御名前を刻つたもので、中には鷄血石などの見事な印材も御座いました。これは面白い事だと思ひまして、宅へ歸つて主人に勸めますと『印だとて莫迦にはならん、特に鷄血石などになると、一箇で何千圓と價する貴重なものがあるから、うつかり手は出せないといふ事でしたが『趣味の爲めですから何も價の高いものを集めなくてもよいでせう』と申しますと『それではやつて見るがよい』といふ事になりまして、それからぼつ〳〵印材を蒐め初めたので御座います。



欣々女史最近の篆刻

△篆刻の處女作

之を集めますにも、それ〴〵方法が御座いますから、初め永坂石埭先生に御相談を願つてやつて居りましたが、暫くして先生から中根霞城さんを紹介して寄越されましたので、それよりは中根さんに賴みまして、いろいろ蒐めて見ました。

恁うして集めて見ますと、今度は自分で刻つて見たくなりました。それで門前に居られる翠石さんに一通り刀法を習ひまして、昨年の天長節にやつと一つ主人の印を刻つて見ましたのですが、それが案外良く出來まして、嬉しくて〳〵たまらず、それから毎日熱心に致しましたので、昨年中に百五十顆も刻りました。

△會心の作を得た時の愉快

最初は十分用心をしましたから、滅多に手を切る樣なとはありませんでしたが、次第に慣るゝにつれ、一氣呵成に刻つて見樣などゝ不似合な事を考へまして、腕に一ぱい力を入れて刀を下しますと、忽ち刀端が外れたりして、よくけがを致しました。併し一度刀を執つて、印材に對ひますと、世間の事も自分の事もすつかり忘れて仕舞つて、精神が全く刄物の先へ集りますから、隨分樂みなもので御座います。でいざこれでよいなと思つて刀を置きますと、身體は何時もびつしより汗になつて居りますが、それを拭き取り乍ら、直に白紙に捺して見て會心の作を得た時の愉快は、何とも申し樣がありません。その出來たのを主人に見せますといつも、何とか斯とかあらを搜しますので、其の爲には、折々不快な思ひも致しますが、それも技術が進んで見ますと、成程と自分の刀の活きて居ない未熟な點が目に着くので御座います。まあこれからが肝腎なので御座いませう。

△書は森槐南氏の賜物

篆刻を致して切に不足を感じますものは書で御座います。以前多少習ひましたので、時折墓標などを書く

ともありますが、誠に拙う御座いますから、今は齋藤芳洲先生に就て隷書を習つて居ります。それに就て思ひ出しますが、森槐南先生が以前私が書を習ひたがつてゐるといふことを聞かれまして、御秘藏の蘇東坡の法帖を、わざ〳〵持つて來られまして「さあ奥さん、これを上げませう、貴方は本當に書を御習ひなさる決心ですか」と申されまして、あの大きな目をぎろつと私の方へむけられた時は、ほんとにぞつとしました。それからその法帖に就て一生懸命に習ひましたので、少し書ける様になつたのは全く森さんの賜もので御座います。

△樂燒の樂しみ

いろ〳〵致して見ますと、漢文も必要ですから、此の方は岩永裳川先生に御出でを願つて研究して居りますそれゆゑ、和歌よりは詩の方が面白くて、下手ながらも折々作る事がありますし、興の湧くまゝに獨り吟じて樂む様な事も御座います。ハイ謠曲も好きですから師匠を招んで稽古をして居りますが、まだほんとにおはづかしいのでございます。樂燒で御座いますか、これは私が繪が好きなものですからたゞちよい〳〵樂燒のものを買つて來まして、それに繪を書いて燒いて見る丈で御座います。實は自分で土をこねて自分で燒き上げるのでなければ、眞實の興味はないのですが、さう何も彼もするわけにもゆきませんから、ほんの眞似のやうな事をして樂んで居りますので。

結婚と壽命

或るドクトルの說に人間一生の間男女に拘はらず獨身の時代に著るしく其の身體に及ぼす影響は二十五六歲の間であるさうな、これに就てフランスの統計家デーサー氏の計算した所によると、三十歲で結婚したものは生涯の獨身者に比して十一年の壽命を延ばし四十歲で結婚したものは六年の壽命を延ばし、結婚期の遲くなるに從つて壽命を減ずるものだといふ、又印度では幼少の時代に結婚するの風習であるが、就中ヘンガ灣邊に住する人民は、少年の結婚は佛陀の加護を受くるものだと妄信し、結婚契約の前先づト筮者に就いて占ひ、若しその少女が長命を保つものとの占を得ると、これを更に他の長命を保つと預言せられた少年に向つて婦を求め、寡婦となるやうな事はないと喜んで居るさうな、印度では斯樣に早婚が行はるゝから、少女で兒を產むときは、其子を遇すること恰も人形を弄ぶやうな傾きがある。



家宅捜索を受けた苦き經驗

五十鈴川　澄子

昨日より主人も留守なり、來客も皆玄關のみで歸らる丶故、かういふ時こそ心靜かに、つもり物をしたり娘の被布も仕立上げんと、こ丶暫らく自由の天地の心持で、私は悠然と奥の八疊へ陣取りました。主人在宅の折は、小間使から取次の役から、一切皆私の手一つで致しますから、怎んな時でゞもなければ、些の餘暇もありません。尤も小人閑居して不善をなすの譬もあり、かた〳〵身體にひまがあれば、隣近所へは往く、人の噂はする、井戸端會議には耳を傾ける、さもなくとも小説等に耽溺して（風葉さんの神樂坂耽溺とは異なれ共）自然とよからぬ道にはまり込み、取り返しのつかぬやうな過をしだすかも知れませぬが、細君操縱に妙を得て居る主人は女の身體に一寸の暇をすら與へぬ事を以て唯一の良策と堅く信じ、人々にも此説を主張して止まない人ですから、少しは骨を休めなければ間尺にあひませぬ、とはいへ全く女は閑居すれば不善をなしますわね。自らが女でありながら怎んな事も申しては、目白臺あたりからの攻撃の矢はそれこそ激しいでしようが、多年の經驗と人樣の身の上とを思ひ比べれば、壓制なやうなれど、此の家憲に心服してをる方がどうやら安全なやうでございます。さて、さういふ積りで暮らして居る私でも、偶々主人の四五日つゞきての旅行等の折は、心身の自由を得た心地で、浩然の氣でもありますまいが、何だか我といふ感念が强くなつて、ホツト一息つくのですが、この大安息時期に際して、俄然怖ろしい宣告を受けました。家宅捜索！嗚呼夢にも豫期せざりし家宅捜索！　私は驚いて、魂も身に添ひませんでした。

貧乏こそしてをるが、高利の金など借りて差押の憂目にも遇つた事もなく、食べるに困つて質屋の暖簾を

くゞつた事もありませず、この年になつて此二の味を知らないのを大に感謝し、又誇りとして居りました程ですから、何で家宅捜索などを豫期しませう！

主人が留守でも尊き職權を帶びた御役人樣方に對しては一の故障も申されませんから、命令の儘に先づ二階の書齋へ案内をしました。そこには主人の愛藏の書籍が整然とおかれて、古今の名著は天の星の如き輝を發してをりましたが、其等は唯豫審判事が一眼御覽になつたゞけで、さすがに若き法官の手には觸れません。用箪笥の引出には色々の書類がありましたが、何事の犯罪嫌疑の爲めか、一々それを取調べられ、金緣の檢事さんと、嚴格相な判事さんとの間に數語が交へられましたけれど、別にこれは意味のあるものではなかつたやうでした。

やがて中の八疊即ち書齋の隅に置かれた錠前付の本箱に眼をそゝがれて、是も書類かとおきゝになつた故源氏や萬葉の類でとお答へしましたが、私の聲は甚しくふるへてゐたと見え、一寸中をのぞかれたけれど、さすがに二大詩人の作物には及びませんで、私は心の中で手を合して拜みました。其傍に黑塗の文庫が竹細工の机と並んで居ります。是は私の領分なれど、まさか私のともいひかねて、つくねんと傍に觀てをりましたこゝには、種々の紀念の文が藏せられて、與謝野さん御夫婦のやうな、若き血漂ふ文反古はないが、母上の美事なお家流の短册や、父上の六十の賀のお歌、又は一葉女史の原稿・高山博士の病中の書など、私の爲には大事々々の手文庫です。こんな中に何で疑の種がこもつて居ませう。猶そこに、私の親友が死ぬ三時間前に、私へ文かく文かくとさわいで、看護人が紙と筆を渡したが、何をまあ臨終に書けましよう。ぱたりと紙を落して、薄墨は夢の跡の如く點々とつきぬなごりを殘して、人は其儘昏睡狀態に陷りましたが、其紙を唯一のかたみと私が友の夫より貰つておいたのがありましたが、八ツの眼はいぶかし相にそこへ集りました。私が其瞬間の思想の多忙なる、あらゆる連想にかられて、一座の老判官、若檢事、初々しい書記、など

の姿形は眼に入らで京出來の文庫一つは實に雜多のおもひをおこさせました。嗚呼生？死？　それは人の世の聲の反響で、もとより甘き戀のさゝやきごとはなくも、親が長壽のよろこび、友が早世のかなしみ、博士、女史、ひいては「平家の滅亡」「十三夜」の事までもおもひつゞけて、刻一刻私の胸はひきしめられるやうでした。

數奇を好む主人の筆さし、珍らしとや老判官手に取つて御らんに



なる傍に、度の強い金縁の檢事さんは、夫が禁酒餠といふのを御らんになつて、微笑がたゞよつたのを見ては私も可笑しく、其裏にまた禁酒餠とあるを殊更興味もて御らんになりましたが、もとより問答すべき性質のもので無いから、私は默してをりました。始めこそ、實に驚いたものゝ二十分と過ぎ、三十分と經て別に何等異狀なきを察した折は、もう怖ろしい事もなく、悲しい事もなく、寧ろ好

奇心にかられて注目しました。

立合の刑事さんは、稍生に疲れた態度で、更に活氣は無かつたが、是から出世なさらうと思はれる檢事さんは大層活々とした眼付で、洋服も身體にしつくりと合つて、お歳は三十になるかならず、お輕ではないが勘平さんそこ／＼でせう。多分華やかな大學生で、幾多の式部達をさわがした經驗もあつたゞらうなど、愚にも付かぬ事を考へて、冥想に耽溺しました。こんな耽溺は神樂坂以上の罪でございませうね。

もの丶四十分も經て、皆樣お歸りになりました。私は惡夢より醒めた心地で、別に犯罪らしい樣子もないが、心痛おびたゞしく、直ちに旅行先の主人のもとへ電話で知らせましたが、何も疑をうける覺は無い。決して案じるな、今は大切な要件を帶びて居るから歸宅する譯にはゆかぬとの返答を得て、やつと安堵いたしました。

先年選擧の時、秋田縣選出議員さんの○○氏の奥樣は、大病で臥せつてをられるにも係はらず選擧法違反の所以でやはり家宅捜索をやられた時、其落付いた風明断に答へた詞、實に賢夫人と皆々感佩なされたと、新聞紙は其夫人の學校迄も擧げて賞めましたが、とても私には出來ない藝當です。政治家の夫人は其位の心掛あつて然るべき事とおもひますが、それでもまあよく病中にね。

私の家で此の事があつてから數日を經て、某新聞紙上に司法部の人權問題といふのがかゝげられて、近頃司法部の檢擧判決共に苛酷に失し、人權を輕視する傾向あるとか何とか仰々しく論じてありましたが、もとより女の知るべき事でもないのに、三面を先に一面二面を粗末にする私が、それでもこの論説に一寸眼が付いたのは妙でせう。主人は苦い經驗の結果だと苦笑いたしました。

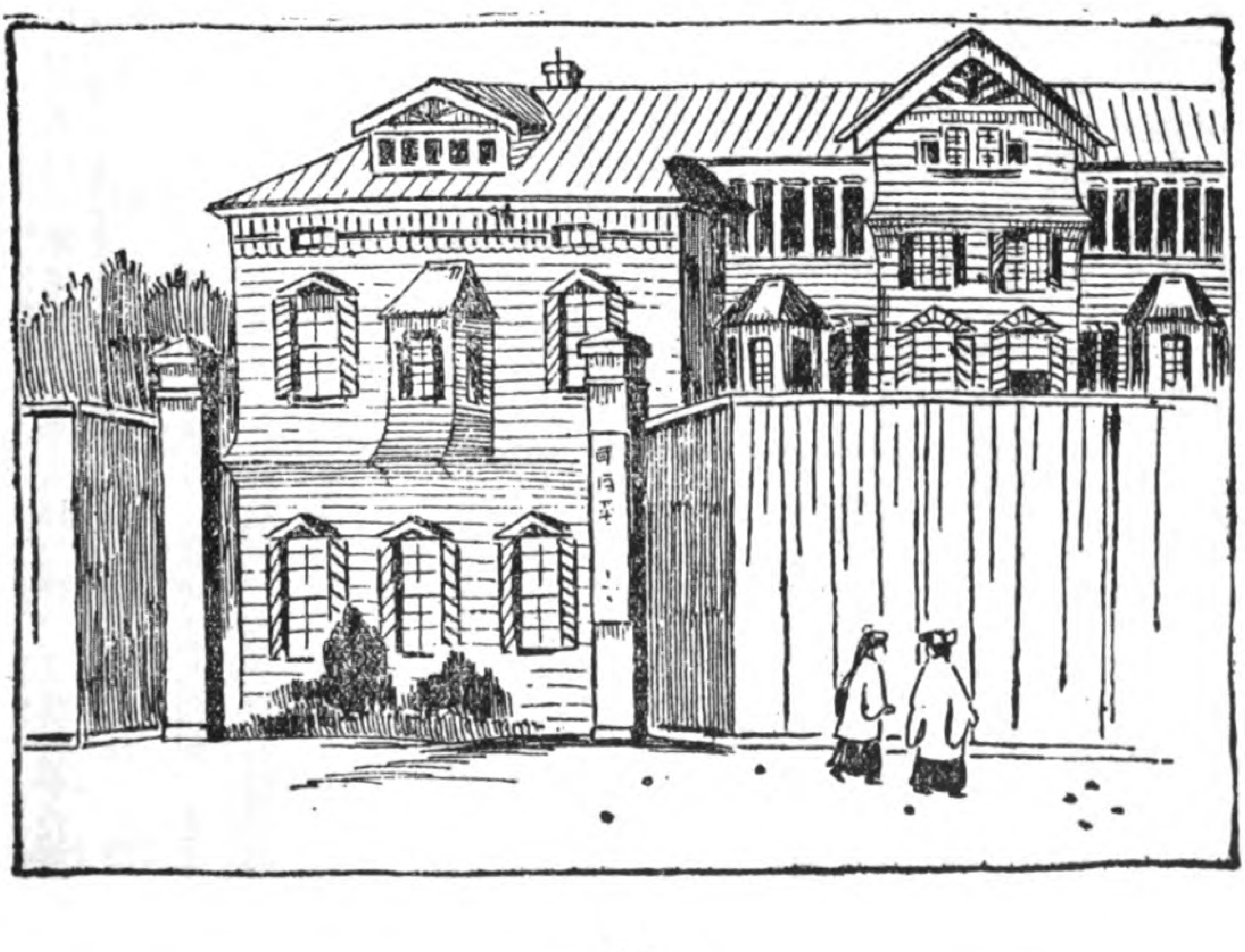
昨年はよく當縣下に檢擧が行はれ、あちらでもこちらでも家宅捜索が行はれて、少し社會に知られる家の人は安い心も無かつたのです。○○縣の大疑獄などゝ大袈裟な報知を掲げた東京の新聞もありまして、今日

は誰樣が拘引された、昨夜は何氏が召喚された、やれ會議で上京中の檢事正が電報でよびよせられた、飛火がどこ迄行くやら、お氣の毒な榮華におくらしなされた女好の國會議員樣はとう〳〵入牢された事の、必ず召喚位は受けると思つた何樣は無事であつたの、なんのと床屋でも湯屋でも人寄のする場所では、この話で持きつてをりました。

　然し噂程でもなく立ろに消えて了ひました。

　えんぎでも無いそんな事かき立てゝと、仰しやる方もありませうが、今は昔、地位ある教育者が身から出たさびとはいひながら獄裡のうき目にあひて、永年の功勞も水の泡、ましてかよわき家族の悲歎はどの位であつたでせうと、ほんの疑をうけたにすぎぬ私一家の出來事に遇つて、つく〴〵同情の念に堪へませんので……。近くは又日糖事件に關はつてこの寒空に、牢住居の人々の家族の方は何んなに思つて居らつしやるでせう。實に氣の毒でなりません。

東洋英話女學校（校長ブラツクモーア氏麻布鳥井阪町）





いろ〳〵の實驗

[illegible][illegible]花　子

一等　此の心の向ふに敵なし

宅の兄は嫁を貰ひまして後は、丸で別人の樣な薄情な人と成りました。私には不愍でならず、又悲しくて、母の無き身の心細さ、さりとて歳老いし父上のお耳に入れんも罪なれば、と、何時も倉の中や床の中で獨かみしめて忍び泣きをして居りましたが、此事がいつと無く叔母樣の目に入る樣に成り、或日私を呼びて仰有るには、御前も誠に不憫な子だ。五つの時から繼母に養はれ、續いて親と頼りし姉に先立つてしまはれるし、只々一人の兄を杖柱とも思つて、遊學中にはねだるがまゝに歳も行かない身乍ら心配して親に隠して送金などもしたのに、其の親切も忘れてしまつて只今の仕打。從て嫁迄お前をあんなに食客の樣にあつかつて居る憎らしさ。お前の氣兼するのが見るに忍びないから思切て兄をよく戒めて遣らうと思ふが、切無い事は何でもお明かしと、切なるお言葉に思はず涙をしぼりました。では叔母樣斯樣云つて頂ませうか、わざ〳〵で無く何時でも御宅へ來られた時、序話に、花子も早く母や姉に別れて不憫な子だが、それでもお前方が能く勞はつて遣つて呉れますさうで、草葉の蔭でも皆樣が喜悦んで居なさるでせうと言つてつく〴〵悦んで居りましたと、かう傳へて下さいと云ひましたら、叔母上も意外の返事に驚きなさいましたが、考へて、あゝ其方は却つて好結果を見るかも知れないとて、後日好機を得られて、御願ひ通りお傳へ下さつたさうです所が其時は心がとがめてか妙な顔して居らしたさうでしたが、其後は二人とも頓と人が變つて、深切な妹の愛を注いで呉れますので、どんなに悦びましたか。最早六年も住みますが、何時も暖い春の樣で有ります。以後是れに限らず此心を失はない樣にしたいものと心に決しました。

二等　子供を人任せにして失敗

[illegible]井和歌子

道子は私のごく若い時の子ですが、姑樣が總べて世話をやいて下さるので、私は左ほどの困難をも感ぜずに過しました。さうして居るうち、

道子が四才の時に又敏夫が生れました。然うなつて見ると其方に手が引て、道子はいよ〳〵母様任せになりました。其翌年主人は九州の某地へ轉任する事となり、私も共にまゐりました。其時母様は一人では淋しいから是非道子を置いて行つてくれるやうにと申されたから、遂ひに其ういふ事にして參りましたが、あゝ今から思へば不覺でした。三年過ぎて歸つて來た時には道子は見ちがうばかり、大きくなつて居りましたけれども、其のかはりに私との親子の情けは全くさめました。お腹をいためた私の子ですもの、二年三年はなれて居ても親子の情にはかはりはあるまいと信じて居りましたが、私が物を云ふてもへんな目をしておばあ樣の陰へかくれてしまふのです。其後よほどよくはなりましたが、猶今でも一重の隔てがあるやうで、私は何んだか一人の子を母様に取られたやうな心持ちがします。私は今更あまりに我子に冷淡であッた事をつくづく悔みます。ほんとに子供を育てる者は何人も人任せにせず、將來のためを思ひ、自ら其任にあたらればならぬ事と思ひます。

三等　乾飯の糯餅

滋賀　西はるの

毎日女中さんがお櫃を洗ふ時に、其の中に御飯粒が多少附いて居りますが、洗ひながらそれを自分の口へ入れて食べる女中さんも有りませうが、又中には洗ひ流す方が多く有るだらうと思ひます。私宅ではお櫃を洗ひに出す時には、必ず小皿を二枚其の上にのせて置きます。其位に致して居りますから、女中も毎日いやな顔もせず必ず其の小皿に御飯粒を入れてちやんと火鉢のドッコの蓋を取のけて其上にのせて有ります。それを何でも初め二三度はめんどうですが、なれますと何でも有りません。そして知らず〳〵の内に乾飯が出來るのです。丁度豆板の様になりますから、手のさきでよくもむのです。パラ〳〵に成りましたら、袋か箱へ入れて置けばよろしいのです。私宅では一ヶ月には八合位出來ます。其の乾飯を澤山ためて置き、まして冬になると其れで糯餅をつかすのです。されは乾飯一升に糯米一升のわりで致します。大變よろしい餅が出來ます。殊に御老人方や小兒衆には誠によろしいものです。皆様も一度おためし遊ばせ、一寸御たのしみなものです。或は乾飯を焙烙で炒つて、黒豆や白豆を同じく炒つて交ぜ、黒砂糖で味を付け、其中へ水飴をたらしてお口にはいる程に丸めて置きますのです。小兒等のよきおやつに成ります。其の水飴の入方は凡そ二升の中へ六七錢も入れゝば、ピカリと光が出て大變味もよろしいです。

話は別ですが、皆様古き絹物をおほどきに成る時に、羽織や着物でも、必ずキユ〳〵と云つて何だかほどきにくゝて御困りでせう、其ういふ時には頤で三度其のぬひ目をこするのです。少もキユ〳〵なぞ云ひませんから、是も皆様おためし遊ばせ。

秀逸

名産類を人に贈る注意

薩摩　倉石ふじ子

私の郷里は越後で御座いますが、毎年寒くなりますと、母が丹精して氷豆腐を製らへては送つてくれます。本年も一月早々ごま等を入れて色も白く誠に美事なのを送つてくれましたから、御懇意な奥様にお分け致しました。處が暖い國にお成長なすつた方は、氷豆腐なんて夢にも御存じがないと見えまして、かき餅だと思つて生のまゝぽり〳〵召し食がつたんで御座います。丸で噺の樣ですけれど、眞實も眞實、しかも高女出身の奥樣なので御座います。

又一度國の名物信濃川の鮭の子を味噌に漬けて、母が送つてくれました。薩摩邊では眞實に見られない珍らしいもので、色も美しく粒も揃つてゐるのです。で之れも或る奥樣にお分け致しましたら、何だか食べられんで出入の者か何かに遣つておしまひなすつたとあとから、其男から聞きました。處變れば品變るで、國では珍重致す物でも、差上げる方によりましては三文の價値も無くなるのですから、おつかひ物、殊に名産類は、餘程人を見て差上げなければとつく〴〵感じました。

必ず事の成功する秘訣

女子美術學校　菅原初子

元來私は愚鈍な性で、人の一時間かゝつて出來ることが、二三時間もかゝつて漸く出來上ると云ふ風でした。處が或日「同じ優等生でも、遊ぶときには遊ぶが、勉むるときには懸命になる者と、懸命にはならないが、始終机の前に坐り通しのもの、即机の蟲となるものとがある」といふことを聞きまして、大に思ひ當りました。今迄の自分のやり方が不眞面目であつた、讀書のときなども色々他念を交へるから、いたづらに長時間のみ掛りて、その結果は「二兎を追ふ者は一兎をも得ず」となるのだと思ひ、以後は一時に一事、專心其事に當ることに致しました。始めのうちは中々で、ともすれば雜念が交らうとして、二つの敵とは少からず苦戰を致しましたが、今はよほど結果があがりました。而して短時間をうまく利用して成した方が、不眞面目に長時間を要したよりも結果も頁好であることもこの際實驗致しました。それゆゑ私は我生命が長かれとは祈りません。假し短生涯であつても遺憾なく働いて置けば、この肉體は死しても其功績にに無限の生命があると信じて居ります。

指を病んで左きゝになる

淺草　吉田貞子

私は此一月の中頃にふと右の指先をうませました。始めの内は左程で「も御座ませんでしたが、三四日過ちますと、痛が餘り強う御座ますから、醫師に手術して戴きました。手術する時は注射を仕て掛りましたから痛みは有りませんでしたが、家へ歸つてから非常に痛みまして、其の夜は

眠むれませんでした。でも好い都合に指先丈けで濟みましたが、一時は預けられてゐた勝手元の仕事などは何も出來ませんでした。養母は私が用が出來ないから仕方なしに勝手を仕て下さいますが私は夫れを見るに忍びず、慣れない左手で、出來ないながらもやつて居りました。斯うして五週間も苦しみましたら、指の全快する頃に左の手で洗濯でもランプさうぢでも何んでも出來る樣に成りました。物はなんでも出來ないといつてしなければ出來るものではない、少々無理と思てもやる氣なればきつと成功するものだと感じました。

買物に苦心した話

京都　ちどり

私が嫁いで最初に困りました事は、日々の買物でした。今迄は學校の歸りに書店についてゐはがきを買ふ位が關の山、それもお直段なんか聞くのは恥かしいから、自分のほしいもの丈をとつて、之を買つて行きますよとすぐかけ出して來るといふ風でした。其世間見ずのお孃樣が、一家の主婦となつて、下女なしといふさわぎですもの、隨分面白い滑稽談もありました。外の買物はそうでもありませんが、私どうしてもあの八百屋の店先にたつことが出來なかつたのです。自分のお金で物を買ふのに、誰に遠慮がいるものかとは思つて見ましたが、何だか隣や向ひの人達が自分を監視でもしてゐるかのやうな氣がして、はいられなかつたのです。あの品がほしいと思ひながらも、横目でにらんで行すぎてしまひました。併し先の方には何の用事もない身の今度こそはとすぐまた引返しましたが、やはり恥かしくつて思ひきれないのです。自分でも意氣地なしと承知しながらも、二三回は行つたり來たりして漸つとこそ〳〵と入つて成べく人に見られないやうにして買ひました。今考へれば一體何があの樣に極りが惡るかつたのだらうと思ひますけれど、少しも買物といふ經驗のなかつた身には中々でした。それが二年後の今日はどうでせう、僅か一錢や五厘の品でも平氣、而も十錢の物ならば九錢にねぎり、あれはいゝ品だわるい品と一寸一見して別るやうになり、十種でも二十種でも落ついて求められるやうになつたのです。けれどこれは好いのかわるいのか、私には分りません。

私に一番効能のあつた金言

信濃　恒子

座右の銘とか金言とか申すものは隨分澤山ありますけれども、今日迄私が服膺して一番効能があつたと思ふのは、「義務と思へばつらし、權利と見れば樂し」、といふのであります。「我がものと思へば輕し笠の雪」などゝ云ふのも先づ同じやうで御座います、田舍者が何を言ふかとお叱り遊ばす方もありませうが、けしてさうではありません、試みにこれを書いてお机の向うへ貼っておいてご覽あそばせ、屹度得るところがありますから。



和歌

佐々木信綱先生選

一等

○繪はがきの田舎少女と同じことと吾れなりはてぬあはれとおぼせ　千葉　加瀬紀久子

評　都に上りて高等教育を受けし少女が、業をへて故郷に歸りて一とせ二年の後なつかしき都の友に寄せたる歌などのやうに聞なされておもしろし。

二等

○春の夜のとぼそによればそゞろしむ白梅の香の淡きかなしみ　美作　香本公子

評　淡きあぢはひをおぼゆる歌。

二等

○青麥にひばり啼く野は長閑にて絹賣る人の里に來るかな　秋田　宮越志磨子

評　麥の緑に菜の花黄なる田園の春のさまをうたひ得て佳し。

三等

○鶯はよき音になきてふる里の春なつかしき雨あがりかな　信濃　松井すみ子

評　古里をおもふといふ趣向は新らしといひがたけれど、雨あがりの句よくおちつきたり。

三等

○若き日のたそがれせまる心地して赤き襟解く鋏たゆたふ　東京　伊都子

評　女らしき歌。若き日のたそがれの句すぐれたり。

三等

○春風は土佐の國司の京に入る青海原のふなべりに吹く　大阪　西本しん子

評　土佐日記を巧に新らしう歌ひ出でられたり。

秀逸

○ 越後 原田つる子

故里の海なつかしみ十年ぶり立ちたる丘に春の風吹く

評 丘にのぼりて、海を見るとやうの歌をかつて選びし事あり。其のち類想の歌少なからねば、口なし。人のあとをふます新らしき情趣を歌ひ出たまへ。

○ 韓國 外山須磨

この悲しみ消えたる日をば新しき我が生涯の初春とせむ

○ 京都 折葉子

春くれば名張おもほゆ沖つ藻の花散る里の名張おもほゆ

評 故郷の名張をいでゝ、他の國にある人の歌なるべし。心調ともにうつくし。

○ 小樽 澤谷恒子

もえ出づる若葉の春を我心秋の枯野のごとく淋しき

○ 北米 森肇子

外國にさすらひきてのわび住居春とし云へど春としもなき

○ 市谷 味方孝子

春風は古きみやこの大寺の門にもの賣る店の旗吹く

○ 越後 五十嵐須賀子

白き手にこぼるゝ露も紫に匂ふくりやの初若菜かな

評 くりやも、かく歌ひいづればうつくしゝ。

○ 越後 中野かず子

何となく人なつかしき春の夕べ柱に倚りて星をかぞへぬ

○ 熊本 角田ます子

大楠に小さき神の葉がくれて胡弓ひきます初秋の風

○ 越後 五十嵐富美子

夢のごと更けたる庭に月痩せてかをり冷たき白梅のはな

佳作

○ 備後 今井久子

そよとふく風だにいとふ我やどの花につれなくふる小雨かな

○ 小石川 てい子

たらちねのみ歳かぞへて擬ちる夕二十のわが身をなきぬ

○ 石川 小杉そと子

春の眞晝一縷の烟り香壇の幽き柱を繞ひて昇る

○ 備前 岸本正子

春の日や天女とも見む白雲の悠々と行く東の空を

○ 下總 小出保子

はづかしき人と並びて遠海の白帆かぞへぬ丘の上の家

○ 京都 大北靜子

磯松に身をもたせつゝしづみゆく夕日をなめつ物思ふかな

○ 千葉 吉原靜江
うづめられしだせる罪のおくつきゆ緑にもえぬ春の小草の

○ 東京 萩 枝
冬木立もるともし火のふるさとの我家に似ると今日も來しかな

○ 大阪 藤村あい子
くせの如夕雲ながめ涙ぐむ君がやさ頬の日ごとやつれぬ

○ 伊勢 西井しげ子
この胸のこのかなしさを歌はんと思ひて今日も山巓にたつ

○ 須磨 有村紫芳
霞湖の夜のあはれを近江路や湖こしとみるはるさめのやど

○ 須磨 有村とみ子
白雲はおびにもにたりふしの根のこをしめぐりて甲斐にながれぬ

○ 横濱 月岡やすら
小さき折はたゞよき衣を望みたる君この日頃何を欲りする

○ 横濱 小豆澤清野
春の野にいとうるはしき紅の花得てしより野べの戀しき

○ 越後 よ れ 子
冬の日は草木傳ひに傾きて窓を吹く風の冷たき

○ 小樽 上原ちよ子
あゝ空の星の一つよ姉ならん奇しき運命を泣く夜の寒き

○ 芝 露 雪
きくの香の月にたゞよふ小柴垣君まつよひを笛に興ずる

○ 金澤 吉川辰尾
秋なかばそこはかとなき草の香の漂ふありて野は暮れにけり

○ 美作 田鶴子
夢さめて父母ゐますなつかしきふるさと偲ぶ春雨の夜半

○ 府下 國分常子
はぐれたる女房達の涙して西へ落ち行くうす月夜哉

○ 佐世保 つゆ子
思ふきべ胸にひとりの人もなくわが世の春はいまかゆくらむ

○ 韓國 中山芳子
いと優に巾もて袖に散る雪をはらひ給ひぬ紅梅の下

○ 本郷 妹背たか子
ふるさとの花野にたてる石地藏今も昔を默しつらむか

○ 小石川 田島まさ子
雛を見に來し乳母が子に白酒を少しまゐらせ緣にねかせぬ

○ 讃岐 丸山匡子
乘る駒の鐵蹄かろく野雲雀の聲の下行く花のみちかな

○ 伊豆 山田千代子
鷓鴣鳥のなく音ほがらに明けそめて若葉香ばし小木曾路の春

○ 福岡 船坂深山子
亡き君に似たる面ざし何となく花賣る少女なつかしきかな

○ 近江 伊藤さだ子
うつくしき月の光は若草の野邊をてらして地にしむ思ひ

○ 攝津 和久かつ子
人去りしきさらぎ寒や野の丘に夕雲ながめ涙してゐぬ

○ 神田 井上つた子
雲の墓なつかしみ室咲きの梅の一枝をたむけつるかな

○ 京都 黑井常代子
しづくする姉が五尺の脊にたれしみぐしに香れ紅梅の風

○　長崎　天野春子
白薔の花さく中に亡き姉の笑みて立てると見しは夢かも

○　北海道　多津
月すみて笛の音ゆかし故郷の磯の兄君いかにおわする

○　築地　萩の枝
天上の星のしづくのきらめきなうつし世に見る月が瀬の春

○　宇都宮　石井まこと
胸の土やせはてたるを君知らで花咲く苗を植ゑつけんとす

○　紀伊　清川てゑ
天地のはかなき運命君と我は終に別れぬ西と東に

○　四谷　笹原芳江子
處女てふ誇りよあはれ風流男の嘆きの犠牲に饉えなむとする

○　長崎　高谷季子
霧迷る野末に立ちて吾れ一人我が友乗せし白帆見送る

○　宮城　武田芳江
星の数戀する人はうら若きうたよむことを幸として居ぬ

○　北見　信太英子
のぞみうせ戀にやぶれて山寺に淋しうくらす君いたはしき

○　日暮里　藤緒常子
霧の朝森の深みに樵が切る生木の匂ひなつかしきかな

○　横濱　哲子
埋火の灰かきたてゝ只ひとり君まつ夜半に細き雨ふる

○　豊後　工藤榮子
ときは木や紅葉する木や古郷は十年昔のそのまゝにして

○　名古屋　増田こと
新春十日門松のあとや丶消えし淋しき町に寒き日なゝめ

○　信濃　荻原いほ子
重き香は胸に針もて刺すが如世に捨てられて枯木に咲く

○　三重　服部うた子
此春は竹きり取りて淋しからんされどわれあり來なけうぐひす

○　旅順　中島ふみ江
若水や清き心のうつれかし高きをきそへ松の姿に

○　東京　飛川美津子
わが胸はいとしづかなりわかき血の脈めぐる音なみだ湧く音

○　大阪　美和子
人の忌む十九のとしをなしみつゝ友は泣きけりこゝろいぶかし

○　松山　和田花子
寂寞の胸の空洞に何物かひそむ心地す春雨の宵

○　東京　村松絃子
大地も新裝ひや年立つ日しら〳〵と明け雪ぞつもれる

○　丹波　文子
如月の出水にあぜは崩れたり崩れながらに柳青みぬ

○　福岡　淺川枝子
むにもあらぬ假言と頼めつゝ等閑にこそ月日經にけれ

○　韓國　桜井かた子
霞は曇空は灰色海凪し白き帆あげて歌の流るゝ

○　福岡　許斐文子
七色の絹糸たれて御手まりかゝりまゐらす紅梅のまど

○　横濱　吉川晋都子
おどされて庭はずかすす樹笠の振なこぼるゝ緋牡丹の花

○　豊後　工藤紫子

岩かげに藻のりつむいその春ふりわけ髪の友つどひけり

○　福岡　河原亀野

なつかしき君が瞳に似たるかな夕淋しき大空の星

○　熊本　矢野やをか

あなうれし櫻花さき鳥うたひ野べにすみれも咲くと思へば

○　小田原　飯田白露子

星川の清き流れに添ひてゆく袖にちるなり早咲きの梅

○　東京　小森たけ子

新年をかなしかりけり年毎に乙女心の薄らぎゆくと

○　京都　渡邊房子

化粧せし少女が袖もかをるかな梅が香きよき此夕月夜

○　愛知　入重野

文かきて今日もくらしぬ乳母が里のわかき葉にふる雨の小窓に

○　千葉　しぐれ女

ひとりゆく野は静かなりのどかなり木の間に鳥のこゑもきこえて

○　千葉　小出きみ子

かしましき小鳥むれゐてあか〳〵と柑子にうつる冬の落日

○　千葉　小出文子

一ときを唯一ときをうれひなくこの山かげにすまんとぞ思ふ

○　千葉　田中濱子

わらやれのかたへは黒く日あたらぬかたへに残る春の淡雪

○　信濃　篠原喜美子

山の松雪を被きぬ白象に普賢菩薩の乗るかたちして

○　長眞　中富よしみ

冬木立落葉ふみゆく山寺にうみ柿落ちぬよひ鳥の啼く

○　日向　静子

歌によし書によし柚のゆきゝする日向四十里山野の景色

○　埼玉　白子

いさ行かん春永久にめぐり來ず戀てふ野邊の若草つみて

○　埼玉　田島てる

たばしらぬ涙だはしりぬ大海の沖の彼方の有明け舟

○　茨城　松澤清風子

峠路をあけなば君の越ゆらんにこの夕ぐれを雪降り出でぬ

○　静岡　鈴木雪子

何となく母ます里の瞳にうかび涙ながるゝ雪の日の窓

○　長野　石上露子

きさらぎや軌路は雪解の黄にまじり緑ほのめく草の萌かな

○　福岡　渡邊美代子

小さめふるはるのゆふべのつれ〴〵になきわれぎみの日記見いでぬ

○　伊勢　芳園

三百里かなたに住める母なれば病むとも知らで衣縫ひまさむ

○　小石川　稲生映

たらちねの母と呼ばるゝ身となりて俄かに老けし心地こそすれ

○　牛込　村岡富子

春日影眩しき瞼閉づれども五色亂るゝ蝶のまぼろし

○　埼玉　林歌子

荷車大根押しゆく人々の息ほの白し今朝の初霜

○　滋賀　田村喜見子

春の雪いさゝか降りぬ我が庭の今咲そめきし紅梅の上に

○　武藏　晶子

きさらぎや梅まだはやき園に立ち小夜小寒き風の音をきく

○　三重　大西楠緒子

わらぶきの家をちこちに灯みえてきさらぎ月夜白梅かをる

○　長崎　小川みれ子

夏はすぎ秋は來にけりもろ人よつとめいそしめ時過ぎぬ間に

○　紀伊　佐田柳子

讀みさしの文とぢ床に目をやれば白梅の香の室にたゞよふ

○　同　同

青柳の糸をつたふてふる雨に園の若草もえそめにけれ

○　河内　糸若柳野

冬の風我みにしむと垂籠て火桶に春の日を思ふ哉

○　埼玉　新井りけい

霜枯れの片野に夕日傾きぬいづこ行くらん僧いそぎます

○　美作　福原靜代

みなさけはあたかも似たり春風にわが胸の野をあたゝかに吹く

○　山梨　北島菜枝

春の雪いさゝか降りぬ何の菜か翡翠色の青き葉の上

○　廣島　井口近野

日はてりて雪などが積む遠山を堀火に見るよき故郷かな

○　岐阜　はる子

いつまでもかはらぬ母のなさけをば嬉しとなきぬ小袖の上に

○　福井　稲花女

うれしさもなかば亂れてわがせこの秘め事思ふ夜中の苦しき

○　山梨　星翠

山ふかくこほる白雪ふみ分て入りくる人の影ぞさびしき

○　相模　森久保ふさ子

心なく山田の庵に立ちよれば心ありげに梅香るなり

○　山梨　田中はる子

山々はましろになりぬ雪嵐いたくな吹きそ故さと人に

○　羽後　藤田辰子

何となううれしきことを思ひ出で畑耕しぬ長閑なる日を

○　秋田　原田浩子

白樺の落葉ちりしく夕ぐれをたゞ茫として人を思ひぬ

○　神戸　森中かず子

小桶など倒れしまゝに旭をうけてあらしのあとのこゝちよきかな

○　住吉　つた子

叔母君の姿れにたまひし花かざしいてふがへしとならびて咲きぬ

○　下總　飯塚てい子

矢の如く一鳥とびぬ冬枯れの夕日の燃ゆる雑木林に

○　麹町　牧野銀杏庵

初春を物めづらかに女達雪ふみわけて京の町ゆく

○　長野　小林靜子

雪のれぐら求むる聲はして雨靜かなる花のしたいほ

○　岩代　和田秋香

數多ある星のなかにも際だちてかゞやく星は君かと思ふ

○　埼玉　よし子

あたゝかく小雨ふる夜のつれづれを繪筆にやりて昔をおもふ

○　神戸　松田きよ子

高嶺のともしび消さはるの夜をゆめの如くに散る櫻花



美文

一等　海苔採り舟

駿河　丘静子

十月の末から、十一月の始にかけて、夕毎に山から海の村へ、幾臺も車がつゞいて、枯葉のついたまゝの粗朶を運ぶ。

さて朝は霜置く軒端に、夜は木枯哭む窓の 下に、一家の皺の手柔かき手を集めて其の枯葉を扱き取り、更に五尺許の丈に揃へられて冷たい海に植ゑられるのは、富士の巓が眞白になる霜月の末である。

それから半月も經つたころ、日毎の潮の引間に、幾百の小舟が、菜畑のやうにつゞいた粗朶の陰に簇るのを見る。こは言はずも知れた海苔採り舟で、滄狂ふ沖の青海原にそゝり立つ雪の富士を背景にした處は、宛然大きな繪巻物を展げたやうである。其頃には、既う礒邊の彼方此方には新藁の干場が長くつゞいてゐる。

海から上げられたものは、幾度か手數をかけると、紫を含んだ黒く滑々しいものになる。それを日當りの好い藁屋の軒先で、赤銅膚：厳丈な男の手で、小さな簀へ一枚々々梳きあげ、優しくも赤襷に白手拭した海乙女それを捧げて、一二輪綻び初めた梅が枝の下なる干場に運ぶのであるが、汐風に馴れた聲を張り上げてうたふ「沖の鴎に……」の乙女の唄は得も言はれぬ趣がある。

二等　雛

横濱　みをつくし

銀燭あたりにまばゆく、金屏風よと御所車よと花やかにいかめしうひな飾る富の家も、　古びたる花瓶に桃の花僅かばかり挿し、蜜柑箱の上にあやしげなる雛三つ四つ据ゑたる賤が家も、其祝ふ形こそことなれ、その心は貴賤のけぢめなく、一家こぞりて祝ひたのしむなり。あはれ延喜の昔よりつたはりて、いと優に美はしきは、この桃の節句なりけるc

紙雛のごと、顔いと圓く、ちひさうて古びしは、元祿びなとて、世になき祖母君のいたうめで給ひしそれ、衣の色褪せて大いなるひなは、姑様のそれ、冠美くしう、色新らしくさゝやかなるは、嫁ぐ夕べの荷物の一なりし妾のそれなり。

緋桃白桃花美くしき庭にそひたる南の縁に、香箱ひろげて妹と共にひな遊びの折、姉上の「紫の君のそれはいと愛らしけれど、そなたには似つかはしからず」などのたまひしを、口惜しうて、泣きになきしこともありしが、思へばそれも昔しなりけり。

みめぐみ深き父母の許をはなれて姑様に仕ふる身の、たゞ柞の森かげこひしくなつかしきを、かく思ひ出で多きひな見ては、いとたへがたうて

里の若草摘ひにもえ、露のみ袖にしげかりしが、姑様のあやしみたまひてけと、やをら室に入り、文机にうつふしぬ。

ひな市にはゝをせがみてむづかりし
むかし懐しき白桃の花

三等汽車にて

牛込　平塚白百合

灰色の雲が處々浮んで、どうも雪になるらしい。

立ち並んだ電信柱が、遠くなる程隔てもなく小さく並び、冬枯れの平野は桑や榎などの畦木がスク〱と寒さうに立つて、汽車の走るにつれてドン〱奥の方も前の方も、互ひ違ひにをどつてゐる。

平原のはてには、氷のやうな雪の山にスツカリ限られて、白かべの家が、田の畦や小山の麓などにチヨンボリと見える。ズツト向ふに、線路にそうて走つてゐる街道に、豆のやうな兵士の一群が、馬にのつて、動くともなくチラ〱してゐる。

何時か福島も通りこした。耳なつかしいふるさとのダーワ〱なまりは此處から聞かれるのである。汽車は北へ〱といそぐ。何處まで行つてもはてしない荒んだ冬枯の野を……。車窓のグラスを透して、午さがりのにぶい薄紅い日が、なやましげにさしてゐる。

東京からのつた背合せの人は、新聞顔にあてゝいびきのこゑが高い。廣い車内はしんとして、今しがた乗つた田舎老爺が、ナタマメ煙管を墨瓶の腰掛の縁でコツ〱やつてゐるばかり。青氷い煙をつゞけるらしく、あつちでもこつちでもコクリ〱いねむりをしてゐる。

秀逸

春の宵

岡山　天野さだ子

「まあ姉様、どうしてこゝに？」、「あんまり皆様からいたといたのでこんなになつてしまひましたの、」ほんのりと紅おいた御顔を、リンと鳴る可愛い御手でおさえて、縁の柱にもたれてゐらつしやる。竹の模様を裾ひきり高く染め出した黒の紋付に、白の御下着、退紅色のおみ帶迄が振ひつきたい程うつりがいゝ。水々しい初丸髷なら、すらりとした御姿までに繪の様なこの方を、私の御姉様とはもつたいない。

折から吹くろ小夜風は、えならぬ梅が香を誘ひて、何とも云へないいゝ心地。「いゝ心地ね、」と姉様も空を仰いで、「小夜風の……」。「小夜風のかすみ吹きとく絶間よりかげもほのかにもるゝ月哉」と、つひ私がつけてしまつた。

相變らず御座敷は賑はしい。「さあまた参りませうかね」と仰られる姉様と手をとつて、長いお廊下を右に曲る時、「梅が枝に……」、千代様であらう、琴のしらべが始まつた。

男は廿五六

日本橋　松田須子

チリン〱、チリン〱と、しつきりなしに電鈴の鳴る音を夢うつゝに聞いて居たが、それが止つたかと思ふと、長い廊下からバタ〱上草履

の音がして、ソツと私の部屋の前で止つた。と、山岡サン〳〵つて私を揺り起す者がある。ハッと思つて眼を醒すと、同僚の栗原サンが寝巻姿で二分心ランプの薄明い燈火に照されて、ボツとそこに立つて居る。「どうしたの？」つて聞くと、「如何したのぢやありませんよ、今、情死が有つたつてれ、病院へ擔ぎ込んで来たの」「まあ、さう」と、驚いて私は其後に随いて、診察所へ行つた。
診察所にはもう、伴先生が、他の看護婦の吉川、鶴見サンを相手に必死となつて、應急手當をして居らつしやる。
男は二十五六、女は二十の上を一つも越したかと想はれるが、硫酸を服用んだといふので、口の辺りは一面に爛れて、両人とも虫の息で喘ぎ喘ぎして居る。あゝ戀愛。私は此光景を視た刹那から心で泣いて、ウツと男女の様子を見守つたが、何時か私の眼は潤んで来た。そして一年前自分が戀の傷手を負つて、この病院の看護婦となつた今の身の上に較べてこの男女の死は實に美しい神々しいものであると、思はずには居られなかつた。

楽しき我が家

東京　若紫

「ヤア又雪だ、」と隣りの部屋に今迄寝ころびながら詩吟をしてゐらしつた兄様が飛び起きた。「アラ又降つたの」と私も、急いで縁側に出ると、姉様は、お髪を結ひながら、何やら口ずさんでゐらつしやる。今降り出したばかりと見えて、前の梧桐の幹も、大きな八ッ手の葉も、鹿の子まだらに染められて居る。「御題が雪だから其れでこんなに沢山降るのだらうれ」と離れの隠居所から祖母様が出ていらつしやる。「でもこの位なら風流だわ」。「お祖母さん御題が雪だから降るなんて譯があるもんですか」。「いゝえ、其う云つたもんでもありません、この前にも雪の御題の時には随分降つたからねえ」。「だつて今年は雪の御題だから一つ沢山降つて下界を驚ろかしてやらうなんて、おかしいわ」。「其れはさうだけれどねーー」とお祖母様も笑ひ出す」。「何だ千壽、又お祖母さん虐めか」と茶の間から父様が顔をお出しになる。「サア皆さんお膳の仕度が出来ましたよ」と母様のお聲に、皆急いで茶の間に集る。松岡様のお宅ぢや何うしてあんなに皆様お仲がよいだらう」とお近所中の評判だとか。

雪の夜

備中　天野その子

まあ覺えず長居いたしまして、と御玄關に立つと、花ちやんとまつて居る。外に出るとおゝ寒い、大吹雪。積つた雪がもう五寸もある。横沈歸ると耳も手もちぎれさうになつた。「花もう幾時だらう？」「御前さぞ寒かつたどろーれ」と云ふと、いゝえちつとも」とやさしく答へた。ふりかへつて見ると、三間もおくれて提燈と風の奪はんとする傘の柄とを小さい手で一生懸命に抱いて居る。年はまだ十三。暖かい母の胸に抱かれてれてふさわしい時を。我子なら供にはつれじ雪の夜。しみ〴〵彼れの身を思ふてまあ〳〵一緒にと手をとつた。

その夜

千葉　赤荻まさ子

華やかに飾られた俥の一群が、玄關に梶を上げると、今夏の樣にうちの中が賑擁して、覗きに來た近所の女房達まで、どや〳〵と軒に立つて見送つた。叔父と伯母と私は門先まで出た。夜はいたく更けて無數の星が輝いてゐる。五つの高張りの提灯が勢よく流れる樣に走しる。無口のまま三人はぢいつとそれを見てゐた。

「もう行かうや」。提灯が森蔭に見えなくなると、叔父はかう云つて、すたく〳〵と奥へはいつて行く。

「はア」。私はそれでも未だ立つてゐた。

親しかつた從姉樣も、もう人妻となられては、二人で邪氣なく遊ぶ時はとこしへに無い。と思ふといひがたなき便りなさ淋しさ悲しさを覺えて熱い涙がほろ〳〵とおちた。家へはいると、美くしい玻璃の杯が輝いてゐた奥の間は、もう綺麗に片附けられて、人無き室に火鉢のみランプの光りに淋しかつた。媒酌の人、若い夫人となられた從姉樣、それを送る從兄さんは、今頃何所を搖られて居やう!と思つて、私は大風の過ぎ去つた後の樣な室の柱に寄つて目を閉ぢた。

母の爲に

伊勢　華野花子

それは暗い晩でした。昨日降つた雪が所々にまだのこつて居て、身をきる樣な冷たい寒い風の吹いてゐる中を、私と妹の靜子は淋しい川の堤を一生懸命に走りました。たださへ淋しい田舍を、殊に十二時すぎといふのですから、世はそれこそひつそりして何の聲もなく、たゞかすかに犬の遠吠が聞えるばかり、何となく物凄い夜でした。けれどもあの夜ばかりは非常に心が強く、何だか誰かの守りを受けて居る樣な氣がして、いきも絶えだえに妹を勵まして走りました。お醫者にはすぐ車で行つて頂いて、ほつと一いきつきながら、あとから二人が歸る時には、さすがに神樣が御同情下さつたのか、美しい美しい星が、黑いおそろしい雲をかきわけて、一つ空から見下して居りました

歌留多會

日本橋　倉田とよ子

八重子さんを誘ふて、靜枝さんのお宅へ伺ふと、もう皆さんお揃ひで、御存じの方ばかり。火鉢の切炭はパチリ〳〵火花をちらして居る。さあおあたゝまりなさいましたら初めましやう、と靜枝さんは繪の札をきつて女は女、男は男と、源平をきめられた。絹ずれの音、ゆかしい香水のにほひ、若々しい聲々がごつちやになつて、八疊の座敷はしばし歡樂の大波がうちよせたやう。凛々と響く靜枝さんの立派なあの獨唱的の聲で讀むので、自然と手が先へ出た。そのかはりお手付も隨分あつた。皆さんが恰度おつつかつつなのでそれは〳〵面白かつた。ふくからに……、あれえ妾が取つたのよ。いゝえそれはさつきから妾がねらつてゐたのよ、ねえ妙子さん、えゝそうですともたしかよ。あらうそよ妾ですわねえ國子さん、えゝあなたですとも、あゝら國子さんはごらんにもならないくせに……、それでは讀み直します。と靜枝さんが口を添へる。花の色は……八重子さんこの通りよいつでもキレイでしやう、五分間も早くつてよ、あらまあにくらしい、覺えてゐらつしやい。

春の一夜、いと興多く、盡せぬ名殘を止めてお暇すれば、ほつとのぼせ

た面をかすめて冷い風がヒューと吹く。見上ぐる空にはきら〳〵と瞬いてゐる。遙か彼方にチンチン〳〵と鈴の音。何の願事やら、今更ながら寒詣りの寒さがしのばるゝ。

近づく黒影

東京　桃子

天井の板も数へ盡した。嗚呼此カアテンも見飽きてしまつた。ツク〳〵と病院生活がいやになつた。空はかき曇りて今にも降り出しさう。飯ち墨を流した様な雲がおしよせて来た。思はず身震ひしてベツトの中へ入りこむ。

ヤン〳〵と誰かゞ呼ぶ。黒い影の全身に包まれて。ダン〳〵近づいてきた。ベールの様な薄い絹で、嗚呼苦しい、咽を、病魔が……。御回診と云ひながら入つてきた看護婦の聲も恐ろしく聞えた。

姉様の退院

京都　松葉

今朝は姉様の退院なさる朝だと思ふと、嬉しくて堪らぬ。そつと病室を覗くと、姉様は起きてゐらした。「開けませうか、良いお天氣ですよ」と云つて窓の戸を開けると、彌生の麗い日が洪水の様にベツトの上にさし込む。そして快よい風が白帆の様に窓掛を膨ませ、其間から青空が澄み渡つて見える。「良いお天氣」と、姉様がまぶし相な眼附をして、病室から降りて来られた。病せては居られるが血色のよくなられた事。狭い庭に二人倚りかゝつて庭を眺めると、何處にも若芽が萌えて、芝草に置いた露は、きら〳〵と光つて居る。直ぐ頭の上で鋭い叫聲がするのに驚いて見ると、軒端に燕が巣をつくつて居る。向の病舎の窓も若葉の蔭に見えすなつた。一羽が其長い尾で體を支へ乍ら危く入口に止つて居ると、他の一羽が其横をすり抜け様高く鳴いて飛び出す。それが廣い庭を高く低く目も止らぬ許に赤け廻つて、又ツイと巣に歸る。そして狭い巣から裂けた尾と白い腹を見せつゝ、何かして居る。其有様を一心に眺めてると、姉様が、「もう燕の来る時候になつたかね……」と仰るので、初めて我に歸つた。

何だか廊下の方がそは〳〵して、部屋の扉が開いた様子。ふと振り向いたが日光に馴れた眼には暗くて分らない。突然「ホヽヽ」と笑聲して伯母様の姿が瞭然見えてきた。

「車が来たから荷物丈お出しなさい」と仰るから、昨夜から遣へて置いたのをお渡しする。

それから姉様に着物を着かへさせ、久しい間解いてあつたお髪を結つてあげた。

靜養の一日

むらさき

日が病める身を横たへた枕元まで照込んで居る。今朝の體温を覺束なく手帳に記して、慰め顔に微笑んだ。心も晴れ〳〵して、濱に散歩する氣が出たのを幸ひに、油氣のない髪の亂れをかき上げて、冷たい風に當て

まいと眞綿を首に卷いて、内から昨日送られた綿入の裝布に手を通して鏡臺に向ふと、其姿に無量の淋しさと儚さを見たので、間もなく昔もない頬に思はず熱い涙が傳はる。茂り木の間を縫つて濱の砂山の松の根に身を寄せたが、死んだやうな海に風をはらむだ白帆が遠く見えるばかり、外に何んにも慰めてくれるものがない。しばし眼を閉ぢて居ると失望と煩悶を抱いて、去年の秋風立ち初めし頃より都を遠く此濱邊に病を養ふた過去がありありと胸に浮ぶ。還らぬ年は暮れ逝きて、逝かぬ迎へぬ年は廻り來て、いつしか二年に餘る月日を修養時期をよそに空しく送つたと思へば、心は千々に亂れ、遣る瀬なき感は刻々に迫つて來る。悶える胸を抑へて、涙まぬ眼を開いて、遙か向ふの山々見渡せば、紫の雲間より氣高い富士の高嶺が眼に觸れて、雨を得し若葉のやうな感がした

墓畔の涙

京都　みどり

甘泉殿の花も、風に散れては、露の涙に咽び、驪山宮の月も、雲に隱れては、寂寞古を弔ふ。諸行無常の世と云ひながら、人ばかり果敢なきものはあらざらん。春の朝に花をめづる人も、夕には北邙の烟と失せ、秋の夜月を賞する人も、曉には東臺の露に隱れむ。哀れ浮世は夢か。そも又夢が浮世か。打ち見れば、露は路芝に重く、寂として人影たえ、風は松が枝に咽びて、蟲の音幽かなり。古塚斷碑淋しき月影に照らされて、哀れその下には幾百の魂魄や眠むる。子に先かで來し親もありなむ。親にはなれし子もありなむ。或は姉に、或は妹に。其樣こそかはれ、逝く者は千行の血涙を含みて土に歸せしなるべし。殘れる人も幾度か蕭蕭の歌に咽びしならむ。吁人生は夢の如く、浮世は幻に似て、不定の雲いと深し。

あはれ我が父上も一片の石となり給ひしが。あゝゝゝ。身ないたむるな道に迷ふな、文もよくせよ、歌も習へよと嬉しき御言葉今なほ耳に殘れ共、今や文かき歌よみてたれにか見せん。歌ならへとはこの哀れうたへとにはあらざりしならんに。あゝかの言の葉はつひに遺訓とはなりぬ。哀れ花は無情の風にちらされ、月は無心の雲に蔽はるゝとも、また咲きまたてらさん。されど父は再び歸り給ふ由もなし。よるべなぎさの捨小舟、それにも似たる妾の運命かな。あゝ今よりはたれをよるべに狂風あらき此世を渡らん。あはれ墳墓に居ます父君よ妾がせきあへぬ。涙の雫を君が御土にそゝぐをゆるし給ひてよ。

夏の風情

東京　すみれ

うつりかはる、四季折り折りのながめは、いづれおとらざれど、夏こそいみじうめでたけれ。若葉の梢涼しげに、茂り行くまにまに、八重の山吹きよらかに、松にかゝれる藤浪の雲かとばかりさきみてる、にほひゆかしきたちばなの、花にむかしの忍ばるゝ、早苗とる門田には田子のもろごゑはりあげて、ふしおもしろううたふなど、いづれかめでたからざらん。くひなのたゝく音やみて、東の空のしらむころ、ふしどおきいでゝ、つゆおく草をふみしだき、色とりどりにさきそろふ朝顔をながむる時の心地よさは、誰もあるべし。晴れたる空の、またたくひまにかきくもりて、かしましかりし蟬の音も打ちたえ、われ夕立よと、干物とり入れ

雨戸くる間もあらばこそ、篠つく如き大雨ふりいでゝ、見る／＼庭の遣水もあふれて一面川のごと、なる神の音も遠ざかり、緑したゝる木々の梢に、夕日照りそひて、いと美くしく、軒端近うつるせる風鈴の音の涼しさ、あるは七夕まつるころ、むしあつき日もくれて、打ち水したる庭の面を、そよ／＼と吹き渡る風に、蚊遣りのけぶりたなびける、軒端に白き夕顔の、ほころびそむるもあはれなる、岐阜提燈をつるせる縁先に、長椅子とり出でゝ、涼しくのぼる月影をあふぎ見つゝ、ふくるまでうからやから打ちつどひ、夏をわすれての物がたりするなど、思ひすてがたき事いと多し。

日記文

三等

雪の日の日記

山形　阿部英子

二月十日、ゴー／＼と云ふ恐ろしい風の音に、起きやうとした顔を夜具の中に引つこめる事三十分。

「英や」と母ア様にゆすられて仕方なし一思ひに起きた。寒い事寒い事顔を洗はうと思つたら、水瓶の水が氷つて、手ぬぐひが棒鱈の様に直立してゐる。化物の破つたらしい障子の穴からは、ヒユー／＼と恐ろしい勢ひで雪の粉が飛びこんで来る。オー寒むいと私は縮み上つた。

今日は中日曜だから宜い様なもの丶此様な雪国に生れ合はしたのは不運である。これも前世の何とかであらう。

私の受持ちの御座敷をまつ／＼と丸く掃いて、雑巾掛けも大略して、早速母ア様の御部屋の火燵にもぐり込む。手はちぎれさう。

「兄さん御飯ですよ」、といくら起しても、聞えたのか、聞えないのか、グーともスーとも音がない。頭から蒲団を被つて、自分ばかり温か相に憎らしいから、蒲団を取つて仕舞つた。追ひはぎに會つた兄さんは、掻巻き一ツになつて、かめの子よろしくの姿で、手足をひつこめてモゾモゾと動いて居る。私は噴き出した。

私が火燵にはいつて居ると、兄さんは十時頃やつと起きて来て、火燵の蒲団を取つてしまつた。

「びつくりしたよ、わざ／＼此處迄御苦労様」。

「今日は何處へも出られない日だよ」と母ア様はおつしやる。誰れ一人尋れて来ぬ。淋しい。

外は終日雪は止まない。風も止まない。定は二度ばかり樏をはいて道の雪踏みに出たさうだ。

私は一日火燵と仲好しになつて編物をしたら、ショールが出来た。七十五銭位のねうちはある。手製の毛糸のショールだけれど、常代さんの七圓のよりも美くしい。

これを掛けたら、兄さんにまた「そんなに西洋人のまねをしたいか」と冷かされるでせう。

午後から母ア様は頭痛で御休みになつた。

「母ア様のは都合の好い頭痛ネ、今日は寒いから」と云つて叱られた。

夜寒いから、下女迄に餅を食べさして、早く寝ませた。兄さんは未だ歸らない。此寒いに犬の子の様な兄さんだ。千枝さんへ手紙を書かうとしたが、硯の水が氷つて居て嫌だつたから、爺に門を閉めさして寝た。兄さんが歸つたら驚くだらう。

日曜日

東京　若紫

「雪やコン／＼あられやコン／＼」と、例の聲が臺所の方から聞えて來た。「マアよくいらしつてねえ」と栞折戸を開けて上げると、「ねえ、家に赤ちやんが生まれてよ、見にいらつしやいな」と英佐ちやんが仰しやる。「アラそう！お目出度いのネ、ぢや拜見に行きませう」と羽織も着替へずお隣りに行つた。緣側から一寸廊下を通つてお臺所に行くと、私より三つ上の二十一になる百合子樣は、最うお母樣になつて、可愛いゝ赤ちやんを傍に置いて嬉しさうな顏して寢てゐらつしやる。「お目出度う」と覗くと、「ホヽヽヽ少さなお母さんでせう」と赤い顏をなさる。男のお子さんでよかつてねえ」「えゝ片身が廣いわ、同窓會に行つてもね、濱川さんも米倉さんも女なのですもの」といよ／＼得意。「本當にね、同窓會つて云へば私の方の幹事だつた井上さん御存知？、えゝきれいな方、あの方、最う來月お卒業なのにお退りになつてよ、何でもね、銀座の時計屋とかへお嫁きになるのですつて」「まあ早いのね、其んな事云つたつて貴女だつて直きよ」「アラ厭だ」「いやぢやなくつてよ、いゝ處へお世話しませうか」「マアひどい其んな事仰しやるなら歸つてよ」と英佐ちやんや叔母樣が止めるのを無理に歸つて來た。夕方から兄樣と錦輝館へ行く。歸りに電車の中で兄樣のお友達に逢つたら、「ヤア君、妹君か」ですつて。大きな聲なので車內中の人が私を見て、本當に極りが惡かつた。「可愛さうに、未だ丸年の十六になる妹だよ」と兄樣が仰しやつたので、ホツと息をついた。

秀逸

落ぶれ日記

名古屋　靜江

二月十五日、長屋の內儀さん達が、井戸端會議の眞最中に、「お早うご座います」と手桶片手に挨拶した私を、ジロ／＼と見下して、「へイお前さん何處の人ですえ、一向見かけん人やな、未だ何處からも家ぶるまひも來やせんし……」と、梅干婆さんが叫んだ。私は實に斷腸の思ひであつた。それから家ふるまひの事を大家樣に教へられて、早々近所廻りをした。そして夕ぐれに裏へ出た時には、飴屋の內儀さんはお世辭タラ／＼で頼まぬに水まで汲んで吳れた。

二月十六日、半ば骨の折れた障子をはりかへて、異樣の感に打れて、思はずブル／＼ツと胴ぶるひをした。六時頃弟は勞れて力の無い顏して外から歸つて來た。「坊チヤン／＼」と育てられたひ弱い身には、どれ位ゐ辛いであらうと、私は床に就いてから、泣いて布團をしとゞにぬらした。

二月十七日、近所の惡太郎が、はり立ての障子を、指先で穴をあけてのぞいたから、グツとにらんでやつたら、ツとかくれてしまつた。夕ぐれ味噌をうる店へ行く。「黑味噌を五錢下さい」といふと、「おあいにく樣」と云つたので、何氣なく出ると、後で「黑味噌、」アツと笑つた。私としたことが黑と赤とをまちがへたのだ。しほ／＼歸へる　雪交りの寒風は破れた窓からサツと吹き入る。

平凡なる一日

山形　物河鈴子

あゝもう酒の香が消えた。餅も食ひ盡した。蜜柑は皮許りがお名殘り。が、これで正月がすんだとは云ひたくない。カルタ一度とりもせず、唯裁縫の先生の御宅に年始に行つた事位で、鬼を笑はせ咲く花をもしぼますてふ十七の正月をどうして記憶に殘されやう。とは一寸世間のおしようばん。實を云へば私には十七年のお正月などあつてもなくてもかまはない。

八時間中の長眠からさめて、おきまりの水汲みや掃除をしながら、軒に行列したツラヽを見て句をひねくつたり、昨夜の夢を思ひ出して歌想を練つたりして見る。

御飯の時、湯氣で手をあたゝめるひようしに、お茶碗が井に辷り下ちて情なや眞ッ二つ……。これが本年先登のそゝうとは聊か殘念だつた。午後吉野樣からの御手紙が來た。此方はひどく私の名を形容する。此前は鈴樣、此度は風鈴の君、オホヽ、唯さへ寒いのに風の字なんぞ付けられるのは恐れ入る。用向とて別になく、相變らず情緒に露骨、ないしは皮肉ばかり。でも先づ今日はおかげで欠伸も少なかつた。

居眠り日記

東京　菅愛子

こゝ四五日夜起きをした故か、今朝は眠くて〳〵堪まらない。机によつて居ると、すやうつ〳〵と夢心地になつてしまふので、困つて居る折もなり、妹が、「お父樣が御用だつて」と呼びに來た。

お父樣は白椿を活てゐらつしやる。私らは傍で靜かに拜見する。常でさへ餘り身に入らぬ生花を、かうしてぢつと見て居るのが愁しくなる。いつしか先程のやうに、何か知らうと〳〵眼先にちらつき出すと、妹が強く肘で揺るので、驚いて見ると、お花は今にすむところらしい。ふとお父樣に氣付かれはしなかつたか知らと思ふと、顏から火の出るやうな恥しさに、我しらず庭に逃げ出して、空を仰げば、長閑に晴れた青空を、恰度小羊のやうな白雲が漂ふて行く。向を飛んでゐたのと一つになり、松の上まで來たが又二つに分れた。夢中で空を見て居る間に、眠氣はどこかへ消えてしまつた。

一等

新世帯日記

福岡　幾久子

三日午前、「ミツダンハイマノサチ」、……とばかり、受付は「シナジヨウ」この分らぬ電報を前にして、良人と二人顏を見合せた。しばらくして良人はハタと膝を打つて、「分つた！京都の先生達がやつて來るんだ」と言はれた。前からお話しもあつたが、いよ〳〵今日打つれてこの奈良の新居をおどろかし給ふ事と見える、さあかうしては居られぬ、二時間の後にはもう……と婆やをせき立て、三條通りへ走らせなどして、臺所でテンテコ舞ひ、頭がほてつてたまらなかつた所へ、午前十一時にガラ〳〵と車の響がした。正しくそれ！と格子戸あけると、果してM樣とH樣御

夫婦のお三人づれ。「まあよく……」とお迎へすると、私の丸まげを見て奥様はニツコリ。お手に持たれた美しいまつしろの匂ひこぼれるばかりの蓮花の白百合を、「時ならぬ花もまたいゝでせう」と渡された時のうれしさ。間もなくお室にして下手な料理を離れに運んだ。御ごさえのライスカレーをお氣に召してよく召上つたのはうれしかつた。お話しは私たちの結婚式の事で持切り。平安神宮、寺町の鳩居堂店、さてはN様の御別莊にての披露の宴など、話しはそれからそれへとめぐつて、そゞろ當時がなつかしかつた。

懷かしき母校

東京　野菊女

十一月二日。空は時雨て肌寒い日。こんな日は散策するより雜誌でもとあるじ留守の書齋に入つて、先づ煖爐に石炭を入れ、それから昨日來た女學世界を見る。いつも面白い記事ばかり。其の内に懷しい母校の評判記があつた。筆頭に校歌。講堂に並ぶゝ、聲をあげて唄つた事を思ひ浮べつゝ見てゆくと「オメ」の事が書いてあつた。まあ潮風校つて方は隨分ひどいこと。さも母校から始まつた樣に書きたてゝあるがうそばかり。早や人妻となりし出身者の爲には、此の文をみて思ひ出にたえぬ人も有るであらう。まあ！ 誰れに御聞きになつたのだらう。みんな揃つて包圍攻擊でもして上げたいやうだ。さぞ勝氣の英子樣は此れを讀んで怒つて居らつしやるだらう。いつかひまを見て伺ひませう。だけれど互に理想を語り合つて仲のよかつた松子樣とコチロンに鳴らした昔も、今は世の荒い風と戰つて居るのである。嗚呼ほんとにあの時分は樂しかつた。

三年間の春日記

岡山　よしか

十七の春——一級百五十の生徒を乘りこえて月桂冠をとつた私は、これから最高の學府に學んで、天晴教育家になつて見たいが、噫母様は、なぜ御許し下さらないだろ。國様は東京に、君様は京都にと早たつた。悲しき別の爲ならぬ涙に、昨夜も遂に眠らなかつた。

榮華の春——「やあ素敵だ、上野へ花でも見に行かうかね。」初丸髷、金簪一つ、頭に白き物さへ施して、今日の暖かいのを幸ひ、夫と云ふ懷しい君と馬車をかる。至る處衆目只我れに集ると思ひしはあやまりか。咲きも殘らず、散りも初めぬ櫻の下に、一日の快を盡して歸つた。

病床の春——今日も又熱が出た、思へば一昨年は岩の樣な決心を打壞され、目映い樣な希望を奪はれて、實に失意の春だつた。去年は榮華の現にあくがれ、あらぬ未來を樂しんだ極めて得意の春であつたが、あれも昔、あれも昔。苦しい……、胸が〳〵、噫どうしやう。至らぬ隈なき皆様の御介抱も、御醫者様の御親切も、有難く〳〵頂くけれど、この、この心の破れた私は、何の甲斐があらうぞ。あゝ短い生涯……。人しれずベツトをぬらした。食慾はちつともなけれど、母様の御心盡しの夕の御膳に僅かに箸を動かして見た。庭の櫻の花は、夕風にすつかり散つてしまつた。

春日記（二月一日曇り）

白萩

立園前の梅の花は、大分開いたけれど、今風の様に雪催しの日は、馬渡も春の様にない。あんより冷たいので、机の前に火鉢に寄つて、雑誌見て居たけれど、母様が拭き掃除なさるので遊んでは居られず、昨日から縫ひかけの、従姉のお美江さんのお召しをぬふ。

母様は、手際の見せ所だから、念入れてお縫ひと被仰る、だつて私には私だけしきや出来ませんわ、と又例の癖……でもお嫁さんのだから念入れて縫ふ。

誰の好みか、實昧な桔梗納戸のふき、綿を入れて、こてを當てる、障子の破れからすーと冷たい風、おゝ寒とこてを突ッ込んで、火をあせる。お美江さんは十九の春を迎へたのだけれど、小作りなので、やつと七許りにしか見えない。それに内氣で、私がこの間行つた時なんかも、出て來ないから、叔母さんにお美江さんはと、訊いたら、部屋にだつて、私が行つたら赧然して被居した。お忙しいでせう、と云ふと、もう眞紅になつて被居る。あれでお嫁さんになつたら、嗚、可愛い柔順なしいお嫁さんが出來るだらう、と微笑まれた。それにお美江さんは、幸福だ。姑と云つても叔母さん、鬼千匹の小姑は従姉だもの、と思ふと、人事ならず嬉しい。この上とも、何、優さしい美江さんに幸あれと、心に祈りながら。いそ／＼と針を運ばす。

二等

新春日記の中

信濃　すみ江

一日。小兄様と二人裏の畑へ出て初日を拜む。

御屠蘇が二杯。御雑煮は二日三日と食ひ上らなきやならないから一杯にして置く。それから學校の式。歸りに伯母様の所へ御年始に行く。町も靜か、人も平和。年を聞かれて恥しかつた。夜は正子さんの宅でカルタを取る。六度とも迷敗。鬚の生えたのを知らずに歸つて皆に大笑はれ。九時こたつで時子と足をつゝき合ひながら眠る。

二日。まあ雪が……、去年の暮に嫁らしつた娘様の様に、見る物皆綿帽子の御嫁さん。誰のマダム？になるのでせう。御父様の御部屋へ長机持ち出して、小兄様と時子と私とで御書初め。皆上々の出來で例の様に半紙五帖の御祝ひはいくつになつても嬉しい。

中兄様は離れの縁へ三脚出して南天の寫生。今畫きかけた枝へ雀がとまつて、雪をはらつちやつたつて、大しよげ。「こら畜生どかんかッ」。オホ……、早く人間の言葉が雀に分る様な世にしたいものだ。

少女の日記

奈　真　富　美　子

いよ／＼會の日も明日になつた。うれしくて／＼五時間の授業も何を習つたのかさつぱり覺えてやしない。五時間目の文法は本のどこを見てるのかもわからなかつた位。其い／＼一時間がすんでやれ／＼と思ふと、、睡もしたのかしなかつたのか忘れて終つたわ。教室を飛び出すと「六時間の方は會場の方を少しでもれ 私達もかへつたら一生懸命にしますから」つて五時間のものは皆初春の暖かい日を浴びながらステーションへ入場券を買つてからは、もう「うれしいわ」、「ほんとにうれしい、」許り。やがて止つた汽車のそばへ行つて、それこそ目を皿のやうにして見落さないやうと立つて居たら。「あゝうれしい、キツトよ、」皆一緒に叫びまし

た。あゝやつぱりそうでした。私達の忘れた事のない大好な先生方。こういふのよなんて覺えてた御あいさつも、皆どこかへ飛んで行つて終つたさぞ禮儀も知らない奴と思つてらしたどらうと今思ふと恥かしい。でも私は生れてからこの位うれしかつた事はなかつたわ。たどもう皆がニコ〳〵して歸つて來た。會場の装飾もすつかり出來上がつた。その夜は今迄一番樂しみだつた旅行の前夜より、もつと〳〵うれしくて眠られなかつた。

尼を傷む記

呉野露子

夜九時。雪は未だ止まぬらしく、道行く人も絶えてない。ふと靜さを破つて鐘の音が聞える、例の寒行の尼が打つのであらう。まあ此雪に、風の夜も雪の夜も、つとめなればこそと、氣の毒に思ふ。よく尼になりたいとお云ひの方があるけれど、其方がたは、尼を誤解して居らつしやるのであらう。あのお芝居に見るやうな、白のお召を[illegible]具に、紫などの被布を着て、珠數を片手に花束など持つて出て來るやうな者とでも思つて居らつしやるのか知れぬが、それは大きな間違だ。こちらは善光寺のお膝元だけに、一寸外出しても尼に逢ふが、餘り白くもない地肌を露はにに髪の毛を剃つて、白ももう鼠色となつた着物に、半褪色のお衣着けて、足駄をぎくしやくさせながら歩む姿など、あれでも女かと思ふ位。尼になりたいとお云ひには、色々と深い悲しい事情がお有りだらうが、お心さへ尼になつた氣で世に處して居らしたならば、などゝ人樣の事さへ氣にしていろ〳〵考へ込んだ。外には淋しく按摩の笛が聞える。

看護日記

千葉　山口秋子

姉樣は昨夜大變お咳遊ばした爲め、今朝お乳を温めて運んだ時には、スヤスヤ眠てゐらしつた。

御病氣のお見舞が、品口の伯母樣から來る。鶏卵と菓子折。姉樣にお目にかけると、疲れたお眼を細く開けて、造花の樣だとおつしやつて、ニツコリ遊ばす。十時頃氣分が宜いからとて、新體詩集を半時ばかり見てゐらしたが疲れたのでせう、なげる樣にふせて、雪をあざむく白い坊子枕に、亂れた頭を落して、苦し相に咳き込まれた。私は氣使ひ乍ら骨の出たお背を撫でる。

晝食を上げると、輕く一杯召し上られた。何より〳〵嬉しい。お湯をと仰有るので、コップについで上げると、表情のうせた淋びしいお顏に輕い笑みを見せて、洗面器にと言はる。自分は餘りに早飲込がをかしくて思はずホヽヽと笑らつた。午後の日光の一面にさしたお椽に運ぶと、クラブでお顏と手を洗らつて、御髮を梳くはいて、如何にも心地好さ相に晴れ渡つた空を眺められた。温い樣でも椽の香をふくんだ初春の風は冷めたい。夜は電ランプの下で春雨をひいて上げる。今宵は大層心持がいゝといはれてよく話られた。指輪がぬけたがると仰有るので、紙をまいてさし上げた。(二月五日夜しるす)

金剛山へ登る

大國鶴來よね子

一日、お山へは六時間以上かゝるでせうとのことに、君ちやんが泣き出しさうな面をして居たから、千早村にとまる事にす。しかし、まだ日が高かつたから、城址へ義雄さんと行く。上り八丁のけはしさ、成程こんな所から材木など落されては賊軍は寄りつけなかつた筈と思つた。

村は擂鉢のやうな谷間なのに、城址に公園の立札があつたのが一ばん眼についた。

二日、金剛山頂にとまる。上りの苦しかつたことなどはすつかり忘れて維嗒天皇の野猪をお離しなされたところなどを夕飯前にたづれて、むかしを忍びつゝ珍らしい草を採取す。たどしぶとの多いには閉口したり。さすがは高山のことゝて、杉の立木のさきの方が枝も葉もなくて、つるぎをたて並べたやうになつてゐる。夜はしんとして何の音も仕ない所。

妹が奉公に行つた日

岐阜　田島高子

今日妹は奉公に行きました。ごたくと兄弟の澤山ある家でも、たつた一人の妹が拔けた丈で、何となく淋しうなりました。私は眠られぬ眼で、獨り、妹の行末をいろくと想像してみました。父は、あれは兄弟の中で一番氣強いから、と云はれるけれども、何云つても女のことです。自分にも奉公に行くのを嬉しいやうな面をして行きましたが、あれは私等への安心を示したのです。誰あつて、親や兄弟と別れて奉公に行くのに嬉しいものがありませう。悲しいに定つてゐます。妹は心では泣いて行つたに違ひありません。明日からは、父さんとも云へません。姉さん。兄さんとも云はれません。お旦那樣、お新造樣、お嬢樣、あれには、そんなことが云へるでせうか……。母が死なれたのは、妹の不幸です。母が生きてゐられたならば、決して奉公などへは出されなかつたでせう。今頃は暗い間の隅に、冷い蒲團に抱かれて、しくしく泣いてゐるやうに思はれてなりません。

書簡文

三等

新橋で別れし友へ

伯耆　深山のさくら

秀子樣、今朝は寒むかつたのに、まあよく御出で下さいました。かれがれ想像いたしては居りましたが、車窓の下へつとよつてゐらしつた初々しい丸髷姿のお美しさには、ほんとうに驚いてしまひました。クラス第一ハイカラだつたあなたが、あんなにおとなしやかな奥樣におなりにならうとは全く思ひがけなかつたのですもの、ホヽ……御免遊ばせ、つひ元の癖が出まして。お互樣に人妻となつてから始めての御めもじ、あれもこれもと思ひながら、ろくにお話も致さぬ中に早や發車の時刻となり、ほんとに御名殘りをしう御座いました。あれから三時間ばかりで作州津山へ着、津山から人力車で四十里餘りの山を越しましたが、峠にはまだ消え殘りの雪が五尺程もかんくと氷つて居ますので、隨分困難しました。東京ではお花見くと浮かれ立つ此頃を、昨夜は岡山で蚊におどろかされ、今日は雪の山を越すなんて、まるでうその樣でせう。今宵は

淺間と申す山の中に宿をとりました。餘は任地へ着次第に申上ます。どうぞ且那様へ宜しく。かしこ。

病みて歸國する友へ

伏見京子

今朝食事のなり色々御噂致し居り候處、噂をすれば影とか、晝過ぎ御手紙に接し候うれしさに、切る手も遲しと拜見致し候へば、思ひがけなき御文面、實に夢の樣に存じ候。美代樣には御病氣のため、御主人樣や御子樣方を跡に御歸國遊ばさるゝよし、たゞ〳〵驚くのみに御座候。かゝる事とは少しも存ぜず、御見舞も申上げず、御無禮の數々、何卒御許しの程願上候。御病氣は何、其後の御容體は如何。御病名も仰せられず候へば御樣子も解り兼れ候へ共、御歸國遊ばさるゝ程なれば、いつもの御頭痛位の輕きにては無之事と御推察申候。さるを御道中も御一人にてとは、實に〳〵氣がかりに存じ候。北陸の果てより南海の南端迄長々の御旅路を御婦人の一人旅、たゞさへ御心細きに、ましてや御病ひの御身にて遙々御歸國遊ばさるゝ御心中、何とも御氣の毒にたへず、御勞れも一入かと御察し申上げ候。

せめては、道筋故立寄るから病體を宜しく頼むとの御言葉下され候はゞいかに嬉れしからん、さるを何時頃當地通過等とはなか〳〵に御恨みに存じ候。御遠慮等は他人行儀に候。私方にて暫く御滯在遊され候はゞ、御勞れも充分休め、其上御容體や天氣模樣汽船の都合等も見定めて、御出發遊さるゝ際には船迄御見送り致し度と存じ居り候。宅も私も御承知の通りの氣象に候へば、やかま敷子供は居り候へ共、御氣づまりの者は一人も無之候間、御心置きなく御出で下され度、幸に裏の離れ座敷は日當りも宜く靜に候間、しばしの御病室と致すべく候。御地は雪國なれば御病氣にも御毒に候はんも、土質は氣候も好く、目に見えて御全快の御事と存じ候。何卒〳〵右様御承知下され候て、御出立の節には電報にて御知らせ下され度、時間を見はからひて驛迄御迎ひに參るべく候。

故郷なる妹へ

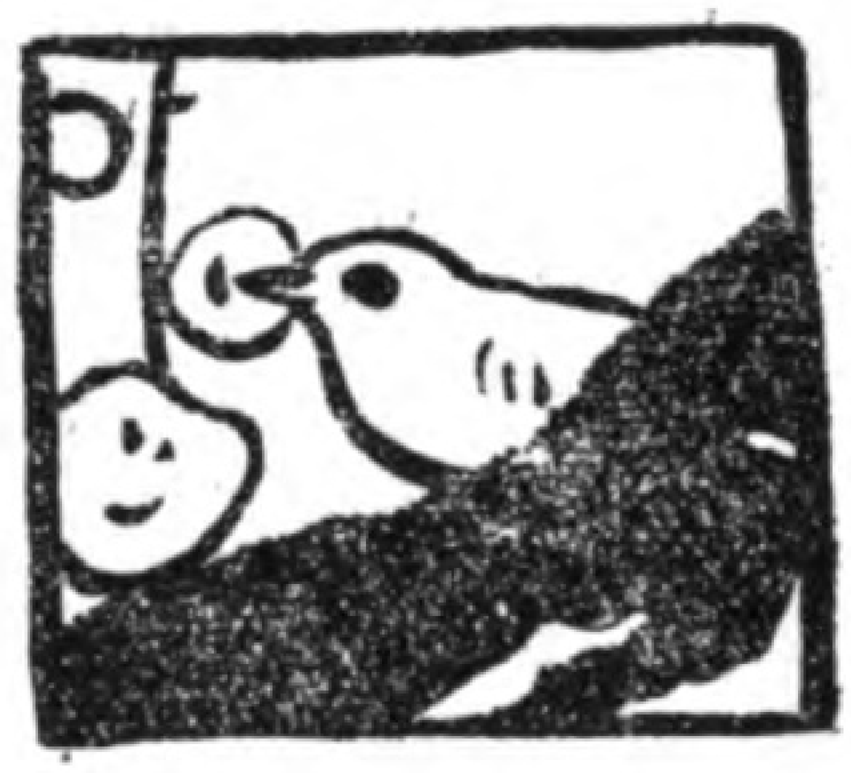
岐阜　田島高子

昨夜々中に、不圖眼が覺めて、故郷の夜を思ひ出しました。父と小弟、母と小妹、それからお前、吾、するりと並んだ寢間が眼の前に浮んで、懷しくてなりませんでした。

お母さんは夜中に起きて、ずつと並んだ炬燵を一つ一つ探つて見られて皆暖いときは、眠られるけれども、ひよつとして、火が消えてゐると、肌まで泌みるやうな寒さにも、ばた〳〵と火をおこして入れかへられますそれから吾の炬燵は屹度飛び出してゐるので、每度直さればならぬときいてゐました。

その母の寢衣姿が、まざ〳〵と浮んで、親の恩と云ふことをしみ〳〵感じました。親の恩と云ふものは、親に離れてゐなくては分るものではありません。同じ一つのことでも、親の許にゐて思ふこと、離れてゐて思ふことゝは、まるきり違ふものです。母が夜中に起きられることでも、今になつて親の恩のどれ丈深いかをつく〴〵知りました。

母は、よる年波で、病も得やすいし、お前は丈夫なのだから、どうかお母さんのことを、なるたけ手助して安心させる様にして下さい。不圖思つたまゝを。



俳句

天

大阪　ちどり

梅が香に化粧の水のぬるみかな

地

大阪　矢部蝶子

姉逝きて太郎の祭る内裏雛

人

大多喜　柳女

春風や白帆は海のこぼれ梅

秀逸

伊豆　大谷たま子

かち渡る水三寸の柳哉

名古屋　柳生幸子

春寒し口に水吸ふ繪の具筆

神戸　松田清江

雛のすねさむげなり春の雪

京城　かよ子

水に赤き書舫の燭や鳴く蛙

伊豆　鈴木久江

梅散るや念無う張りし貸家札

雪積むで物みな白し冬の月　筑後　原田つる子

裳裾高うかゝげて行くや春のゆき　志摩　こと子

晴小袖牛車にすれて花も見す　大阪　矢部清子

魚すくう子等にごし行く春の水　大阪　喜代女

蛙とぶ水田や月の牛姿　廣島　志熊英子

しら梅をさしてニッコリ水かゞみ　神戸　岡本朝子

味噌を搗く女ふたりや桃の花　阿波　西野いさを

鯉料ろ塗桶の色や春の水　神戸　松室幾久子

塗下駄の落花にやさし宮仕へ　越後　田澤昌子

僧一人茶釜をならす梅の寺　能登　犬卯坊

水仙の氷解けたる四疊半　宮城　秋保八重

故郷は松をしるべの梅の村　京都　萩原露子

猫眠むる南の縁や桃の花　大阪　京林花子

朧夜や夢の中にも高笑ひ　美濃　花園百合子
水攻めやまだこりずまにうかれ猫　美濃　傍島小枝
落陽や春水遠く夢に入る　信濃　柳原菖美子
寒梅や銀屏寒く女客　韓國　加藤柳子
かほ鳥の聲になく夜や朧月　河内　糸若柳野
かはりけり宇治の川邊の梅二りん　大阪　渡瀨浪子
雪鳥の餌にありつかぬ一日かな　東京　むか子
陽炎ふる豐田や瀨戸の海平ら　川崎　梶うた子
梅ちる日京へ嫁ぎぬ村小町　大阪　愛子
雪の粉を廂落す軒の雀哉　大阪　峰子
はる風に髱の高さやマゲム振　麻布　野田壽々代
摘草のつめぬを乳母に恨み哉　群馬　丸山昌子
木母寺に鉦冴えかへる餘寒かな　麻布　渡井さく子
道柳船の底燒く煙りかな　橫濱　眞田かよ子
夕風や胡蝶のわたる湖の上　同　吉田かよ子
月朧園生に露の若葉かな　膽振　石井露草
春月や雲出て下ろす駄馬の鞍　長崎　宮崎喜滿代
嫁入を見に出る春の月夜かな　大阪　井上ちず
行厨を運ぶ男や春の山　岩國　大塚白糸
きさらぎや白梅寒し斷食堂　北海道　金子竹枝
新開道枝折るべからず梅の花　小樽　坂野せき

若草をつむ手に暮るゝ春日哉　同　同
綠に立つ妹のくさめや春寒き　越後　五十嵐須賀子
緋桃ちる十戸の村に藥賣　近江　中村清子
梅こぼす鳩の羽風や神の庭　越後　五十嵐富美子
笹鳴に春來るらし殘る雪　愛知　日野路子
桃咲くや小さき衣ぬふ人若し　岡山　三宅秀子
梅の花笑ふてかむる綿帽子　彦根　中川ふじ子
御料理や筆記ながむるわかきつま　越後　關雪子
舟見れば舟にのりたし春の風　信濃　露子
布さらす加茂の川原や春の風　鳥取　菊地泰子
春風や鬮切り番の小旗かな　相州　澤田はる子
阿伽棚に櫻散り込む彼岸哉　淡島　眞子
玄關の四疊に瀨戸の火鉢哉　下谷　酒井清子
初雪や手洗の水をこぼしかれ　鹿兒島　川幡千枝子
杉森に殘る寒さの夕日かな　長崎　大丸貴美子
此橋の上に橋なし春の川　岡山　鈴木幸子
月しろく凍えたる屋根に鐘の音　美作　たそがれ
よき室の琴柱を吹くや春の風　北品川　田村靜子
雨樋の中に遊ぶや雀の子　尾張　鈴木ゑひ子
庭もせに春を知れとや梅の花　駿河　三好泰子
丸窓に胡蝶さまよう琴の音　廣島　惠藤英子

笑話

○憚りながら頂戴
函館　富子

客が花を買てゐるうちに、花菖蒲の葉ばかりなのが見つかつたので、客「これは花がないのか」。花屋「ヘイ葉ばかりのこりましたから差上げます」、客「そうか、では葉ばかり(憚り)ながら頂戴します」。

○オヽひどい方だ
伊賀　春子

妻「オヽひどい方だ、私が猿に似てゐるつて……」。夫「いや取りちがへちやいけないよ、猿がお前に似てゐるんだよ」。

○悲嘆の顔
近江　なでしこ

妙子「松子さんはなぜいつも悲しさうな顔ばかりしてゐるんでせう」、君子「あたりまえだわ」、妙子「なぜ」、君子「誰れだつてあんな顔だつたら悲しいぢやありませんか」。

○母の失敗
三重　隅田政枝

母「坊や、此薬はおいしいよ、アヽおいし、坊が飲まんとお母さん頂いて仕舞ひすよ」、坊「坊、いやだから母ちやんおいしきや皆飲んで頂戴」(秀逸)

○馬鹿者揃ひ
長野　五味さつの

弟「兄さん、三月の節句と五月の節句とは何れが先ですか」、兄「暦を見なければ分からないよ」、父之を聞て曰く「兄は兄だけにりこうだナ」。

○日記をつける時
福岡　許斐文子

母「そんなに夜遅く迄何して居るのです」、娘「ハイ日記をつけてゐます」、母「ふてまわりな、なぜ朝から書いて置かないのです」。

○無論寝臺の上
伊賀　春子

父「御前の様な不心得者はいづれ畳の上では往生は出來やしないよ」、子「無論僕は死ぬる時は病院の寝臺の上で往生するつもりです」。

○悪い事を見る目
舞鶴町　上野のぶ

秀雄さんが、父さんの目は、見える時と、見えん時とあるれと言ひますから、なぜときくと、善いことをすると少しも目につかないで、悪いことをする時丈け目につくのですもの。(秀逸)

○變つたかたわ
信州　すみえ

一分のすきもないハイカラの一青年、「花子さん、貴女の目から私はどう見えます」、花「オホヽヽかたわとより外見えませんわ」、青「そヽヽそりやどうしてです」、花「御分りにならなきあ教へて上げますわ、……體は男でも、頭を女の様にめかして居らつしやるから」。(秀逸)

○ぢいやも御乳
備中　天野貞子

爺「お孃さま、そんなに御乳をめし上りますと、御はがすつかりなくなりますよ」、花ちやん「そう、ぢや爺やも御乳澤山いたゞいたの?」。

○樟腦の効能
大阪　藤田馨子

子供「母さんお菓子を下さい」、母「あんまり食べると蟲がわきますよ」、子供「そんならあとで樟腦を食べますから」

○下女の考へ
京都　雄子

下女「お孃様今れ光つた物が大變な音をさせて落ちて來ましたよ」、孃様「それはたぶん隕石といつて星がかけて落ちたのだらう」、下女「そんな事はない筈です今夜は空が曇つて居て星はありませんから」。(秀逸)

誌友倶樂部

▲皆さまの中で、黑色パンヂーの種子お持ちの方がございましたら、交換を願ひます、私は大抵の珍らしい種子を持つて居ります。(大阪府小河內郡二島村大字三ツ島中野月下香)

▲本鄕のすみれ樣、如何の事かは存じませんが私倶樂部で貴女樣のを拜見してから何んだか氣になつてしかたがないのよ、誠に無智辯才の田舍者ですが、おかまひなくば何卒お知らせ下さい。(美作苫田郡加茂小中原瑞秀めぐみ)

▲摩耶子樣に申上げます、本誌十卷三號の京都の社會觀察に「純京都式の家へ行つてもお菓子など出さず又食事時に行つても御飯を出すと云ふ事はありません」とありましたが、貴女樣のお行きになる家は出しませんか存じませんが、大抵の家では御飯も出しますし、又出入人の外はきつとお茶とお菓子は出しますよ、又「女學生は一般に質素であります」とは、是れは、他國から入らつしやる先生方が生徒はなるべく質素にせよと、おつしやるからです、然し散步などに行きます時は、なか〳〵廣いリボンも用ひます。(京都白梅女)

▲束髮にお結ひになる時は何油をお用ひになりますか、私は始終水ばかりつけて結つて居升が髮がばら〳〵してみんなきれるのでよわつて居ますし、どうぞよき方法をお知らせ下さい。(酒田の長谷櫻子女史)

▲私も今度愛讀者の一人になりましたからどうか御交際を。(大阪藤田きく子)

▲北見國信太英子樣、私は半紙に毛筆で日記を書きます、私は一つには字の稽古かた〳〵書きますから、これがよいやうです。記者樣私のやうに葉書を狀袋に入れて送りましては惡るいでせうか。(美作松岡きぬ子) 惡くはありません。

▲あまりパッとしたことを御尋ね申しますが、東京の姉上方の中に千葉縣香取郡笹川村から出なすつた前田千代子さんと御交際なされた方は何卒こゝで其の御近狀をおしらせ下さいませ、きつと御禮はいたしますから。(米國濱子)

▲皆々樣私方水がわるいので困て居りますの、掘拔にしたらよいかと思ふて大分深い掘拔きにしたのですが、ひどいカナケで困て居ります、何卒カナケを去る方法あれば御敎へ下さいまし御願み申します。(ちぬの浦にて美鈴)

▲北海道小百合樣、母なき御身は如何ばかり心細い事でせう、深く〳〵お察し申上げます、私まことに不束者ですけど、如何にもして貴女のお淋しいお心をこの女學世界紙上でお慰め申し度う御座います、以後私のやうな者でも妹と思召して何なりと仰せ下さいませんか、又姉さまと呼ばしては下さいますまいか(西大久保妙香)

▲私は某女學校の生徒で、非常に女學世界を愛讀して居ます、何卒御交際を願います。(なが崎白百合)

▲本鄕のすみれ樣、私は橫須賀の片田舍に住む果敢なき身の上の者ですが、貴女の御身の上に大に御同情申ます、其の御事情を御差支なくば御報せ下さい、私も御報せ申しますから。橫須賀市逸見二二七鈴木方渡邊悅子)

▲名古屋の花桂さま、ホ・・・隨分ね、ヒステリーの傾向ある方とは交際しないつて？ ぢやもしも私がヒステリーだつたら今日迄の親友ももうお廢しなの？ あんまりだわ、散る花樣、お上手ね、またどし〳〵佳作を出して誰やらの鼻をくぢいておやりなさいよ。(つゆ子)

▲神谷都子樣、毛髮について御依賴申上度き事が御座いますから、御手數ながら御住所御知らせ下さいましな、昨年の十月號に有るさうですが、私其頃のを存じませんから。(大阪市なでしこ)

▲記者樣、力行女學校の所在と日本力行會主島貫兵太夫樣の御所を御知らせ下さいませ。(福井五十嵐百合子)小石川區龍町五十一番地です。

▲河岡潮風先生、先生は未だ府下新宿角筈の精華高等女學校を御參觀遊ばしませんか、どうぞ仔細に視察の上三月の本誌上に御載せ下さいますまいか、御願ひでございます、實は入學希望者があるのですが、校風や何か、よくわかり兼ねますので。(北見のさゆり子)

▲神戸みどり子樣、あなた御病氣ですすてれ、昨今は如何ですか、陰ながら御案じして居ります。私れ何だかあなたがクリスチャンくさい氣がしてなりませんの、ぢやなくつて、何うか末永く御交際を。(ちぬの浦にて美鈴)

▲みなし子樣、ようこそ御答へ下さいました、私は教育も何もない者ですが、同情いたしますどうぞおさしつかへなくば御文下さいませんか私は是迄色々つらい事や悲しい事に逢つて居りますのですから、何卒御決心の程伺ひとう御座ます、私は出來ます丈はお力に成りたいと思て居ります、東京のある花樣、大阪の白梅女さまにも、皆樣にも、御さしつかへなくば御文下さいませ。(東京淺草永住町六九吉田内定子)

▲記者樣、投書規則に住所明記すべしとも何とも御座いませんが、住所書かずに姓名或は雅號丈けでも沒書にはなりませんか、何卒誌上で御答へ下さいませ(君枝子)投書には必ず住所姓名を明記せられたし。

▲讀者倶樂部がだん〳〵盛になつて來ましたのは、誠に嬉しい事と存じます、皆樣何卒紙上にて御文通を願ひます、それから築地の森の枝樣一月號の紙上にて築地と承り、私も此築地に居る一處女で、知らぬ貴女樣ながら御懷しく存じます、以後御交際を。(築地内登千鶴子)

▲本誌毎號の夢二樣の挿繪を、外國人に見られて、日本の女は皆こんなに手と足とお尻とが大きいのかと思はれでもしたら、何とも殘念な次第ですから、ちと何とか御注意願ひたう御座います。(大森椿の精)

▲本郷にてすみれ樣、同情いたします、私の住所はこゝえは揭げるわけには行きませんから何卒一月十五日の備前牛窓竹子樣に住所を御聞き下さつて、事情御知らせ下さい、備前の竹子樣御手紙行きましたらよろしく御願ひいたします(福井縣東郷人)

▲大阪中野清香樣の仰せの通り、本誌に愛讀者の面影をかゝげて戴きたう御ざいます、みなし子樣、おみなへしさま、私同情にたえません、御交際を願ひます。(福井の里人)

▲大久保のまさ子さま、ほんとにおなつかしうムいます、まあ貴女も大久保?……うれしいわどうぞ末長く親しく御交際下さいませ、私理由あつて、これから雅號で投書いたしますから其のおつもりで居て頂戴、私の所は戸山の原のすぐ近くですの、散歩がてらお遊びにいらしつて頂戴ね(大久保にて妙香)

▲ちぬの浦の美鈴女樣、私も愛讀者の一人でございます、至つて舍田女ですが、何卒御交際を願ひます、尙佐々木光子樣もどーぞ御文通を願ひます。(富山縣高岡市源平町室崎ひさ子)

▲諸姉樣、紙上の友として永久に御交際被下いまし、又繪葉書の交換を望みます、どうぞ。(相州葉山一色今關八重野)

▲越後よし子樣、誠に御恥かしう存じますが、仰の通りで御座います、貴女樣はもしやおなつかしい竹村樣では入らつしやいませんか、左樣ならば何卒次號で御住所を御知らせ頂きたう存じます、間違ひましたら御免遊ばせ。(相模にてかめ子)

▲愛讀者樣、私は無教育者ですが、女學世界を唯一の友として居るのです、倶樂部が出來てから面白みがよほどまして來て、雜誌が來ると倶樂部を第一番に拜見するのです、先日或方に葉書を上げましたら早速御返事下さいまして、うれしう御座いました、何卒賢明なる愛讀者樣御交際を御願ひ申上ます。(福井縣里人)

▲石見の信太英子樣、私も毎日日記をつけて居りますの、初めは鉛筆で書いて居ましたけれど

も抱え易くて困りましたから、此頃はペンに致しました、日記帳は罫紙で、なくなつたら又とぢらむ様にして居ります。(名古屋田山夕ぎり)

▲埼玉のさくら子様、並びに埼玉縣のはる子様に不束な私に交際をとの御言葉恐れ入りました、どうぞ御見すてなく永く御交際を願ひます又私住所はすこし誌上では申しあげかれます、御二方の御住所御教へ下さいますれば手紙さしあげます。(四谷榮子)

▲本郷のすみれ様、名古屋の花桂様、何卒御文通を願ひます、すみれ様の御話し是非承り度うぞんじます、住所は左の處で御座いますから、御手紙下さいな、御待ち申します。(岐阜市榮園町三丁目赤松とし子)

▲みな様私も古るくからの愛讀者でございます何卒誌上で末長くお交り下さい、ちぬの浦の美鈴女様、不束者ですが、どうぞ末長くお手紙の交換をおねがひ申します(京都小川丸太町下ル小島か代子)

▲私は本年より愛讀者になりました、不束者ながら諸姉様の御仲間に入れ下さらば身にあまる光榮と存じます、尚ほ御差支のない方は御住所御知らせ下さいまし。(岐阜かしく)

▲北海道の波荒き岸に住み給ふ小百合様とやらほんにおなつかしうぞんじます、私も本道へ參つて未だ一年にもなりませんさびしき身の上です哀れとおぼしめし下さい(北海道つぼすみれ)

▲美濃榮子様、御芳名を二月の當欄で拜見してよりは、何となく貴女がおなつかしう御座います、何とぞ妹とお思召して末永く誌上で御交り下さいませ。(土佐美兩子)

▲和歌を御出し遊ばした丹波の佐藤芳枝様、足立美枝様、丹波はどちらで居らつしやいますか私は生れは丹波の北桑田郡で御座います、どうぞ誌上で御交際下さいまし。(名古屋にて田山夕ぎり)

▲記者さま文が規定より長くなつた時には沒書となるんでせうか、其れから用紙は原稿紙でもよう御座いますか、(山形竹枝子)長くなつてはいけません、用紙は半紙或は原稿紙に願ひます。

▲諸姉様よ私は本年一月號より本誌の愛讀者となりました、至つて不束者で御座いますが、何本哀れと思召して末永く御交際を願ひ申ます。(東京市神田區岩本町八齋藤しん子)

▲明治三十八九年頃大阪堂島高等女學校へ御通ひなすつてらした松田榮子様、御別れ申してはや五年になります其間始終御尋ねせねばすまぬ〳〵と存じつゝも、つひ御無音に過ぎて居ました處、其後九州の方へ御出になられましたよし承りましたが、九州は何處か存じませんけれども貴女の御身の上を朝夕御安じ申して居ります其後御變りは御座いませんか、どなた様へ御尋ね致さう様も御座いませんから、すみませんけれども、紙上の餘白を御拜借申して御伺ひ申上ます。(岐美伊)

▲土佐の白萩様、あなたは紅葉の友でゐらつしやるでせう、私當てゝ御らん遊ばせ、都の妹よ楠千様によろしく、それから愛讀者の竹様、どうぞ妹と思召して御交際下さいませ。(本郷にてすみれ)

▲京都加藤ふじ子様、床しい都に御いでの姿なつかしう御座います、私は實に不束者で御座いますが、宜敷くお交り下さいませ、又諸姉様たりない私で御座いますが、此の後永く御交際下さい御願ひ申ます。(大阪里子)

▲岡山の高橋八千嘉様、おなつかしう御座います、私とあなたとは同姓同名で、私ももと岡山に居たものです、どうかこれから妹と思つて御交際して頂戴。(仙臺高橋八千嘉)

▲女學世界一の卷ころ、才筆をお揮ひ遊ばした紀伊の藤田いさを様は、今何處で如何お暮しでせうか、御存じのお方はお教へ下さいませ。(西野いさを)

▲本郷のすみれ子さん、私愛讀者の一人なのよ

如何なる事でも御同情致します、住所を御しらせ致します故、御手紙を頂戴な、尙諸姉樣方、今後御差し支へのない御方は御手紙の御交換を永久願ひます、(相州三浦郡葉山一色今岡八重野)

▲千鳥子樣、あなたはちぬの浦にそうた處に御住ひですか、それとも男波女波の打よするなぎさに畫の樣な其物語りでも御もち遊ばす御方樣ですか、聞かまほしう思ひますこの美鈴は大阪と神戸との中央に位する小都邑に住んでゐますの何かあなたの御住所委しく御知らせ下さいな御交際を願ひます、(ちぬの浦にて美鈴女)

▲大阪の山田芳枝樣、あなたは前萩原樣と申す御方では御座いませんか、もしそうですなら御なつかしう御座います、よく存じて居りますよ(未見の友より)

▲京橋のたつ子樣、信子樣、品川の乾子樣、淺草の錦子樣、どし〳〵投書遊ばせ、女學世界の爲につくしませうれ、尙ほ愛讀者の諸姉樣以後誌上で御交際を芝の皆樣おふるひ遊ばせよ。(芝にて福子)

▲嫁に行く人及びマダム振りに續けて御當選なさいました水仙女史樣、妾は貴女の御文才に眞實感心してよ、內藤さんのより妾好きですわ、是からも是非御名文を出して下さいな。(水仙女史崇拜女)

▲岡山の松岡寄奴子樣、お目出度うれしう存じます、まあ貴女のおばあさまと同姓同名? ほんとに御懐しう御座いまわ、何卒以後私のやうな者でも末長く誌上でお交り下さいませ、私都合に由りましてこれからは雅號を用ひます。(西大久保妙香)

▲二月號に濱に遊樂する記を御かき遊ばしたあなば樣、あなたもあの病氣で御なやみですか、私も昨年の春からかゝつて今ではあきらめて居る樣なものゝ、やはりいろ〳〵と思慕して居ります、平磯の海と思ひますが、私も暫く大洗の近處に參つて居りました、只今では女學世界を唯一の友として淋しう暮して居ります、御なつかしさのあまりに一寸(佐世保うらぶれ人)

▲本郷のすみれ樣、なんだか存じませんが、同情致します、御話下さいな。(久留米市通町五丁目新野米子)

▲ちぬの浦の美鈴女樣と神田小林しのぶ樣、私も本誌を愛讀する一人ですが、何卒御交際をお願ひします。(栃木縣足利町家富町茂木經子)

▲二月號の短文に「あゝお兄樣」と云ふのをお出し遊ばしたやす子樣、私はあの文を拜見して思はず泪に咽びました、お情け深いお母樣、お優しいお妹子樣を跡に、返らぬ旅路に立たせ給ひし兄上樣の御心、あゝ嘸々切ない事で厶いましたでせう、無きお兄樣の御愛唱遊ばされしと云ふ櫻狩、あゝ寒月冴える夜、物思ひ給う君が御胸には、如何に悲しく響いたでせう、私も胸を痛くしました、あゝやす子樣、只一人のお母樣に御孝養なさいませ、陰ながらお二人の御幸福を祈ります、私も東に向つて櫻狩を。(尾道古都子)

▲私は去年の七月より愛讀者の一人となりました、皆々樣御交際下さいませそして何卒お手紙頂戴な、及ばずながら御返事さし上げますから(京都市木屋町三條下る井上秀子)

▲私は三、四年前から缺かさず本誌を愛讀致して居ります、なにとぞ御交際下さいまし。(韓國釜山西町長谷場純子)

▲私は何が樂しみと言つても本誌を讀むほどたのしい事は御座いません、大なる本誌を今後ます〳〵盛に致したいもので御座います、姉樣方おいとまにお手紙頂戴な。(岡山市上出石町一〇一織田內、長尾佳野)

▲皆樣、私は二月から愛讀者に成りました、誠に不束者で御座いますが何卒御仲間に入れて頂戴な、又これから毎月投書致したいと思つて居ります。(茨城縣北相馬郡井野村蟾原そめ)

▲北見の信太夾子樣、私毎日の日記帳には、博文館發行の常用日記を使つて居りますのよ、ほ

んとによろしうございますわ、貴女もお用ひ遊ばしては如何そしてペンで書いてゐますよ。(京都府伏見成田てい子)

▲本郷のすみれ様、私何んとなく貴女がおなつかしいのよ、私も十八歳なのよ、此後とも仲よく御交際下さいましな、貴女のお話しつてどんな事、おさしつかへくば御知らせ遊ばせな御力に成りますワ。(信州諏訪町三木みつ子)

▲温室や窖には随分害虫が付き易いものですから、時々お見廻り遊ばせ、來ん春の播種床は只今から下水土に砂(三割位)及油粕少々を混ひ交ぜ、雨の當らぬ處へお置き遊ばせ、冬からの用意が周到でなくては、迚も春夏に美花を眺める事は出來ませぬ、園藝種子球根の交換を望みます。(信濃恒子)

▲北見の信大英子様、おなつかしうございます貴女も毎日日記おつけになるのですつて? 私はペン、筆、鉛筆、皆使ひますの、そしてペンの時は口語體、鉛筆の時は美文的に、夫から筆の時はもう〳〵悲しい他人にはいわれない悲しい思ひの胸に一杯の時、一人さめ〴〵と泣きながらその悲しみを書きつゞるのですの、紙は静田玉川堂の洋紙でございます、世の中は中々自分の思ふ様にはなりませんのネ、學校を出てからまだ一年とは經たないのに、悲しい〳〵圖書のために身も心も勞れました、貴女は學校に行つてゐらつしやるのですか、東京よりほかに出た事のない私をあはれとおぼしめして、どうぞ誌上でお交際を……(月見草)

▲誌上の姉上様、私は高等女學校へ通學してゐるもので御座います、どうぞ御交際を雪の都の富子様、おまじはり下さいナ、神戸のみどり様御病氣いかゞ? 御大切になさいまし、宮城大和田花子様、私も父がありませんのヨ、麻布の君子様、東京名なし草様、奈良白百合様、萩野さまどうぞ誌上で御交際を……(大阪佐夜子)

▲小石川區内にて、女子大學通信教育會に入會してゐらつしやる方がございますか、もしおありなら御交はり下さいませ。(錦子)

▲犬養きく子様、早速の御返事誠に有り難う存じます、ほんとに仰せの通りでございます、私も度々投書致しますけれども、元よりつたないものですから、いつも〳〵沒書になつていけません、貴女様こそ何卒御盡力あられんことを願ひます。(高知しらはぎ)

▲諸友諸嬢様、御懐しう御座います、妾は投書するのは此度初めてゞす、何卒末永く御交りを願ひます。(越前美世女)

▲何卒水彩畫の繪葉書交換を願ひます、御禮として大家の木版のを進上致します。(大阪大川町四入下村方河野はじめ)

▲各地の諸友と草花の種子及び繪はがきの交換をお願ひ致します、當方から京都名所又は附近の名所の繪葉書をお送り致します、又京都市内の御方とは特に御交際を致したう御座います。(京都市立賣通室町東入ル小島靜子)

▲お手紙を御惠み下すつた諸姉様方よ、此度都合に依り直接玉章の交換は出來ませんからたゞ誌上丈で御交り下さいませ。(京都七條にてふじ子)

▲妾等は乘馬が好きで、毎日讀書とそれを仕事にしてゐます、女の身體を強壯にするにはテニスや之に越すものはないと思ひますから、記者様是非共次號より女子乘馬術の記事、及び名流婦人の乘馬の圖をお掲げ下さい。(新潟縣村上町婦人乘馬倶樂部惣代)

▲諸嬢様、妾は女學世界最愛讀者の一人で、只今高等女學校三年生で御座います、何卒諸友として親密なる清き美しき御交際を御願致しますそして眞の御姉様の様に御交際なして下さるお心の御方様は一時的で無く永く御情のこもつた御文通が致したいのです、何卒誌上で御住所お知らせくださいませ、此度妾の方よりも手紙差上ます。(すみれ會内勝江子)

新刊紹介

△明治小說文庫 澁柿叢書　塚原澁柿園著

著者は明治文壇に歷史小說家の一旗幟を立てたる大家なり、彼の英雄、豪傑、哲士、美人、烈女、猛士、義賊仁俠等にして苟しくも其の經歷、行跡の上に人間本來の好奇心を誘ふところあれば必らず其の事跡を尋れ、其の關係を考へこれを一部の小說として讀者に多大の興味を與へんと期して而かもよく成功したるものなり著者の數ある傑作中この卷に收められたるもの凡そ二十五種、石川五右衞門の事を書きたる釜煎、淀君の事を述べたる新化粧法、秀吉の情事を書きたる聚樂殿を始め、鐵火、妻の心、不老術、三千石、由井正雪、大石內藏助、此戀等其重なるものなり、定價貳圓、博文館發行

△柳浪叢書前篇　廣津柳浪著

柳浪子の文は明治文壇の花にして、其の想亦現代に重きを爲す、本書は即ち子が心血をそゝげる多年の雄篇名作を集めたるものにして、彼の名聲嘖々たりし傑作今戶心中を初めとし、おもかげ橋、昇降場、骨ぬすみ、妾、隅田の夜路、卵の悶、花ぐるひ、狂言娘等總べて十有五編を收め、子の重なる作は殆んど網羅されたり。定價貳圓、本館發行。

△日本文學遊戲大全　海賀變哲著

さきに小說辭典を著はして文藝嗜好者に多大の興味を與へたる著者は今回又この滑稽的趣味なる遊戲書を編述せり、即ち語呂合、謎、ものはづけ、前句附、隱句、考物、鬮引、一口噺、滑稽問答等凡そ文學を遊戲に化したるもの悉く網羅せざるはなし、文學遊戲は俗にこれを洒落といふも畢竟機智頓才の應用にしてこれを廣く養へば圓轉滑脫の才自から發達して人間交際上に益すること大なるべく、又一部消閑の具としても興味中々に深し、價四十五錢、博文館發行

△女子のつとめ　下田次郎著

本書は婦人をして時代の進步に後れしめず、世の弊風に染まざらしめんとして著はされたるものにして、著者は女子敎育に深き關係を有する人だけに、其の述ぶる所は能く時弊に當り居るが如し。定價金貳拾五錢、本館發行。

△人壽百年　岩井禎三編

凡そ動植物は必ず天より一定の壽命を受け居るものなり、其の壽命を全うし、何等の障害なく活き長らへるには如何にすべきか、本書は即ち其の方法を說きたるものなり、著者は宮內省侍醫として令名あり、讀んで益する所頗る多し。定價金四拾錢、本館發行。

△筆之友（第百十六號）

書法と篆刻の雜誌にして、小雜誌乍ら、なか〳〵趣味に富む、本號には、歷代書法論（前田默鳳）、本朝三字經講義（小林道彥）、江木冷灰博士の漢詩を初めとし、口繪などにも見るべきもの多し。主幹は高畑翠石氏、每月一回、一部金拾五錢、神田淡路町二丁目書道獎勵協會發行。

△山窓夜話　法學博士 江木衷著

著者法學に通じ、社會學に通じ、漢文に巧に、和文に委し、其の境の觸る所、心の據る所、隨つて得れば隨つて錄して此の山窓夜話をなす、其の收むる所、萬國無比の日本趣味、趣味の說、支那文學と日本趣味、日比谷公園の月桂樹、自然主義の小說と法律、不得要領の說、其他十有數編、孰れも金玉の文字、時勢の傾向に注意する人の是非一讀すべき書なり、定價金六拾錢、神田區南神保町有斐閣發行、

△トキハギ（第五號）

與謝野晶子女史が主宰する詩歌雜誌にして、本號には、感想（蘼々生、安里生、與謝野寛の諸氏）、萬葉集講話（與謝野寛氏）、和泉式部歌集講義（同上）等を收む、新詩社同人獨得の見解面白し、每月一回、定價金七錢、神田區東紅梅町二新詩社發行。

△和聲學初步（上卷）　神津仙三郎譯講

本書は故東京音樂學校教授神津氏が米國音樂理論大家エメリー氏の原著エレメンツ、オフ、ハーモニーを飜譯せるものにして、一時絕版となり居りしを、今度改訂を加へて再び發刊せるものなり、行文平易、難解の原理を初學者にも誠に分り易く記述しあり、定價金七拾錢、神田區錦町三丁目日本音樂協會發行。

△昔の春　小寺秋雨 田中白茅 共著

こは兩氏の詩歌を集めたるものなり、左に其の中の一二を示す、花かげにほの見し人の俤のはづかしきまでさだかなりし夢、古伽藍森の木の間にほの見えて沈みゆく日の太古に似たる（以上秋雨）、來るべき希望を思ひ岡に立ちて春の朝の大海を見る（以上白茅）、定價金貳拾五錢、大阪市南區天王寺上ノ宮町山本榮文堂發行。

△女流短歌評釋　森田義郎著

德川時代の女流の和歌を評釋せるものなり、即ち荷田蒼生子、鵜殿餘野子、近藤筑波子、油谷倭文子、野村望東尼、紅子、柳原安子、大田垣蓮月等の作を收む、評釋は能く要領を得て居る方なり、定價金參拾錢、府下巣鴨町上駒込內外出版協會發行。

△英語世界叢書 伏魔殿　鬼島熊之助譯註

十九世紀の英國小說家スチーヴンスン氏の自殺倶樂部、及び米國作家ホーソルン氏の短篇に譯註を加へたるものなり、註解は丁寧、英語研究者の爲にはよき參考書なり、定價金參拾五錢、本館發行。

才媛文壇懸賞募集（三月十五日〆切）

▲短　文（二十字詰十行以內）
▲日　記（二十字詰二十行以內）
▲書簡文（二十字詰十行以內）
▲いろ〳〵の實驗（同上二十行以內）
▲和　歌（一人一首）
▲俳　句（一人一句）
▲笑話▲誌友倶樂部

△短文、日記、書簡文、いろ〳〵の實驗の四種は用紙は半紙の事△和歌、俳句、笑話、倶樂部は端書に限る、△字體は楷書にて正しく書く事、不分明の字又は亂れたる書體は沒書とす△名宛は博文館內女學世界宛とし△原稿に文の種類及び住所氏名を明記する事

賞品

△短文△日記△書簡文
天賞參圓、地賞貳圓、人賞壹圓
△和歌△俳句△笑話
天賞壹圓、地賞七拾錢、人賞五拾錢
△いろ〳〵の實驗（賞壹圓）

每月一回一日發行

定價表

一冊（紙數二百八頁）…金二十錢
四冊（三ヶ月分）……前金七十五錢
八冊（半ヶ年分）……前金一圓四十五錢
十六冊（一ヶ年分）……前金二圓八十錢
內（定刊數……十二冊 增刊四回…一、五、九、十一月價格同一）

郵稅　一冊　二錢

廣告料

廿四字詰	特等	一等	二等	三等
一行	……	……	……	五十錢
四半頁	……	……	十圓	七圓五十錢
半頁（卅二行）	……	廿三圓	十九圓	十四圓
一頁（六十四行）	五十五圓	四十五圓	三十八圓	二十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

(一)本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
(二)御拂込の前金相切れ候節は送本を停止す
(三)郵券代用は一割增にて五厘一錢の切手に限る
(四)總目錄御入用の方は二錢券相添申込あれ

明治四十三年二月廿三日印刷納本　第拾卷第四號

編輯兼發行人　松原岩五郎
印刷人　山田英二
印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地　博文館印刷所

發行所　東京日本橋區本町三丁目　博文館

電話本局　三百三番　二千六百二十番
千十八番　三千二百二十九番

全部完成と紀念大割引特價提供

全部貳百册
菊版紙數毎編三百餘頁

定價
並製一册 四拾錢
特製一册 五拾五錢

帝國百科全書

〔製本二種〕●並製 菊判洋裝並綴 全部二百册 定價金八拾圓 ●特製 菊判總クロース金文字入美本 全部二百册 定價金百拾圓

帝國百科全書全部貳百卷完成す。是れ實に**我出版界**に於ける**未曾有の大事業**なり。本書毎卷三百有餘頁全部六萬參千餘頁より成り、**著者は盡く專門の博士學士**にして、其編述の科目は、政治行政、法律經濟、農工商業、歷史、地理、文學美術、理科、哲學、教育、語學等の各種に亘り、方今世界の思想界と物質界とに於ける總ての最も進步發達せる理論と事實とを網羅す。大英百科全書が世界に於て萬有の事物を網羅せる圖書なりとせば、**帝國百科全書**は少くも**我日本帝國**に於ける唯一の「**エンサイクロペチア**」なりと稱するも誣言にあらざるを信ず。蓋し卷帙の浩澣と、內容の精選と、各學科の具備とに加へて、**其代價の極めて廉**なることに於て、**前古無比**なるべし。宜なる哉此等の各編が、何れも**數版乃至數十版**を重ねて嘖々たる世上の好評を博せしことや。

若し夫れ本書を座右に備へんか、恰かも一個の圖書館內に入るが如く、百般の學科は求むる所として得られざるはなく、千様の疑義も立ろに決せざるはなし。之を裝飾の上より見るも四段詰高さ四尺幅三尺有餘の書架を塡め、書齋の光彩を添ふる幾何ぞ。而かも此六萬參千頁を蔽する全部貳百卷並製の定價は僅かに八拾圓、特製百拾圓、是れ既に至廉例類の罕なる所なるに、更に今回是れが**完成紀念**として**並製**は六十圓、**特製**は八拾圓の無比の大廉價を以て此浩澣にして有益なる大寶典を提供せんとす。

本館は斯く**破天荒の特價を提供**すると共に、特種の科目に屬する各編のみを購讀せんとする人々の爲めに、更に**各專門書**を蒐めて之を**拾四部類**に分ち、各科目に對し**各大割引特價**を設け、更に又讀者の**撰擇取捨**に便せんため別に**冊數割引法**を作りて、諸彥の高需に應ぜんとす。

實に本書は、各種の學科を詳述せる最精最良の百科全書なり。殊に他の類書に比し本書の特長とする所は、各編分冊なるが故に、或一科目に就て調査若くは研究せんとするに、携帶に便に、繙讀に容易にて、机上にも燈下にも、行住座臥の間、何處にも自在に繙き得るにあり。斯る便利にして裨益多き空前の大事業が、今や完成するに至りたるは、實に昭代文運の隆盛に因らずんばあらず、**今回本館が其大成を期として特價販賣の便法**を設けたるは、一に昭代の恩澤に酬ゐ、以て國家の文化に貢献する所あらんとするに外ならず。江湖各位、幸に此好機を逸せず、速かに御註文あらんことを切に希望する所なり。

發兌元 東京日本橋區本町三丁目 振替口座東京二百四十番 **博文館**

女(後付の一)

特價發賣方法

（甲）各位御購求上ノ御便利ヲ計リ全部二百卷ヲ大別シテ十四部類トシ各部類ニ應ジテ特別大廉價ヲ提供仕候、尤モ分類中或ハ其當ヲ得ザルモノ無キヲ保セザレバ是等ハ冊數ニ變動ナキ限リ各位ニ於テ彼此取捨セラル、モ妨ゲザル次第ニ御座候

（乙）部類ノ如何ヲ問ハズ御好ミノ書目御撰擇ノ上御購求相成候方々ノ爲メ更ニ冊數立大割引特價ヲ提供仕候

▼特價期限

四月十五日限り

（御注文は必ず前金に限る）

（甲）（乙）共御註文の冊數に應じ左記の郵送料御添附被下度候

郵稅

●並製　一冊八錢（平均百二十匁以內）

●特製　一冊拾錢（平均百五十匁以內）

多數の御註文は小包送りの方御便利に候へば前記平均重量を御算當の上送料御送附ありたし

東京本町　博文館

（甲）……部類別特價表

類別	冊數	並製の部 定價	並製の部 特價	特製の部 定價	特製の部 特價
●政治行政	拾四冊	五圓六拾錢	四圓五拾錢	七圓七拾錢	六圓拾錢
○法律	拾四冊	五圓六拾錢	四圓五拾錢	七圓七拾錢	六圓拾錢
●財政經濟	拾冊	四圓	參圓貳拾錢	五圓五拾錢	四圓四拾錢
○商科	拾壹冊	四圓四拾錢	參圓五拾錢	六圓五錢	四圓八拾錢
●農科	廿九冊	拾壹圓六拾錢	八圓八拾錢	拾五圓九拾五錢	拾貳圓
○工科	六冊	貳圓四拾錢	貳圓	參圓參拾錢	貳圓七拾錢
●理科	貳拾冊	八圓	六圓貳拾錢	拾壹圓	八圓四拾錢
○數學	七冊	貳圓八拾錢	貳圓參拾錢	參圓八拾五錢	參圓拾錢
●地理	六冊	貳圓四拾錢	貳圓	參圓參拾錢	貳圓七拾錢
○歷史	拾四冊	五圓六拾錢	四圓五拾錢	七圓七拾錢	六圓拾錢
●文學美術	拾七冊	六圓八拾錢	五圓參拾錢	九圓卅五錢	七圓貳拾錢
○語學	拾四冊	五圓六拾錢	四圓五拾錢	七圓七拾錢	六圓拾錢
●哲學	卅四冊	拾參圓六拾錢	拾圓參拾錢	拾八圓七拾錢	拾參圓八拾錢
○教育	四冊	壹圓六拾錢	壹圓參拾錢	貳圓貳拾錢	壹圓八拾錢

（乙）……撰取冊數立特價表

▶並製◀	
五冊迄	壹冊金參拾七錢
六冊以上十五冊迄	同　金參拾五錢
十六冊以上三十迄	同　金參拾四錢
卅一冊以上五十冊迄	同　金參拾參錢
五十一冊以上百冊迄	同　金參拾壹錢
百一冊以上二百冊迄	同　金參拾錢

▶特製◀	
五冊迄	壹冊金五拾錢
六冊以上十五冊迄	同　金四拾八錢
十六冊以上三十冊迄	同　金四拾六錢
卅一冊以上五十冊迄	同　金四拾四錢
五十一冊以上百冊迄	同　金四拾貳錢
百一冊以上二百冊迄	同　金四拾錢

女（後付の二）

政治行政……十四册

（編次）●（書名）（著者）

- 三三 ●日本帝國憲法論　法學士田中次郎君著
- 六六 ●國法學　法學士岸崎昌君 中村孝君共著
- 一四四 ●國家學　法學士南弘君著
- 一四五 ●政治學　法學士南弘君著
- 四七 ●政治汎論　法學士永井惟直君著
- 四六 ●政治史　法學士森山守次君著
- 一二五 ●政治學史　法學士津田欽一郎君著
- 八〇 ●議會及政黨論　法學士菊池學而君著
- 一〇三 ●議院法提要　法學士工藤重義君著
- 八七 ●行政法汎論　法學士小原新三君著
- 九一 ●行政法各論　法學士小原新三君著
- 八六 ●行政裁判法論　法學士小林魁郎君著
- 一八三 ●都市經營論　法學士矢田七太郎君著
- 一八四 ●殖民政策汎論　法學士山内顯君著

法律……十四册

（編次）●（書名）（著者）

- 一六 ●法律汎論　法學士熊谷直太君著
- 二七 ●法理學　法學士丸山長渡君著
- 三三 ●國際公法　法學士北條元篤君 法學士熊谷直太君共譯
- 三一 ●國際私法　法學士中村太郎君著
- 二〇 ●民法釋義（總則篇物權篇）　法學士丸尾昌雄君著
- 四三 ●民法債權編釋義　法學士丸尾昌雄君著
- 二二 ●民法釋義（親族篇相續篇）　法學士上田豐君著
- 二六 ●民事訴訟法釋義　法學士梶原仲治君著
- 九六 ●刑事訴訟法論　法學士溝淵孝雄君著
- 二〇〇 ●刑法論　法學士島田鐵吉君著
- 五一 ●日本法制史　法學士宮城長五郎君著
- 一〇四 ●支那法制史　文學士三浦菊太郎君著
- 一七三 ●獨逸法　文學士淺井虎夫君著
- 一七四 ●英米法　法學士宮内國太郎君著　法學士永井亨君著

財政經濟……十册

（編次）●（書名）（著者）

- 二一 ●財政學　法學士笹川潔君著
- 一八三 ●會計法論　法學士工藤重義君著
- 一九五 ●國債論　法學士工藤重義君著
- 一九六 ●國債史　法學士工藤重義君著

女（後付の三）

編次	書名	著者
七〇	經濟汎論	法學士池袋秀太郎君著
一六四	經濟學史	法學士小川市太郎君著
一三四	經濟政策概論	法學士守屋源次郎君著
一七八	法制經濟概論	法學士大原彌一郎君著
一六六	世界產業制度論	法學士相良維男君著
四〇	最新統計學	法學士夏秋龜一君著

商科……十一冊

(編次)	(書名)	(著者)
二九	商法汎論	法學士添田敬一郎君著
四九	運送法	法學士菅原大太郎君著
五八	船舶論	法學士赤松梅吉君著
一八一	海上保險法	法學士秋野沆君著
一八五	海損法	法學士秋野沆君著
九九	保險通論	理學士奥村英夫君著
三八	商業經濟學	法學士清水泰吉君著
四四	稅關及倉庫論	法學士岸崎昌君著
九〇	銀行新論 附外國爲替	法學士野口弘毅君著
一〇九	金融論	法學士佐々木雄次郎君著
一六五	外國貿易原論	法學士野坂當治君 法學士辻宏吉君 共著

農科……廿九冊

(編次)	(書名)	(著者)
一〇	農學汎論	農學士恩田鐵彌君著
六九	農業經濟學	農學博士横井時敬君 農學博士澤村眞君 共著
七五	農政學	農學士石坂橘樹君著
二九	氣候及土壤論	農學士佐々木祐太郎君著
八一	土地改良論	農學士上野英三郎君 農學士有働良夫君 著
一九一	農業土木學	農學士鈴木敬策君著
六一	農用器具學	農學士西村榮十郎君著
四	肥料學	農學士木下義道君著
一四	植物營養論	農學博士稻垣乙丙君著
二四	植物病理學	農學博士大森順造君 農學士山田玄君 共著
一三	栽培汎論	農學博士横井時敬君著
六八	改訂增補栽培各論	農學士田中節三郎君著
二〇	稻作改良論	農學博士横井時敬君著
九四	園藝通論	農學士高橋久四郎君著

編次	書名	著者
一一九	●園藝各論	農學士高橋久四郎君著
五三	●畜産汎論	農學士高見恒長君著
五四	●畜産各論	農學士田口晋吉君編
九二	●家禽學	農學士月田藤三郎君著
一二六	●獸醫學汎論	獸醫學士小倉鉀太郎君著
八八	●養蠶及製糸論	農學士井上正賀君編
五七	●黴菌學	農學士井上正賀君著
五六	●農藝化學	農學士井上正賀君著
六八	●日用化學	農學士井上正賀君編
一七	●農産製造學	農學士楠　巖君編
二〇	●食物論	農學士井上正賀君著
二〇	●森林學	林學士奥田貞衛君著
七七	●提要造林學	林學博士本多靜六君著
五五	●森林保護學	林學士新島善直君著
一〇三	●水産學	農學士塚本道遠君・農學士井上正賀君共著

工科……六冊

編次	書名	著者
四二	●分析化學	工學士内藤游君・工學士藤井光藏君共著
三九	●應用化學	工學士蜂屋貞興君著
七二	●應用機械學	工學士重見道之君著
一三一	●新撰應用重學	理學士刈屋他人次郎君著
一三七	●應用定量分析	大阪醫學校藥局師須田勝三郎君著
二一	●工業政策	法學士織田隆次郎君著

理科……二十冊

編次	書名	著者
六三	●有機化學	理學士龜高德平君編
六五	●無機化學	理學士眞島利行君編
九五	●衛生化學	大阪醫學校藥局師須田勝三郎君著
一四一・一四二	●普通物理學（上下二册）	理學士福井政一君著
七二	●植物學新論	理學士飯塚啓君著
九七・九八	●新撰動物學（上下二册）	理學士會田龍雄君著
一五三	●動物發生學	理學士飯塚啓君著
一三三	●鑛物學	理學士大築佛郎君・理學士八谷彪一君共著
一八	●地質學	理學士佐藤傳藏君著
一二五	●地文學	理學士吉田弟彦君著
一四〇	●高等天文學	理學士一戸直藏君著
六〇	●星學	理學士須藤傳治郎君著
七三	●近世氣象學	理學士岡田武松君編

数學……七冊

（編次）	（書名）	（著者）
一六七	●最新電氣學	理學士萩原孝吉君著
一三九	●普通人類學	文學博士坪井正五郎君閲 人類學專攻八木奘三郎君著
一八八	●應用生理學	醫學士酒井谷平君譯
一九三 一九四	●自然科學 上下二册	理學博士齋田功太郎君著
一六六	●新撰算術	理學博士高木貞治君著
一七	●新撰代數學	理學博士高木貞治君著
一九	●新撰幾何學	理學士林鶴一君著
一七九	●近世幾何學	理學士藤田外次郎君著
六二	●新撰三角法	理學士松村定次郎君著
六六	●新撰微分積分學	理學士松村定次郎君著
七七	●新撰解析幾何學	理學士松村定次郎君著

地理……六冊

（編次）	（書名）	（著者）
二	●日本新地理	理學士佐藤傳藏君著
八	●萬國新地理	理學士佐藤傳藏君著

歴史……十四冊

（編次）	（書名）	（著者）
一三四	●韓國新地理	文學士田淵友彦君著
一三五	●清國商業地理	法學士勝部國臣君著
一六六	●商工地理學	法學士永井惟直君著
一〇七	●政治地理學	法學士山本信博君著
一	●世界文明史	文學博士高山林次郎君著
三二	●支那文明史	文學士白河鯉洋君 國府犀東君 共著
一〇一	●日本文明史	文學士大町桂月君著
一三二	●印度文明史	文學士常盤大定君著
一五	●日本歴史	文學士木寺柳次郎君著
四一	●西洋歴史	文學士吉國藤吉君著
八五	●東洋歴史	文學士幸田成友君著
三九	●朝鮮史	文學士久保天隨君著
一六三	●北米合衆國史	法學士山本信博君著
四八	●日本風俗史	文學士坂本健一君編
一〇六	●最近外交史	法學士原田豊次郎君著
一一三	●世界殖民史	法學士山內正瞭君著
一〇五	●露國侵略史	法學士須崎芳三郎君著

一〇、●現代露西亞　法學士須崎芳三郎君著

文學美術……十七册

（編次）（書名）（著者）

- 九 ●支那文學史　文學士笹川種郎君著
- 一三八 ●日本文學史　文學士林森太郎君著
- 一五九 ●世界文學史　文學士橋本忠夫君著
- 一六〇 ●英國文學史　文學士栗原基君・文學士藤澤周二君共著
- 一六三 ●日本文章史　文學士大町桂月君著
- 二 ●修辭學　文學士武島又次郎君著
- 八三 ●邦語獨逸文章論　文學士青木昌吉君編
- 一五四 ●文學概論　文學士太田善男君著
- 一五五 ●藝術論　文學士有馬祐政君譯
- 一八〇 ●文藝論　文學士田中伊藤次君著
- 一三四 ●近世美學　文學博士高山林次郎君編
- 一三二・一三三 ●世界美術史（上下二册）　文學士小川銀次郎君著
- 一三七 ●近世美術史　文學士小川銀次郎君著
- 一五一 ●佛教美術　文學博士前田慧雲君著
- 一七〇 ●美術概論　文學士吉川秀雄君著
- 一三六 ●西洋音樂史　文學士石倉小三郎君著

語學……十四册

（編次）（書名）（著者）

- 一五五 ●邦語英文典　文學士畔柳都太郎君著
- 六四 ●邦語獨逸文典　文學士青木昌吉君著
- 八三・八四 ●邦語佛蘭西文典（上下二册）　文學士松井知時君著
- 七八・七九 ●解說批評日本文典（上下二册）　文學士岡田正美君著
- 一四八 ●日本口語文典　文學士鈴木暢幸君著
- 一五〇 ●視話音字發音學　文學博士遠藤隆吉君著
- 一五七・一五八 ●言語學（上下二册）　文學博士金澤庄三郎君・文學士後藤朝太郎君共著
- 一七七 ●現代支那語學　文學士後藤朝太郎共著
- 一八六・一八七 ●日本語學史（上下二册）　文學士長連恒君著
- 一九八 ●國語學概論　文學士龜田次郎君著

哲學……三十四册

（編次）（書名）（著者）

- 五〇 ●社會學　文學士十時彌君著
- 一三 ●論理學　文學博士高山林次郎君著
- 一九七 ●東洋論理學史　文學士香村宜圓君著

女（後付の七）

二四 ●倫理學　文學博士 蟹江義丸君譯
三 ●東洋西洋倫理學史　文學博士 井上哲次郎君校　文科卒業 木村鷹太郎君著
一九二 ●日本倫理學史　文學士 有馬祐政君著
一三一 ●社會倫理學　文學士 德谷豐之助君著
一四九 ●佛教倫理學　文學士 蜷川龍夫君著
八九 ●心理學　文學士 速水滉君著
一二一 ●兒童心理學　文學士 松本孝次郎君著
一四六 ●近世心理學　文學士 德谷豐之助君著
一九九 ●社會心理學　文學士 小林郁君著
三五 ●哲學汎論　文學士 藤井健次郎君著
三三 ●西洋哲學史　文學博士 蟹江義丸君著
一五六 ●最新西洋哲學史　文學士 岡島誘君著
九三 ●支那哲學史　文學士 中内義一君著
一七五 一七六 ●純正哲學（上下二册）　文學博士 井上圓了君著
五 ●宗教哲學　文學博士 姉崎正治君譯
一四三 ●處世哲學　文學士 杉谷泰山君著
一三〇 ●佛教哲學汎論　文學士 石原即聞君著
一七一 ●儒教哲學概論　文學士 蜷川龍夫君著
一〇〇 ●世界宗教制度論　法學士 工藤重義君著
一六一 ●比較宗教學　文學博士 南條文雄君著

二六 ●比較神話學　文學士 高木敏雄君著
六七 ●世界宗教史　文學博士 加藤玄智君譯
一一八 ●日本佛教史　文學士 石原即聞君著
一一七 ●日本儒學史　文學士 久保天隨君著
一七三 ●近世儒學史　文學士 久保天隨君著
一九〇 ●基督教史　文學士 藤谷深勵君著
一六九 ●認識論　文學士 淀野耀淳君著
一三三 ●進化論　文學士 十時彌君編
一三八 ●宗教進化論　文學士 融道玄君著
一八九 ●社會進化論　文學士 小山東助君著

教育……四册

（編次）（書名）（著者）

四五 ●東洋西洋教育史　文學士 中野禮四郎君著
七四 ●教育學　文學士 熊谷五郎君編
一四七 ●最新教育學　文學士 中村寅松君著
一六八 ●教育原理　ドクトル 尺秀三郎君著

以上……全部二百册

女（後付の八）

乳白化粧水レート御愛用の餘徳（其筋御届済）

●空瓶のペーパで景品を差上ます故に空瓶のペーパは壹枚でも無駄になさるな

乳白化粧水レートは一つも無駄のない化粧水です同じ御使用なさるなら斯様な化粧水を御使用遊ばせ

御使用殼

お顔をお洗ひになつた時、お入浴なすつたとき、お化粧なさるとき、レートを一滴又は數滴お使用になりますと、色白く肌理の濃かになるは固より、地膚色澤の麗はしくなること不思議な位、それで

目下評判

の高い化粧品として、如何な家庭にも愛用されて、如何な人にも効能を認められて居りますので、その發賣元たる平尾賛平商店では、そのお禮かた〴〵御愛用になる方の御利益を圖りまして

毎朝毎晩

も御役に立つ方法を考へまして、左の通り景品を進呈することに致しました、就てはレート御愛用の方は、空瓶をお粗末になさらず、そのペーパを剝してお持参下さるか、御送付下さい、即ち

乳白化粧水レート

をお使用になつた瓶から、ペーパを剝して五枚以上お溜めになりますと

五　枚に付　レートクレーム小器（價貳拾錢）壹個
拾　枚に付　化粧用石鹸（價六拾錢）半打
貳拾枚に付　舶來香水（價壹圓參拾錢）壹瓶
參拾枚に付　特製化粧品箱（價貳圓五拾錢）壹個

の景品を差上げるのです、詰りレートの

愛用者は

レートをお使用になつて、美しく化粧の目的を達せられる外に、空瓶を利用して、景品を得らるゝといふ利益があるのです。

期限　本年中右の方法で景品を差上ます

「レート」表ペーパの圖



此のペーパを右の割合で送るのです

東京日本橋區馬喰町一丁目
景品引換申込所
平尾賛平本店
レート景品係

（定價金貳拾錢●郵税貳錢）

監修
小山静子　KOYAMA Shizuko
京都大学大学院教授

女学世界（じょがくせかい） 明治期復刻版⑭
明治43年2月(第10巻第3号)、3月(第10巻第4号)

2010年7月10日　第1刷発行　　定価(本体20,000円+税)

監　修　小山静子
発行者　富澤凡子
発行所　柏書房株式会社
東京都文京区本駒込1-13-14(〒113-0021)
電話　03-3947-8251[営業] 03-3947-8254[編集]
協　力　株式会社博文館新社
印　刷　株式会社友美社
製　本　有限会社青木製本

ISBN978-4-7601-3852-4　C3321